加須市埋蔵文化財調査報告書　第14集

埼玉県加須市

騎西城跡・騎西城武家屋敷跡

KB14区調査

－中近世編－

『騎西城跡』

遺物概観（ほうろく）

2021

加須市教育委員会

加須市埋蔵文化財調査報告書　第14集

埼玉県加須市

騎西城跡・騎西城武家屋敷跡

KB14区調査

－中近世編－

『騎西城跡』

遺物概観（ほうろく）

2021

加須市教育委員会

KB14区　完掘（南から）　　奥はKB15区（調査中）

口絵２

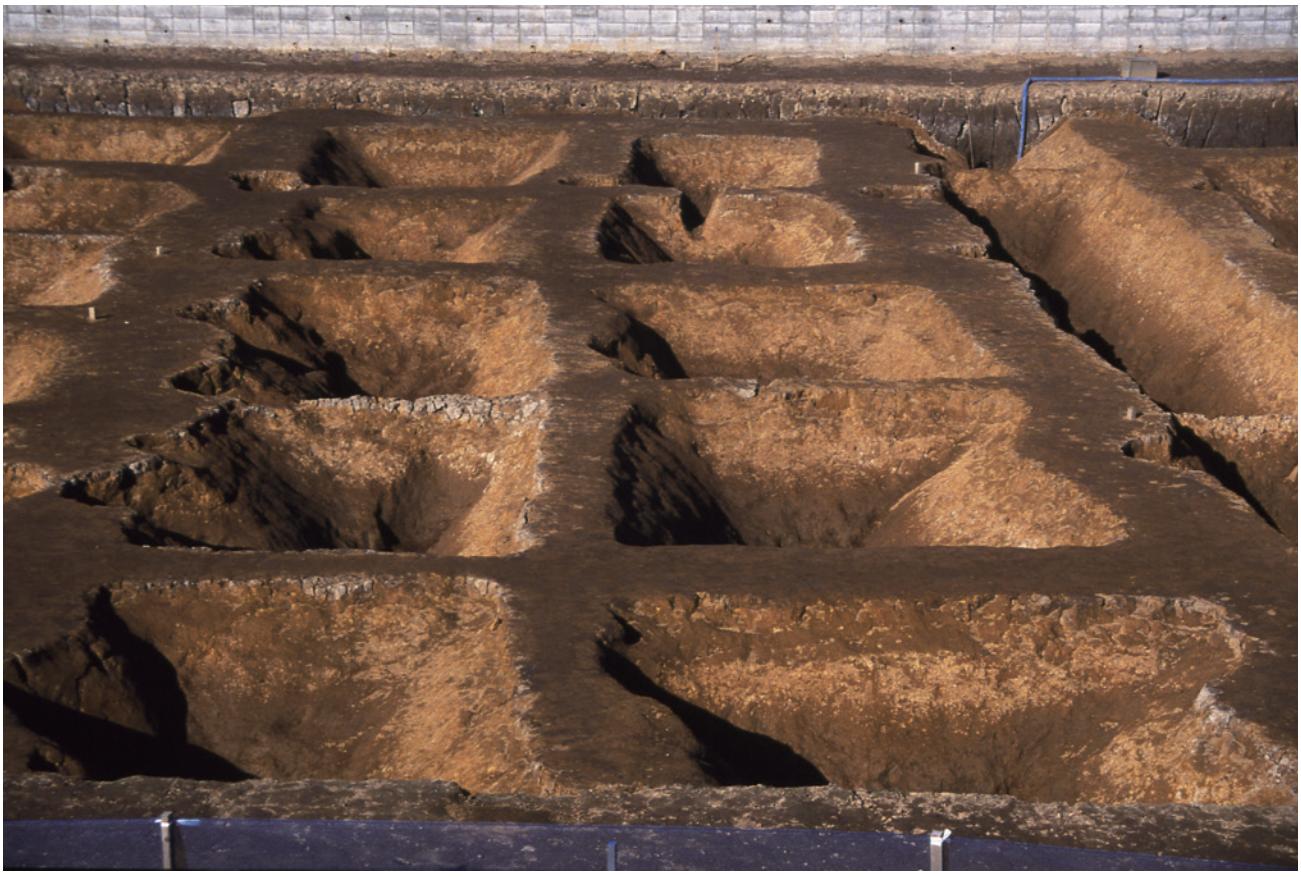
KB14区　完掘（上は北）

堀　第１・２列（１～５号堀）　完掘（東から）

堀　第３列（６～８号堀）　完掘（東から）

口絵４

堀　第４列（９号堀）　完掘（東から）



堀　第５・６列（10～20号堀）　完掘（東から）

堀　第７・８列（21～34号堀）　完掘（東から）

堀　第９～11列（35～52号堀）　完掘（東から）

口絵 6

調査区南　調査風景（東から）

完掘（北東から）

1 号堀　漆椀（未図化）

4 号堀　矧矢（木－24）

4 号堀　漆小型壺（木－23）

4 号堀　漆椀（木－右14・左15）

4 号堀　漆椀（木－15）

4 号堀　漆椀（木－14）

4 号堀　柄ヵ（木－27）

4 号堀　下駄（未図化）

4 号堀　竹タガ（未図化）

4 号堀　柄ヵ（未図化）

6 号堀　漆椀（木－16）

8 号堀　漆椀（木－17）

13号堀　丸棒材（未図化）

33号堀　桶側板（木－３）

口絵８

44号堀　漆椀（木－18）

44号堀　漆椀（未図化）

44号堀　漆椀（未図化）

47号堀　加工材（木－33）

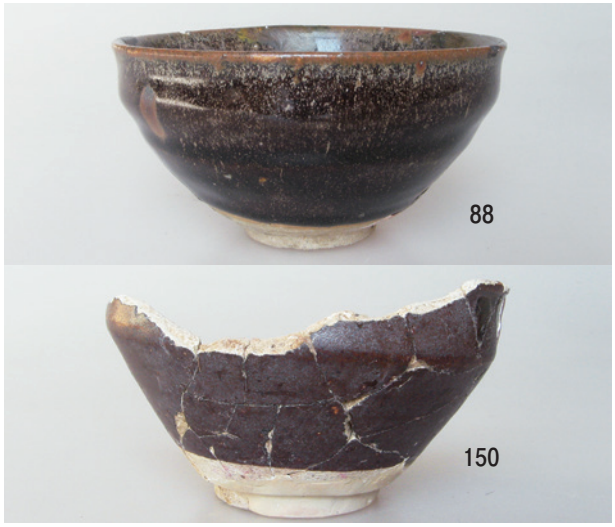
48号堀　漆椀（未図化）

49号堀　杭（未図化）

50号堀　漆椀（未図化）

遺構不明　漆椀（行方不明）

皿



天目茶碗

小碗

鼠志野鉢

織部向付

瀬戸美濃

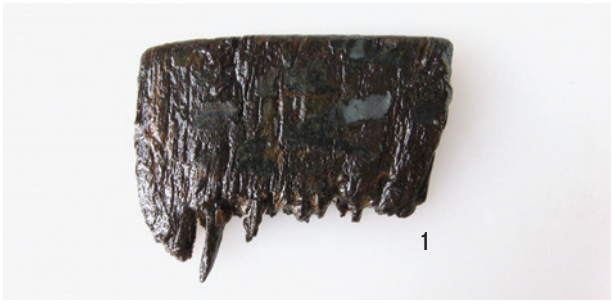
口絵 10

輸入陶磁（青磁・白磁・染付他）

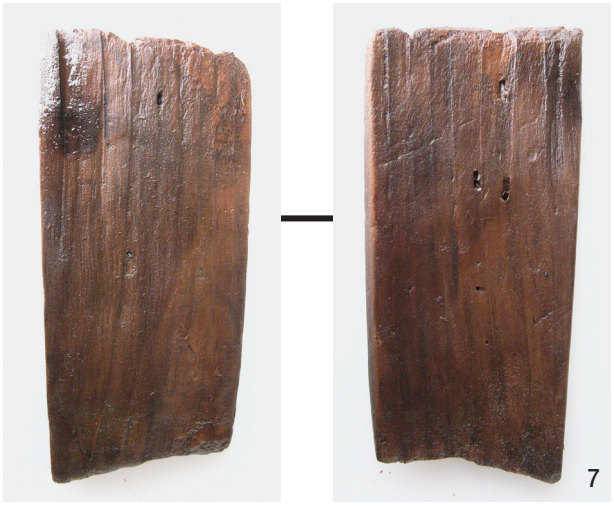
志戸呂

炉床ヵ

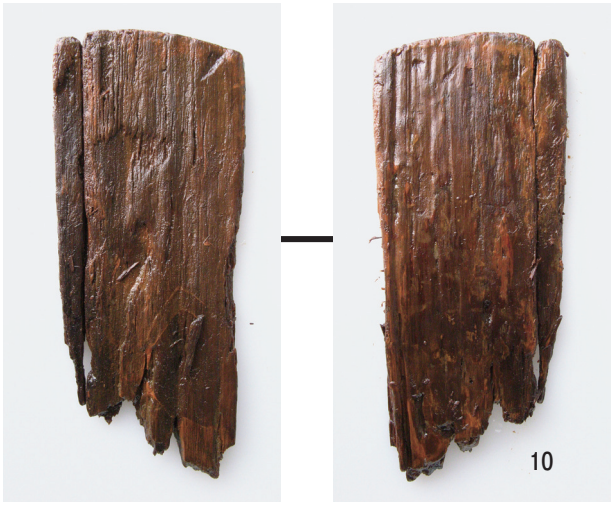
漆ヵ付着かわらけ



櫛



桶－側板



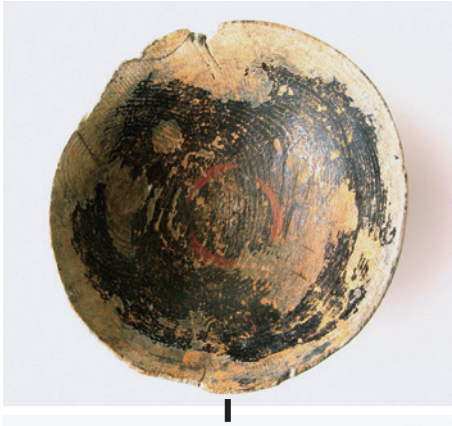
桶－側板

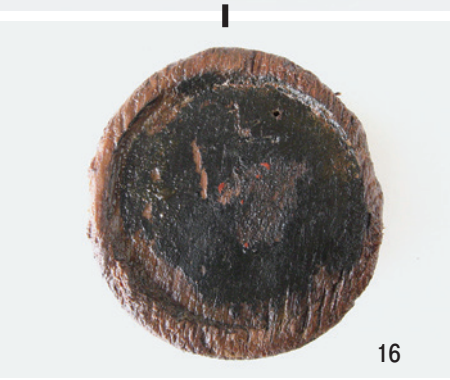
桶－底板

漆蓋

木製品 1

口絵 12





高台部

漆椀

木製品 2

未図化

20

21

折敷

23

漆小型壺

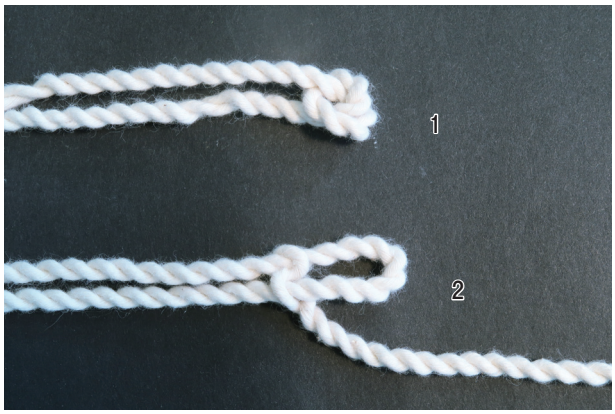
24

矧矢

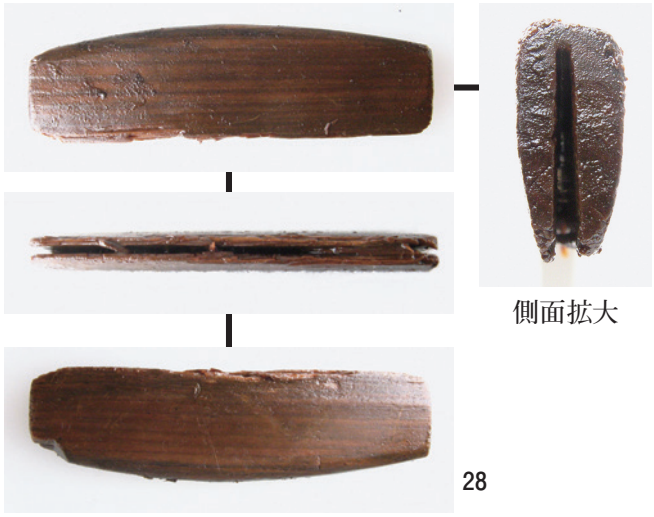
木製品 3

口絵 14

縄



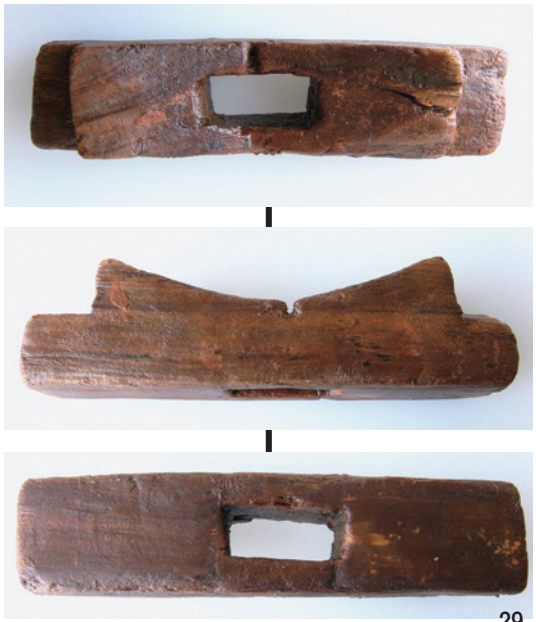
縄（復元）



側面拡大

柄ヵ

杓子片ヵ



部材

木製品 4

簪（裏面）

同　拡大裏面

同　拡大正面

銅製品

銅製品他

煙管

口絵 16

貝（10号溝出土）

貝（10号溝出土）

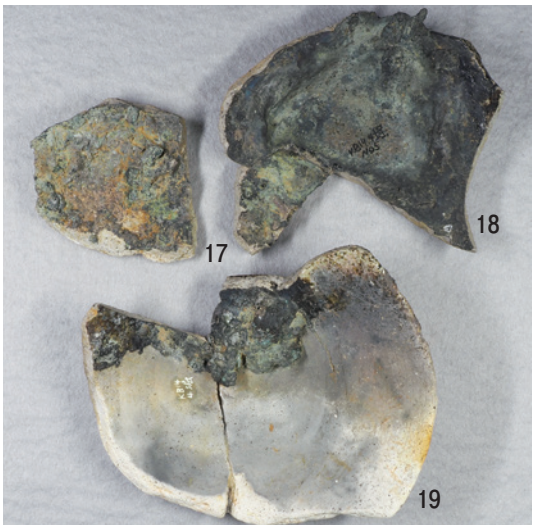
胡桃（20・23掘）

桃　食痕（4掘）

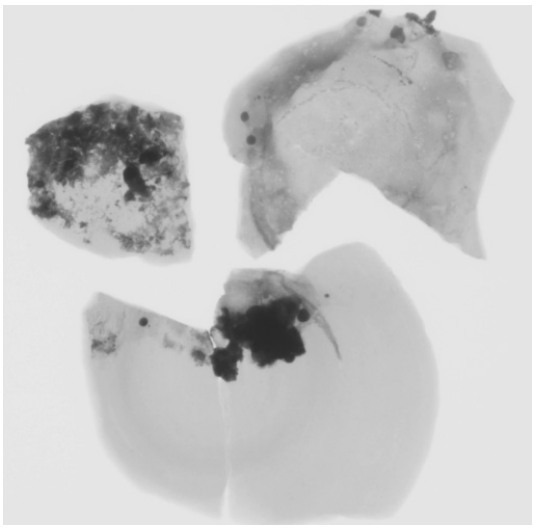
梅（50掘）

種子（4掘）

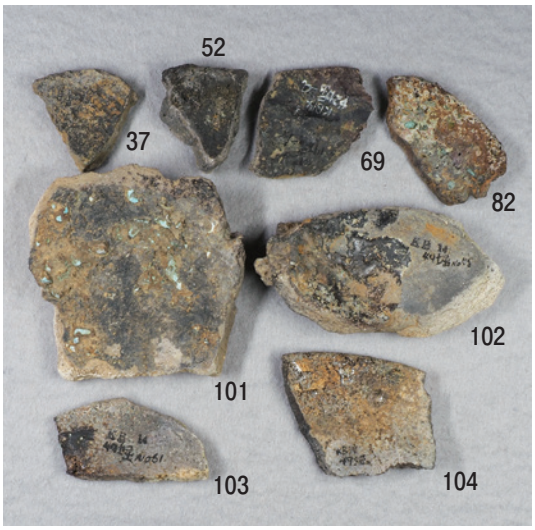
椿類（IT）



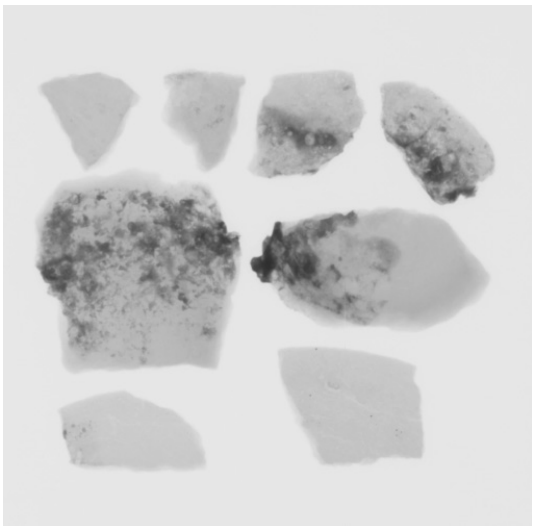
①〈土－17, 18, 19〉
(a)遺物画像



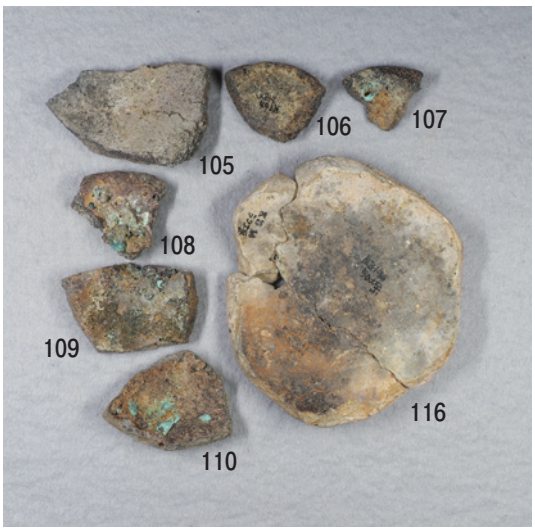
①〈土－17, 18, 19〉
(b)エックス線透過画像



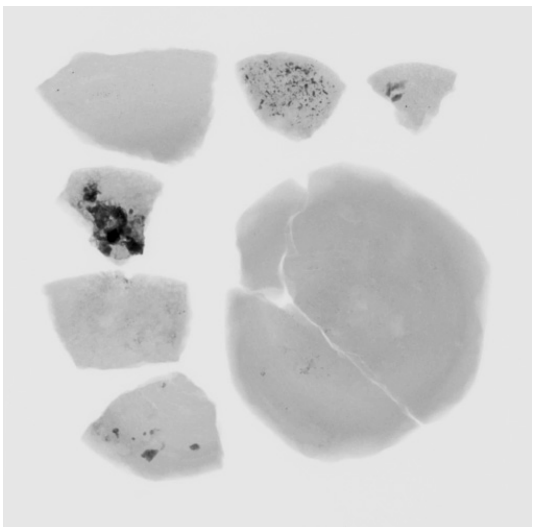
②〈土－37, 52, 69, 82, 101～104〉
(a)遺物画像



②〈土－37, 52, 69, 82, 101～104〉
(b)エックス線透過画像



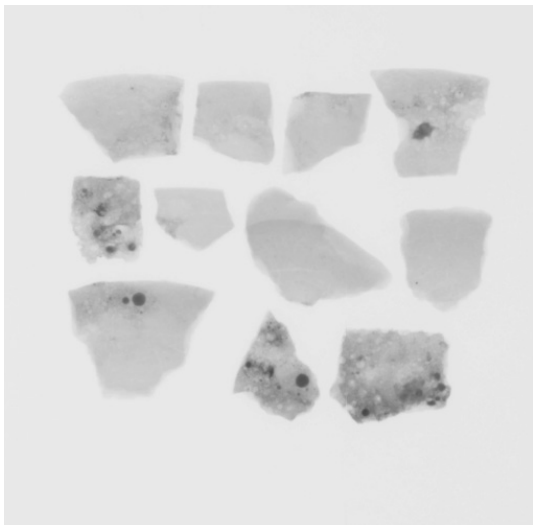
③〈土－105～110, 116〉
(a)遺物画像



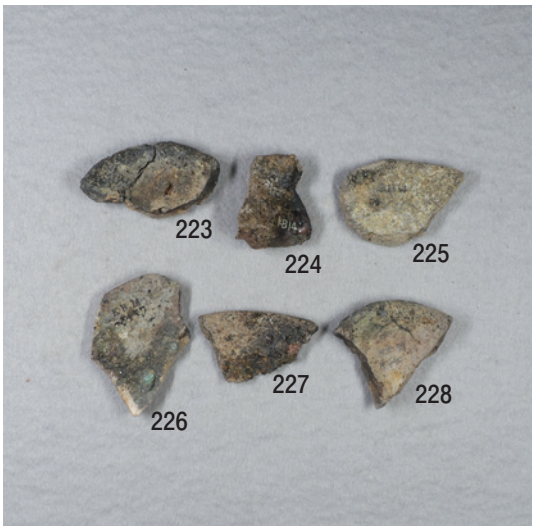
③〈土－105～110, 116〉
(b)エックス線透過画像

図１－１　騎西城武家屋敷跡出土遺物画像とエックス線透過画像（１）

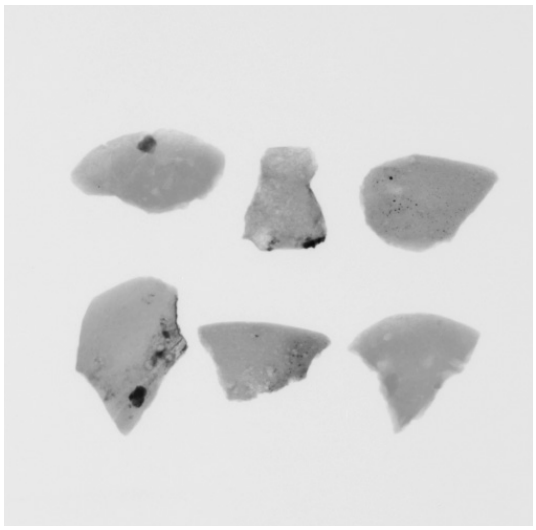
④〈土－111, 112, 126～129, 163, 164, 167, 169〉
(a)遺物画像



④〈土－111, 112, 126～129, 163, 164, 167, 169〉
(b)エックス線透過画像

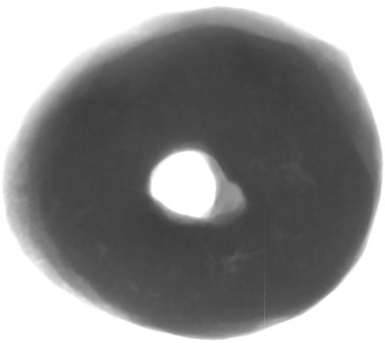


⑤〈土－223～228〉
(a)遺物画像



⑤〈土－223～228〉
(b)エックス線透過画像

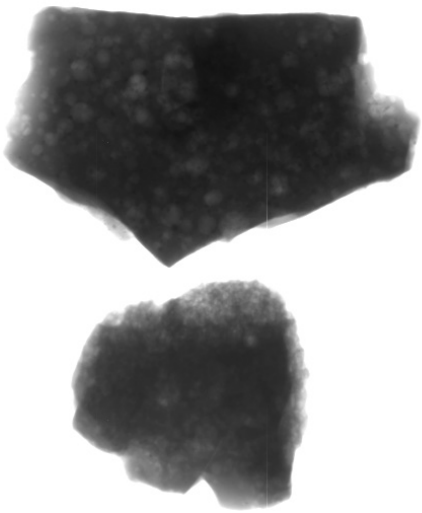
⑥〈土－237〉
(a)遺物画像



⑥〈土－237〉
(b)エックス線透過画像

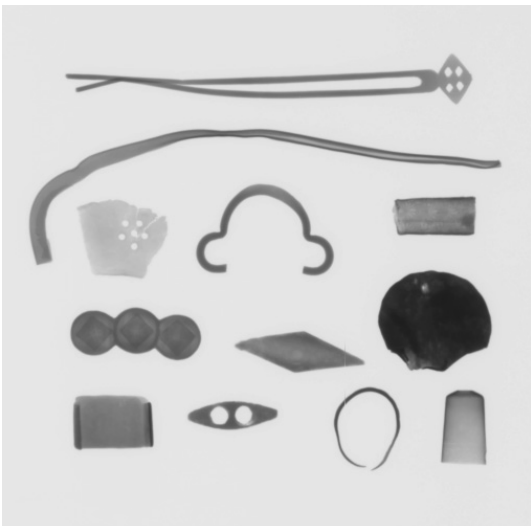
図１－２　騎西城武家屋敷跡出土遺物画像とエックス線透過画像（２）

⑦〈土－238, 239〉
(a)遺物画像



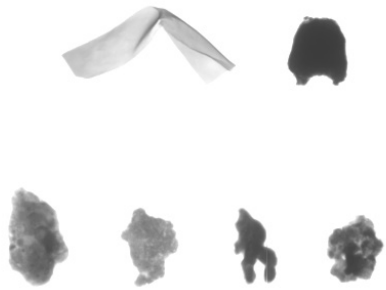
⑦〈土－238, 239〉
(b)エックス線透過画像

⑧〈金－14～17, 41～48〉
(a)遺物画像



⑧〈金－14～17, 41～48〉
(b)エックス線透過画像

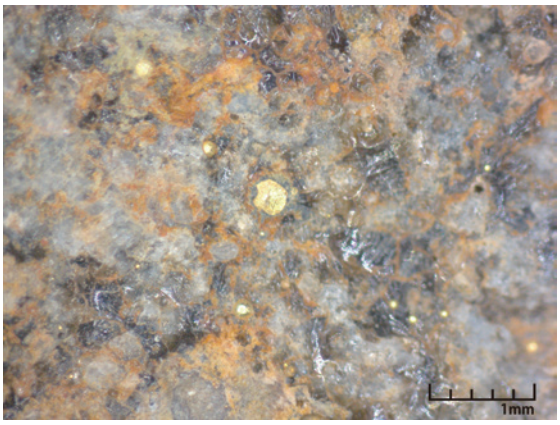
⑨〈金－49～54〉
(a)遺物画像



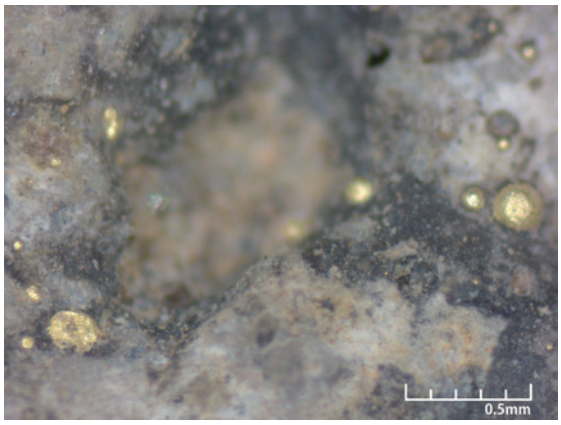
⑨〈金－49～54〉
(b)エックス線透過画像

図１－３　騎西城武家屋敷跡出土遺物画像とエックス線透過画像（３）

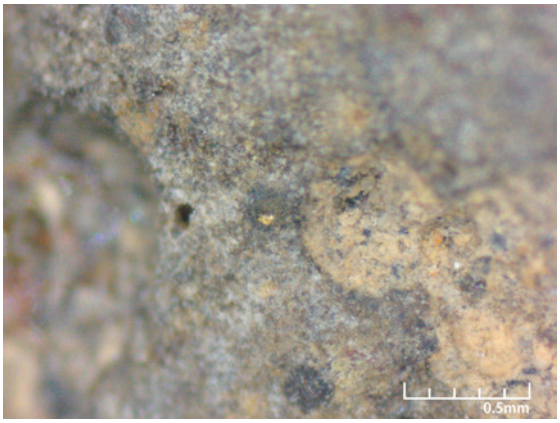
口絵 20



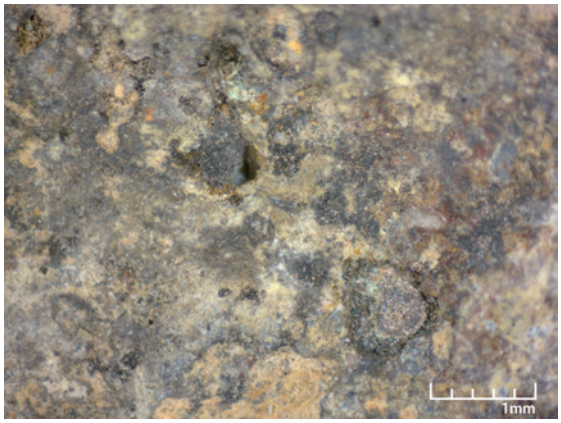
①〈土－104〉



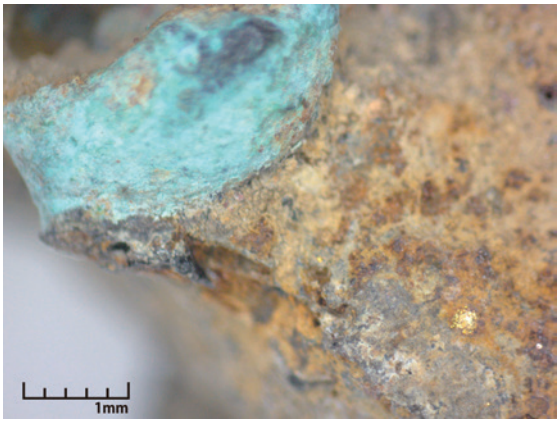
②〈土－105〉



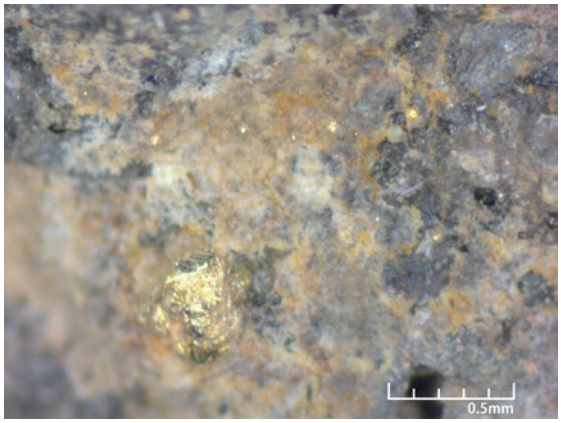
③〈土－106－１〉



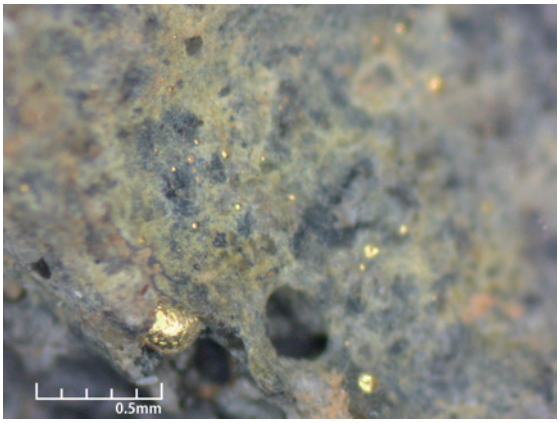
④〈土－106－２〉



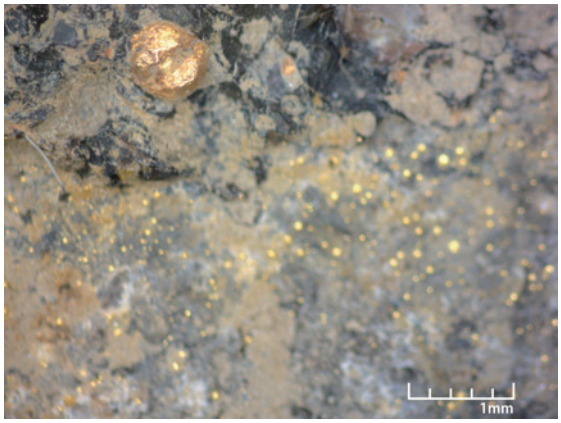
⑤〈土－107〉



⑥〈土－164〉

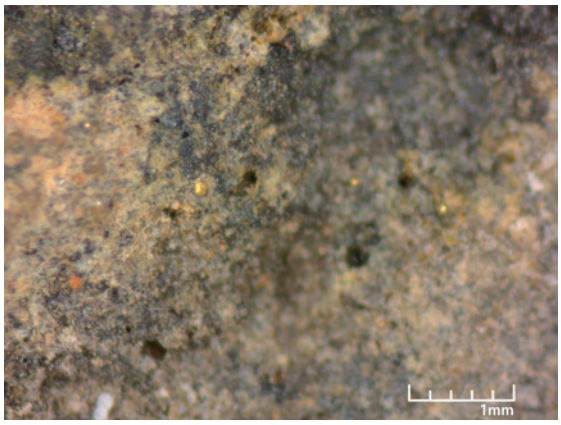


⑦〈土－223〉



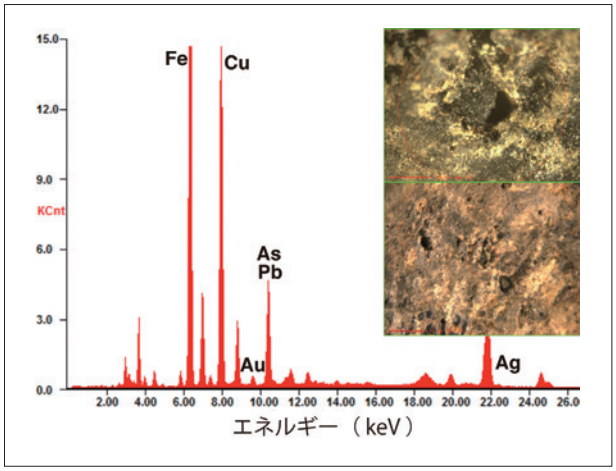
⑧〈土－225〉

図２－１　騎西城武家屋敷跡出土生産関連遺物表面の顕微鏡画像（１）

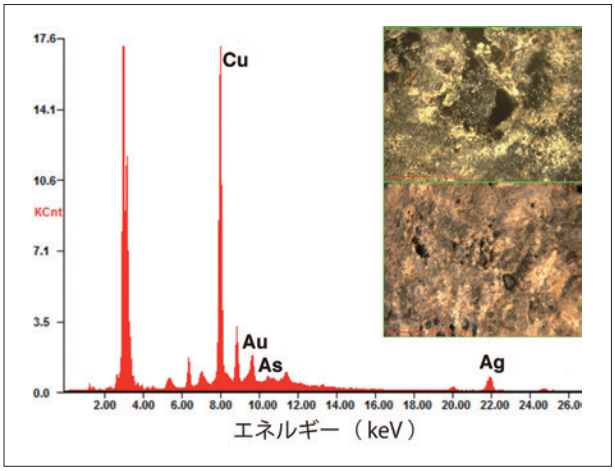


⑨〈土－228〉

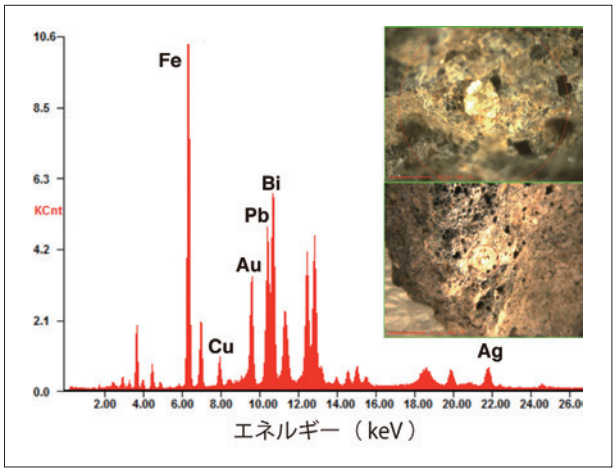
図２－２　騎西城武家屋敷跡出土生産関連遺物表面の顕微鏡画像（２）



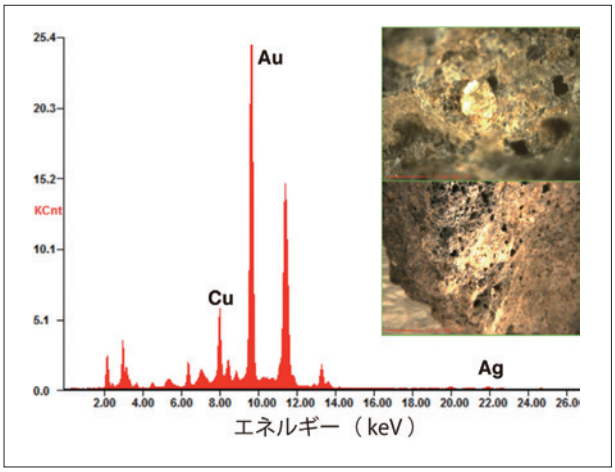
①〈土－106〉(2.0mmϕ)



②〈土－106〉(0.03mmϕ)



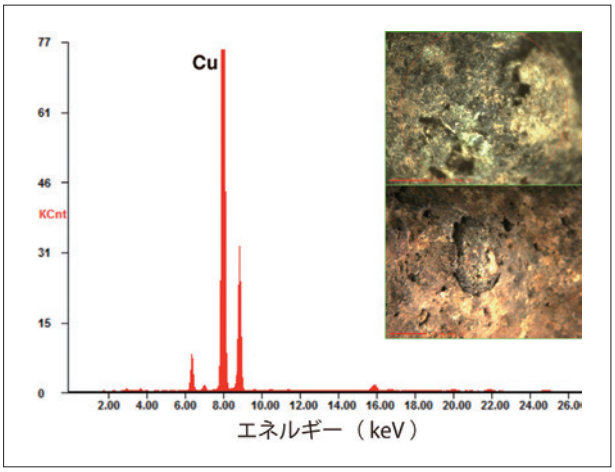
③〈土－164〉(2.0mmϕ)



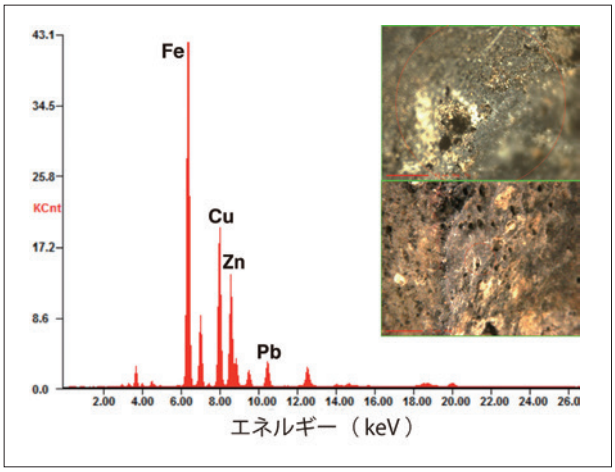
④〈土－164〉(0.03mmϕ)

図３－１　騎西城武家屋敷跡出土非鉄金属生産関連遺物の蛍光エックス線スペクトル（1）

口絵 22

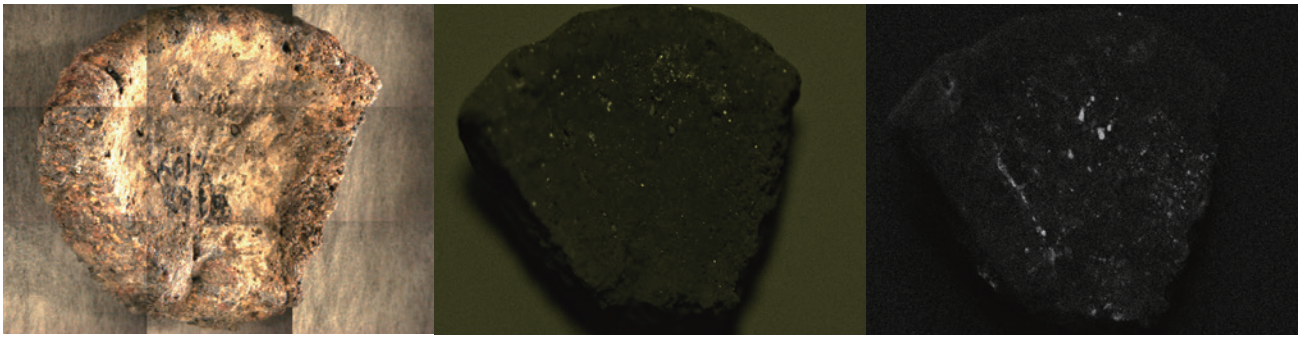


⑤〈土－167－ 1〉(2. 0mmϕ)

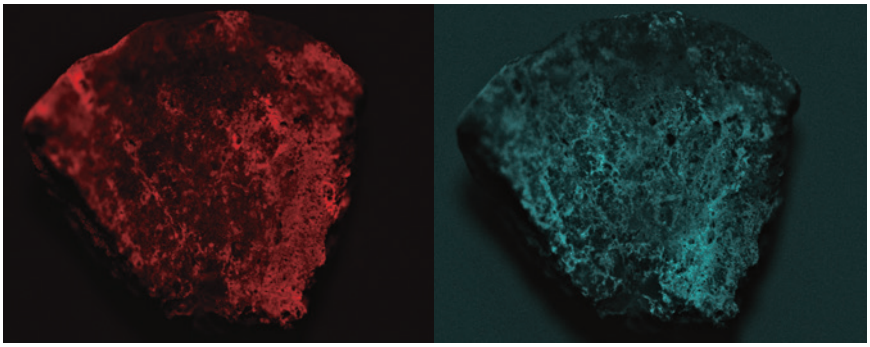


⑥〈土－167－ 2〉(2. 0mmϕ)

図 3 － 2　騎西城武家屋敷跡出土非鉄金属生産関連遺物の蛍光エックス線スペクトル（2)



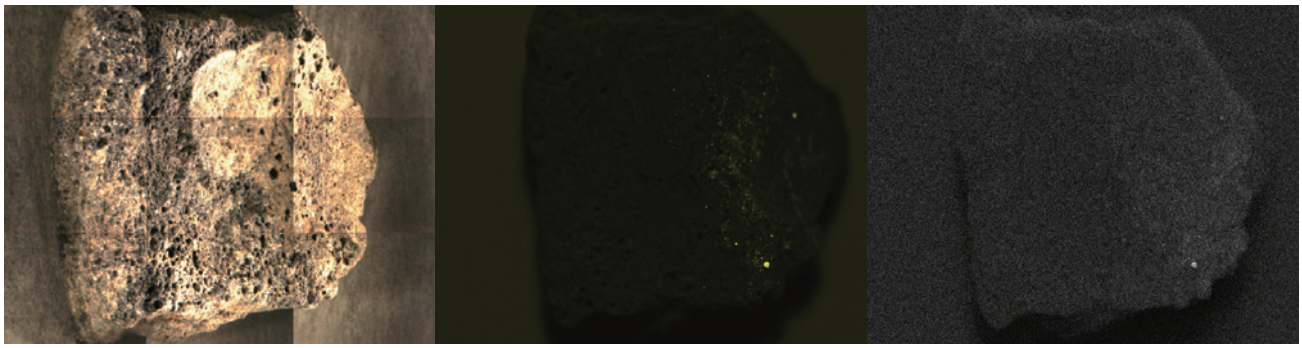
①資料画像　②Au　③Ag



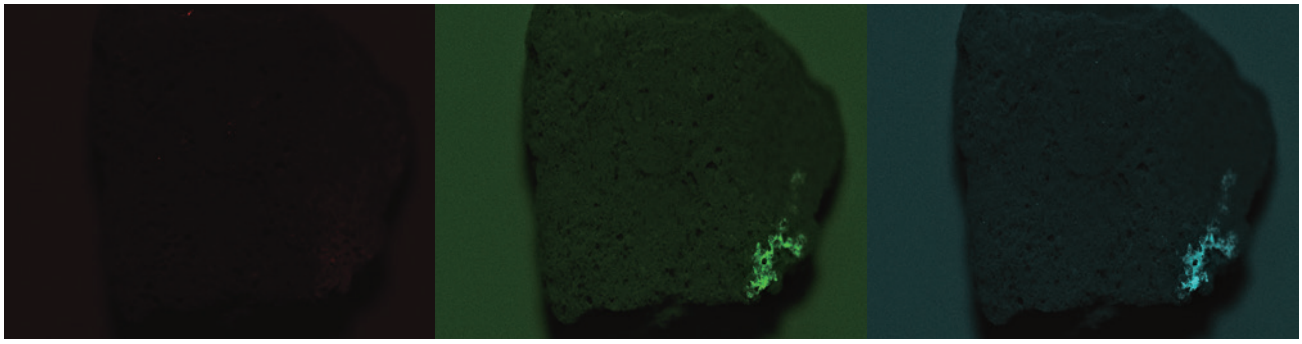
④Cu　⑤As

(a)資料〈土－106〉

図 4 － 1　騎西城武家屋敷跡出土非鉄金属生産関連遺物の蛍光エックス線マッピング分析（1）

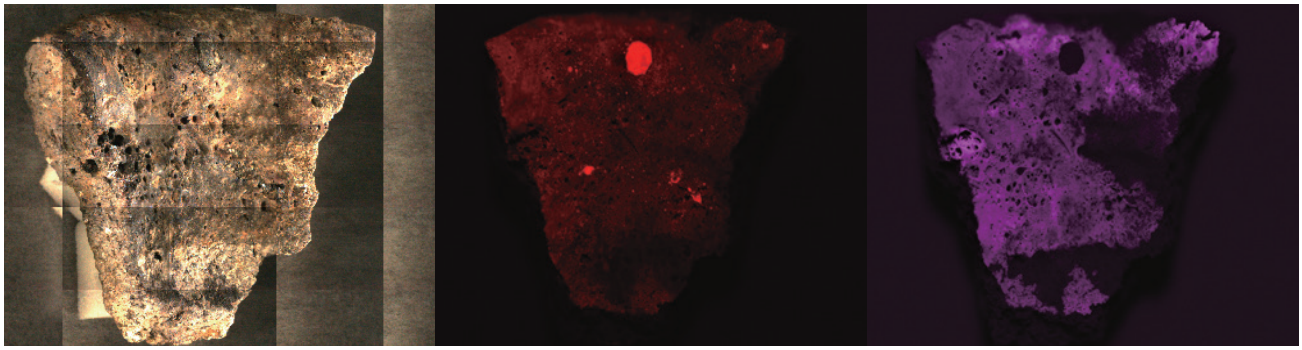


①資料画像　②Au　③Ag

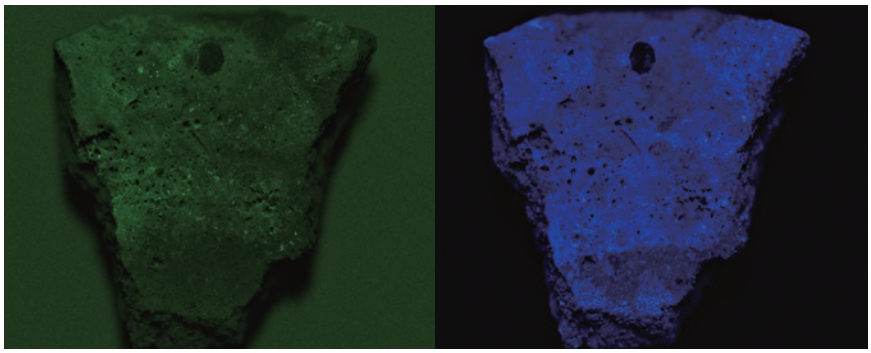


④Cu　⑤Pb　⑥Bi

(b)資料〈土－164〉



①資料画像　②Cu　③Zn

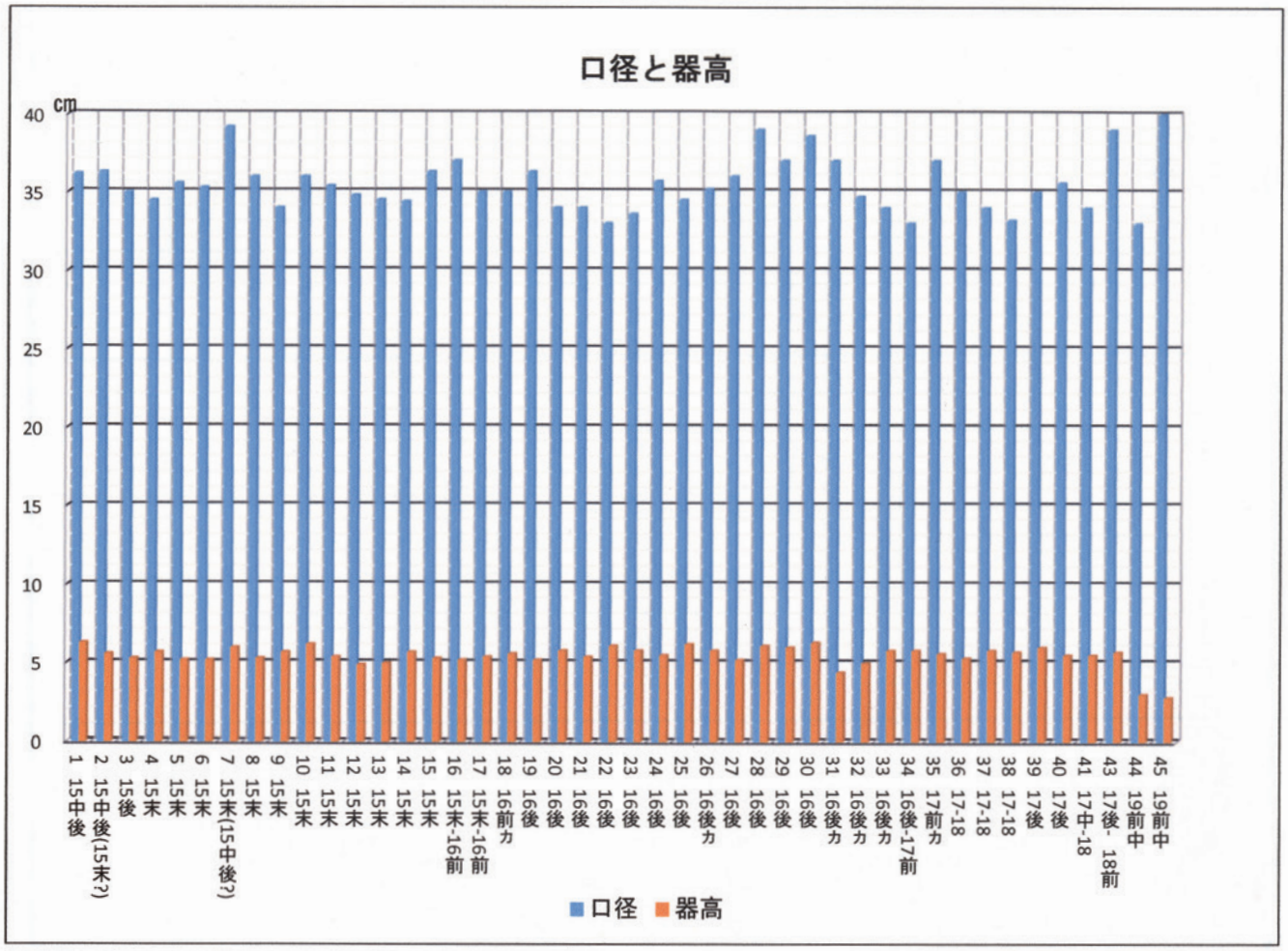


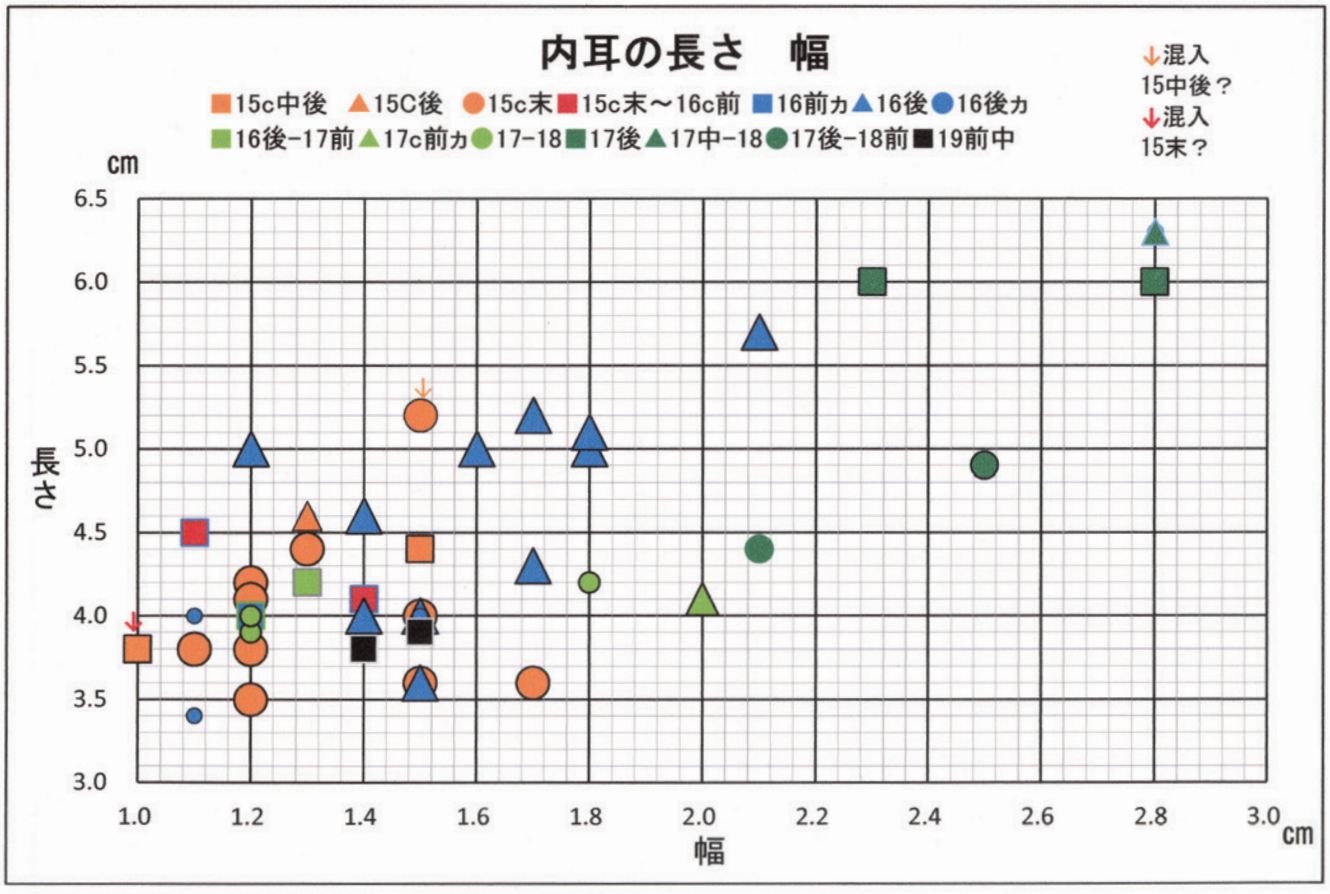
④Pb　⑤Fe

(c)資料〈土－167〉

図 4 － 2　騎西城武家屋敷跡出土非鉄金属生産関連遺物の蛍光エックス線マッピング分析（2）

口絵 24


口径と器高
cm
40
35
30
25
20
15
10
5
0
1 15中後
2 15中後(15末?)
3 15後
4 15末
5 15末
6 15末
7 15末(15中後?)
8 15末
9 15末
10 15末
11 15末
12 15末
13 15末
14 15末
15 15末
16 15末-16前
17 15末-16前
18 16前カ
19 16後
20 16後
21 16後
22 16後
23 16後
24 16後
25 16後
26 16後カ
27 16後
28 16後
29 16後
30 16後
31 16後カ
32 16後カ
33 16後カ
34 16後-17前
35 17前カ
36 17-18
37 17-18
38 17-18
39 17後
40 17後
41 17中-18
43 17後- 18前
44 19前中
45 19前中
口径
器高


内耳の長さ　幅
15c中後
15C後
15c末
15c末～16c前
16前カ
16後
16後カ
16後-17前
17c前カ
17-18
17後
17中-18
17後-18前
19前中
混入
15中後？
混入
15末？
cm
6.5
6.0
5.5
5.0
4.5
4.0
3.5
3.0
長さ
1.0
1.2
1.4
1.6
1.8
2.0
2.2
2.4
2.6
2.8
3.0
cm
幅

序

加須市は埼玉県の北東部に位置し、利根川をはじめ多くの河川を擁する豊かな田園地帯であります。

市の南部に位置する騎西地域はその中央に騎西領48カ村の総鎮守といわれた久伊豆神社（玉敷神社）が鎮座する、歴史のある地域であります。地域には、旧石器時代から江戸時代までの遺跡が多数所在しており、近年進行する都市化にともなう開発により事前に発掘調査を実施しております。

今回の調査報告は、平成元年に実施された根古屋地区に所在する騎西城武家屋敷跡KB14区調査の記録であります。調査の結果、城郭部を囲む障子堀、当時の土壙や井戸の跡、居住した武士が使用した陶磁器・漆椀など貴重な遺構・遺物が検出され、城館跡を研究する上で、騎西城の重要性を再認識することとなりました。

また、今回遺物概観として、騎西城跡の調査成果のうち、分析の基礎となるほうろくをとりあげ、その集成及び確認を試みたものであります。

本報告が文化財の保護に対する理解の一助として、また郷土資料として広く活用されることを望んでおります。

最後になりましたが、調査の実施、本書の刊行に当たりまして深いご理解と多くのご協力をいただきました関係各位の皆様に対しまして深く感謝申し上げます。

令和３年３月

加須市教育委員会

教育長　渡邉　義昭

例　言

1　本書は埼玉県加須市騎西地域内遺跡の発掘調査報告書である。

2　発掘調査は根古屋外川土地区画整理に先立つもので、平成元年に実施したものである。

3　本書の刊行に際して次のように作業に当たった。

（1）執筆

第Ⅳ章第２節　木製品　嶋村薫

第Ⅴ章　科学調査　沓名貴彦氏（国立科学博物館）より玉稿を賜った。

ほか　嶋村英之

※基礎データ

土器類の一部　島村範久（～平成23年度）

銭貨　坂本征男（～平成23年度）

板碑は『騎西町史考古資料編２』による。

（2）写真撮影は現場は調査担当者が、その他は嶋村英之のもと遺物整理者が行った。

（3）出土品の整理・図版の作成は下記の指導者のもと、整理協力員・遺物整理者が行った。

指導者

銭貨　坂本征男（～平成23年度）

ほか　嶋村英之

※木製品は嶋村薫が担当した。

『騎西町史考古資料編１』掲載のものは本報告を優先する。

※土器類・木・金属・石製品の一部は『騎西町史考古資料編１』を加筆転載した。

※板碑の拓本は『騎西町史考古資料編２』掲載のものを加工した。

4　本書の編集は嶋村英之が行った。

5　資料は加須市教育委員会が保管している。

6　整理報告に際して下記の方・機関からご指導・ご協力をいただいた。記して感謝の意を表します。

（敬称略）

沓名貴彦　豊田勝彦　国立科学博物館

山梨県立博物館

調査組織

1　発掘調査組織

調査主体者　騎西町教育委員会

担　当　者　教育総務課　主査　島村範久

主事　坂木征男

調査協力員

青木のい　赤羽根松吉　秋池角蔵　梓沢ユキ子

新井富子　五十嵐喜一郎　五十嵐米太郎　石井たね

伊藤ツネ　今井竜吉　大熊文　岡田金之助

岡田光子　小川征子　金久保りき　国分良吉

小久保衛　小暮あい子　小坂忠一　小森谷アサ

小森谷二三子　斉藤年治　斉藤ふ志　佐藤ヨシ

須永春雄　関口しげ　関口信幸　関口義雄

関口守男　関口千代　田口ふみ　田口島蔵

田島汀七　田村源太郎　土屋とよ　内藤ふく

中島かづ江　福島清作　福島幸蔵　福島利男

松永鶴子　松村一枝　山口保雄　柳田典子

若林クニ子　渡辺サヨ　若林美知子

整理協力員

秋山ノリ子　佐藤道子　金久保玲子　方波見良子

松本千歳

2　整理組織

（令和２年度）　加須市教育委員会

教育長　渡邉義昭

生涯学習部　部　長　江原千裕

副部長　大原英明

生涯学習課　課　長　細田周作

文化財担当　主　幹　坂本征男

主　査　岩渕美恵

再任用主任　嶋村英之

遺物整理者

小川美津子　嶋村薫　長谷川恵　松村順子

凡　例

1　本文および表について

○（　）の数値は残存値である

○※は不確定な推定復元値

○煩雑な記載を避けるため下記の通り略した。

□号堀→□堀。□井戸状遺構→□井戸・□井。

□号溝→□溝。□号土壙→□壙

○銭貨の文字は欠損等しているが確定できるものは明記した

2　挿図について

○縮尺は以下の通りである

遺構　土層堆積　1／40・1／60

堀・溝断面・井戸状遺構・土壙　1／60

遺物出土 1／40・1／20

遺物　土器類・木製品 1／1・1／3

金属製品 1／1～2（銭貨 1／1）

土製品・石製品 1／2～4

石器 1／3　石造物 1／4

○遺構断面図の基準標高は各々に記載した

○遺物の図ナンバーは製品毎に通しとした。必要に応じて遺物のNo.に種別の略号を冠した。土器類(土)、木製品(木)、金属製品(金)、石製品(石)

○土層説明は土層色調／含有物の順に記載した

略称凡例

※テフラ＝T、ローム＝L、炭化物＝C、焼土＝S、酸化鉄＝FE、黒褐色＝BB、黒色＝B、褐色＝Br

※粒子＝R、ブロック＝B

※非常に多い＝☆、多量＝◎、少量＝△、微量＝▲、万遍なく＝万

※やや明るい＝やや明、やや暗い＝やや暗

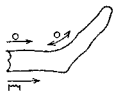
※非常に軟らかい＝軟度高、軟らかい＝軟質、やや軟らかい＝軟度低、硬い＝堅緻

※締まり良し＝締良、締まり悪し＝締悪、粘性強し＝粘強、粘性有り＝粘有

磁器

▲ 釉際

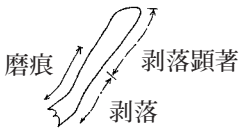
かわらけ



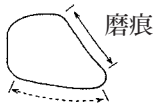
○ 指頭ナデ

⊓ 板ナデ

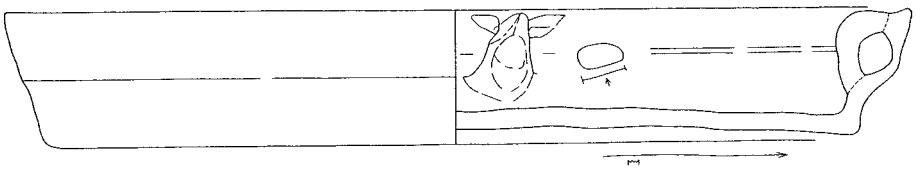
擂鉢



石製品



ほうろく



板状痕

指頭押圧

目　次

序／例言／目次

第Ⅰ章　遺跡の立地・環境
　第１節　遺跡の位置……1
　第２節　遺跡の地理的環境……1
　第３節　遺跡の歴史的環境……2

第Ⅱ章　調査に至る経過……9

第Ⅲ章　調査概要と検出された遺構……11

第Ⅳ章　出土した遺物
　第１節　土器類……66
　第２節　木製品類……86
　第３節　金属製品……97
　　（１）鉄製品……97
　　（２）銅製品……97
　　（３）銭貨……102
　第４節　石製品類……104
　　（１）石製品……104
　　（２）石造物……104
　第５節　動植物遺体……120
　　（１）貝類……120
　　（２）種子類……120

第Ⅴ章　科学調査……121

第Ⅵ章　まとめ……127

第Ⅶ章　遺物概観（ほうろく）……130

図版/報告書抄録

挿図目次

第１図　遺跡の位置（騎西地域）……1
第２図　周辺の微地形分類と縄文･古墳時代遺跡　3
第３図　周辺の微地形分類と城館跡……3
第４図　騎西城を取り巻く勢力図……6
第５図　調査区の位置……8
第６図　KB14区周辺の調査……10
第７図　KB14区遺構位置図……21
第８図　遺構１　障子堀エレベーション図……23
第９図　遺構２　１～３号堀……26
第10図　遺構３　４号堀……27
第11図　遺構４　５・６号堀……29
第12図　遺構５　７号堀……30
第13図　遺構６　８号堀……31
第14図　遺構７　９a・９b号堀……33
第15図　遺構８　10～12号堀……35
第16図　遺構９　13・14号堀……36
第17図　遺構10　15～17号堀……37
第18図　遺構11　18・19a号堀……38
第19図　遺構12　19b・20号堀……39
第20図　遺構13　21・22号堀……40
第21図　遺構14　23・24号堀……41
第22図　遺構15　25・26号堀……42
第23図　遺構16　27～29号堀……43
第24図　遺構17　30・31号堀……44
第25図　遺構18　32・33号堀……45
第26図　遺構19　34～36号堀……46
第27図　遺構20　37～39号堀……47
第28図　遺構21　40～42a号堀……48
第29図　遺構22　42b～44号堀……49
第30図　遺構23　45～47号堀……50
第31図　遺構24　48・49号堀……51
第32図　遺構25　50～52号堀……52
第33図　遺構26　溝１……53
第34図　遺構27　溝２……54
第35図　遺構28　溝３……55
第36図　遺構29　井戸状遺構……56
第37図　遺構30　土壙１……57
第38図　遺構31　土壙２……58

第39図　遺構32　土壙３……59
第40図　土器類１……68
第41図　土器類２……69
第42図　土器類３……70
第43図　土器類４……71
第44図　土器類５……72
第45図　土器類６……73
第46図　土器類７……74
第47図　土器類８……75
第48図　土器類９……76
第49図　土器類10……77
第50図　土器類11……78
第51図　土器類12……79
第52図　木製品類１……89
第53図　木製品類２……90
第54図　木製品類３……91
第55図　木製品類４……92
第56図　木製品類５……93
第57図　木製品類６……94
第58図　金属製品１（鉄）……98
第59図　金属製品２（銅１）……99
第60図　金属製品３（銅２）……100
第61図　金属製品４（銭貨１）……101
第62図　金属製品５（銭貨２）……102
第63図　石製品類１（石臼１）……105
第64図　石製品類２（石臼２）……106
第65図　石製品類３（石臼３）……107
第66図　石製品類４（碁石・硯・石製円盤）…108
第67図　石製品類５（砥石１）……109
第68図　石製品類６（砥石２）……110
第69図　石製品類７（砥石３・磨石１）……111
第70図　石製品類８（磨石２）……112
第71図　石製品類９（磨石３）……113
第72図　石製品類10（磨石４・火打石）……114
第73図　石製品類11（板碑１）……115
第74図　石製品類12（板碑２）……116
第75図　石製品類13（板碑３）……117
第76図　金粒子付着生産関連遺物が出土した戦国から江戸初頭の主な遺跡……125
第77図　『絵図』との対照図……128
第78図　堀の位置……128
第79図　周辺調査区の並行溝……129
第80図　ほうろく１……141
第81図　ほうろく２……142
第82図　ほうろく３……143
第83図　ほうろく４……144
第84図　ほうろく５……145
第85図　ほうろく６……146
第86図　ほうろく７……147
第87図　ほうろく８……148
第88図　ほうろく９……149
第89図　ほうろく10……150
第90図　器厚の推移……151
第91図　段幅の推移……151
第92図　段までの長さの推移……152
第93図　内耳長率の推移……152
第94図　ほうろく変遷図……159

表目次

第１表　遺構一覧表１……60
第２表　遺構一覧表２……61
第３表　遺構一覧表３……62
第４表　遺構一覧表４……63
第５表　遺構一覧表５……64
第６表　遺構一覧表６……65
第７表　土器類一覧表１……80
第８表　土器類一覧表２……81
第９表　土器類一覧表３……82
第10表　土器類一覧表４……83
第11表　土器類一覧表５……84
第12表　土器類一覧表６……85
第13表　木製品一覧表１……95
第14表　木製品一覧表２……96
第15表　金属製品一覧表１……102
第16表　金属製品一覧表２……103

第17表　金属製品一覧表３（銭貨）……103
第18表　石製品一覧表１……118
第19表　石製品一覧表２……119
第20表　石製品一覧表３……120
第21表　非鉄金属生産関連遺物の蛍光エックス線分析結果……122
第22表　非鉄金属製品の蛍光エックス線分析結果……123
第23表　ほうろく一覧表１……153
第24表　ほうろく一覧表２……154
第25表　ほうろく一覧表３……155
第26表　ほうろく一覧表４……156
第27表　ほうろく一覧表５……157
第28表　内耳の正面形と断面形の消長……158
第29表　段の形態の消長……158

図版目次

図版１　遺構１
図版２　遺構２
図版３　遺構３
図版４　遺構４
図版５　遺構５
図版６　遺構６
図版７　遺構７
図版８　遺構８
図版９　出土遺物　土器類１
図版10　出土遺物　土器類２
図版11　出土遺物　土器類３
図版12　出土遺物　土器類４
図版13　出土遺物　土器類５
図版14　出土遺物　木製品１
図版15　出土遺物　木製品２
図版16　出土遺物　木製品３
図版17　出土遺物　鉄製品　種子
図版18　出土遺物　石製品類１
図版19　出土遺物　石製品類２
図版20　出土遺物　石製品類３
図版21　遺物概観　ほうろく１
図版22　遺物概観　ほうろく２
図版23　遺物概観　ほうろく３
図版24　遺物概観　ほうろく４
図版25　遺物概観　ほうろく５
図版26　遺物概観　段の形態　整形
図版27　遺物概観　内耳形態１
図版28　遺物概観　内耳形態２

調査前風景

遺構検出

第Ⅰ章　遺跡の立地・環境

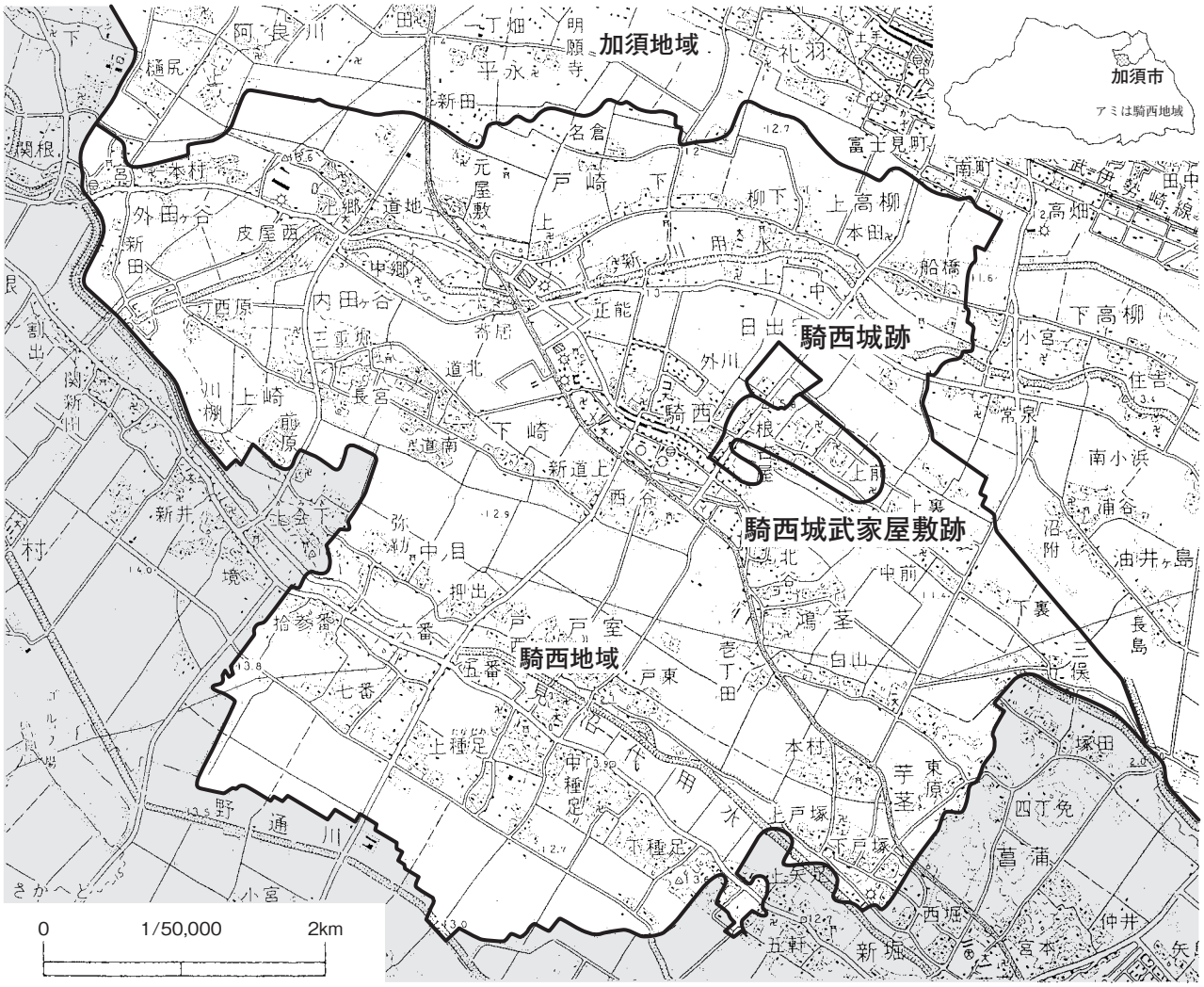
第１節　遺跡の位置（第１図）

加須市騎西地域は埼玉県北東部に位置し騎西城武家屋敷跡はそのほぼ中央にある。行政上では加須市根古屋字道上・中宿・前・道下、牛重上前・中前・上裏その他に所在する。戦国から江戸時代の城跡で、昭和56年度実施の騎西町遺跡詳細分布調査や明治９年の「地引番号全図根古屋」、江戸時代に描かれた「武州騎西之絵図」などにより城の形状や武家屋敷の範囲が明らかである。遺跡の範囲は騎西文化・学習センターから南東へ1.2km、南西へ約0.5kmである。

第２節　遺跡の地理的環境（第２図）

大宮台地の北東から南東方向には肥沃な水田地帯である加須低地・中川低地が広がっている。加須低地には、騎西島状台地群をはじめとして笠原支台より断続的に続く埋没ローム台地がいくつか存在し、造盆地運動によって台地や低地が沈降した。その上に利根川などの氾濫による河成堆積物が堆積し、自然堤防・埋没ローム台地・後背湿地・沼沢地が形成されたものである。

現在騎西地域内で確認されている原始から近世までの遺跡は埋没ローム台地と自然堤防上に立地していると言われてきた。しかし発掘調査では、旧石器時代から奈良・平安時代の遺跡は自然堤防とされている見沼代用水両岸に位置しいずれもローム台地上に展開している。



第１図　遺跡の位置（騎西地域）

第３節　遺跡の歴史的環境(第２・３図)

※（遺跡名）は『騎西町史考古資料編１』に準じたものである。城館跡名では不適切となるため小字による遺跡名を付け直したものである。

１　旧石器時代

約２万年前以降、ナイフ形石器や尖頭器が盛行した頃、萩原遺跡をはじめ（前）・（中宿）遺跡で該期の遺物が出土している。（前）遺跡では尖頭器及び剥片の集中箇所が２カ所確認されている。

細石刃石器群が出現した約１万５千年前以降では下崎中郷遺跡で北方系の削片、（道上）遺跡では同系の荒屋型彫刻器が出土している。

２　縄文時代

草創期に（中宿）遺跡で有舌尖頭器が見られるのみで土器は発見されていない。早期は修理山・小沼耕地・（前）・（道上）遺跡で撚糸文系土器、（前）遺跡では集石遺構が、（道上）遺跡で沈線文系土器、条痕文系は修理山・（前）・（中宿）・（道上）遺跡で土器が出土しており、特に修理山・（中宿）遺跡では炉穴が確認された。

前期では前半花積下層・関山・黒浜式土器が小沼耕地・（前）・（道上）で出土している。後半諸磯から十三菩提式期までは前半に加え萩原遺跡で諸磯式土器が、小沼耕地遺跡では県内では希少な花積下層式期の住居跡状落ち込みが検出されている。

中期前半に（道上）・萩原遺跡で五領ヶ台式・勝坂式が確認されている。後半は加曽利Ｅ式期その後半に（中宿）遺跡で柄鏡形住居・（道上）遺跡で竪穴住居が、萩原・修理山遺跡では集落が展開した。修理山遺跡では10軒の竪穴住居、萩原遺跡では数軒の住居跡と墓壙などが見つかっている。

両遺跡は後期前半堀の内期までは集落を継続し少数ながら住居跡や貯蔵穴が検出された。後半になると再び遺物のみの出土となるが萩原・中郷・（前）・（中宿）・（道上）遺跡で加曽利Ｂ～後期安行式が出土している。晩期では安行３ａ～３ｄ式が修理山・町並・（道上）・（前）・（中宿）遺跡で出土している。

３　弥生時代

騎西地域内ではこのころの遺跡は少なく、中期では小沼耕地（※町史では上種足三番）遺跡で磨製石鏃が、（道上）遺跡では後期の壺や器台の破片が出土しており、中種足五番遺跡の絵画土器や小沼耕地遺跡の土器片は弥生時代終末期から古墳時代初頭のものである。

４　古墳時代

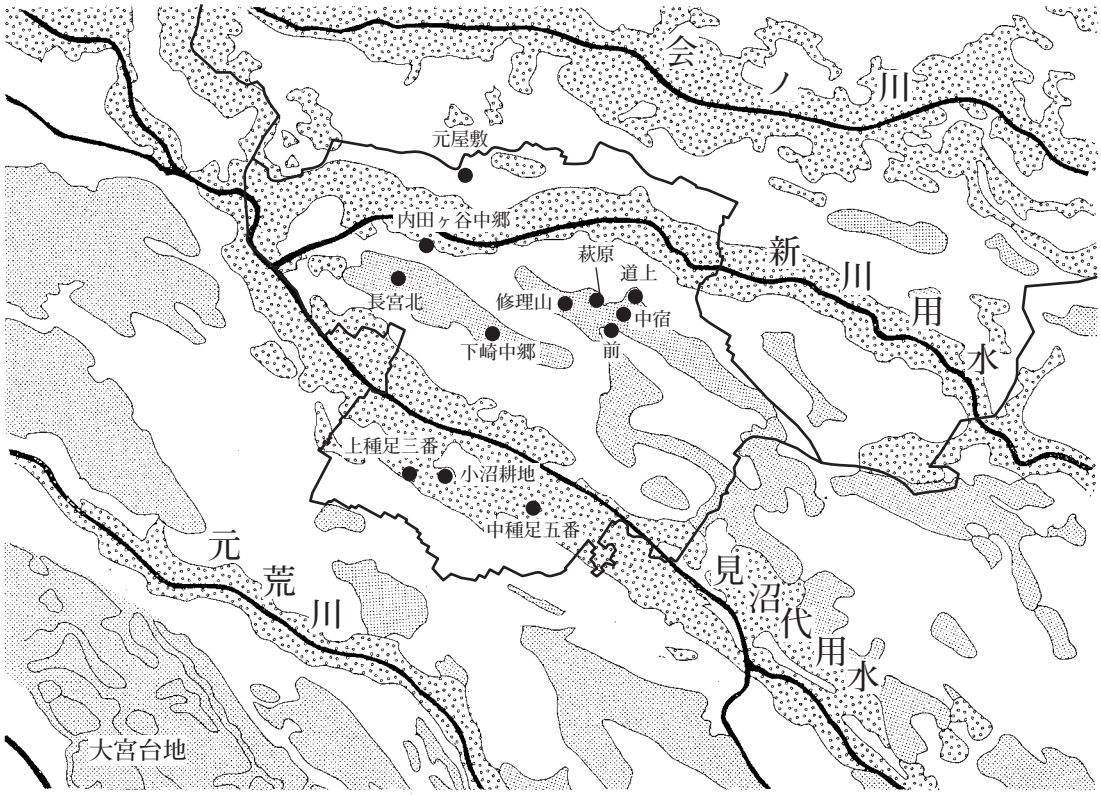
古墳跡は小沼耕地遺跡※で６～７世紀の前方後円墳１基・円墳５基が確認されている。また、（内田ケ谷中郷）遺跡で勾玉や埴輪片、（前）遺跡の埴輪片や隣接する（中宿）遺跡の切子玉・さらにその周辺で出土したと伝えられる石棺部材（市内の玉敷神社所在）等からこれらの地域にも古墳が所在していたものと考えられる。また、集落は前期の住居跡が小沼耕地遺跡・（中宿）遺跡、中期の住居跡が萩原遺跡、後期の住居跡は萩原遺跡・(道上) 遺跡・(中宿）遺跡で確認されており、なかでも萩原遺跡は地域内屈指の集落遺跡である。そのほかにも古墳時代の土師器が中種足五番遺跡・観音堂遺跡から出土し集落の所在を予想させる。他に古墳時代前期の方形周溝墓が修理山遺跡・小沼耕地遺跡で確認されている。

以上のように現在遺跡が確認されている台地には古墳及び集落がそれぞれ所在するものと考えられる。

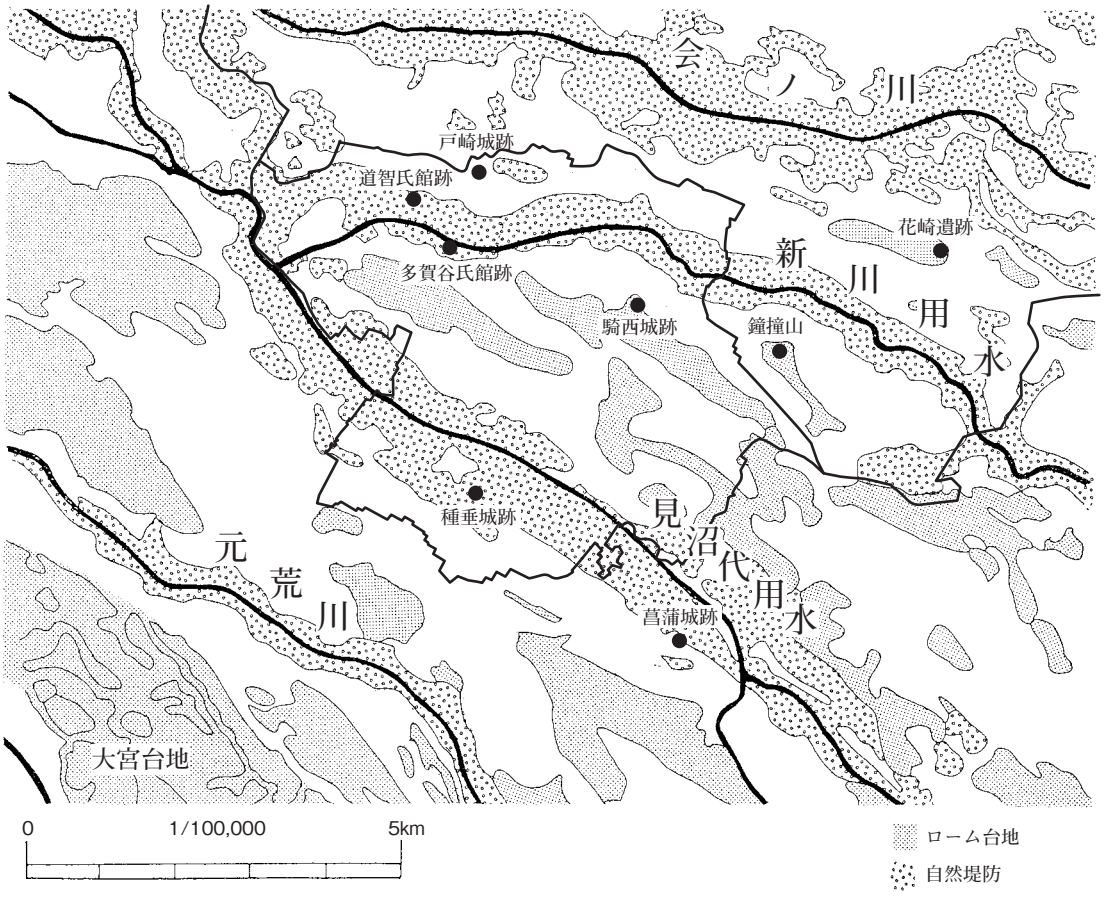
※町史の上種足三番遺跡を含む

５　奈良・平安時代

住居跡が確認されているのは（道上）遺跡・小沼耕地（※町史では上種足三番遺跡）で８世紀代のものである。下崎中郷遺跡では湖西産とみられる須恵器が、観音堂・中種足五番遺跡で須恵器や土師器が、（中宿）遺跡では小金銅仏が出土している。元屋敷遺跡では墨書土器や瓦が出土している。



第 2 図　周辺の微地形分類と縄文・古墳時代遺跡



第 3 図　周辺の微地形分類と城館跡

6　中近世

騎西地域内には平安末から鎌倉時代にかけて武蔵武士野与党の道智氏・多賀谷氏が館を構えたといわれる。

多賀谷氏館は、内田ケ谷の大福寺を中心にあったものと思われ、建久元年（1190）多加谷小三郎が源頼朝の上洛の随兵を、建長３年（1251）多賀谷弥五郎重茂が鎌倉由比ヶ浜での御弓始の射手を務めている『吾妻鏡』。永享年間（1429－41）初め頃に結城に移ったといわれる多賀谷光義は敬神の念厚く郭内に稲荷明神を勧請した『多賀谷旧記』。発掘調査では館跡の東端（１次調査）で、溝から12～14世紀の同安・龍泉窯系青磁碗・常滑広口壺が出土しており、館跡のほぼ中央にある大福寺の北（４次調査）で、土壙から12～13世紀の同安・龍泉窯系青磁とともに刀身先端や鉄鏃が出土している。

道智氏館は、道地の成就院周辺に所在したものと思われる。建久元年（1190）道智次郎が源頼朝の上洛の随兵を務め、承久３年（1221）の宇治橋の合戦では道智三郎太郎が討ち死にしている『吾妻鏡』。発掘調査では館跡のほぼ中央で13～14世紀の龍泉窯系青磁が、西端で12～13世紀の龍泉窯系青磁などが出土している。

種垂城跡は、上種足種垂城址公園から東へ広がり百石・シロンチ（城の内？）等の地名が残る。雲祥寺縁起には騎西城主小田顕家が養子の助三郎（忍城主成田親泰の子）に家督を譲り種垂村に隠居したという。発掘調査では、溝・井戸・土壙・火葬跡を検出し、漆椀・小柄や13～17世紀の陶磁器類が出土している。

隣接する**旧上種足三番遺跡**（現小沼耕地遺跡）では、溝・土壙・井戸・集石墓が検出されており、12世紀の白磁水注・13世紀の龍泉窯系青磁・常滑甕・在地の蔵骨器・篦状木製品が出土している。

小沼耕地遺跡では、県埋蔵文化財調査事業団の調査で、掘立柱建物跡・基壇状遺構・溝・井戸などが検出され、12～13世紀を主体とする陶磁器類が出土している。種足は、中世前半の弘安10年頃（1287）伊賀光清が所領としており、また応永24年（1417）に日英上人が種垂の講演御堂（布教道場）等の講演職を弟子に任せている。三番・小沼耕地遺跡の成果はそれらに関わるものとも思われる。

南方の中種足五番遺跡では12～13世紀の龍泉窯系の青磁や15～16世紀の染付、13～17世紀の古瀬戸・常滑・在地の陶磁器類が出土している。

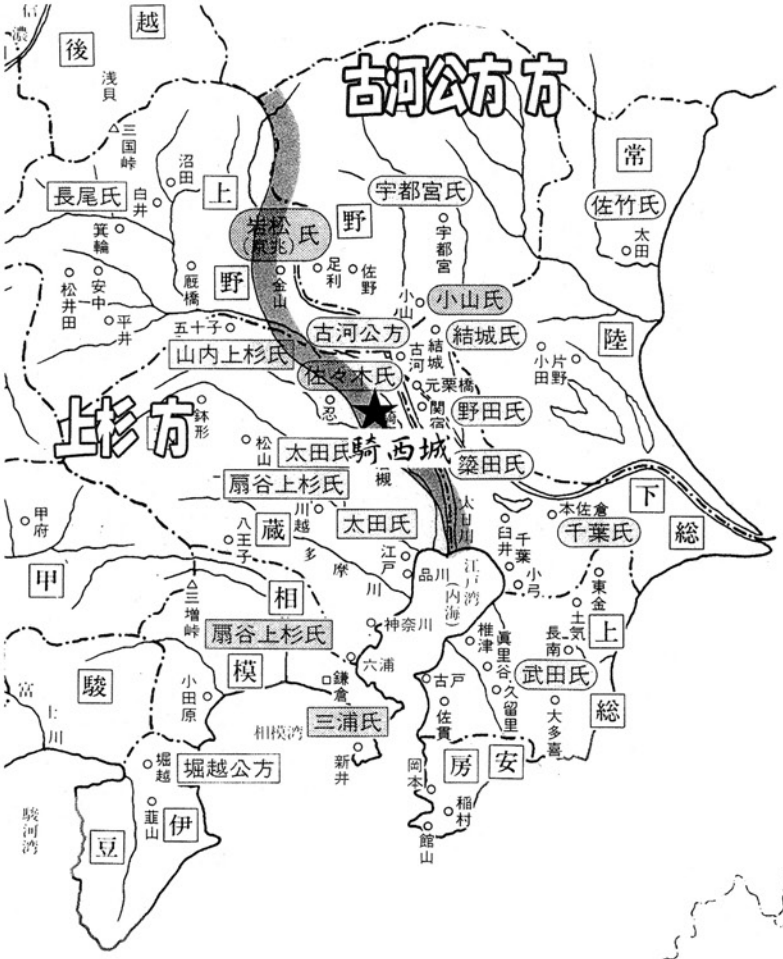
戸崎城跡は、『新編武蔵風土記稿』に戸崎右馬允居跡なりとある。また、『吾妻鏡』に戸崎右馬允国延が寿永３年（1184）源頼朝の御前の射手となるとある。発掘調査では土塁跡や13世紀の鉢や17・18世紀の陶磁器類が出土している。

騎西城（騎西城周辺年表参照）は、文献や江戸初期の『武州騎西之絵図』など城の絵図が遺る。遺構は現在土塁跡が僅かに残るだけであるが、昭和55年から80次を超えて発掘調査されており、主に土地区画整理に伴い城郭部や武家屋敷跡西部の成果が顕著である。これまでに溝400条・土壙1600基・井戸状遺構200基・障子堀５ヶ所・橋跡４ヶ所が確認されている。遺物は戦場及び生活・生産の場として武器武具・生活・生業・信仰・流通に関する多様なものが出土している。特に水位が高いことから木製品の遺存がよい。**武器武具**では、兜・前立・刀装品・鉄鏃・火縄挟み・弾丸・馬甲・轡・四方手・野沓・腰刀・薙鎌など、**生活品**では、下駄・鏡・竪杵・鉄鍋・桶・漆椀・杓子・折敷・火打金・天目茶碗・湯釜・将棋の駒など、**生業**では、砥石・紡錘車・鋏・溶解炉・鋳型・坩堝・金粒子付着土器など、**信仰**では護符・呪符・舟形・位牌・銅鋺・数珠など、**流通**では金貨・袋入り銭貨・荷札などがある。年代を比定できる陶磁器は12世紀から19世紀にかけてのもので、主体は16～17世紀前半である。瀬戸美濃をはじめ中国染付・唐津・志戸呂・初山・在地産かわらけ・ほうろく・擂鉢などがある。

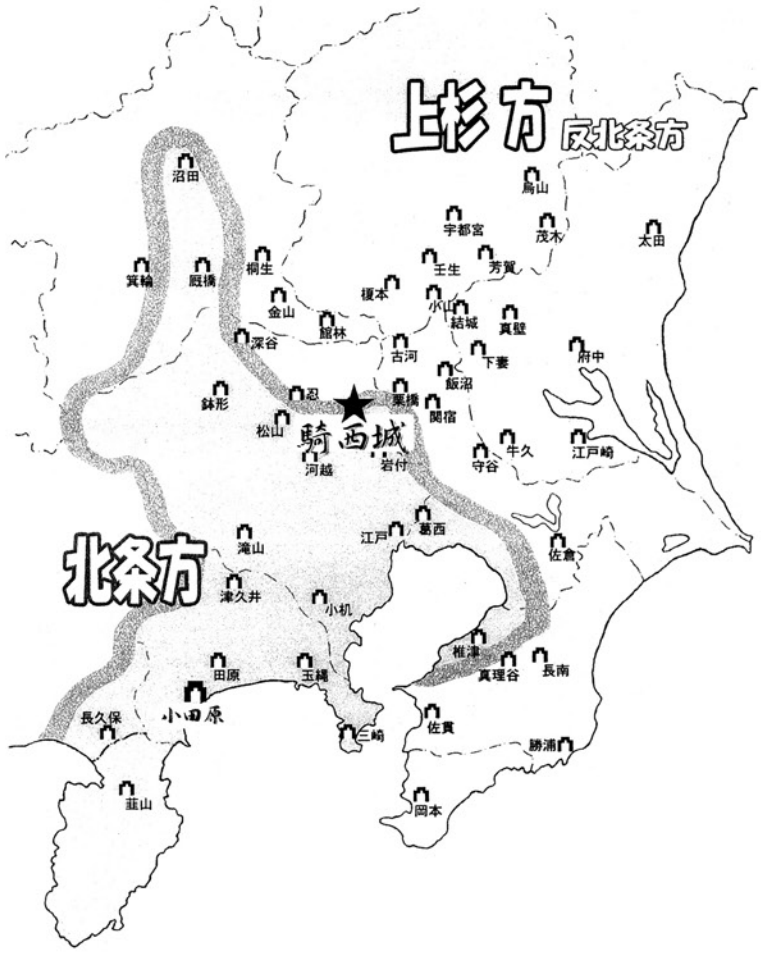
このほかに、日出安の保寧寺中世墓址では、大量の川原石や板碑、12～14世紀の常滑の甕・壺、13世紀の布目瓦が出土している。墓域の成立は中世前半に遡るものか。また、下崎の道南遺跡で工事の際1978枚の北宋銭が出土している。

騎西城周辺年表

康正元年（1455）	足利成氏、崎西郡（騎西城）に集結する上杉勢（上杉・庁鼻和氏など）を攻略する
文正元年（1466）	足利成氏、南多賀谷（田ケ谷）と北根原（鴻巣市）で上杉勢と合戦に及ぶ
応仁元年（1467）	★応仁の乱
文明３年（1471）	上杉方に対峙する足利成氏の戦略配置に私市（騎西）の佐々木氏あり
文亀２年（1502）	騎西城主小田顕家、上会下（鴻巣市）の雲祥寺を再興。忍城（行田市）主成田親泰の子助三郎（朝興）を娘婿とし騎西城を譲り、自らは種足村に隠居する
天文８年（1539）	騎西城主小田顕家没、雲祥寺に葬られる
天文12年（1543）	★鉄砲伝来
永禄３年（1560）	長尾景虎（上杉謙信）関東の北条方諸城を攻略
永禄４年（1561）	騎西城主小田助三郎、兄の忍城主成田長泰と共に景虎の小田原攻めに参加する。 長泰、鶴岡八幡宮で上杉政虎（謙信）に辱められ、北条方となる。助三郎も離反
永禄６年（1563）	北条氏康・武田信玄連合軍が松山城（吉見町）を攻略。報復に上杉輝虎（謙信）、騎西城を攻略
永禄12年（1569）	上杉と北条の講和成立（越相同盟）。上杉方は武蔵北部を支配
天正２年（1574）	上杉謙信、羽生の関宿城を救援。騎西・古河・栗橋・館林・菖蒲・岩付城を焼き払う
天正４年（1576）	成田泰喬（あるいは氏長）、家臣に知行を宛がう
天正５年（1577）	小田大炊頭、古河公方への年頭の挨拶を行う
天正６年（1578）	小田大炊頭、足利義氏に年頭の挨拶。謙信没
天正18年（1590）	★徳川家康、関東へ入国。松平康重に騎西領二万石を与える
天正19年（1591）	松平康重大英寺を開基、日出安の保寧寺に田畑１町歩を寄進する
文禄２年（1593）	松平康重、朝鮮出兵のため騎西領民を召し連れる
慶長元年（1596）	根古屋の金剛院、日出安から移転する
慶長４年（1599）	松平康重の奥方、城内にて死去、大英寺に葬る
慶長５年（1600）	★関ヶ原の戦い
慶長７年（1602）	この頃大久保忠常、騎西領二万石を拝領する
慶長８年（1603）	★徳川家康、江戸に幕府を開く
慶長11年（1606）	騎西藩の家臣、領内（正能村）を検地する
慶長16年（1611）	忠常病死。子の忠職、父の遺領騎西領二万石を拝領する
慶長19年（1614）	大久保忠隣改易となり小田原・羽生を没収、孫の騎西城主忠職は閉門に処せられる
寛永２年（1625）	忠職、赦免される
寛永４年（1627）	大久保忠職、久伊豆大明神（玉敷神社）に社領を寄進する
寛永９年（1632）	忠職、三万石加増され、美濃の加納へ転封し五万石を拝領する。騎西城廃され、代官所が置かれる



享徳の乱初期の関東
（1454 ～）



氏康 × 謙信の頃の関東
（永禄・天正年間）

『古河公方展』古河歴史博物館
『中世・下町再発見』葛飾郷土と天文の博物館
掲載の図を改変

第 4 図　騎西城を取り巻く勢力図

騎西城周辺の歴史的経過（年表・第4図）

当遺跡では濃密ではないが中世を通して遺物が出土している。12世紀代の常滑甕、舶載白磁、渥美製品、また古瀬戸陶器等が見られる。騎西城以前にも集落・館等が存在していたようである。

【享徳の乱】

文献では騎西城は、康正元年（1455）に初出し寛永9年（1632）廃城となり姿を消す。享徳の乱では、関東公方足利成氏が古河に移り、関東管領上杉氏と対峙する。その争いの中に騎西郡を舞台として争う場面がある。これが騎西城とされる。残念ながら現在のところ当該期に相当する遺構は確認されていない。だがこの時期に騎西城の前線基地としての重要性は格段に高まり、戦闘の拠点としての城の整備がされたものと思われる。関東管領家臣の太田道灌が岩付城・河越城・江戸城の防衛ラインを張ったとき騎西城はすでに古河方の足場として機能していたのではないだろうか。

【永禄・天正期の軍事的緊張】

また、永禄から天正年間にかけての後北条氏対上杉謙信の覇権争いにおいても境の城であった。騎西城は何度となく厳しい立場に追い込まれている。特に謙信が関東の足掛かりとした羽生城を間近にしており、2度の戦火を被っている。

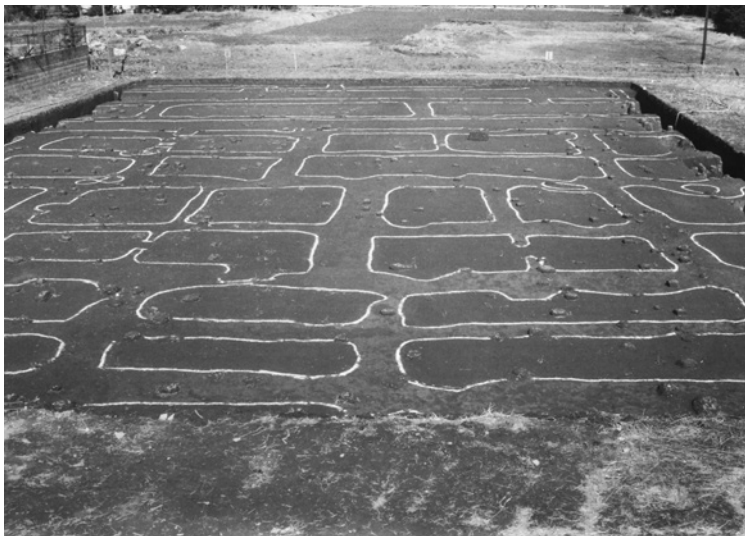
文献では、永禄6年、北条氏康・武田信玄が松山城を包囲したが、その救援に間に合わなかった謙信は攻める方向を転じ騎西城を陥落させた。その後、謙信は武田信玄との敵対関係から北条氏康との和睦（越相同盟）を成し、しばし平安であった。しかし北条氏康没後、甲相同盟の復活によりまた北条・上杉の合戦が再開された。天正2年には謙信が羽生・関宿城援護のため出陣し、古河・栗橋・館林・菖蒲・岩付城とともに騎西城を焼き討ちにしている。

当該期の遺物・遺構は豊富で、城郭部周辺の障子堀(KB15区・騎13次)から炭化物・遺物が多量に出土している。これらはこの頃の戦火に伴う戦後処理のものと思われる。

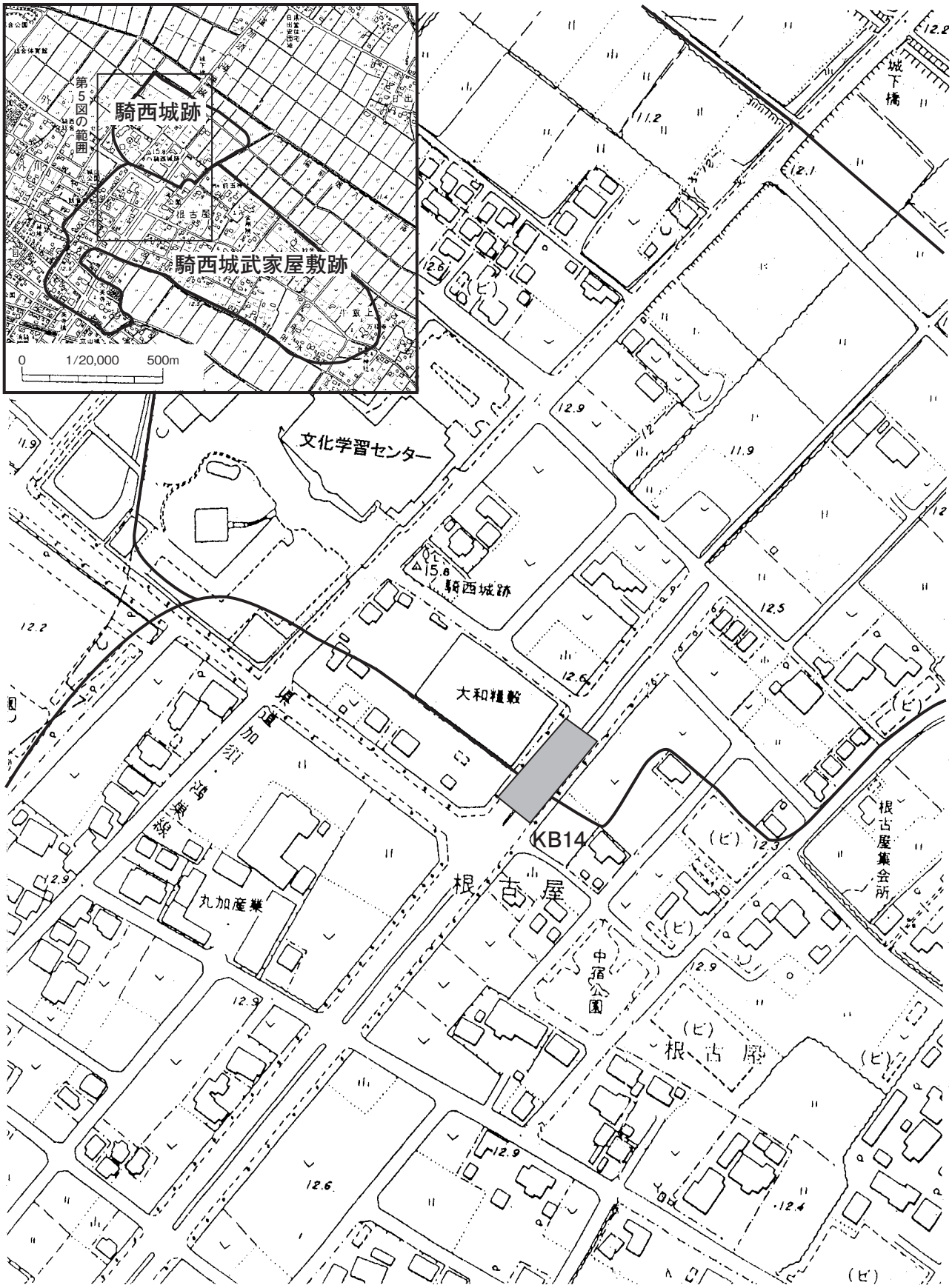
【秀吉の小田原攻めと家康の関東入封】

豊臣秀吉が小田原城を攻めたとき、忍城も石田三成に水攻めを受けている。騎西城も備えとして城の拡張・改良を行っているものと思われる。

その後家康が関東に入り、騎西城には松平康重、大久保忠常・忠職が藩主となっている。その際に城郭部の縮小や城下の再編成を行っているものと思われる。実際『武州騎西之絵図』に載る御蔵屋舗には外側に障子堀を備えており、戦乱時は城郭部であったことを物語っている。



障子堀　検出


第5図の範囲
騎西城跡
騎西城武家屋敷跡
0 1/20,000 500m
文化学習センター
騎西城跡
大和精穀
KB14
根古屋
丸加産業
根古屋集会所
中宿公園
城下橋
0 1/2,500 100m

第5図　調査区の位置

第Ⅱ章　調査に至る経過

旧騎西町は首都圏50㎞圏内に位置し、急激な人口の増加に伴う開発が見込まれていた。それに対し計画的な都市整備の一環として大字根古屋及び外川において土地区画整理事業が計画されていた。

町教育委員会では昭和56年度に実施した町内遺跡群分布調査によって町内に15ヶ所の遺跡が所在することを確認しており、とくに区画整理対象区域に所在する騎西城については小田原市に所蔵されていた『武州騎西之絵図』と対照すると城の南側に江戸初期に武家屋敷が広がっていたことが明らかとなっている。さらに昭和54年に実施した騎西城跡の発掘調査では、和鏡や武具などの出土により城の存在を実証し、その内容を具体的に明らかにしたものであった。僅かに残る土塁や水田と畑地に見られる郭の形など遺存状態は良く、地下に埋蔵される遺構は特に期待されるものであった。

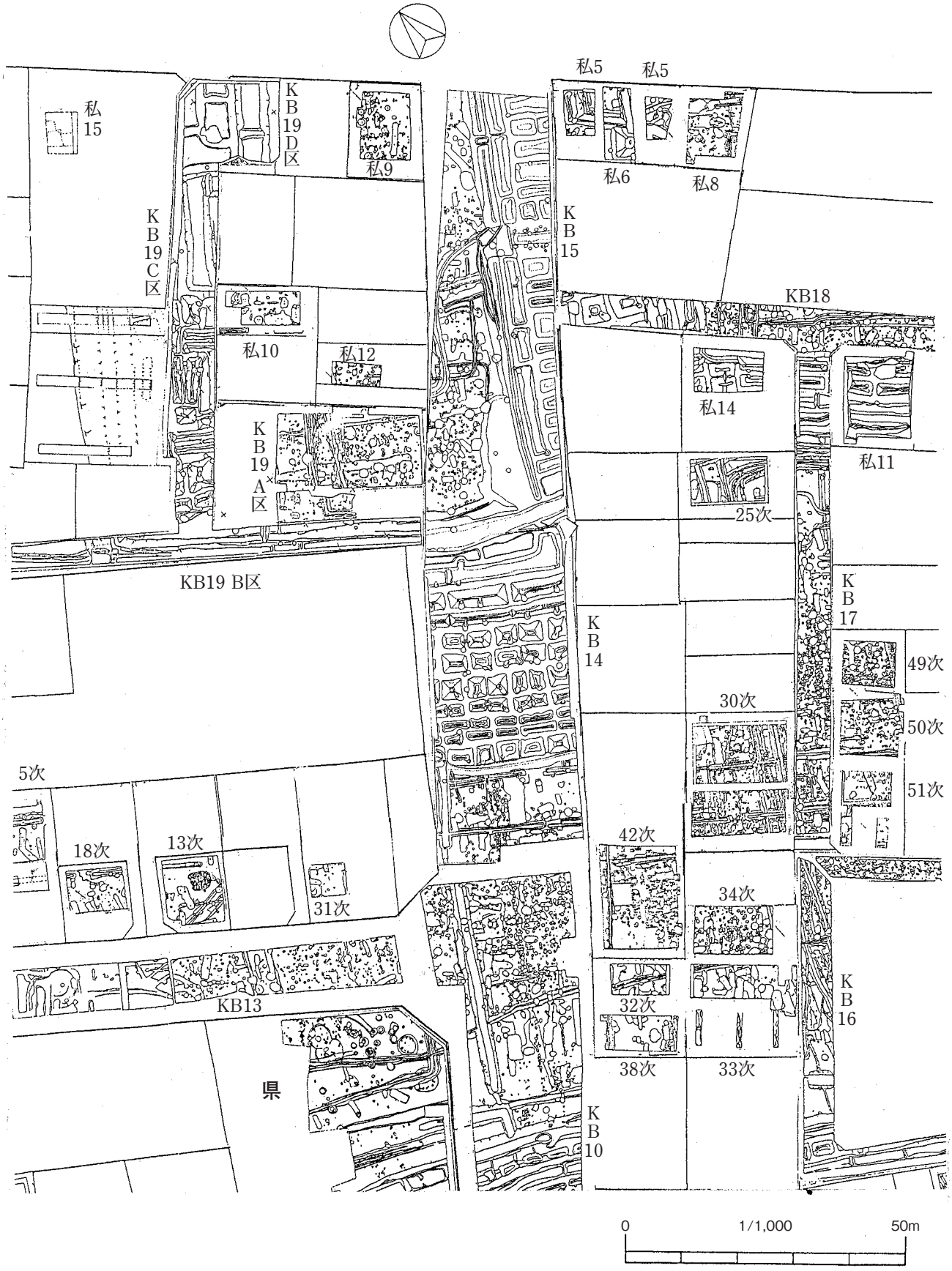
しかしながら、長年の懸案であった根古屋・外川地区土地区画整理事業は町の重要施策であり、計画の中止及び変更は困難な状況であった。

そこで町教育委員会では町部局と協議を重ねた結果、区画整理施工に先立ち破壊される道路分について順次発掘調査を実施することとした。また、区画整理により発生する保留地についても町が原因者として発掘調査をすることとした。

文化財保護法に基づき騎西町から埋蔵文化財発掘通知、騎西町教育委員会から埋蔵文化財発掘調査通知を文化庁長官に提出した。

調査は昭和58年２月９日（騎２次）から開始し、平成７年（KB15区）までの13年に亘るものであった。今回の報告は、調査実施区域の北寄り調査名ではKB14区、所在地は大字根古屋204、316－２～４、321－１である。

平板　実測風景



第 6 図　KB14区周辺の調査

第Ⅲ章　調査概要と検出された遺構

（1）調査の概要

（調査担当）教育総務課　主査　島村範久
　　主事　坂本征男

（調査期間）平成元年1月10日～12月22日

（調査面積）1,380㎡

（調査の経過）

KB10区の北に位置する調査区をKB14区とした。

14区の北4／5を本報告では調査区北とした。調査時は、1m低い水田跡で、城郭部と武家屋敷の境に位置し東西方向に走行する城の堀と想定されるため『外堀』とした。南1／5については、本報告では調査区南とした。畑跡で調査時は『堀南』とした。堀南から外堀に落ちる斜面は『（南）オチキワ』とした。

調査区北は、南北43m×幅26mの範囲で、深い堀の排水のため、東西に側溝を設け、水中ポンプにより排水した。また、堀の予備調査のため、東端に第1トレンチ、西端に第2トレンチを設定し調査した。調査は、人力により表土を30㎝掘り下げ、関東ローム層を確認面とし、堀・井戸・土壙を検出した。堀は、防御をめざすものでその掘り下げは困難を極めた。湧水に加え、1m超の深さ、関東ローム層が湧水に濡れた為滑り易く、掘り下げ・排土作業・堀の出入りの支障となった。出土遺物は割と少なく、確認面上位や堀覆土上層出土のものが多い。堀は土層観察用ベルトを可能な限り設定し、堆積状況を確認し、図化した。

調査区南は、人力により40㎝掘り下げ、ローム層を遺構確認面とし、溝・井戸・土壙などの調査を行った。

遺構の図化は、全体は平板測量により、各遺構は任意に設定した水糸を基準としてメジャーにより実測した。

井戸の覆土については洗浄して遺物の検出に当たった。

グリット杭設置及び基準杭の標高測量及び、完掘の空中撮影は、業者に委託した。

（周辺の調査）

KB10区が南接し、北側にKB15区、東にKB17区・第25・30・49～51次調査区、西に第5・13・18・31次調査区がある。東西の調査区では、KB14区調査区の東西方向の溝、2・3・5・7号溝と断続的につながりそうな溝が検出されている。KB10区では、騎西城を大きく2重に囲む障子堀の外側の堀が確認されている。金・銀粒子付着土器がKB10区・第5・49次調査区で出土している。

（2）遺構と遺物

【堀状遺構】

本遺構は、調査区の北4／5を占め、城郭部と武家屋敷を画する東西方向に巡る南北の幅43m深さ1mの堀の底に掘られたものを1基ずつ命名するもので、総数52である。堀という名称の適否や、命名順、命名法が不規則であるが、遺物の取り扱いなどの混乱を防ぐため本報告では、調査時のままとする。

平面形は長方形・方形など多様な形態を呈するが、東西方向に連なる（列）ごとに同様なタイプである。列は11列を数える（北から第1列とする）。

エレベーション図は、必要に応じて平面図及びレベルより推定復元した。断面形や名称については堀凡例（25p）参照。階段を想定できる堀底面から確認面までの平坦面の各段の高さを段高とし、下位の段より順に＋○㎝とする。

1号堀　第1列・西に位置し、西側は調査区外。平面長方形、規模は534㎝（残存）×146㎝深さ10㎝と浅く、立ち上がりは緩やかである。2号堀と接続し、本来は長さ12m（残存）の堀で、1号土壙により南辺が窪んでいる。

肥前磁器皿（土1）・在地片口鉢（土2）・飾り金具（金15）が出土した。桃の種8点出土。

2号堀　第1列・西に位置し、平面長方形。規模は250㎝（残存）×207㎝深さ16㎝と浅く、立ち上がりは緩やかである。1号堀と接続する。桃の種4点・粉挽臼（石1）が出土した。

3号堀　第1列・中央に位置し、平面長方形で、規模は915㎝×220㎝深さ7㎝と浅く、立ち上がりは緩やかである。底面はほぼ平坦。板材（木37）が出土した。

4号堀　第2列に位置し、西側は調査区外。平面L字形、規模は2,460㎝（残存）×290㎝深さ46㎝で、立ち上がりは緩やかである。調査区幅より長い。南辺の確認面から堀底に円形土壙2基、北辺の西寄り

に、確認面から堀底にかけて方形土壙（１号土壙）１基が所在する。断面観察では、４号堀より古いが、施設の可能性も残しておく。堀内に下幅130㎝・高さ28㎝（西底面より）の畝状遺構を掘り残す。底面はほぼ平坦だが、畝の西が20㎝低い。最下層にロームブロック層堆積。

遺物はほとんどが中位層出土で、土器類では、龍泉窯系青磁皿（土３）・中国染付皿（土４）・瀬戸美濃皿（土５・６）・同擂鉢（土７・８）・かわらけ（土９～16）・熔融物付着土器（土17～19）・ほうろく（土20～22）・在地擂鉢（土23・24）・同香炉ヵ（土25）、木製品では、漆合子蓋ヵ（木13）・漆椀（木14・15）・小型壺（木23）・矧矢（木24）・柄ヵ（木28）・部材（木29・30）・桶の側板片・炭化材、堀底より竹タガ２点が出土した。金属製品では、円盤状製品（金42）・銭貨（金55・56）、石製品では石臼（石２・３）・砥石（石40）・磨石（石72～74）・板碑（石138・148）、桃の種590（うち食痕６）点・胡桃１点・種子３点・スラグ19gが出土した。

５号堀　第１列・東端に位置し、東側は調査区外。平面形不明、規模は935㎝（残存）×263㎝（残存）深さ67㎝で、ほぼ直上に立ち上がる。平坦な底面が広がる。北半分はKB15区調査時に作成したものを合成した。砥石（石41）が出土した。

６号堀　第３列・西端に位置し、西側は調査区外。平面長方形、規模は300㎝（残存）×316㎝深さ134㎝で、断面は突幅が55㎝と狭い下突箱薬研形である。第２列より深くなる。南辺の確認面から下位に長楕円形土壙を１基設ける。底面はほぼ平坦。

備前ヵ蓋（土26）・漆椀（木16）が出土した。

７号堀　第３列・西に位置し、平面長方形、規模は1,040㎝×380㎝深さ138㎝で、断面は突幅が45㎝と狭い下突箱薬研形である。長さは調査区幅の１／２である。南辺の中央と西寄りに、確認面から堀底近くにかけて長楕円形土壙が１基ずつ、南の法面上位から下位に半円形ピットを７基設け、そのうち４基は小型で、縦に並び階段状を呈する。段高は、西の土壙は堀底面より確認面まで＋７㎝・＋30㎝・＋104㎝。ピットは底面より確認面まで＋23㎝・＋42㎝・＋32㎝・＋25㎝・＋18㎝。底面は東端がやや低い。最下層にロームブロック層堆積。

瀬戸美濃香炉（土27）・唐津大皿（土28）・かわらけ（土29）・在地片口鉢（土30）・砥石（石42）・桃の種８点・マツカサ１点が出土した。

８号堀　第３列・東に位置し、東端は調査区外。平面長方形、規模は980㎝（残存）×323㎝深さ136㎝で、断面は突幅が70㎝と狭い下突箱薬研形である。長さは調査区幅の１／２である。南辺の東西に、確認面から堀底近くまで、長楕円形土壙を各１基設ける。底面は東端がやや高い。最下層にロームブロック層堆積。

焙烙（土33）が上層で、他に肥前甕ヵ（土31）・志戸呂皿（土32）・瀬戸美濃菊皿（土75）・漆椀（木17）・銭貨＝寛永通宝（金57）が出土した。

９号堀　第４列に位置する。ab分割するが調査開始時同一遺構と想定し、後に分割したためであろう。

遺物は上層に多く、瀬戸美濃香炉（土36）が上層で、他に瀬戸美濃天目（土34）・同碗（土35）・熔融物付着土器（土37）・炭化材・角釘（金１・２）・刀子（金５）・棒状製品（金11）・煙管吸口（金31・32）・銭貨＝寛永通宝（金58）・板碑（石139）・桃の種７点・スラグ６ｇが出土した。

９ａ号堀　第４列・西端に位置し、西側は調査区外。平面長方形、規模は350㎝（残存）×235㎝深さ137㎝で、断面は突幅が60㎝と狭い中突箱薬研形である。南辺の西に、確認面から中位にかけて長楕円形土壙を設ける。底面はほぼ平坦。９ｂ号堀との間に深さ10～17㎝の掘り込みがある。

９ｂ号堀　第４列に位置し、東側は調査区外。平面長方形、規模は2,080㎝（残存）×235㎝深さ130㎝で、断面は突幅が60㎝と狭い中突箱薬研形である。長さは調査区の幅を超えるか。中央と東寄りに畝状遺構を掘り残す。高さは中央88㎝と高く、東寄りは24㎝と低い。畝状遺構により西・中央・東区と分ける。長楕円形土壙を、南辺の西区西・中央に１基ずつ、中央区中央に１基、東区に１基、確認面から下位にかけて設ける。西端は断面図Ｃ・Ｅラインでは段を有する。半円ピットは、南の法面上位から中位に４基、北法面下位に１基設ける。段高は、堀底面から確認面までを計る。西端の土壙は＋25㎝・＋74㎝・＋34㎝、東から２番目の土壙は＋20㎝・＋60㎝・＋42㎝、東端の土壙は＋30㎝・＋27㎝・＋79㎝である。南法面の東に並列するピット２基の東ピットは＋34㎝・＋64㎝、西ピットは＋54㎝・＋69㎝である。底面はほぼ平坦である。

断面図Ｃ・Ｄ・Ｅ・Ｇラインでは、土壙の下位に

ロームブロック層が堆積している。意図的な埋め立てあるいは掘り返しの際の遺存であろうか。

10号堀　第５列・西端に位置し、西側は調査区外。平面長方形か。規模は246㎝×59㎝（残存）深さ不明。

11号堀　第５列・西に位置し、平面丸みを帯びた長方形、規模は390㎝×250㎝深さ134㎝で、断面は屈曲が不明確だが、突幅が130㎝でＡラインにより中突箱薬研形である。南東谷下位に半円段を、西の堀底に弧状の段を設ける。底面はほぼ平坦。12号堀と幅50㎝深さ45㎝の溝で接続する。１号井戸より新しい。上層及び下層にロームブロック層が堆積する。桃の種２点・スラグ32gが出土する。

12号堀　第５列・西に位置し、平面丸みを帯びた長方形、規模は418㎝×283㎝深さ140㎝で、断面は突幅が120㎝の中突箱薬研形である。南東谷下位に半円形段を設ける。底面は東がやや立ち上がる。溝で11号堀と接続する。瀬戸美濃皿（土38）・石製円盤（石33）・桃の種１点が出土した。

13号堀　第５列・中央に位置し、平面長方形としたが、南西隅がやや張り出し、南辺は長方形段によるものかやや膨らむ。規模は375㎝×318㎝深さ143㎝で、断面は突幅130㎝の中突箱薬研形である。南法面の中位から下位に長方形段を、北東の下位に三角形段を、半円形ピットを南西谷の上位から下位に２基・南東谷に１基・北西谷に１基を設ける。段高は、南西谷のピットは堀底面より確認面まで＋57㎝・＋58㎝・＋28㎝である。底面はほぼ平坦。幅45㎝の溝で14号堀と接続する。

瀬戸美濃天目（土39）・同皿（土40）・かわらけ（土41）・スラグ42gが出土した。

14号堀　第５列・東に位置し、平面長方形としたが、北辺が９ｂ号堀長楕円形土壙の張り出しによるものかやや窪む。規模は420㎝×346㎝深さ140㎝で、断面は突幅80㎝とやや狭い下突箱薬研形である。南東谷・北東谷・北西谷の下位に長三角形堀込を各１基、南西谷の上位に半円形ピットを３基設ける。底面はほぼ平坦。13号堀と溝で接続する。かわらけ（土42）・炭化材・桃の種５点が出土した。

15号堀　第５列・東端に位置し、東端は調査区外。平面方形としたが、北辺が９ｂ号堀長楕円形土壙の張り出しによりやや窪み、南辺は半円形段によるものかやや膨らむ。規模は340㎝×326㎝深さ148㎝で、断面は突幅100㎝の下突箱薬研形である。南西谷の上位から底面に円形堀込を、北東谷・北西谷の中位から下位に長三角形堀込を各１基、北東隅直下に半円形段を、南東隅上位に半円形ピットを設ける。底面は北及び西がやや低い。中国小坏（土43）・在地擂鉢（土44）・炭化材・板状製品（金49）・火打石（石127）・桃の種２点が出土した。

16号堀　第６列・西端に位置し、西側は調査区外。平面は長方形か。規模は170㎝×52㎝（残存）深さ不明。南北幅が同列の他遺構と比べ小さく、施設等の張り出しか。

17号堀　第６列・西に位置し、平面長方形としたが、北辺東は１号井戸によるものかやや南に逃げる。規模は440㎝×320㎝深さ143㎝で、断面は屈曲が不明確で、突幅90㎝、Ａラインにより下突箱薬研形である。底面は平坦である。志戸呂皿（土45）・砥石（石43）・板碑（石140）が出土した。

18号堀　第６列・西に位置し、平面長方形としたが、四隅が突出するように東辺・北辺・西辺の中程が窪む。規模は350㎝×250㎝深さ122㎝と同列では小さい。断面は屈曲は不明確で、突幅100㎝でＡラインにより中突箱薬研形である。南東谷の上位に長楕円形段・下位に半円形段、南辺上位に半円形段、南西谷上位から下位に半円形段２基、北西谷の上位から下位に半円形ピット３基を設ける。段高は、堀底より確認面までで、南西谷の半楕円形段は＋58㎝・＋48㎝・＋14㎝、北西谷のピットは＋73㎝・＋16㎝・＋14㎝・＋18㎝である。底面は平坦である。

19号堀　第６列に位置する。ab分割するが調査開始時同一遺構と想定し、後に分割したためであろう。中国染付皿（土46）・磨石（石75・76）・桃の種１点が出土した。

19a号堀　第６列・中央に位置し、平面長方形、規模は458㎝×275㎝深さ140㎝で、断面は突幅100～55㎝の下突箱薬研形である。南辺と南東谷の確認面から中位に長楕円形土壙を各１基、北東谷の上位にピット・中位に段を設ける。小ピットが西側に５基散在する。段高は、北東谷のピットと段は＋84㎝・＋13㎝・＋32㎝、南西谷のピット４基は＋30㎝・＋18㎝・＋14.5㎝・＋21㎝・＋34㎝である。底面は西が低い。粉挽臼（石４）が出土した。

19b号堀　第６列・東に位置し、平面長方形としたが、南辺が２・30号土壙があるにもかかわらず楕円

形土壙により膨らむ。規模は403㎝×270㎝深さ154㎝で、断面は屈曲は不明確で、Aラインにより下突箱薬研形である。南辺の確認面から下位に楕円形土壙を、北東谷・北西谷に長三角形掘込を各1基設ける。底面は西がやや高い。かわらけ（土47）・炭化縄ヵ（木22）・桃の種1点が、調査時のメモでは多量の籾が出土した。

20号堀　第6列・東端に位置し、東端は調査区外。平面長方形としたが、南辺が4号井戸があるにもかかわらず、半円形掘込によるものか膨らむ。規模は360㎝（残存）×258㎝（残存）深さ128㎝で、断面は屈曲が不明確で、突幅80㎝の中突箱薬研形である。南法面の中位に半円形掘込・堀底に方形段を各1基、西法面長三角形掘込1基を設ける。段高は、南法面の方形段と半円形掘込は＋14㎝・＋25㎝・＋89㎝である。堀底はほぼ平坦。灰層が厚さ10㎝程堆積する。かわらけ（土48）・桃の種2点・胡桃1点・マツカサ2点が出土した。

21号堀　第7列・西端に位置し、西側は調査区外。平面方形か。規模は424㎝×118㎝（残存）深さ140㎝で、断面は箱薬研形と思われる。南東谷の確認面から下位に楕円形土壙を設ける。

22号堀　第7列・西に位置し、平面方形としたが北東隅が膨らむ。規模は340㎝×360㎝深さ134㎝で、断面は突幅110㎝の下突箱薬研形である。南東谷の確認面から下位に楕円形土壙を設ける。底面はやや凹凸がある。火打石（石128）・桃の種1点・胡桃1点が出土した。

23号堀　第7列・西に位置し、平面方形としたが、北辺と南辺が膨らむ。南辺は円形土壙によるものか。規模は356㎝×318㎝深さ132㎝で、底面共に南北にやや長い。断面は突幅150㎝の屈曲の不明確な中突箱薬研形である。南辺の確認面から堀底に円形土壙、西辺南の中位に長方形落込、北東谷上位に半円形ピットを設ける。12号井戸より新しい。下層にロームブロック層が僅かに堆積する。底面はやや凹凸がある。常滑甕（土49）・瀬戸美濃天目（土50）・銭貨（金59）・桶底板（木2）・磨石（石77）・板碑（石141）が出土した。

24号堀　第7列・中央に位置し、平面方形としたが、北東隅がやや張り出す。規模は342㎝×350㎝深さ120㎝で、断面は屈曲が不明確で、突幅50㎝の下突箱薬研形である。北東谷の下位と北西谷の上位に長三角形掘込各1基、南東谷の上位から下位に楕円形段を設ける。ロームブロック主体層が最下層に堆積する。L字状製品（金12）・桃の種1点が出土した。

25号堀　第7列・中央に位置し、平面長方形としたが、南東隅が膨らむ。南北方向に長い長方形は他に26号堀のみ。規模は350㎝×255㎝深さ132㎝で、断面は突幅110㎝の中突箱薬研形である。南西谷の確認面から下位に長楕円形土壙を設ける。最下層にロームブロック主体層が堆積する。底面は南がやや低い。かわらけ（土51）・熔融物付着土器（土52）・磨石（石78）・桃の種1点が出土した。

26号堀　第7列・東に位置し、平面長方形としたが、北辺は2・30号土壙により窪み、東辺も中央が窪む。南辺は半円形土壙のためか膨らむ。南北方向に長い長方形は他に25号堀のみ。規模は296㎝×250㎝深さ128㎝で、断面は突幅110㎝の中突箱薬研形である。南辺の確認面から下位に半円形土壙、北西谷の確認面から下位に長三角形掘込、北東の下位に三角形の段を設ける。段高は南辺の半円形土壙内で＋31㎝・＋14㎝・＋83.7㎝である。底面はほぼ平坦。焙烙（土53）・加工材（木32）・桃の種1点が出土した。

27号堀　第7列・東端に位置し、東端は調査区外。平面不整方形で、4号井戸により北辺が大きく窪む。規模は385㎝×375㎝（残存）深さ130㎝で、断面は東西ラインから下突箱薬研形である。北西隅の上位に半円形段、南辺東の法面に半円形段2基を設ける。段高は底面より確認面まで＋30㎝・＋46㎝・＋49㎝。底面は平面三日月状を呈し、東端が＋15㎝、西端が＋8㎝である。瀬戸美濃志野皿（土54）・銭貨＝寛永通宝（金60）・桃の種3点が出土した。

28号堀　第8列・西端に位置し、西は調査区外。平面長方形で、北辺は21号堀の楕円形土壙により窪む。規模は206㎝（残存）×228㎝深さ90㎝で、断面は突幅50㎝と狭く、突部は85㎝と深い溝状の中突箱薬研形である。幅60㎝深さ54㎝の溝で29号堀と接続する。底面東が低い。中国染付皿（土55）・炭化材が出土した。

29号堀　第8列・西に位置し、平面長方形で、規模は268㎝×220㎝深さ143㎝で、断面は突幅75㎝、突部は深さ65㎝の中突箱薬研形である。南辺法面上位に半円形ピット、東辺下位に半円形ピット・円形ピットを設ける。東辺の段高は底面より確認面まで＋34㎝・＋28.5㎝・＋71㎝、南辺の段高は＋93.5㎝・

＋40㎝である。幅60㎝・深さ54㎝の溝で28号堀と接続する。底面はわずかに西が低い。かわらけ（土56）・焙烙（土53）・加工材（木31）・握り鋏（金６）・砥石（石44）が出土した。

30号堀　第８列・西に位置し、平面長方形としたが、北辺西が23号堀の土壙により南に逃げる。規模は306㎝×184㎝深さ130㎝で、断面は突幅60㎝と狭く、突部は60㎝と深い溝状の中突箱薬研形である。幅84㎝・深さ61㎝の溝で31号堀と接続する。南辺の下位に半円形ピットを設ける。底面はほぼ平坦。かわらけ（土57・58）が出土した。

31号堀　第８列・中央に位置し、平面長方形、規模は352㎝×237㎝深さ134㎝で、断面は突幅70㎝と狭く、突部70㎝と深い、溝状の中突箱薬研形である。南東谷の確認面から下位に楕円形の段２基、南辺の下位に半円形ピット２基を設ける。南東谷の段高は底面より確認面まで＋38.5㎝・＋37㎝・＋58.1㎝、南辺は＋78.2㎝・＋51.6㎝である。底面は東がやや低い。

瀬戸美濃擂鉢（土59）・漆器片・板碑（石142）・桃の種２点が出土した。

32号堀　第８列・中央に位置し、平面長方形、規模は310㎝×237㎝深さ126㎝で、断面は突幅80㎝の中突箱薬研形である。南辺の上位から下位に長楕円形の堀込、北辺から東辺の下位に堀込、北西谷の下位に半円形ピットを設ける。幅50㎝・深さ51㎝の溝で33号堀と接続する。中位にロームブロック層堆積（野帳）。底面はほぼ平坦。炭化材・粉挽臼（石５）・火打石（石129）が出土した。

33号堀　第８列・東に位置し、平面長方形だが、北辺が26号堀の土壙により窪む。規模は268㎝×220㎝深さ132㎝で、断面は突幅65㎝の中突箱薬研形である。北辺中位に半円形ピットを設ける。北辺の段高は底面より確認面まで＋99㎝・＋35㎝である。幅50㎝・深さ51㎝の溝で32号堀と接続する。中位にロームブロック層堆積（野帳）。底面は東がやや低い。桶側板（木３）・桃の種３点が出土した。

34号堀　第８列・東端に位置する。東は調査区外。平面長方形で南辺東が南に膨らむ。規模は326㎝（残存）×250㎝深さ100㎝で、断面は突幅70㎝の中突箱薬研形である。底面幅は東が狭くなる。南辺の上位に円形土壙を設ける。中位及び下位にロームブロック層が薄く堆積する。底面はほぼ平坦。かわらけ（土60）・銭貨＝寛永通宝（金61）・桃の種３点・種子２点が出土した。

35号堀　第９列・西端に位置する。西側は調査区外。平面長方形か。規模は186㎝×42㎝（残存）深さ不明。断面形不明。

36号堀　第９列・西に位置する。平面長方形で、南辺は５号井戸により窪む。規模は486㎝×180㎝深さ119㎝で、断面は突幅80㎝の中突箱薬研形である。南東谷の中位に半円形ピット２基を設ける。段高は、堀底より＋72㎝・＋６㎝・＋34㎝である。下層にロームブロック・ローム粒子の堆積。底面はほぼ平坦。志戸呂香炉ヵ（土61）・かわらけ（土62）・板碑（石159）・桃の種２点が出土した。

37号堀　第９列・西に位置し、平面長方形としたが、周囲に落込等は見られないのに、南辺及び北辺は凹凸がある。規模は346㎝×200㎝深さ122㎝で、断面は屈曲が不明確で、突幅80㎝で中突箱薬研形である。北西谷に長楕円形掘込を設ける。下層にロームブロック・ローム粒子の堆積。底面はほぼ平坦。火打石（石130）・板碑（石143）・桃の種４点が出土した。

38号堀　第９列・中央に位置し、平面長方形、規模は390㎝×160㎝深さ100㎝で、断面は突幅70㎝の中突箱薬研形である。北東谷の上位に半円形ピットを設ける。下層にロームブロック・ローム粒子の堆積。底面はやや凹凸がある。焙烙（土63）・火打石（石131）・桃の種15点が出土した。

39号堀　第９列・東に位置し、平面長方形としたが、周囲に落込等は見られないのに、北辺が２か所窪む。規模は613㎝×150㎝深さ106㎝で、断面は突幅35㎝と狭い中突箱薬研形である。底面にピット状遺構（杭？）が認められる。北西谷にピットが所在する。最下層にロームブロック層が堆積する。底面は凹凸が顕著である。瀬戸美濃鼠志野鉢（土64）・中国染付皿（土65）・かわらけ（土66）・桃の種16点・胡桃１点・種子１点が出土した。

40号堀　第９列・東端に位置し、東は調査区外。平面長方形としたが、北辺東は34号堀の張り出しによるものかやや窪む。規模は268㎝（残存）×186㎝深さ114㎝で、断面は東西で異なるが突幅50㎝の下突箱薬研形である。北西谷に半円形ピットを２基設ける。段高は堀底より確認面まで＋32㎝・＋33㎝・＋45.3㎝である。下層にロームブロック・ローム粒子層が堆積する。底面はほぼ平坦。

41号堀　第10列・西端に位置し、西は調査区外。平面長方形、規模は118㎝（残存）×143㎝深さ87㎝で、断面は箱薬研形と思われる。

42号堀　第10列・西に位置する。ab分割するが調査開始時同一遺構と想定し、後に分割したためであろう。かわらけ（土67）が出土した。

42a号堀　第10列・西に位置し、平面長方形、規模は320㎝×135㎝深さ113㎝で、断面は突幅80㎝の中突箱薬研形である。南東谷にピット、北東谷の中位から下位に半円形段を設ける。段高は、堀底から確認面まで＋22㎝・＋39㎝・＋45㎝である。42b号堀とは深さ10㎝の落込で接続する。５号井戸と重複する。新旧関係不明。堀底はやや凹凸がある。かわらけ（土68）・熔融物付着土器（土69）・桃の種３点・種子２点が出土した。

42b号堀　第10列・西に位置し、平面長方形、規模は474㎝×143㎝深さ129㎝で、断面は屈折点が不明瞭であるが突幅60㎝で、中突箱薬研形である。42a号堀とは深さ10㎝の落込で接続する。ロームブロック層が中位（多量）と下位に堆積する。底面は平坦。茶臼（石６）・硯（石28）・桃の種17点が出土した。

43号堀　第10列・中央に位置し、平面長方形、規模は396㎝×130㎝深さ102㎝で、断面は突幅50㎝の中突箱薬研形である。最下層にロームブロック層が堆積する。底面やや凹凸がある。瀬戸美濃天目（土70）・石製円盤（石34）・桃の種22点・スラグ198gが出土した。

44号堀　第10列・東に位置し、平面長方形、規模は650㎝×170㎝深さ125㎝で、断面は突幅40㎝の中突箱薬研形である。南東谷・北東谷に長三角形掘込を各１基、南辺西の確認面から下位に半円形段を、北西谷の下位に半円形ピットを設ける。底面は西が低くやや凹凸がある。中国青磁碗（土71）・在地擂鉢（土72）・漆椀（木18）・桃の種５点が出土した。

45号堀　第10列・東端に位置し、東は調査区外。平面長方形、規模は297㎝（残存）×154㎝深さ88㎝で、断面は箱薬研形である。底面は平坦。瀬戸美濃香炉（土73）・焙烙（土74）・杓子ヵ（木25）・板材が出土した。

46号堀　第11列・西端に位置する。西は調査区外。平面は方形か。規模は376㎝×186㎝（残存）深さ95㎝で、断面は不明瞭だが下突箱薬研形と思われる。堀底の南がさらに63㎝低い。１・10号溝と重複する。新旧関係不明。底面はほぼ平坦。瀬戸美濃菊皿（土75）が出土した。

47号堀　第11列・西に位置し、平面方形としたが、西辺は凹凸である。規模は315㎝×338㎝深さ77㎝で、断面は屈折点が不明瞭だが下突箱薬研形である。南辺の確認面から下位に半円形土壙、南西谷に長楕円形掘込を設ける。48号堀との間に上幅20㎝・高さ26㎝の北へ下がる階段状の高まりがある。図化されていないが52号堀との間は傾斜し、北から南へ16㎝下がる。下層にロームブロック層が堆積する。底面やや凹凸有り。瀬戸美濃擂鉢（土77）・かわらけ（土81）・焙烙（土83）・在地片口鉢（土84・85）・鉤状製品（金13）が確認面より上位で、他に龍泉窯系青磁碗（土76）・瀬戸美濃擂鉢（土78）・同徳利（土79）・かわらけ（土80）・熔融物付着土器（土82）・鞴の羽口（土236）・加工材（木33）・板材（木36）・竹・鋲（金４）・茶臼（石７）・磨石（石79～82）・火打石（石132）・桃の種95点（食痕１点）が出土した。

48号堀　第11列・中央に位置し、11列の中では北辺がやや北に上がる。平面方形、規模は375㎝×346㎝深さ122㎝で、断面はやや不明瞭であるが中位で少し屈曲する箱薬研形である。南西谷・北東谷・北西谷に長三角形掘込を設ける。47号堀との間に上幅20㎝・高さ26㎝の北へ下がる階段状の高まりが、49号堀との間に上幅100㎝・高さ22㎝の北へ傾斜する高まりがある。底面はほぼ平坦。瀬戸美濃天目（土88・89）・同丸皿（土90）・かわらけ（土91）・焙烙（土94）・目貫（金43）が確認面上位で、他に中国ヵ染付皿（土86）・瀬戸美濃平碗（土87）・かわらけ（土92）・焙烙（土95）・粉挽臼（石８）・桃の種259点（うち食痕３点）・種子１点・スラグ35gが出土した。

49号堀　第11列・東に位置し、平面長方形としたが、北東隅・北西隅がやや膨らみ、北辺が44号堀の段によるものかやや窪む。規模は404㎝×312㎝深さ120㎝で、断面は凹凸がありラインが不安定であるが、屈曲点がＡラインでは最下位・BCラインでは中下位にある下突箱薬研形である。北東谷・北西谷に長三角形掘込、南西谷の下位に半円形段を設ける。48号堀との間に上幅100㎝・高さ26㎝の北へ傾斜する高まりが、50号堀との間に最上部10×30㎝・高さ26㎝の北へ下がる階段状の高まりがある。底面はほぼ平坦。瀬戸美濃擂鉢（土98）・熔融物付着土器（土101）が確認面上位で、瀬戸美濃瓶子ヵ（土99）・か

わらけ（土100）・熔融物付着土器（土102・103）が上層で、他に中国青磁稜花皿ヵ（土96）・瀬戸美濃皿（土97）・熔融物付着土器（土18・104～112）・杭（口絵８）・漆膜ヵ・塊状品（金51）・粉挽臼（石９・10）・砥石（石45～47）・磨石（石83・84）・板碑（石144）・桃の種23点・カラタチヵ・スラグ８gが出土した。

50号堀　第11列・東に位置し、平面方形、規模は357cm×310cm深さ124cmで、断面は不明瞭であるが突幅125cmの下突箱薬研形である。南西谷に半円形ピットを設ける。49号堀との間に最上部10×30cm・高さ26cmの北へ下がる階段状の高まりが、51号堀との間に上幅50cm・高さ18cmの高まりがある。底面東が低くやや凹凸がある。志戸呂丸皿（土115）・かわらけ（土116）が上層で、他に中国白磁端反皿（土113）・瀬戸美濃徳利（土114）・塊状品（金52）・銭貨（金62）・砥石（石48）・磨石（石85）・桃の種６点が出土した。

51号堀　第11列・東端に位置し、東は調査区外。11列の中では北辺がやや南へ下がる。平面は長方形と思われ、規模は276cm×76cm（残存）深さ不明で、断面は箱薬研形と思われる。50号堀との間に上幅50cm・高さ18cmの高まりがある。かわらけ（土117）・石製円盤（石35）・桃の種１点が出土した。

52号堀　第11列・西に位置し、平面長方形としたが、北辺はやや乱れ、南辺は１号溝により掘削される。規模は464cm×320cm深さ138cmで、断面は突幅90cmの中突箱薬研形である。北東谷に長楕円形掘込、東辺下位に三日月形段、南東谷中位に半円形段を設ける。段高は堀底面より確認面まで三日月形段は＋47cm・＋84cm、半円形段は＋71cm・＋76cmである。図化されていないが47号堀との間は傾斜し、北から南へ16cm下がる。底面はほぼ平坦。瀬戸美濃皿（土118・119）・かわらけ（土120・121）・焙烙（土122）・ヒシの実が出土した。

外堀　１～52号堀が所在する南北43mの１m低い区域は城郭部と武家屋敷の境に位置し東西方向に走行することから、各堀命名以前（各堀の上位）は、外堀として調査し遺物の取り上げを行ったと思われる。瀬戸美濃天目（土123）・同小碗（土124）・同灯明皿（土125）・熔融物付着土器（土126～129）・土鍋（土130）・火鉢（土131）・櫛（木１）・桶蓋板ヵ（木４）・漆椀（木19）・栓ヵ（木26）・柄ヵ（木27）・竹加工品（木35）・角材（木38）・炭化材・小刀（金７）・煙管雁首（金19）・端金物（金48）・銭貨（金63～66）・粉挽臼（石11・12）・硯（石29）・石製円盤（石36）・砥石（石49～51）・磨石（石86～93）・火打石（石133・134）・板碑（石145）・桃の種290点（うち食痕10点）・胡桃11点・スラグ185gが出土した。

【溝状遺構】

溝はａ・ｂ分割、欠番により総数11条で、すべて調査区南に位置する。北端と南端に東西に走行する溝と、西端に南北に走行する溝が確認された。

１号溝　調査区南の北端に位置する。東西方向に走行し、やや蛇行し西端で北に曲がり46号堀と重複する。断面は箱薬研形で、幅180cm（残存）深さ70cmを計る。調査時のメモでは46号堀・10号溝より新しいとする。土層観察により断面薬研堀の掘り返しが確認でき、１号溝と最南列の47～52号堀及び南の２号溝とは新旧関係は不明で（第33図）、外堀埋土（第33図４・16・17層）が新しい。

在地擂鉢（土137・138）は下層で、他に瀬戸美濃天目（土88）・同皿（土132・133）・同擂鉢（土98）・志戸呂丸皿（土115）・かわらけ（土134～136）・焙烙（土83）・在地片口鉢（土84・85）・塊状品（金53・54）・銭貨（金67）・石臼（石13～15・17）・砥石（石52～56）・磨石（石94・95）・板碑（石146・147）・五輪塔（石169）・スラグ302gが出土した。

２号溝　調査区南の北に位置し、東西方向に走行し、3.7m空けて３号溝と断続する。断面は箱薬研形で、幅95cm深さ64cmを計りしっかりした掘込みである。底面及び土層観察により掘り返しが確認できる。在地擂鉢（土138）・焙烙（土139）は上層出土で流れ込み。砥石（石57・58）・スラグ18gが出土した。

３号溝　調査区南の北に位置し、東西方向に走行し、3.7m空けて２号溝と断続する。断面は箱薬研形で、幅80cm（残存）深さ60cmを計りしっかりした掘込みである。調査時のメモでは６号井戸と４号溝より新しい。

４号溝　調査区南の北に位置し、東西方向に走行する。断面は箱薬研形で、幅54cm（残存）深さ35cmを計り浅い。調査時のメモでは３号溝より古い。６号溝と平行するか。

５号溝　調査区南の南に位置し、東西方向に走行し、2.5m空けて７号溝と断続する。断面は箱薬研形で、

幅196㎝深さ96㎝を計りしっかりした掘込みである。北の中位にテラスがある。上層にロームブロック層が堆積する。14・18・34号土壙より新しい。瀬戸美濃平碗（土141）が上層で、中国染付碗（土140）が中層で、他にかわらけ（土142）・焙烙（土143）・鞴の羽口（土237）・銭貨（金68）・粉挽臼（石18）・砥石（石59）・磨石（石96・97）・スラグ44gが出土した。巻貝が上層で出土。

6号溝　調査区南の南東に位置し、東西方向に走行し、断面は箱薬研形で、幅96㎝（残存）深さ37㎝を計り浅い。7号溝より新しい。4号溝と平行するか。かわらけ（土144）・焙烙（土145）は中層で出土、砥石（石60）・板碑（石149）・スラグ34gが出土した。

7号溝　調査区南の南東に位置し、東西方向に走行する。2.5m空けて5号溝と断続する。断面は箱薬研形で、幅134㎝（残存）深さ90㎝を計りしっかりした掘込み。上層にロームブロック層が見られるが、6・7号溝を掘り返す溝のもの。6号溝より古い。かわらけ(土146・147)は下層で、在地擂鉢(土148)は中層で、他に焙烙（土145)・板碑（石150）が出土した。土ー145・146は共伴する。

9号溝　調査区南の北西に位置し、東西方向に走行する。断面は箱薬研形で、幅53㎝深さ22㎝を計り浅い。かわらけ（土149）が出土した。

10号溝　調査区南の西端に位置し、南北方向に走行する。セクションL・Mラインを観察すると、西寄りに掘り返しがあり、ab分割することとする。21・24号土壙より新しい。調査時のメモでは、1号溝より古く5号溝より新しい。確認面上位で瀬戸美濃皿（土151・152)が、同向付(土155)・同鼠志野鉢(土156)・志戸呂擂鉢（土157)・かわらけ（土159～163)・熔融物付着土器（土164)・炭化材・銭貨（金69)・粉挽臼（石19・20)・硯（石30)・砥石（石61～63)・磨石（石98)・板碑（石151～155)・巻貝が12点・スラグ350gが出土した。かわらけのうち162は漆様のもの、164は金粒子が付着している。

10a号溝　断面は箱薬研形で、幅125㎝深さ40㎝を計る。10b号溝より新しい。KB10区33号溝と断続するか。瀬戸美濃天目(土150)・同皿(土153・154)・かわらけ（土158）が中層で出土した。巻貝12点出土は図面上で出土位置の復元を試みると、5号溝との重複地点から北寄り2.5mの範囲に10点が集中し、確認面より上位のレベルで出土している。

10b号溝　断面は箱薬研形で、幅55㎝（残存）深さ46㎝を計る。10a号溝より古い。KB10区27号溝と断続するか。

11号溝　調査区南の北西に位置する。調査時は20号土壙。幅80㎝深さ66㎝を計る。

【井戸状遺構】

総数14基で、8基は調査区南に、6基は調査区北（障子堀内）に位置する。調査区北は、確認面から1m掘り下げられており、浅い井戸が消失したり、土壙や障子堀の施設としたものが井戸であった可能性がある。13・14号井戸は上部を欠失し非常に浅い。いずれも素堀で、1・4・5号井戸はK－値※が深さ2mを超え深く、また、障子堀の平面形をゆがめていることから障子堀に伴うか古いものと思われる。2・8・9号井戸の壁面の凹みは、井戸替えのための足掛けの可能性がある。

※（K－○㎝）は調査区南の確認面からの深さ。

1号井戸　調査区北の中程西に位置し、11号堀の南東隅に接する。断面は中位下部でやや膨らむ。直径92㎝深さ120㎝（K－230㎝）を計り、K－値では非常に深い。11号堀より古い。上層で茶臼（石21）が、他に桶板（木5～8)・折敷縁ヵ（木20)・丸棒加工品（木34)・桃の種1点（食痕あり）が出土した。

2号井戸　調査区北の中程西に位置し、17号堀南東隅及び3号井戸に隣接する。直径84㎝深さ106㎝（K－226㎝）を計りK－値では非常に深い。図化されていないが（写真により）壁面に3か所凹みを設ける。3号井戸より古い。板碑（石156・157）が出土した。

3号井戸　調査区北の中程西に位置し、17号堀南東隅及び2号井戸に隣接する。2号井戸より新しい。直径74㎝深さ74㎝（K－186㎝）を計る。折敷底板（木21)・桃の種5点（うち食痕1点）が出土した。

4号井戸　調査区北の中程東に位置し、27号堀の北辺を大きく窪ませる。直径105㎝深さ95㎝（K－203㎝）を計る。底面レベルは27号堀より29㎝浅い。東壁中位に段を有する。かわらけ（土165)・磨石（石99）が出土した。

5号井戸　調査区北の南西に位置し、42a号堀北東隅に接し、36号堀の南辺を窪ませる。直径93㎝深さ127㎝（K－237㎝）を計り、K－値は深い。桶板（木

9・10)・銭貨＝寛永通宝（金70)・板碑（石158）が出土した。

6号井戸　調査区南の北東に位置し、調査時のメモでは3号溝より古い。直径82㎝深さ166㎝を計る。唐津皿（土166)・熔融物付着土器（土167)・鉄鏃ヵ（金10)・銭貨（金71）が出土した。

7号井戸　調査区南の北東に位置し、5号土壙より新しい。直径100㎝深さ92㎝を計る。かわらけ（土168)・熔融物付着土器（土169)・碁石（石24・25）が出土した。

8号井戸　調査区南の中程西寄りに位置し、16号土壙より新しい。西に張り出すが落込の重複か。楕円形で116㎝×90㎝深さ124㎝を計る。壁面に凹みを有する。スラグ6ｇが出土した。

9号井戸　調査区南の中程中央に位置する。径90㎝深さ110㎝を計る。壁面に凹みを有する（図版7参照)。

10号井戸　調査区南の北中央に位置し、調査時のメモでは9号土壙より新しい。底面形は小さい。直径110㎝深さ117㎝を計る。

11号井戸　調査区南の北中央に位置する。不整円形で102㎝×90㎝深さ110㎝を計る。小柄（金8）が出土した。

12号井戸　調査区北の中程西に位置し、調査時のメモでは23号堀より古い。直径90㎝深さ125㎝（K－237㎝）を計り、K－値では深い。桶底板（木11)・銭貨（金72）が出土した。

13号井戸　調査区南の北西に位置し、調査時のメモでは10溝より古い。直径80㎝深さ65㎝（K－186㎝）を計る。上部を10号溝に削平され浅い。

14号井戸　調査区南の北中央に位置し、1号溝の南法面で検出され上部を欠失する。直径60㎝深さ66㎝（K－140㎝）を計る。

【土壙】

土壙は、34まで振ったが、欠番により総数33基で、北調査区に1・2・30号土壙、他は調査区南に分布する。調査区南のほぼ全体に分布するが、中央部攪乱周辺に空間がある。平面形は長方形・円形・方形を呈し、深さはほとんどが浅く、30㎝を超えるものは、1・2・5・7・9・10・23・27・34号土壙である。特に7号土壙は162㎝と深い。

1号土壙　調査区北の北西に位置し、4号堀の北に接する。4号堀の施設の可能性もある。覆土は黒褐色土で、ロームブロックを大量に含む。平面長方形で180㎝（残 存）×130㎝深 さ40㎝（K－146㎝）を計る。焙烙（土170）が上層で、桃の種1点出土した。

2号土壙　調査区北の中央東に位置し、26号堀の北辺を窪ませる。30号土壙と重複する。平面円形で直径80㎝深さ46㎝（K－151㎝）で、掘込みはしっかりしている。

4号土壙　調査区南の北寄り東に位置し、平面円形で直径110㎝深さ16㎝を計る。

5号土壙　調査区南の北寄り東に位置し、平面長方形で258㎝×86㎝深さ32㎝を計る。7号井戸が新しい。

6号土壙　調査区南の中程東に位置し、平面長方形で192㎝×74㎝深さ26㎝を計る。

7号土壙　調査区南の中程東に位置し、平面長方形で275㎝×140㎝深さ162㎝を計り非常に深い。壁面・底面は粗い掘り。8号土壙より新しい。上・下層にロームブロックを大量に含み、最下層は粘土層である。砥石（石64）が出土した。

8号土壙　調査区南の中程東に位置し、平面円形で直径150㎝深さ19㎝を計る。7号土壙より古い。スラグ10gが出土した。

9号土壙　調査区南の北中央に位置し、平面方形ヵで186㎝（残存）×134㎝（残存）深さ50㎝を計る。上層にローム粒子を大量に含む。調査時のメモでは10号井戸より古い。

10号土壙　調査区南の南東に位置し、平面円形で直径85㎝深さ34㎝を計りしっかりした掘込みである。未掲載の断面図では、5号溝より新しく、覆土にロームブロック・ローム粒子を大量に含む。かわらけ（土171）が出土した。

11号土壙　調査区南の南東部に位置し、平面円形で直径160㎝深さ28㎝を計る。調査時のメモでは12号土壙より新しい。

12号土壙　調査区南の南東部に位置し、調査時のメモでは11号土壙より古い。平面長方形で196㎝×96㎝深さ24㎝を計る。銭貨（金73)・碁石（石26）が出土した。

18号土壙　調査区南の南西部に位置し、平面長方形で497㎝（残存）×98㎝深さ24㎝を計る。未掲載の断面図によると5号溝より古く、下層にロームブロ

ックを多量に含む。

19号土壙　調査区南の中程西に位置し、平面円形で直径168㎝深さ12㎝を計る。24号土壙より古い。

21号土壙　調査区南の南西端に位置し、平面長方形で280㎝（残存）×82㎝（残存）深さ26㎝を計る。覆土にロームブロックを大量に含む。10号溝より古い。

22号土壙　調査区南の中程南に位置し、平面円形ヵで180㎝×122㎝（残存）深さ20㎝を計る。

23号土壙　調査区南の南端に位置し、平面長方形で424㎝×82㎝深さ48㎝を計り、長方形の土壙としてはやや深い。断面は短辺がオーバーハングする。

24号土壙　調査区南の南西に位置し、平面長方形で230㎝（残存）×96㎝深さ26㎝を計る。覆土にロームブロックを大量に含む。10号溝より古く、19号土壙より新しい。

26号土壙　調査区南の南東に位置し、平面円形ヵで118㎝×76㎝（残存）深さ10㎝を計る。

27号土壙　調査区南の南西寄りに位置し、平面方形ヵで94㎝×63㎝（残存）深さ50㎝を計りしっかりした掘込み。

28号土壙　調査区南の北西寄りに位置し、平面円形で直径90㎝深さ16㎝を計る。調査時のメモでは覆土にローム粒子を多量に含む。

30号土壙　調査区北の中央東に位置し、平面楕円形ヵで52㎝×50㎝（残存）深さ18㎝（K－130㎝）を計る。桃の種１点・種子１点出土。

32号土壙　調査区南の南西隅に位置し、平面長方形で202㎝×90㎝深さ28㎝を計る。

【遺構外出土遺物】

陶磁器では、龍泉窯系中国青磁碗（土173～175）・同稜花皿ヵ（土176・177）・中国口禿碗（土178）・同白磁端反皿（土179）・同染付碗（土181・182）・同染付皿（土183～186）・中国ヵ染付碗（土180）・同染付香炉（土187）・同甕（土188）・渥美甕（土189）・瀬戸美濃天目（土190・191）・同皿（土192～198）・同志野小坏（土199）・同黄瀬戸鉢（土200）・同擂鉢（土201～203）・志戸呂灯明皿（土204・205）・同擂鉢（土206）・同徳利（土207）が出土した。

在地土器では、かわらけ（土208～222）・熔融物付着土器（土223～228）・ほうろく（土229・230）・擂鉢（土231）・香炉（土232・233）・土壁片（土234・235）・炉床ヵ（土238）が出土した。

木製品では、桶側板（木12）・炭化材が出土した。

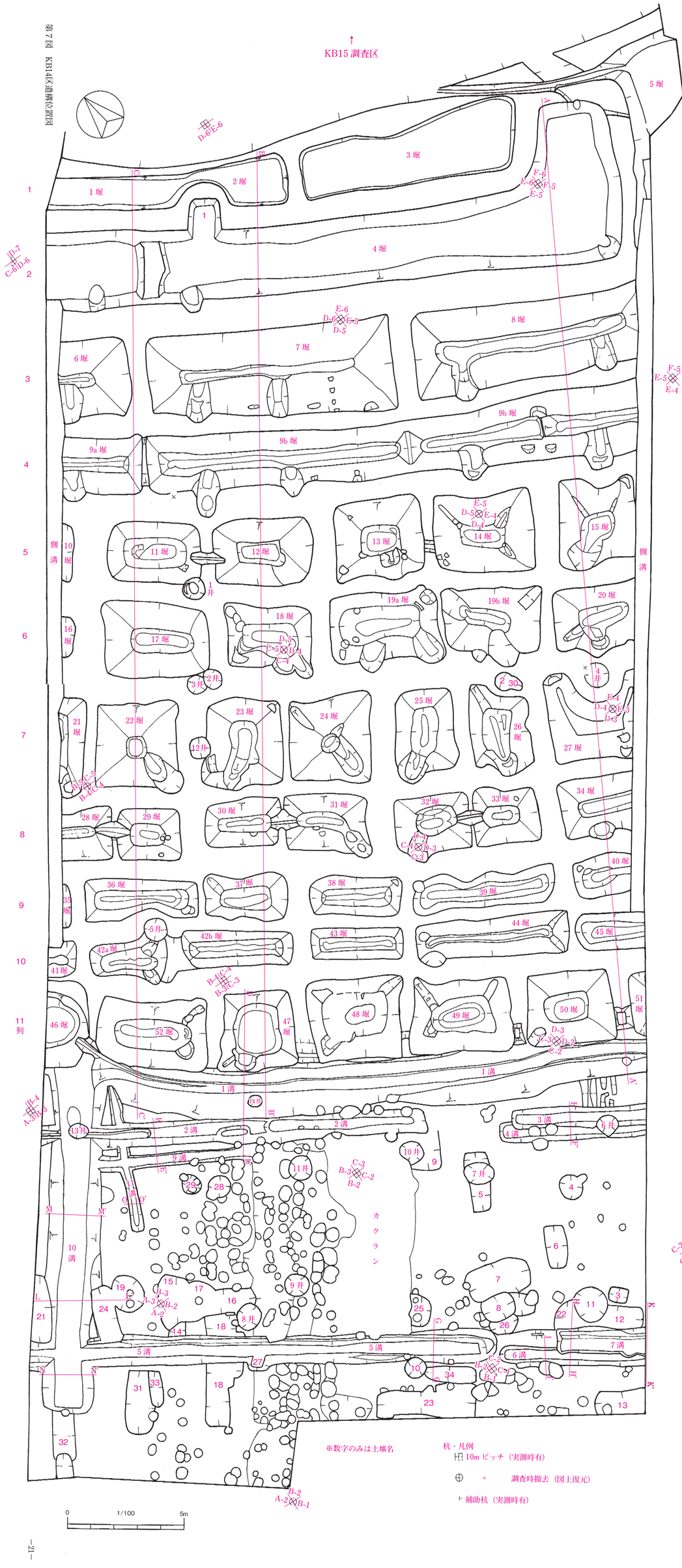
金属製品では、犬釘状製品（金３）・鉄鏃（金９）・簪（金14）・縁金具（金16）・把手（金17）・煙管雁首（金18・20～30）・煙管吸口（金33～40）・茱萸様金物（金41）・目貫（金44）・鎺（金45）・脇鞐（金46）・指輪状製品（金47）・板状製品（金50）・銭貨（金74～93）が出土した。

石製品では、搗臼（石60）・粉挽臼（石22・23）・碁石（石27）・硯（石31・32）・石製円盤（石37～39）・砥石（石66～71）・磨石（石100～126）・火打石（石135～137）・板碑（石160～168）が出土した。

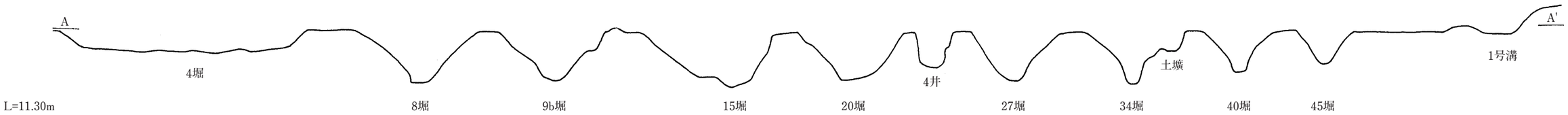
ほかに、桃の種132点（うち食痕５点）・胡桃５点・梅の種２点・椿の種ヵ１点が出土した。スラグ1,455ｇが出土した。

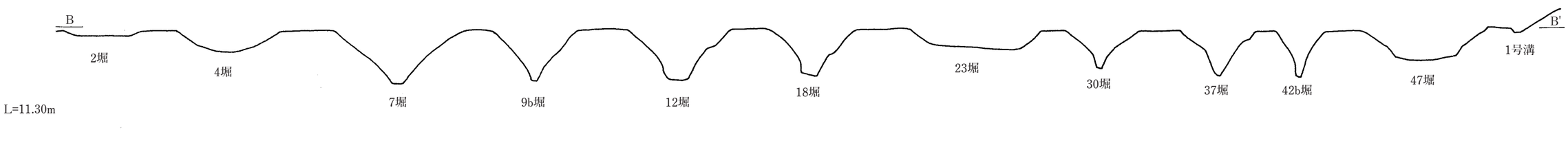
調査区南　調査風景

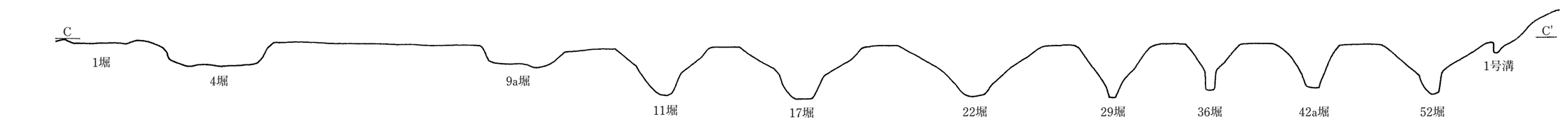
第7図　KB14区遺構位置図

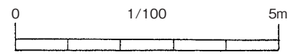


※ポイントは第7図





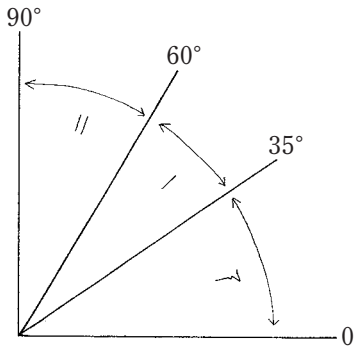


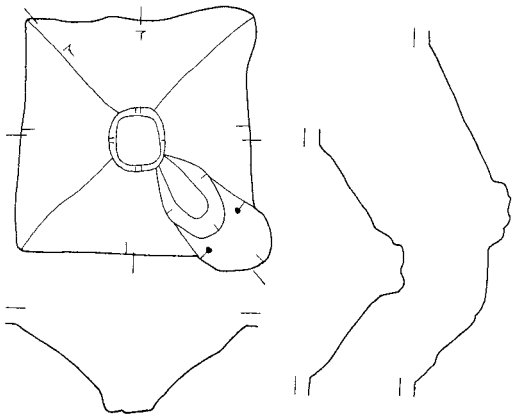


第８図　遺構１　障子堀エレベーション図

堀　凡例

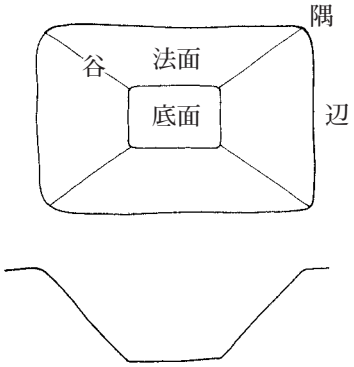
【傾斜記号】



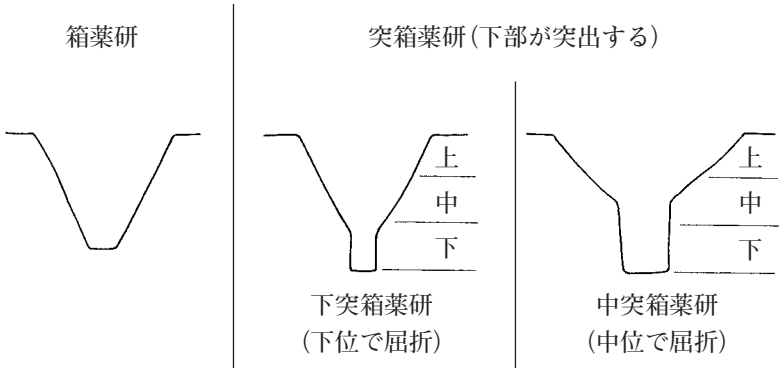


記号について
エレベーションにかかるものは、整理時見直した。
かからないものは、検証不可能なため、調査時の記号に・を付けた。

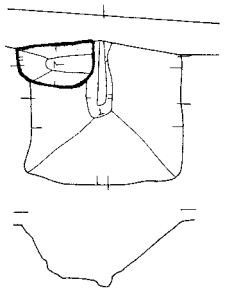
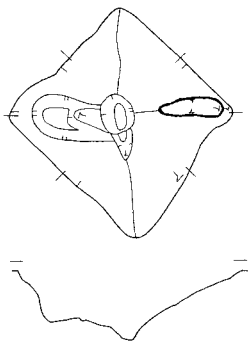
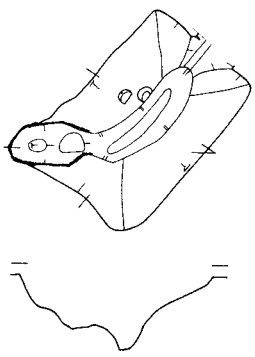
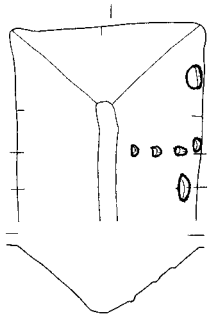
【名称】

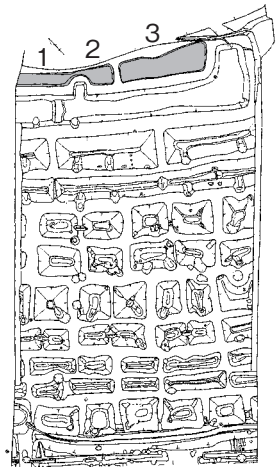


【断面形】

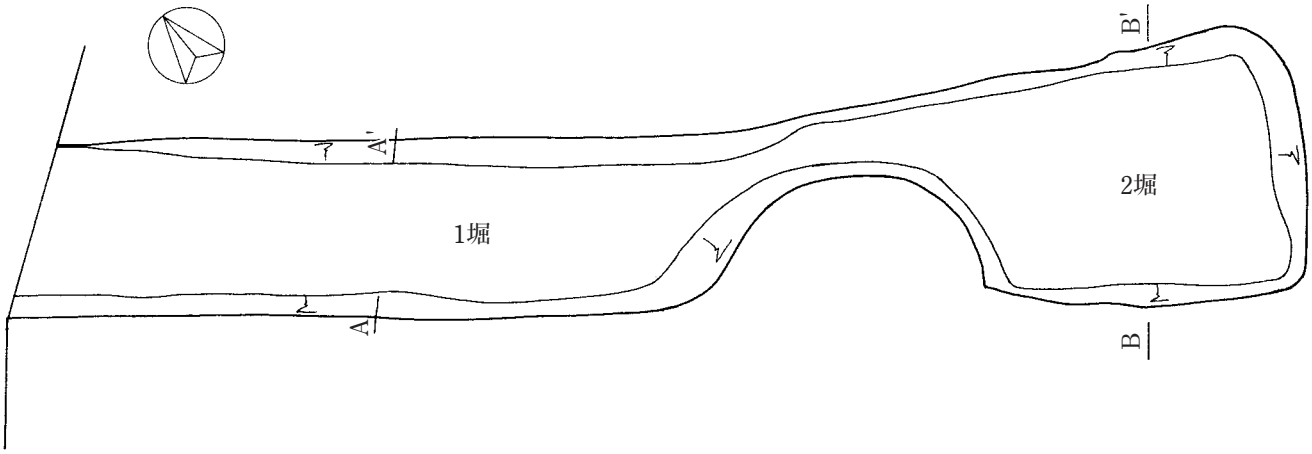


【施設】

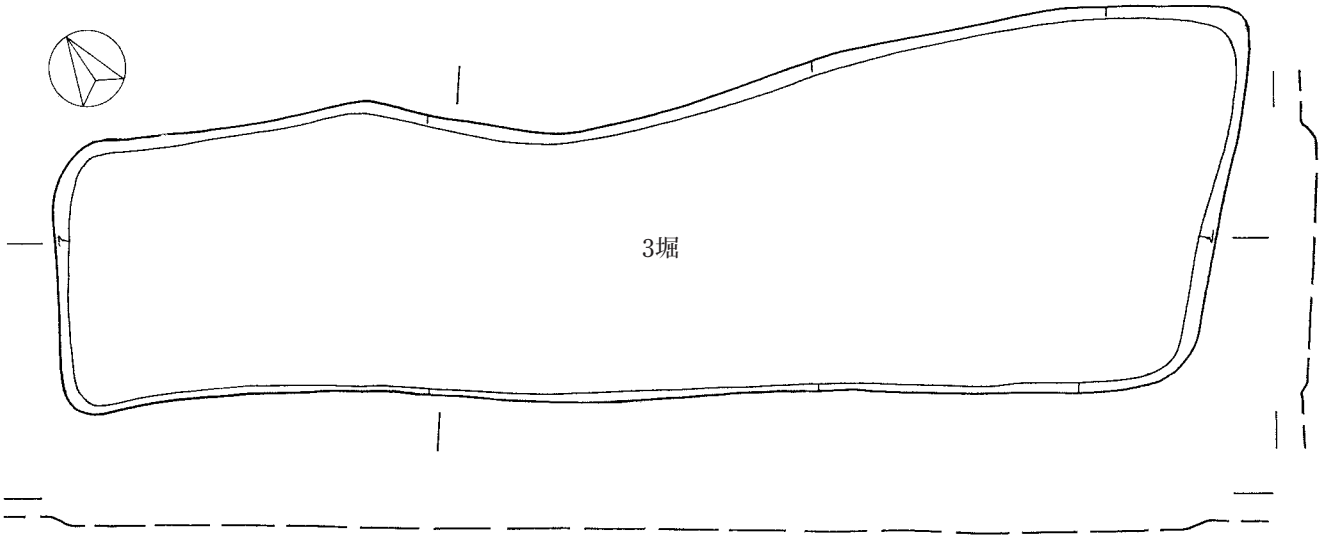
名称		土　壙	掘　込	段	ピット
位置	平面	辺～法面・屈折面	谷	辺～法面・屈折面	法面・谷
	断面	確認面～下位・屈折面	上～下位	確認面～下位	上～下位
実例					



堀の位置



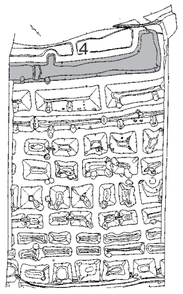
L＝11.30m



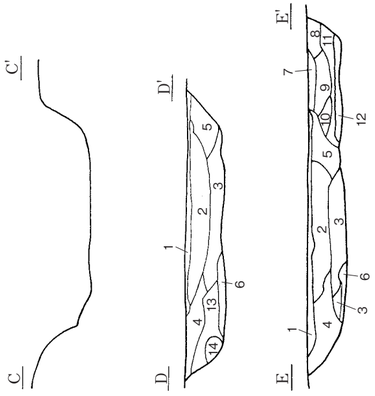
※エレベーションはレベルにより推定復元

0　1/60　2m

第9図　遺構2　1～3号堀

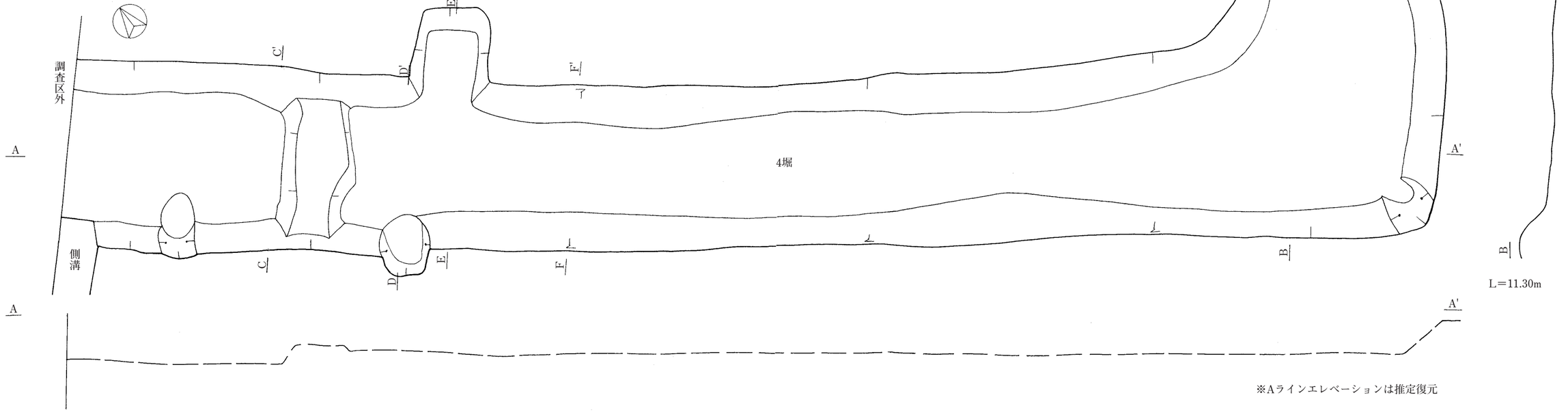


堀の位置



○ 4堀セクション D-D'・E-E'
1 暗灰褐色／LR△、T▲ 堅緻 締良
2 暗灰褐色（1層より暗）／LR、C△ LB▲ 軟度低
3 暗灰褐色（さらに暗）／LB、LR、C△、灰色粘土B△ 軟質
4 暗灰褐色／LB、LR、C△ ややや締良
5 暗灰褐色／4層よりLB大きい ややや締良
6 LB層 LB（ソフト）主体 軟質
7 暗灰褐色／LB LR△ 締良
8 灰黒色／LB◎、LR◎ ややや締良
9 LB層 Bバンド B主体 締良 堅緻
10 灰黒色／LB、LR△ ややや締良
11 灰黒色／LR、C△ 軟質
12 黄褐色／LR△ 軟度高
13 暗灰褐色（4層より暗）／LB、LR△ ややや締良
14 暗灰褐色／4層に似る 軟質

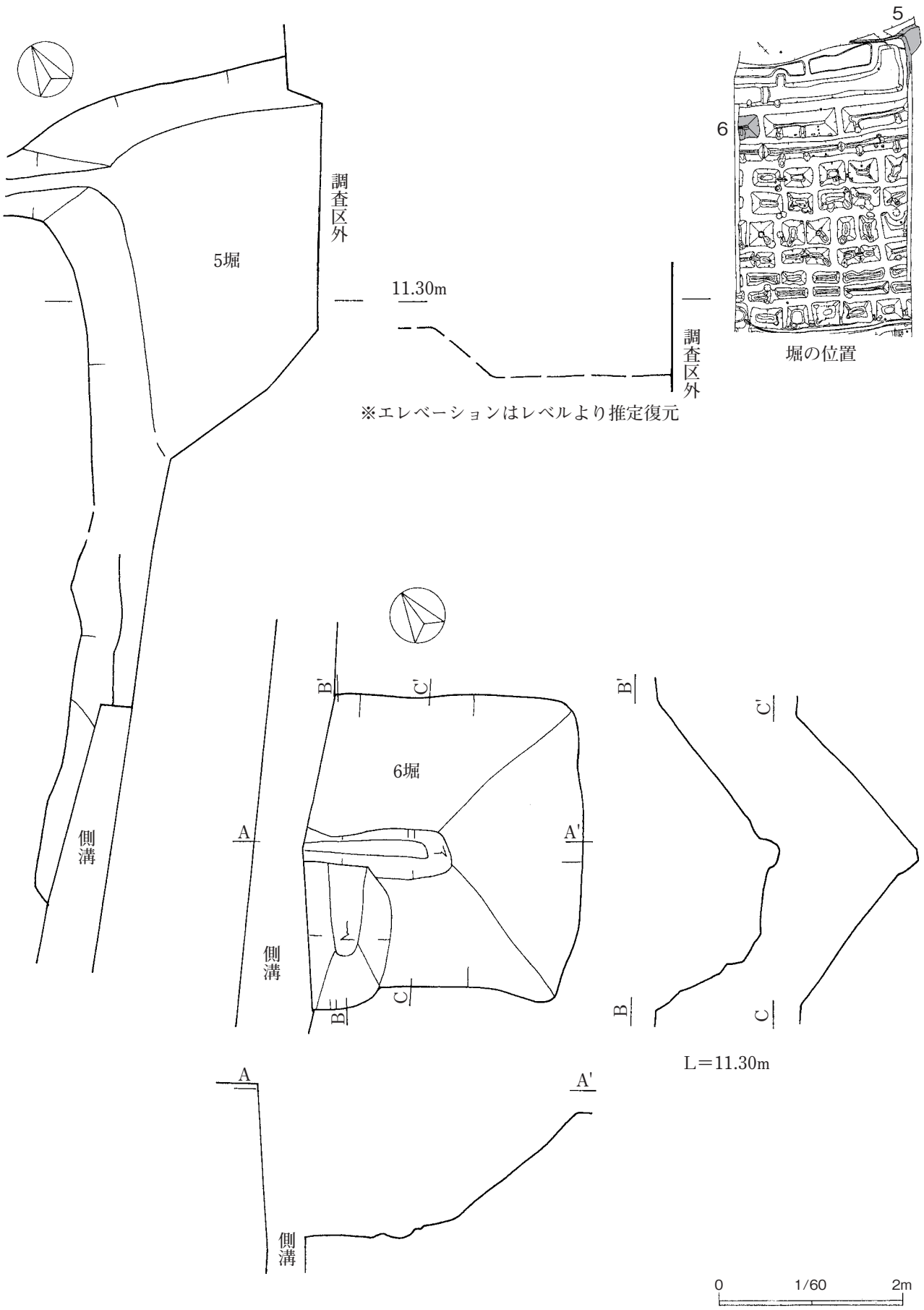
土層説明凡例
色調／含有物
テフラ＝T
ローム＝L
炭化物＝C
焼土＝S
酸化鉄＝FE
黒褐色＝BB
褐色＝Br
非常に多い＝☆
多量＝◎
少量＝△
微量＝◀
粒子＝R
ブロック＝B
万遍なく＝万
やや明るい＝ややや明
やや暗い＝ややや暗
非常にやわらかい＝軟度高
やわらかい＝軟質
やややわらかい＝軟度低
かたい＝堅緻
締まり良し＝締良
締まり悪し＝締悪
粘性強い＝粘強
粘性有り＝粘有



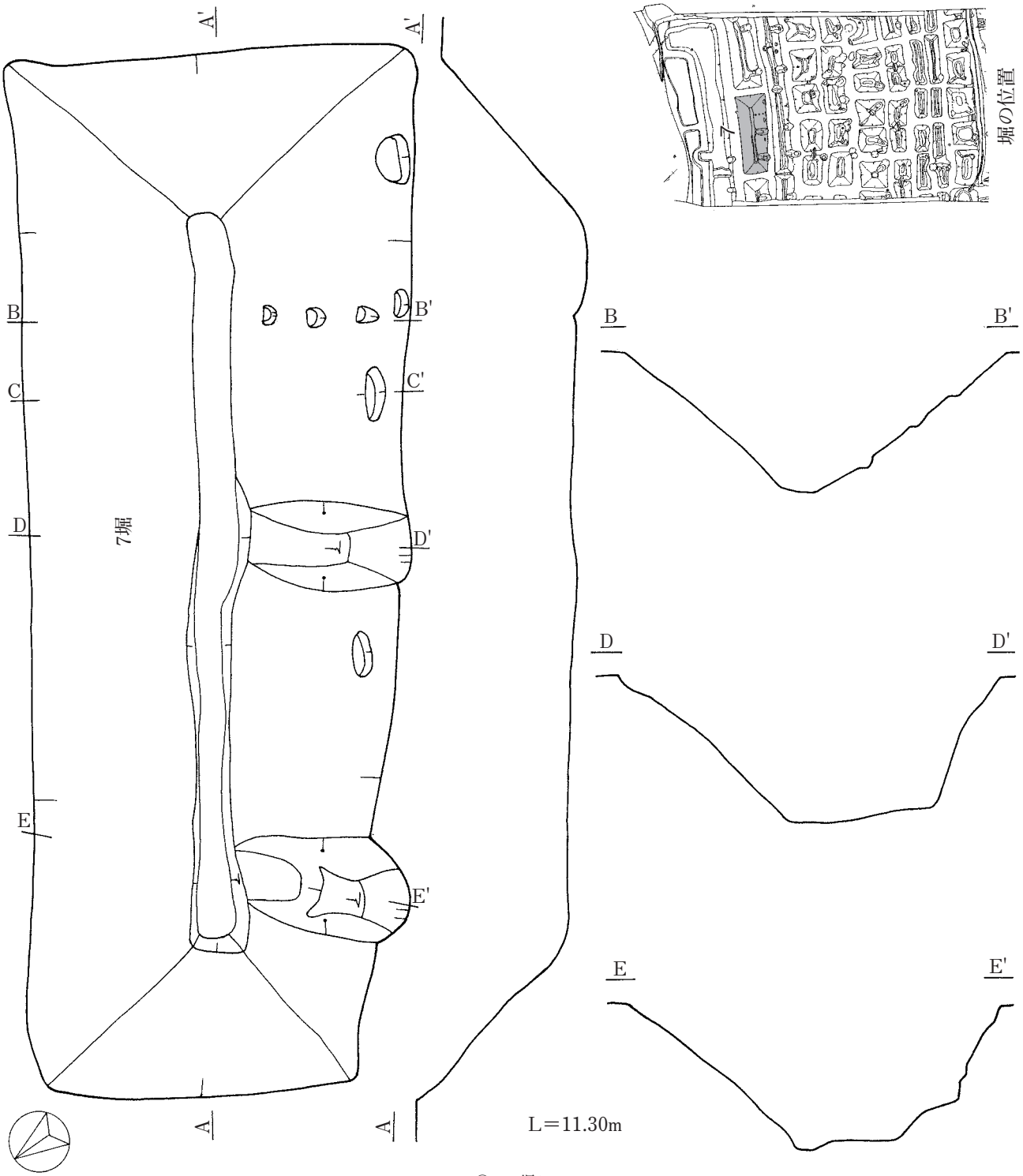
※Aラインエレベーションは推定復元

0 1/60 2m

第10図　遺構３　４号堀



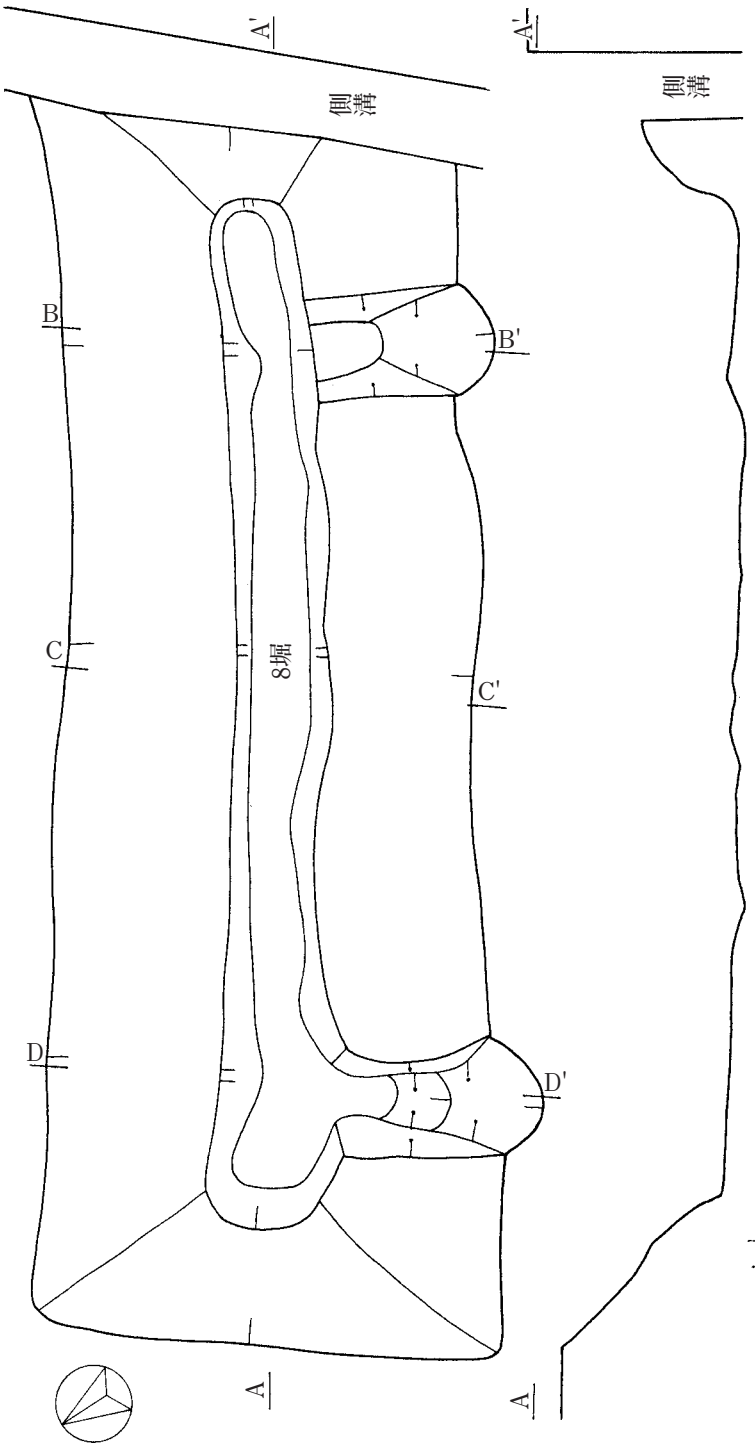
第11図　遺構４　５・６号堀



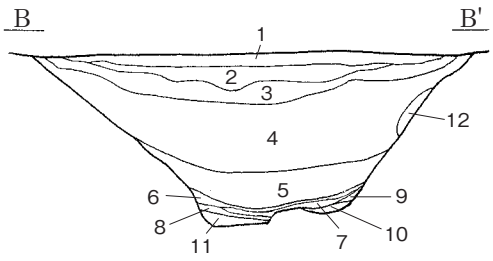
○　7堀セクション
1　暗灰褐色／LR、T△、C▲　締良　堅緻
2　暗灰褐色(1層より暗)／締良
3　暗灰褐色／LB(ソフト)◎　C▲　軟度低
4　暗灰褐色／粘質層　C▲　軟質
5　暗灰褐色／粘質層　軟度高　粘強
6　暗灰褐色(5層より暗)／粘質層　軟質
7　暗灰褐色(6層より黄色味強)／粘質層　軟度高
8　暗灰褐色(6層に似る)／粘質層　軟度高
9　LB層　Bバンド B主体　ボロボロ
10　暗灰褐色(8層より黄色味強)／粘質層　軟度高
11　LR層　LR(ハード)主体　ボロボロ

0　1/60　2m

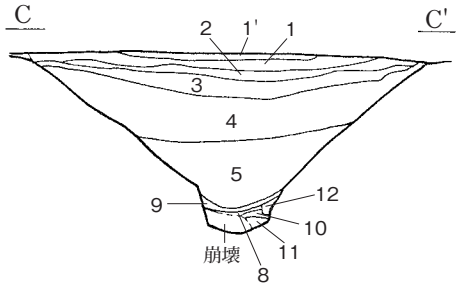
第12図　遺構5　7号堀

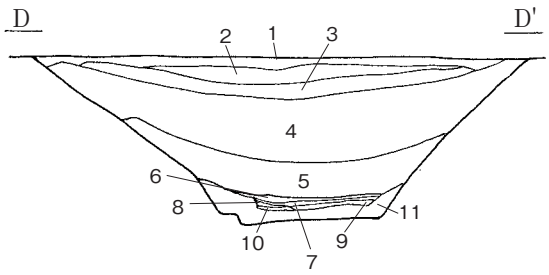


L＝11.30m

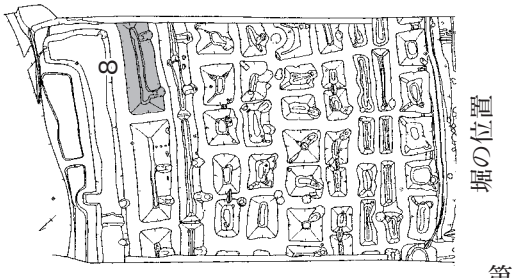


○　8堀セクションB-B′
1　暗灰褐色／T、LR▲　堅緻　締良
2　暗灰褐色／C▲　軟度低
3　暗灰褐色／LB(ソフト)△万　軟度低
4　暗灰褐色(3層より暗)／軟質
5　暗灰褐色／粘質層　C▲　軟度高
6　暗灰褐色／(5層より暗)　軟質
7　暗灰褐色(やや黄色味を帯びる)／軟質
8　灰褐色／軟度高
9　LB層　BバンドB、R主体　ボロボロ
10　LB層　9層よりBが大きい
11　LB層　他の8堀と同じ
12　暗灰褐色／LB(ソフト)主体　軟度低



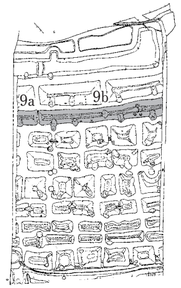


○　8堀セクションC-C′ D-D′
1～5層はB-B′と同じ
1′　暗灰褐色／T◎、LR◎　堅緻
6　暗灰褐色(やや黄色味を帯びる)／粘質層
7　暗灰褐色(6層より暗)／粘質層　軟度高
8　暗灰褐色(やや黄色味を帯びる)／粘質層　軟度高
9　暗灰褐色／粘質層　BバンドB△　軟度高
10　灰褐色／粘質層　軟度高
11　LB層　BバンドBとハードL(黄褐色)主体　ボロボロ　締悪
12　LB(ハード)層　BバンドB主体　ボロボロ

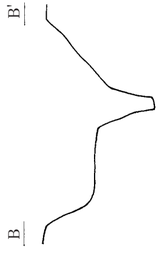


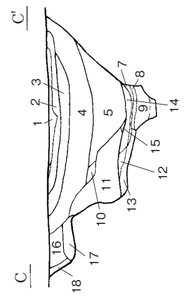
0　1/60　2m

第13図　遺構6　8号堀

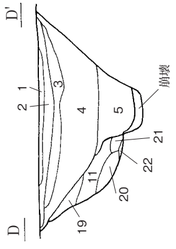


堀の位置

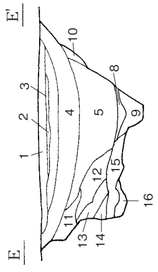




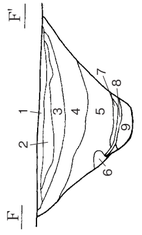
○ 9堀C-C'セクション
1 暗灰褐色／T、LR▲　堅緻　締良
2 暗灰褐色／C▲　軟度低
3 暗灰褐色／LB(ソフト)△万　軟度低
4 暗灰褐色(3層より暗)／軟質
5 暗灰褐色／粘質層　C▲　軟度高
7 暗灰褐色(5層より灰色味強)／粘質層　軟質
8 灰褐色／粘質層　軟度高
9 暗灰褐色／粘質層　LB、LR◎　締悪　軟質
10 暗灰褐色／LB◎　軟度低
11 LB層　Bバンド B　LB(ハード)主体　LR◎　ボロボロ
12 暗灰褐色／LR△　C▲　軟質
13 灰褐色／LB
14 灰褐色／粘質層　軟度高
15 灰褐色(14層よりやや暗)／軟質
16 暗灰褐色／LB△　軟度低
17 LB層　ハードL主体　締良
18 暗灰褐色(16層より灰色味強)／LB△　軟質



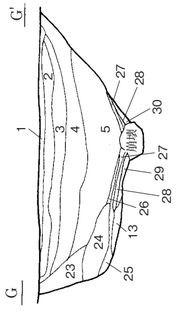
○ 9堀D-D'セクション
1～5層はC-C'と同じ
11 LB層　Bバンド B　LB(ハード)主体　LR◎　ボロボロ
19 暗灰褐色／LB△　軟質
20 LB層　Bバンド B主体　ボロボロ
21 暗灰褐色／LB　LR◎　ボロボロ
22 灰褐色／LB



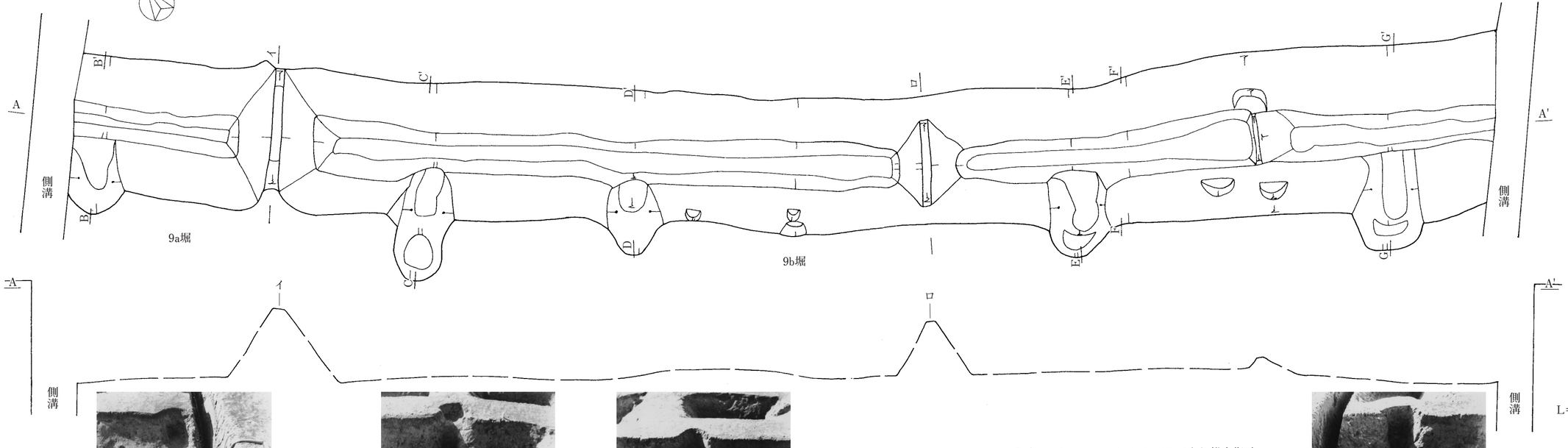
○ 9堀E-E'セクション
1～9層はC-C'と同じ
10 暗灰褐色／粘質層　LR△
11 暗灰褐色／LR、LB△　軟質
12 LB層　Bバンド B主体　LR△　ボロボロ
13 LB層　LB(黄褐色)主体　LR△　ボロボロ
14 暗灰褐色／LR◎　ボロボロ
15 LB層(灰褐色)／13層より細かいLB・LR
16 LB層(黄褐色)／黄褐色LB主体　ボロボロ



○ 9堀F-F'セクション
土層説明はC-C'と同じ

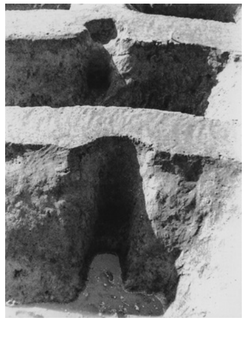


○ 9堀G-G'セクション
1～5層はC-C'と同じ
13 灰褐色／LB
23 暗灰褐色／LR、LB△　軟質
24 LB層　Bバンド　ボロボロ
25 暗灰褐色／粘質層　左側LR◎　右側粘性
26 暗灰褐色(5層より暗)／粘質層　軟度高
27 7層と同じ
28 8層と同じ
29 灰褐色／粘質層　LR△　軟度高
30 暗灰褐色(暗)／粘質層　軟度高



※写真は北から撮影

土壙：奥9a堀
Bライン
手前6堀
(北から)



土壙：奥9b堀
Cライン
手前7堀
(北から)

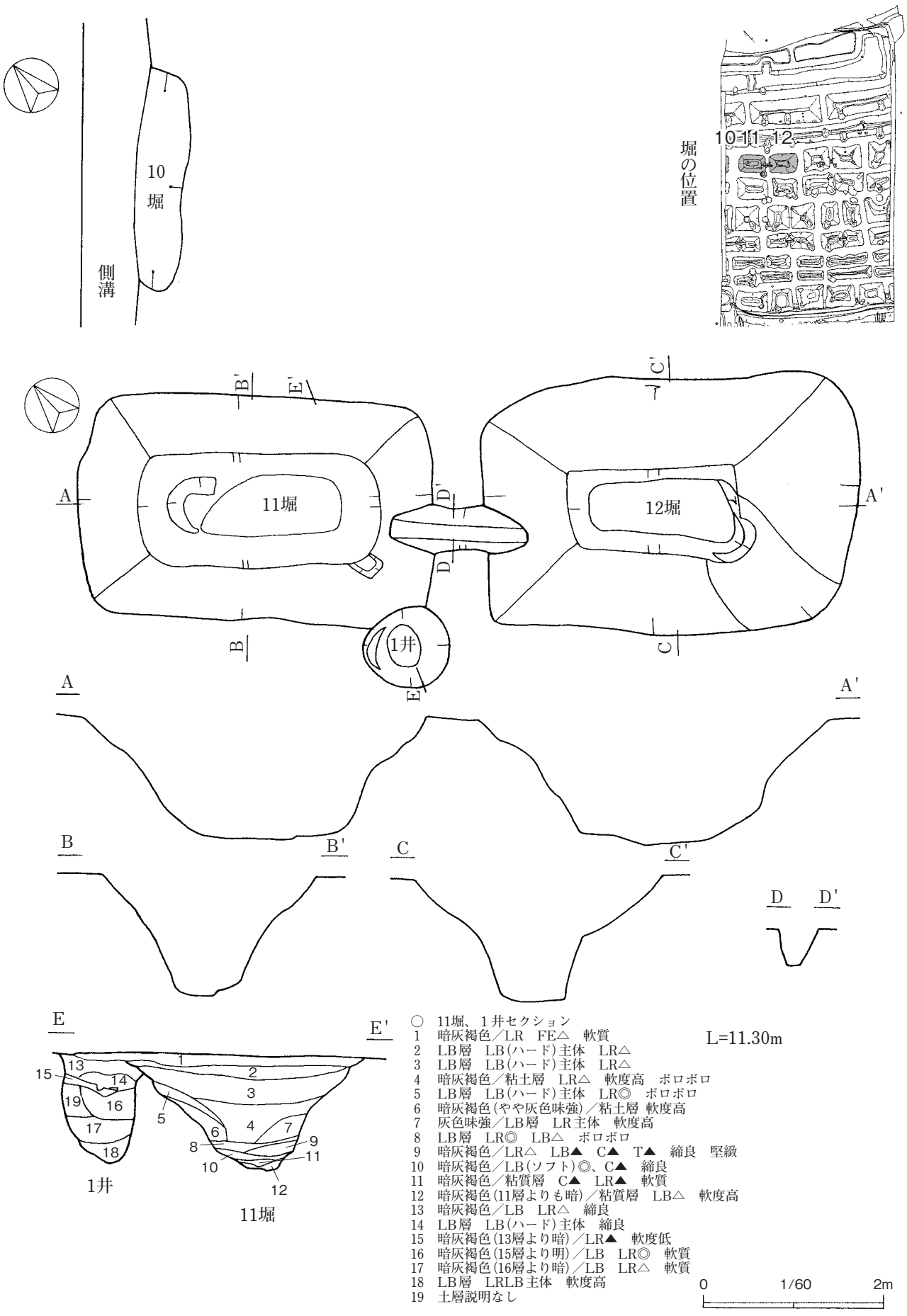
土壙：奥9b堀
Dライン
手前7堀
(北から)

※Aラインエレベーションは、レベルにより推定復元
イ・ロのポイントで直線化した。

土壙：奥9b堀
Gライン
手前8堀
(北から)

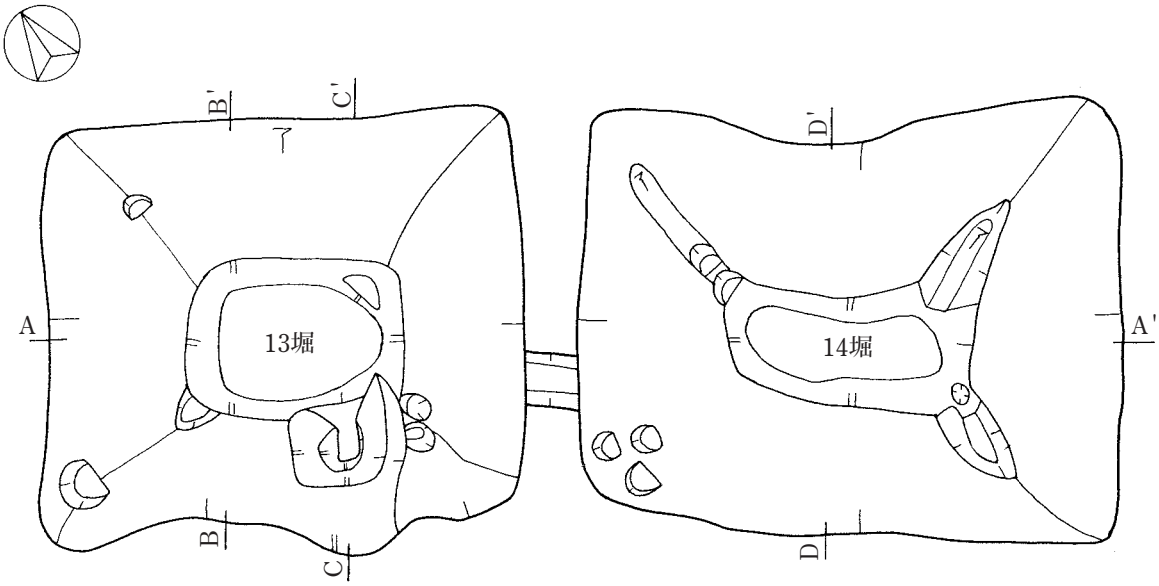
0　1/60　2m

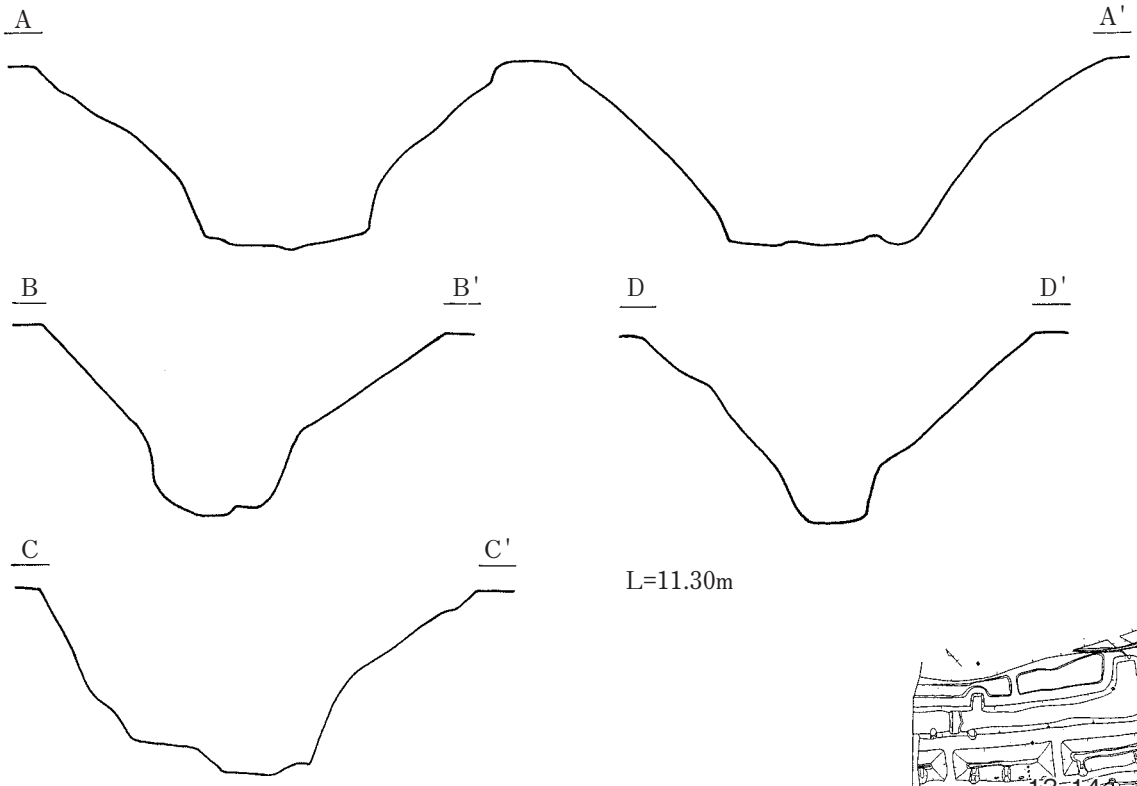
第14図　遺構7　9a・9b号堀

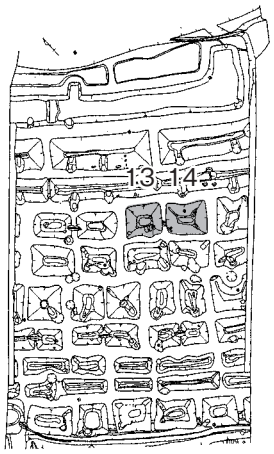


○ 11堀、1井セクション
1 暗灰褐色／LR FE△ 軟質
2 LB層 LB(ハード)主体 LR△
3 LB層 LB(ハード)主体 LR△
4 暗灰褐色／粘土層 LR△ 軟度高 ボロボロ
5 LB層 LB(ハード)主体 LR◎ ボロボロ
6 暗灰褐色(やや灰色味強)／粘土層 軟度高
7 灰色味強／LB層 LR主体 軟度高
8 LB層 LR◎ LB△ ボロボロ
9 暗灰褐色／LR△ LB▲ C▲ T▲ 締良 堅緻
10 暗灰褐色／LB(ソフト)◎、C▲ 締良
11 暗灰褐色／粘質層 C▲ LR▲ 軟質
12 暗灰褐色(11層よりも暗)／粘質層 LB△ 軟度高
13 暗灰褐色／LB LR△ 締良
14 LB層 LB(ハード)主体 締良
15 暗灰褐色(13層より暗)／LR▲ 軟度低
16 暗灰褐色(15層より明)／LB LR◎ 軟質
17 暗灰褐色(16層より暗)／LB LR△ 軟質
18 LB層 LRLB主体 軟度高
19 土層説明なし

第15図 遺構8 10～12号堀



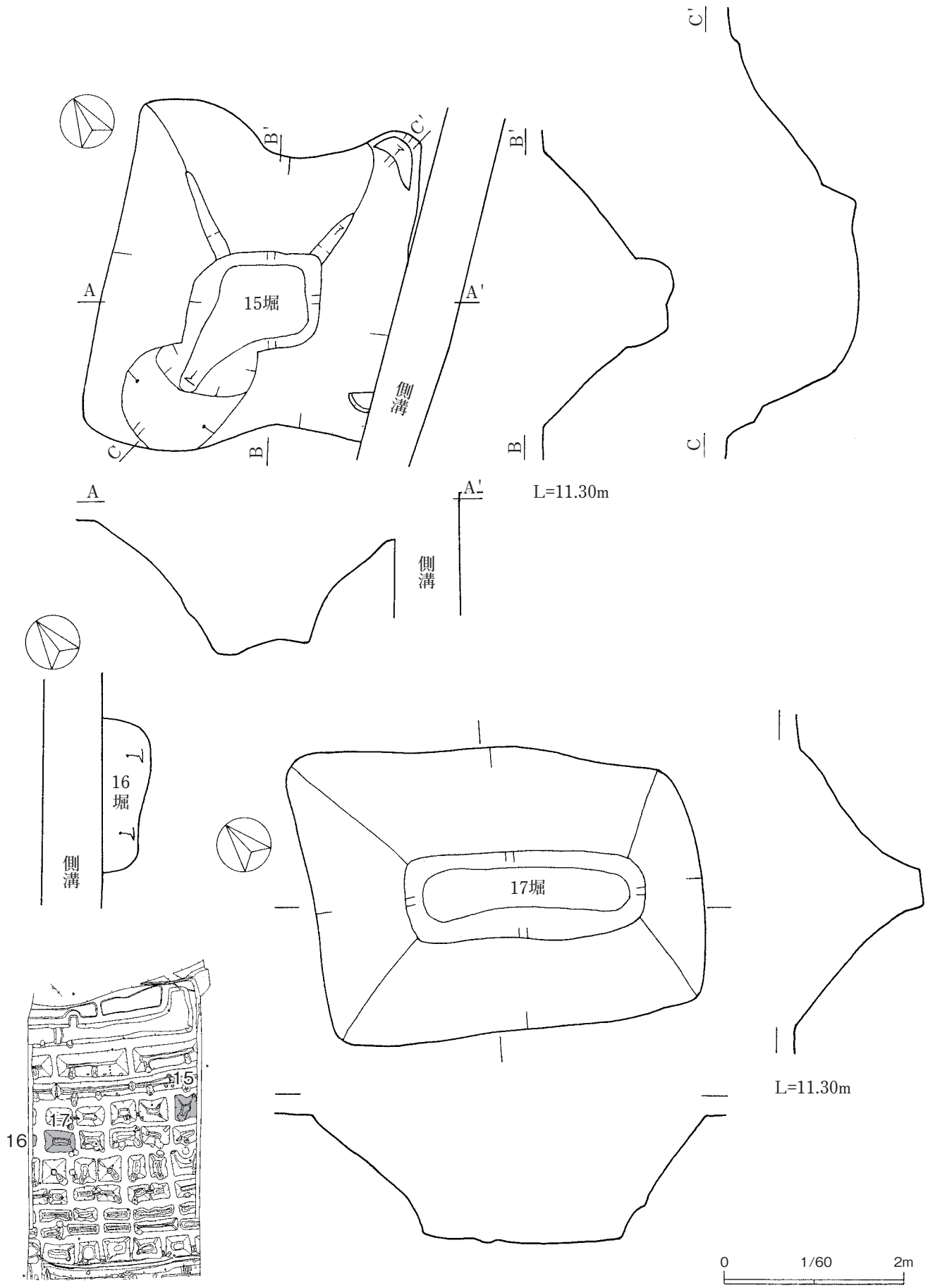




堀の位置

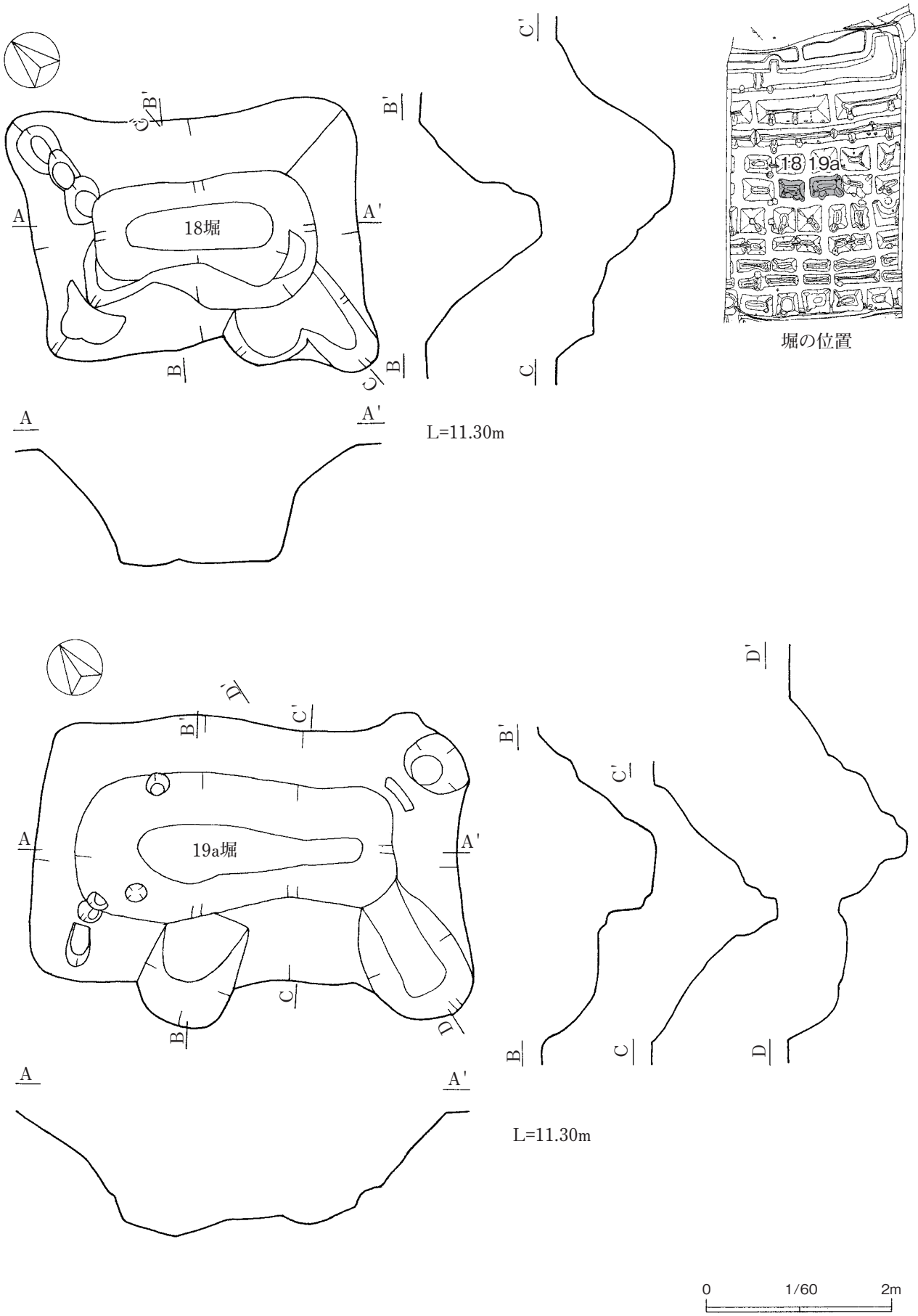
0 1/60 2m

第16図　遺構９　13・14号堀

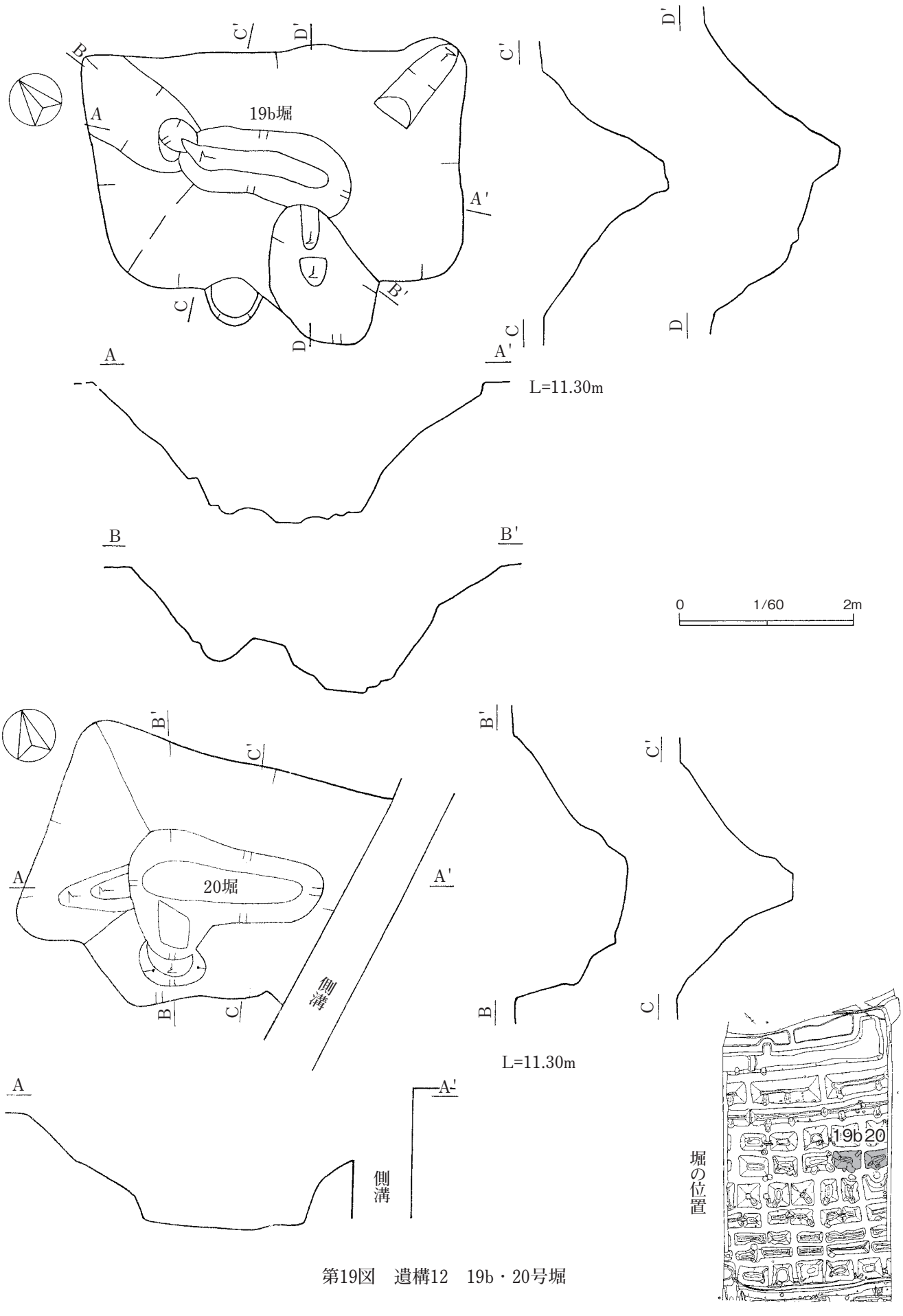


堀の位置

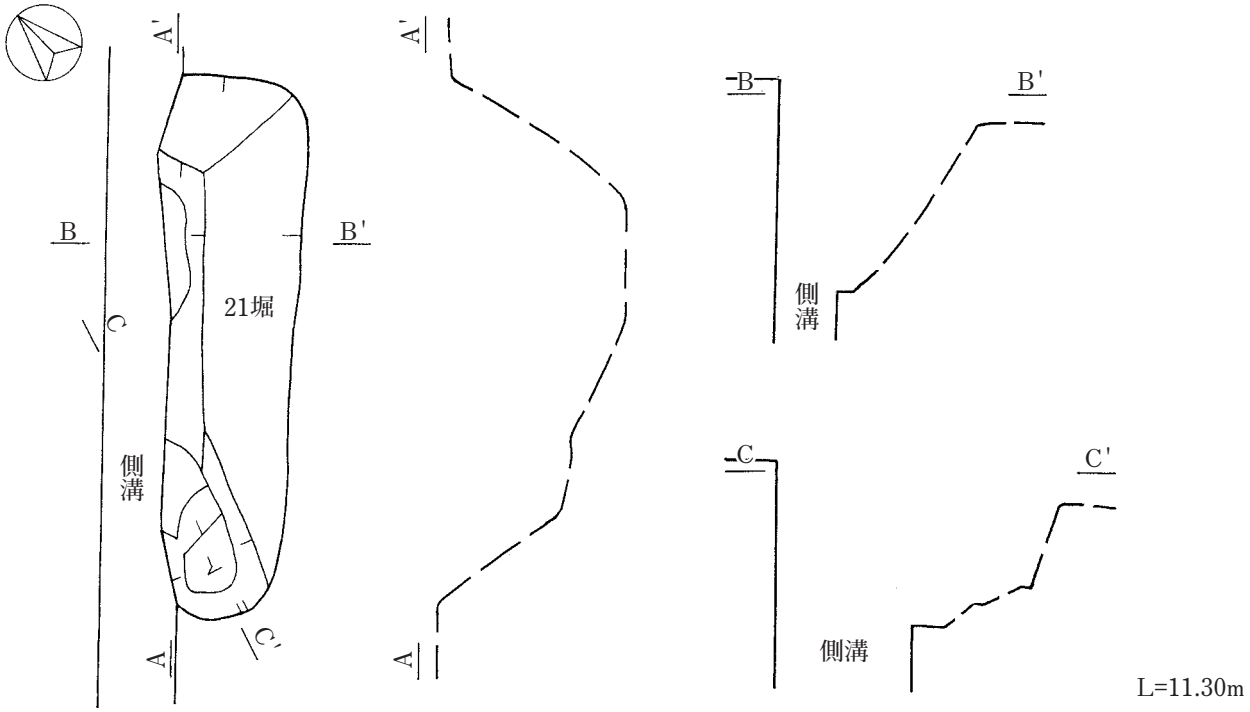
第17図　遺構10　15～17号堀



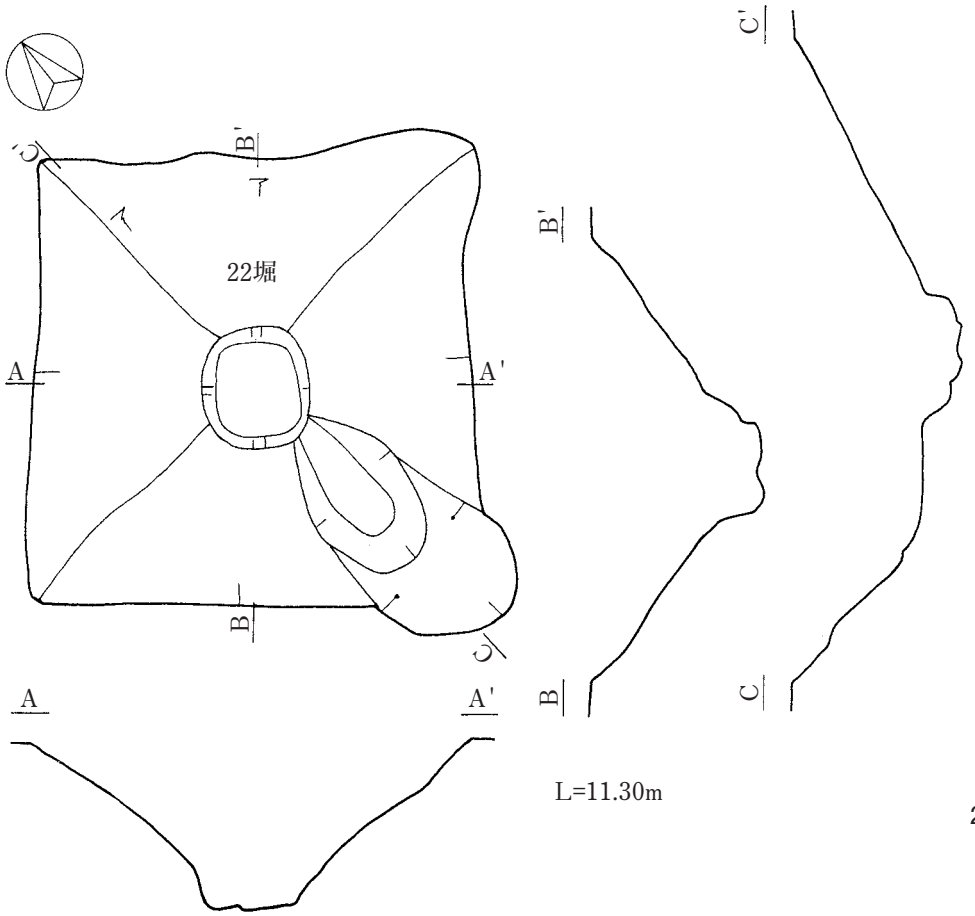
第18図　遺構11　18・19a号堀

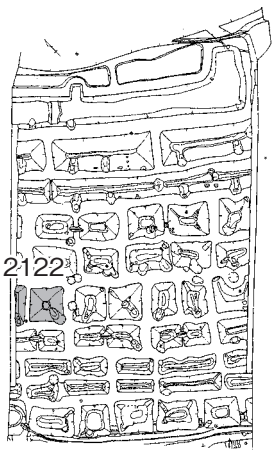


第19図　遺構12　19b・20号堀



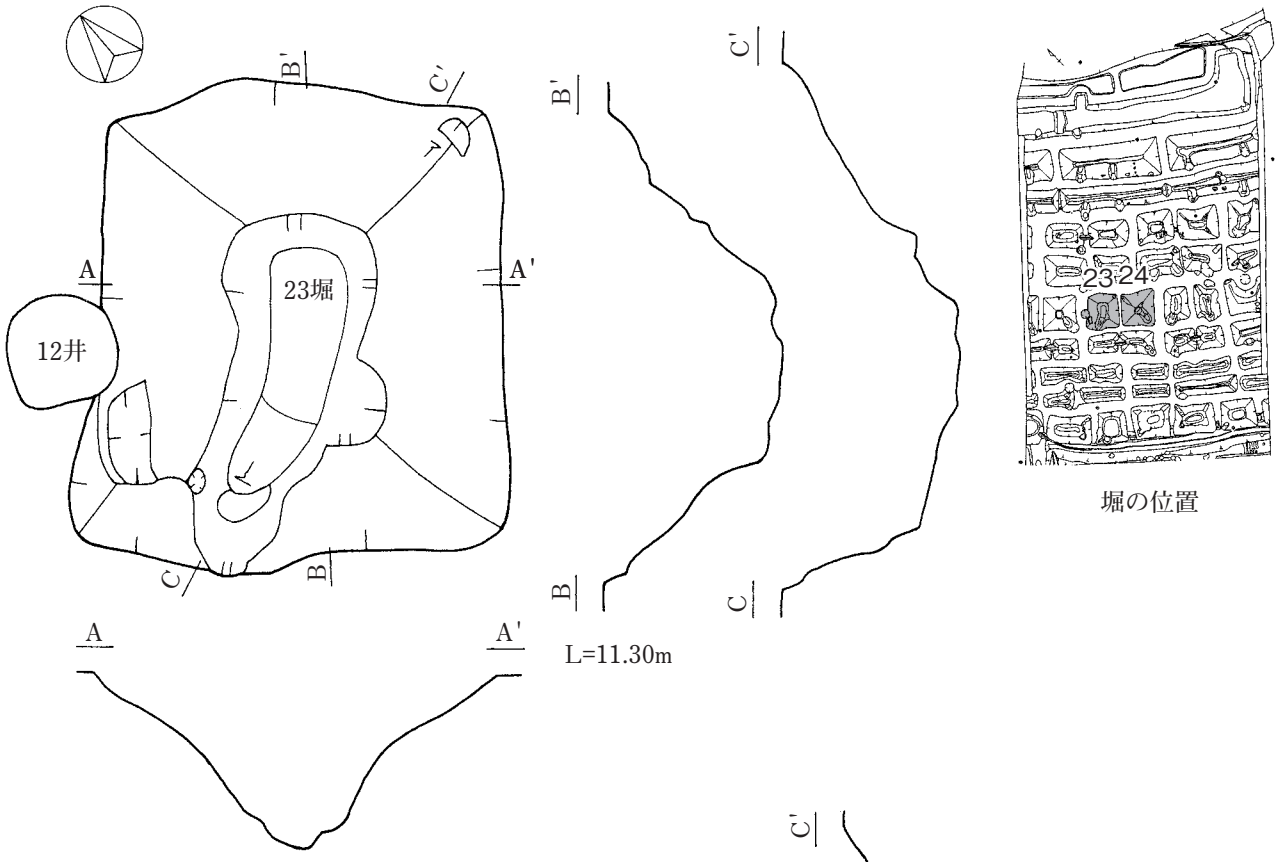
※エレベーションはレベルにより推定復元

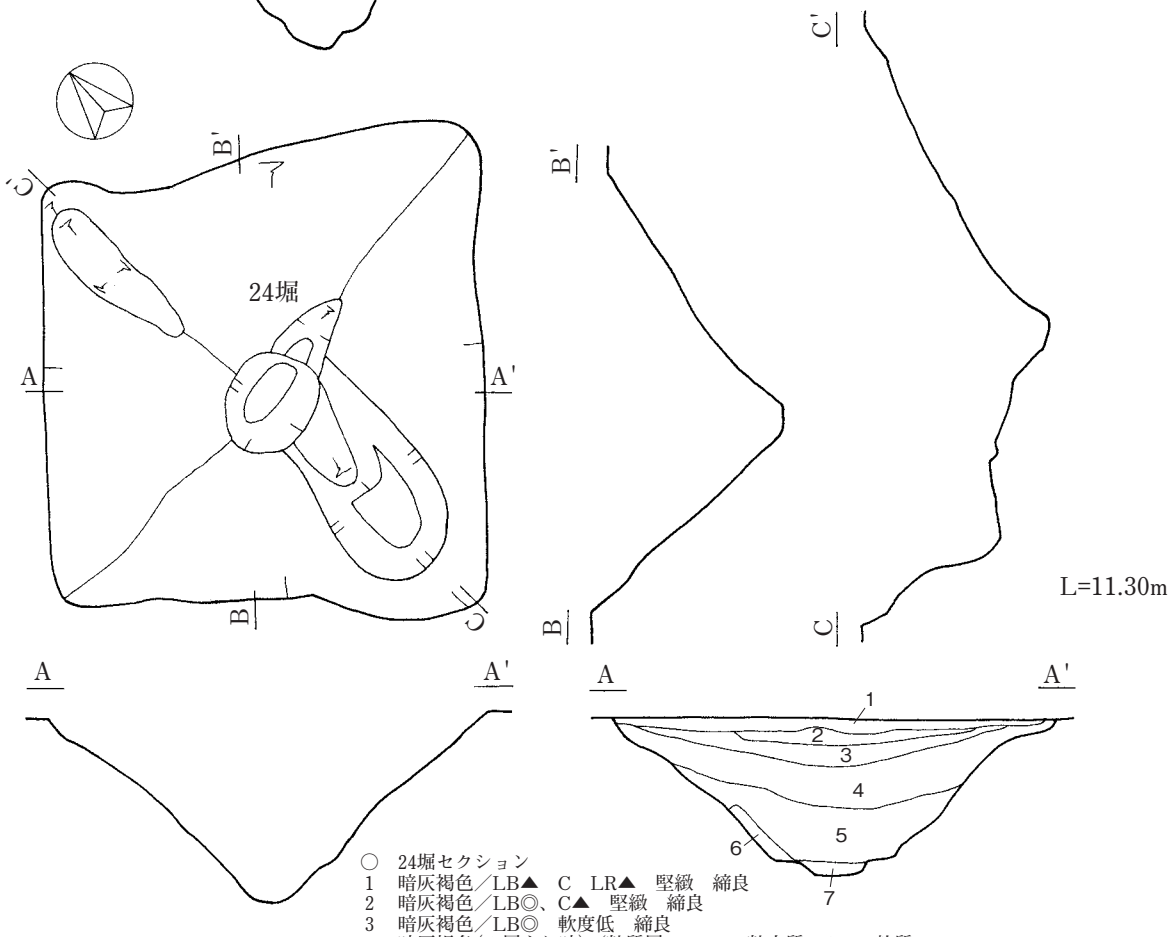




堀の位置

第20図　遺構13　21・22号堀

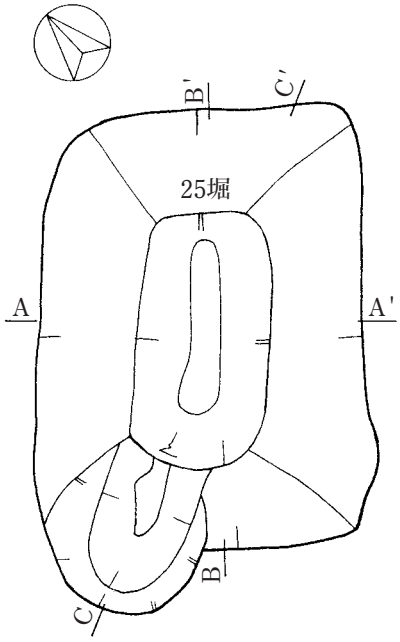


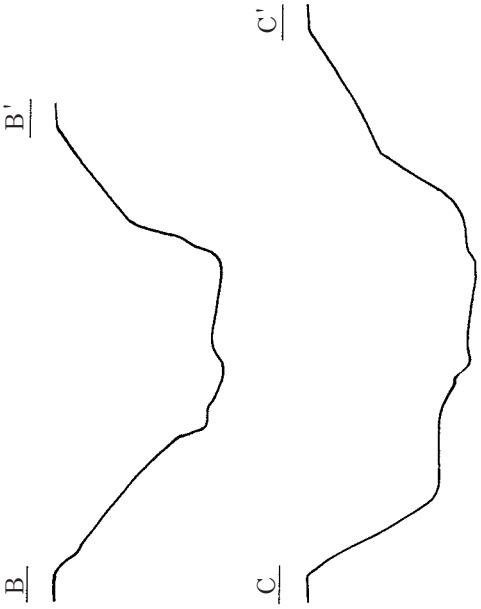


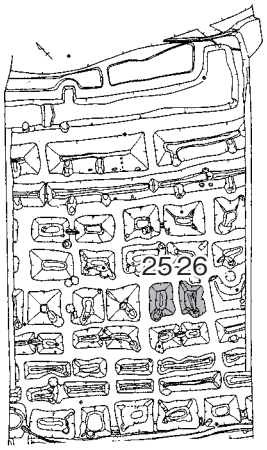
○　24堀セクション
1　暗灰褐色／LB▲　C　LR▲　堅緻　締良
2　暗灰褐色／LB◎、C▲　堅緻　締良
3　暗灰褐色／LB◎　軟度低　締良
4　暗灰褐色(3層より暗)／粘質層　LB▲　粘土質　C▲　軟質
5　暗灰褐色／粘質層　4層より黒っぽい粘土質　軟度高
6　LB層　LB主体　ボロボロ　締悪
7　黄褐色／粘質層　LR主体　軟度高

0　1/60　2m

第21図　遺構14　23・24号堀

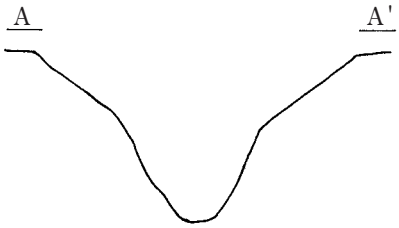


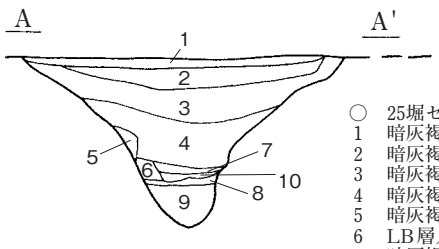




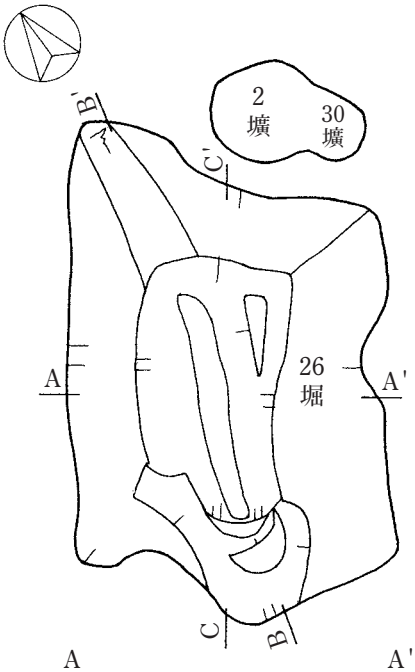
堀の位置

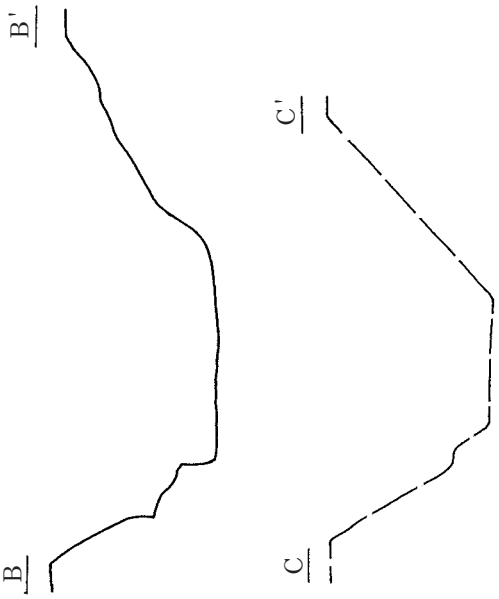
L=11.30m

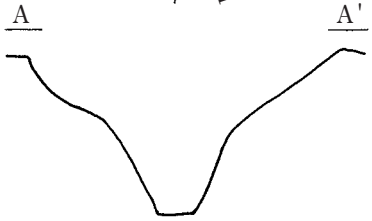




○　25堀セクション
1　暗灰褐色／LB、C▲、LR◎　堅緻　締良
2　暗灰褐色／LB◎　C▲、堅緻　締良
3　暗灰褐色LB▲　1・2層より軟度低　締良
4　暗灰褐色／粘質層　C▲　粘土質　軟質
5　暗灰褐色／LR主体　粘質B△　軟度低
6　LB層／LB(堅く黒っぽい)主体　ボロボロ
7　暗灰褐色／LR▲　軟度高
8　黄褐色／粘質層　LR主体　7層より軟質
9　黄褐色／粘質層　LB(黄色、堅い)主体　ボロボロ
10　暗灰褐色(7層より暗)／砂っぽい

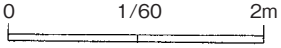




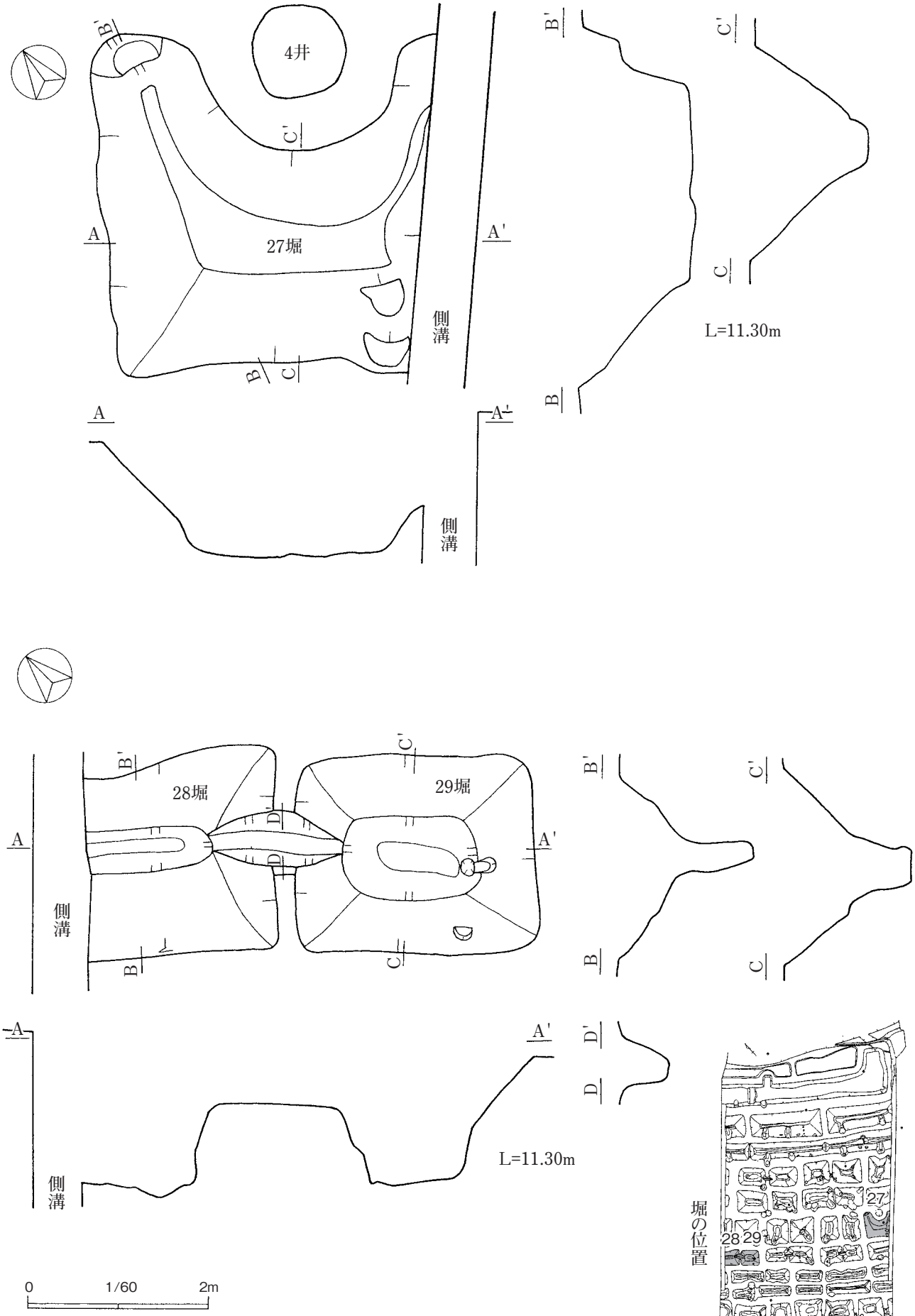


L=11.30m

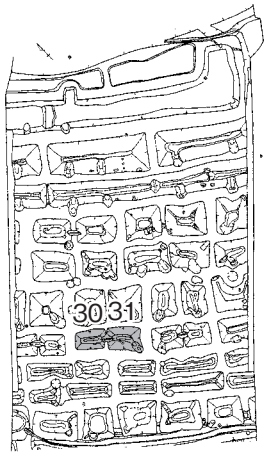
※Cラインエレベーションはレベルにより推定復元



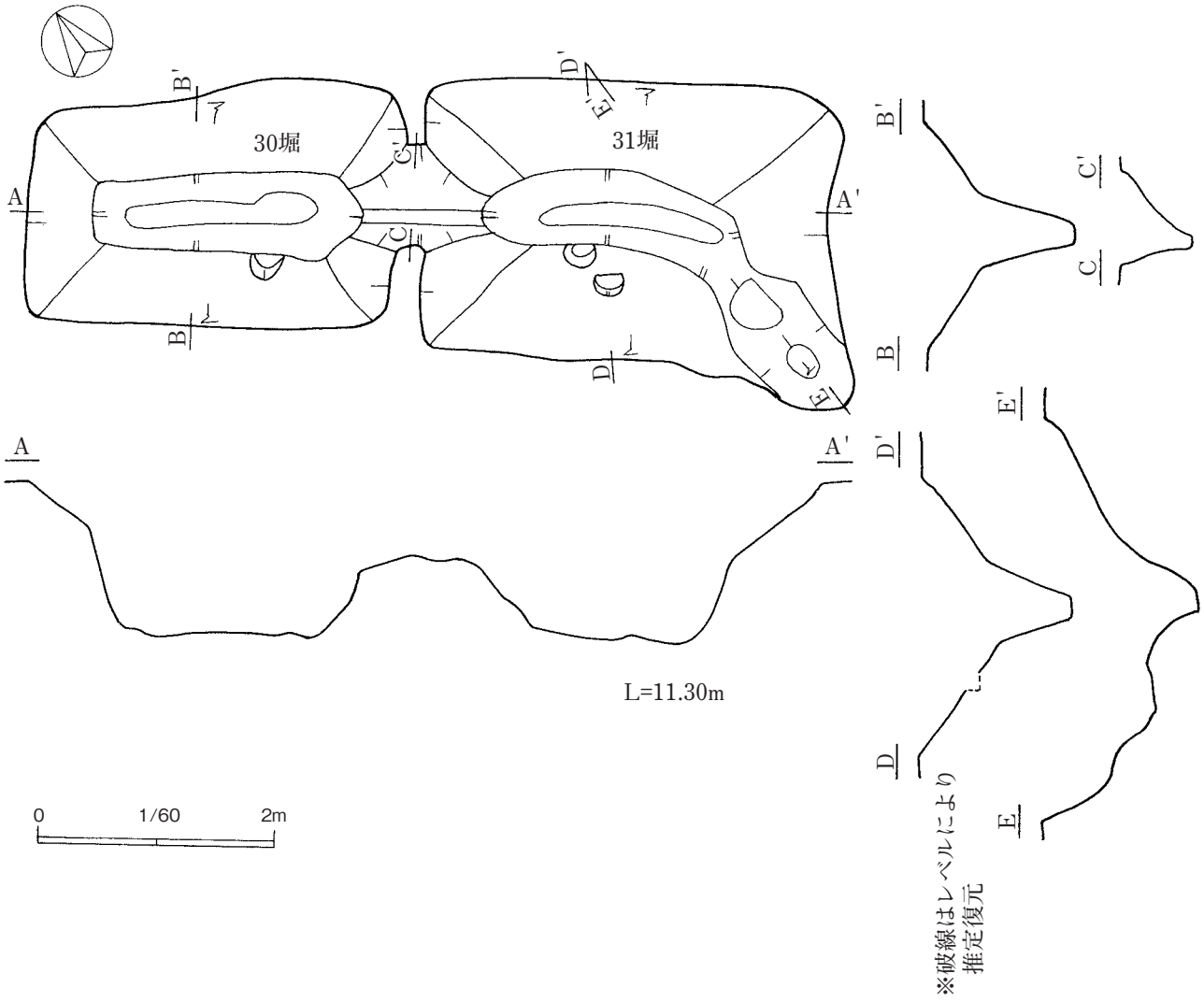
第22図　遺構15　25・26号堀



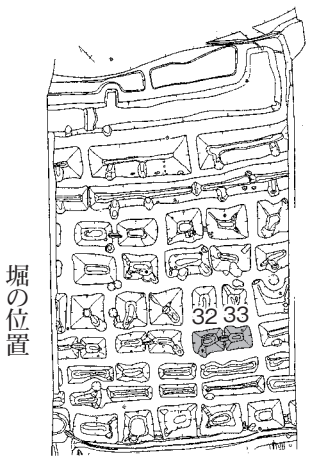
第23図　遺構16　27～29号堀

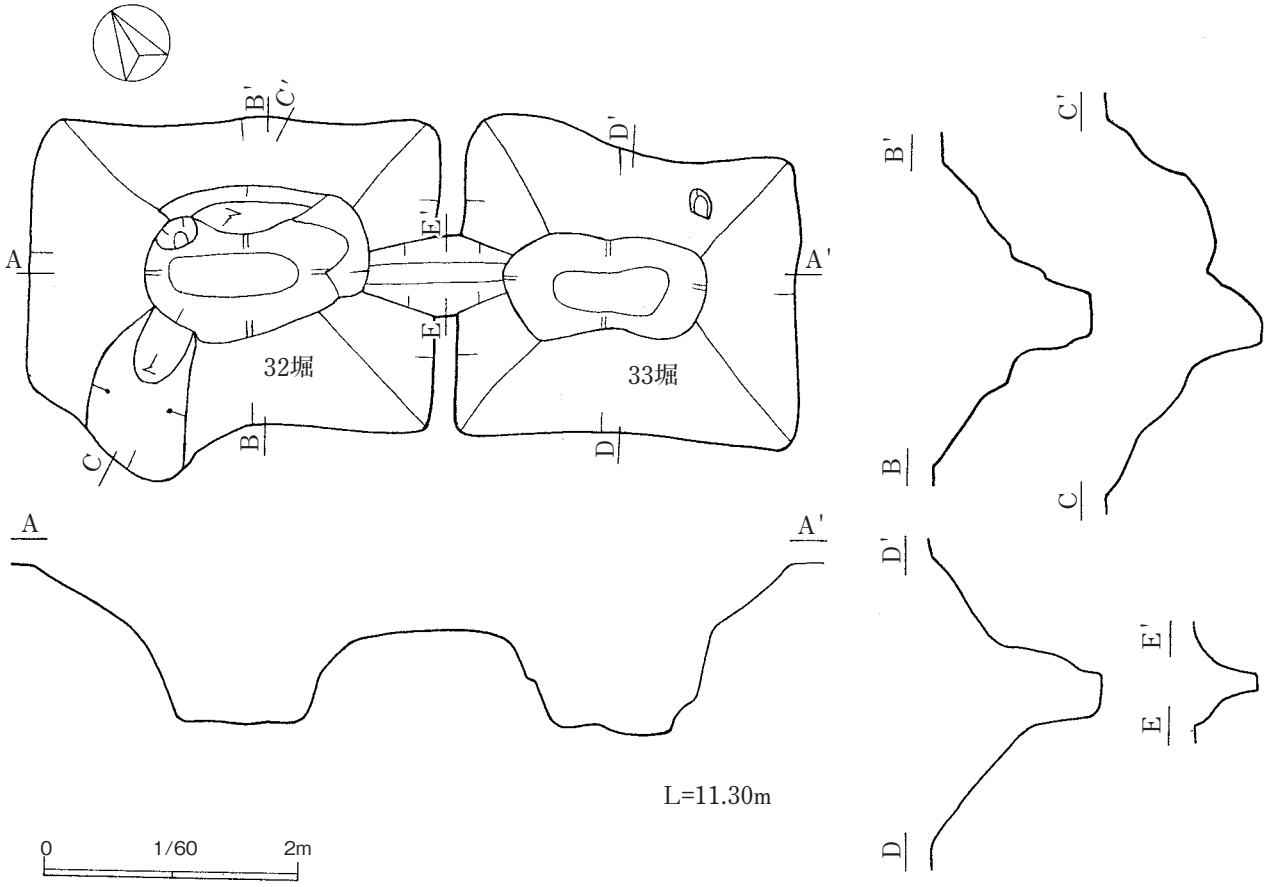


堀の位置



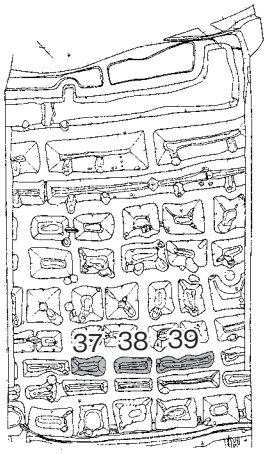
第24図　遺構17　30・31号堀



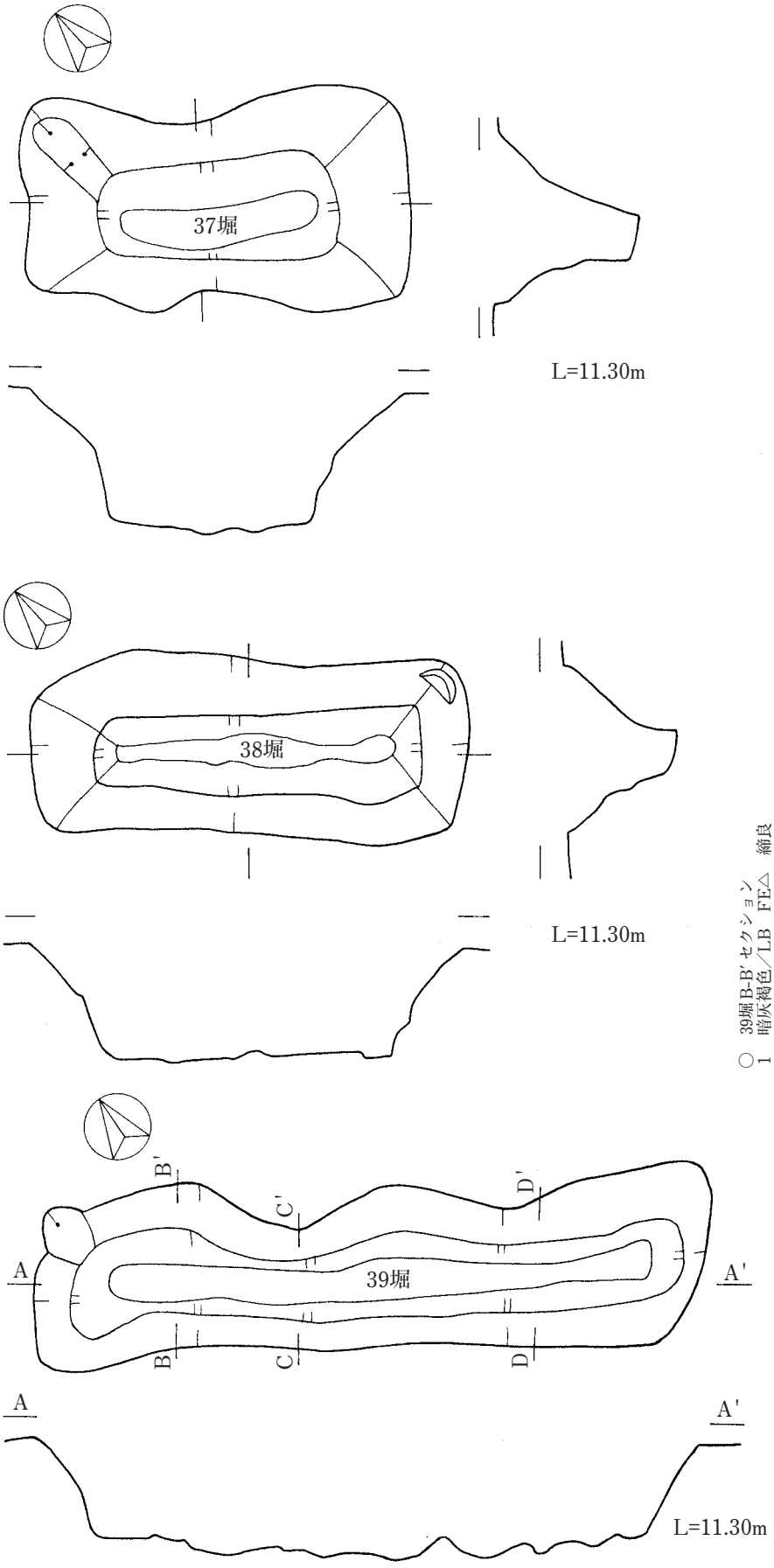


第25図　遺構18　32・33号堀

第26図　遺構19　34～36号堀



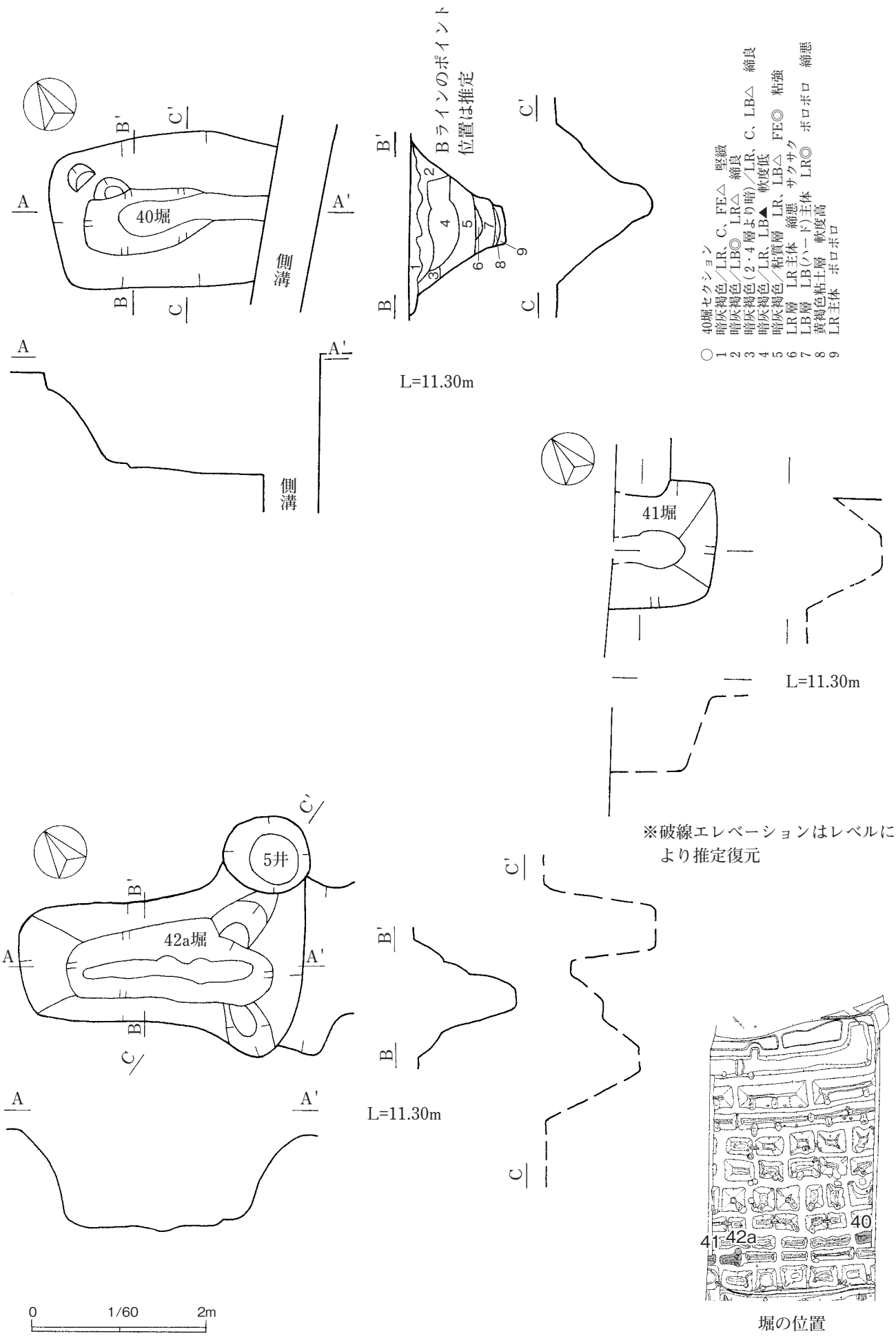
堀の位置



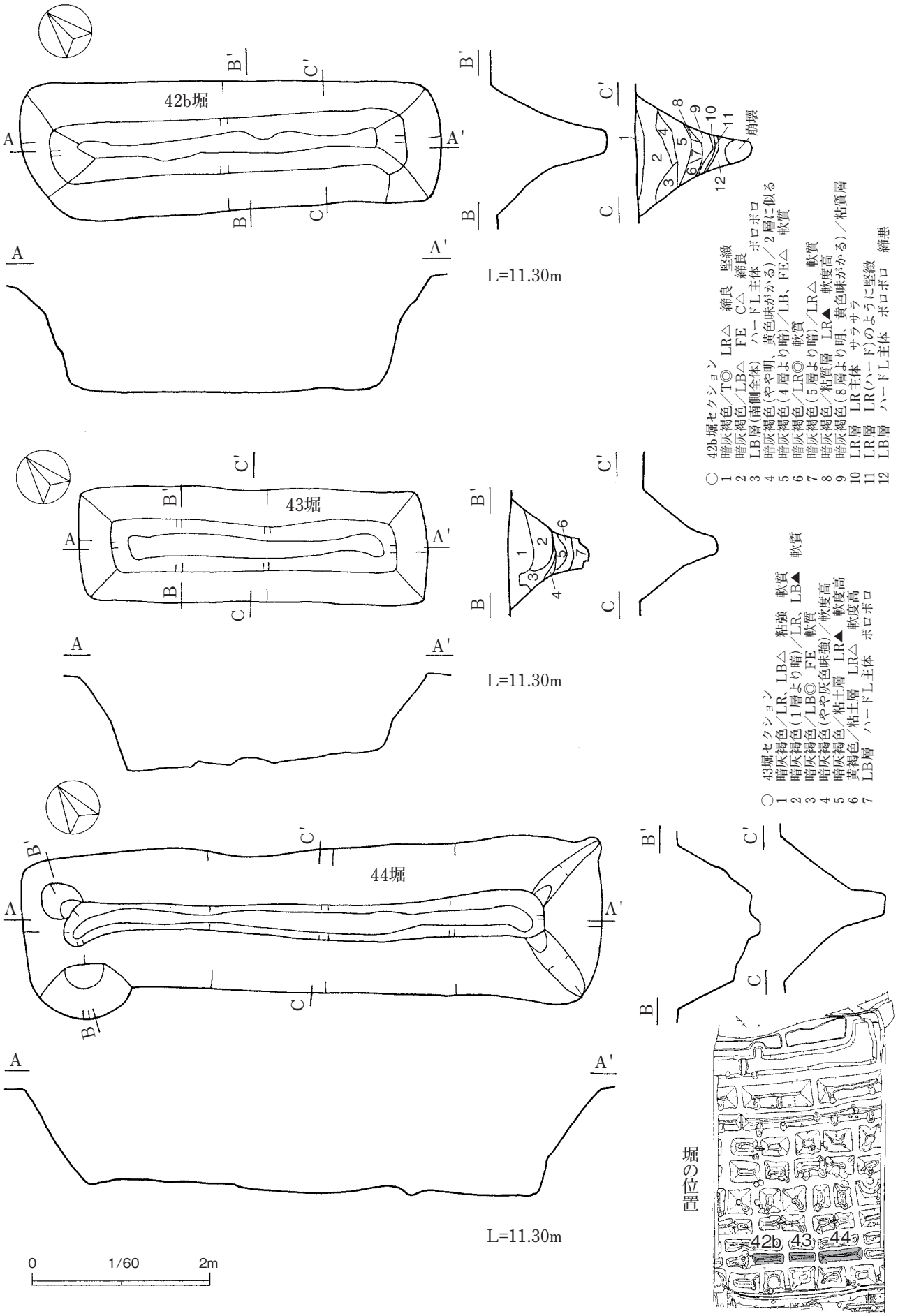
○ 39堀B-B'セクション
1 暗灰褐色／LB FE△ 締良
2 暗灰褐色／LR LB△ 締良
3 2層と同じ
4 暗灰褐色(やや暗)／LB△ 締良
5 暗灰褐色(2・3層より灰色味強)／LR▲
6 暗灰褐色(暗)／粘質層 LR、LB△ 粘性強
7 L層 LB(Br)主体 サラサラ 軟質
8 黄褐色粘土 軟質 粘有

○ 39堀D-D'セクション
1 暗灰褐色／LR、T△ 堅緻
2 暗灰褐色／LB FE△ 締良
3 19堀などの以前の4層と同じ
4 2・3層と同じ
5 暗灰褐色(暗)／LR△ FE△ 軟度低
6 暗灰褐色／粘質層 LB LR△ 粘強
7 LB層 LB(ハード)主体 ボロボロ
8 黄褐色粘土 軟質 粘有

第27図　遺構20　37～39号堀



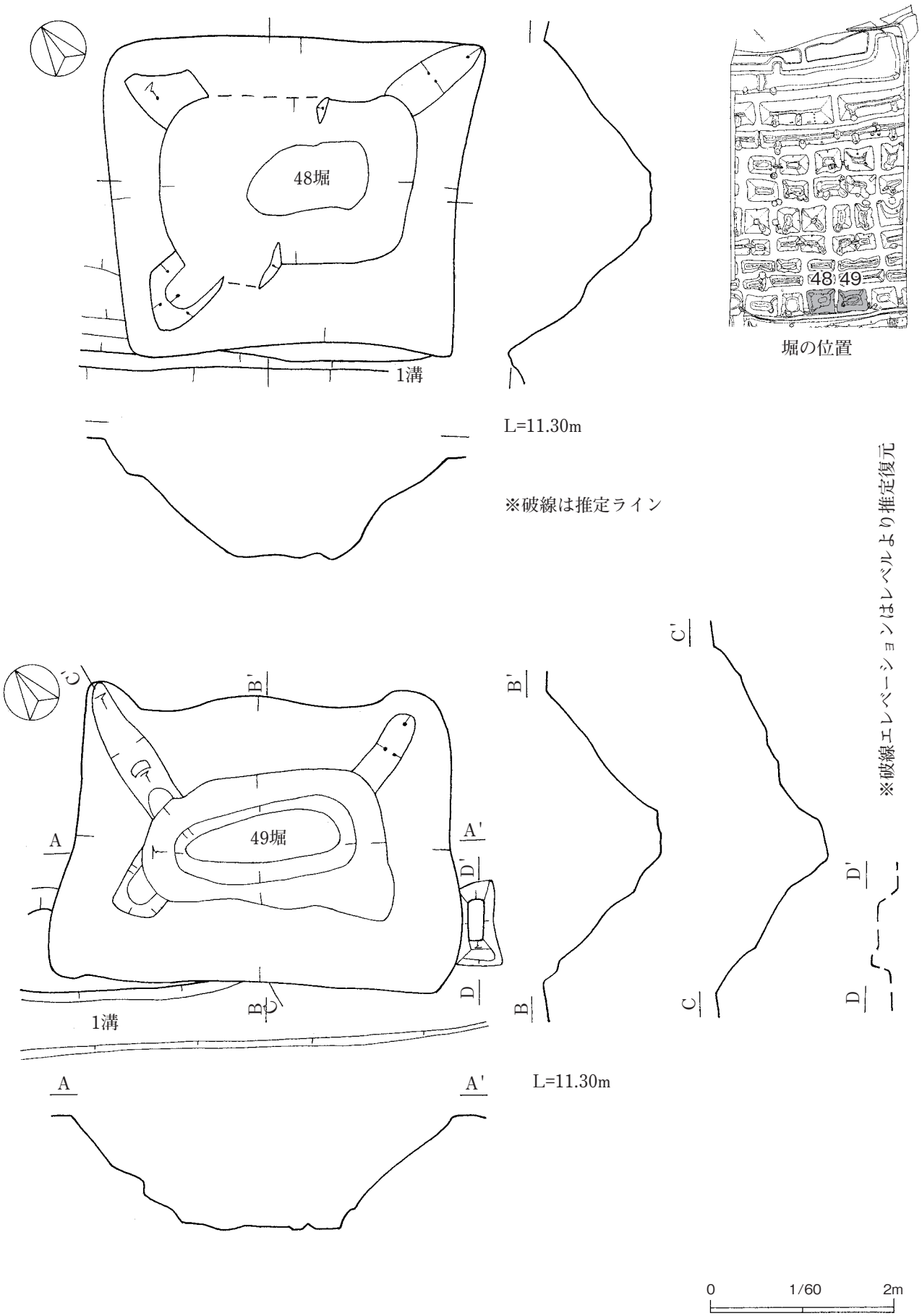
第28図　遺構21　40～42a号堀



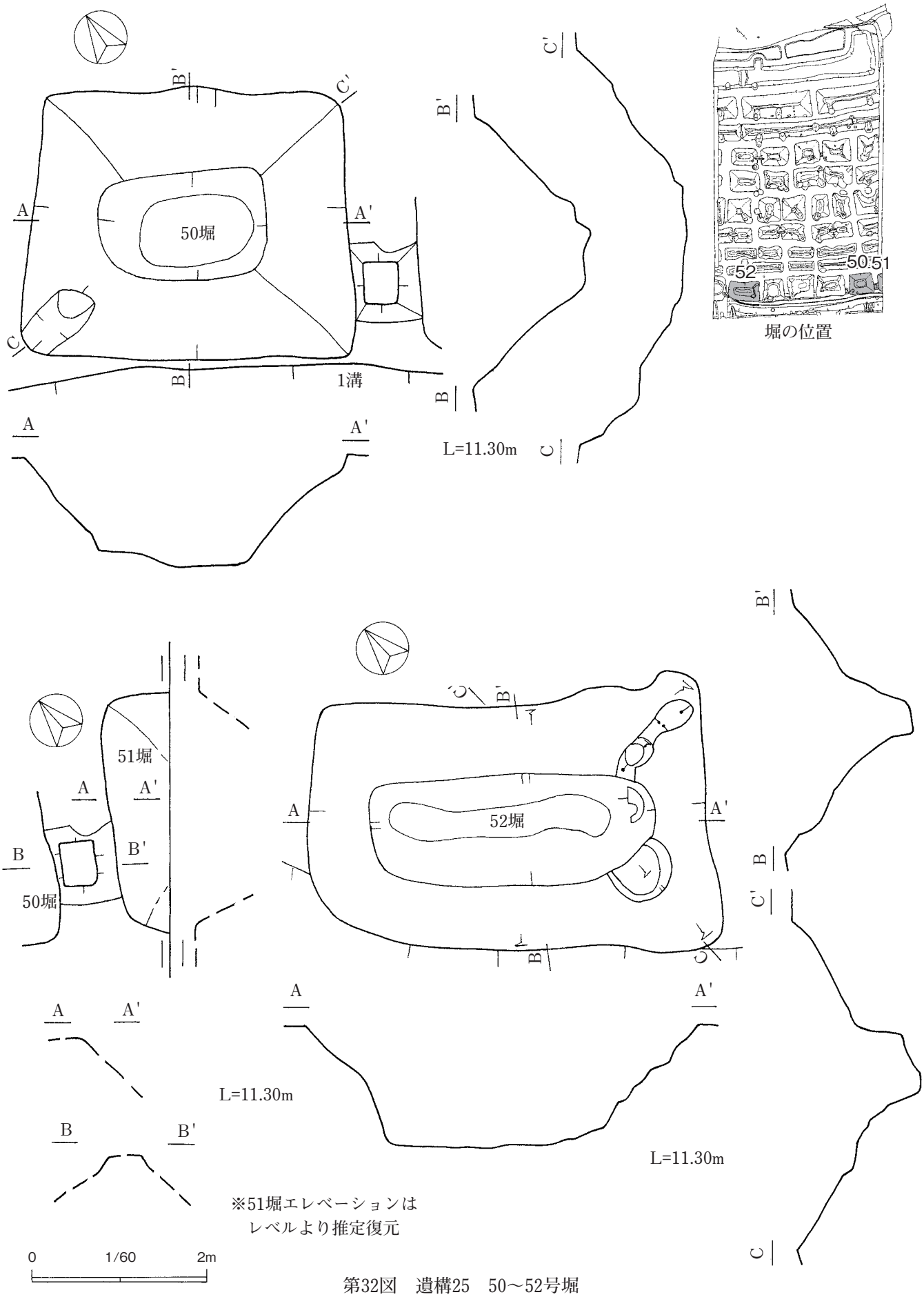
第29図　遺構22　42b～44号堀

○ 47堀セクション
4 暗灰褐色／LR◎、S、C▲ 締良
11 暗灰褐色（やや明）／LR、LB、C△
14 暗灰褐色／LR、LB、C▲ 軟度低
15 暗灰褐色／LR、LB◎、C▲ 軟質
16 暗灰褐色／耕作土 T、LR◎、C、S△ 締良 堅緻
17 暗灰褐色（やや暗）／LB△ 締良
18 暗灰褐色／粘質層 LR、LB、FE◎万 C▲ 軟質
19 暗灰褐色／粘質層 FE◎、LR、C▲ 軟度低
20 暗灰褐色（19層より暗）／FE△ 軟質 ざらつく
21 暗灰褐色（暗）／LR、LB、FE△万 LB（ハード）主体 締良
22 LB層（灰色がかる） 粘強
23 暗灰褐色／粘質層 LB◎ 軟度高
24 黄褐色／粘土層 LR△ 締悪
25 LB層 LR・LB主体 ボロボロ
26 LB層 LB主体 ボロボロ

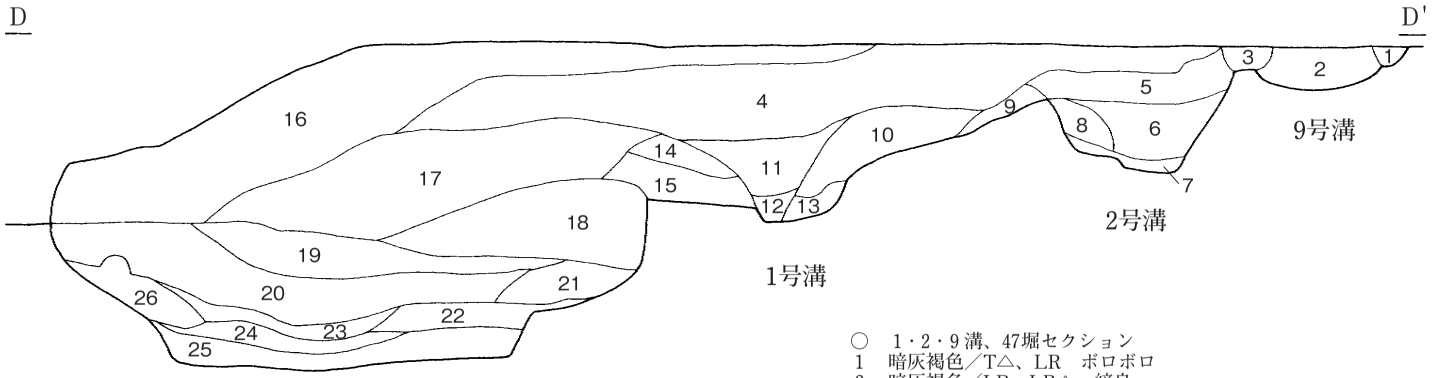
第30図　遺構23　45～47号堀



第31図　遺構24　48・49号堀



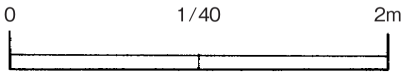
第32図　遺構25　50～52号堀



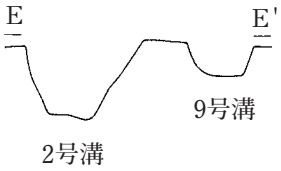
○　1・2・9溝、47堀セクション
1　暗灰褐色／T△、LR　ボロボロ
2　暗灰褐色／LB、LR△　締良
3　暗灰褐色／T△　LR　ボロボロ
4　暗灰褐色／LR◎、S、C▲　締良
5　灰黒褐色／FE△　LR▲　LB　締良　堅緻
6　灰黒褐色／FE◎　LR△　LB　締良
7　灰黒褐色(6層より暗)／FE△、LR、C▲　締良
8　灰黒褐色／LR、FE◎　締良
9　暗灰褐色／LB、LR△　締悪
10　暗灰褐色／LR△、LB、C　軟度低
11　暗灰褐色(やや明)／LR、LB、C△
12　暗灰褐色(13・15層より暗)／FE、LR△　軟度低
13　暗灰褐色／LR、LB◎、C▲　軟質
14　暗灰褐色／LR、LB、C▲　軟度低
15　暗灰褐色／LR、LB◎、C▲　軟質
16　暗灰褐色／耕作土　T、LR◎、C、S△　締良　堅緻
17　暗灰褐色(やや暗)／LB△　締良
18　暗灰褐色／粘質層　LR、LB、FE◎万　C▲　軟質
19　暗灰褐色／粘質層　FE◎、LR、C▲　軟度低
20　暗灰褐色(19層より暗)／FE△　軟質
21　暗灰褐色(暗)／LR、LB、FE△万　ざらつく
22　LB層(灰色がかる)　LB(ハード)主体　締良
23　暗灰褐色／粘質層 LB◎　粘強
24　黄褐色／粘土層　LR△　軟度高
25　LB層　LR・LB主体　ボロボロ　締悪
26　LB層　LB主体　ボロボロ

土層説明凡例
色調／含有物

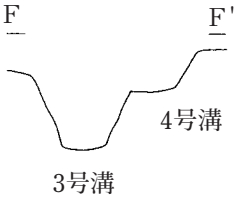
テフラ＝T	非常に多い＝☆
ローム＝L	多量＝◎
炭化物＝C	少量＝△
焼土＝S	微量＝▲
酸化鉄＝ＦＥ	万遍なく＝万
黒褐色＝ＢＢ	やや明るい＝やや明
黒色＝B	やや暗い＝やや暗
褐色＝Ｂｒ	非常にやわらかい＝軟度高
	やわらかい＝軟質
	ややわらかい＝軟度低
粒子＝R	かたい＝堅緻
ブロック＝B	締まり良し＝締良
	締まり悪し＝締悪
	粘性強し＝粘強
	粘性有り＝粘有



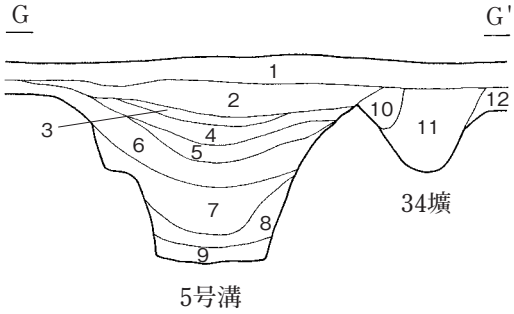
第33図　遺構26　溝1



L=12.10m

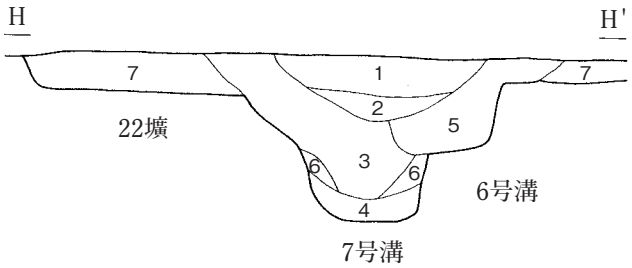


L=12.20m



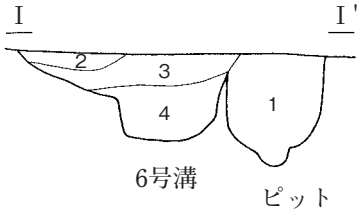
L=12.60m

○　5溝・34壙セクション
1　耕作土　LR、T◎　締良
2　暗灰褐色／LR◎、LB△、C▲　締良
3　暗灰褐色／LB◎、LR、C△　締良
4　暗灰褐色／LR◎、C、灰白色粘土R△　やや締悪
5　LB層　暗灰褐色B△　締良　堅緻
6　暗灰褐色／LR、FE◎、C▲　締良
7　暗灰褐色(6層より灰色味強)／FE、LR△　締良
8　黒褐色／LB、LR◎　軟質
9　暗灰褐色(7層より明)／LR、FE△　やや砂っぽい
10　暗灰褐色／LR、LB◎、C、S▲　ボロボロ
11　暗灰褐色／LR、LB△、T、C▲　軟度低
12　暗灰褐色／SB△　軟質

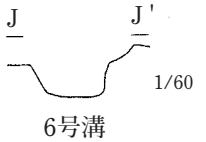


L=12.40m

○　6・7溝､22壙セクション
1　LB層　LR△　C▲　締良
2　暗灰褐色／C▲　締良　堅緻
3　暗灰褐色／FE◎　LR△　C▲T▲　締良　堅緻
4　暗灰褐色(3層より明)／LR、FE△　やや砂っぽい
5　暗灰褐色／LR△　C▲　締良
6　黒褐色／LR◎　LB◎　軟質
7　灰黒褐色／LR△　C　T　軟質



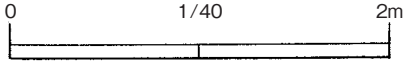
L=12.40m



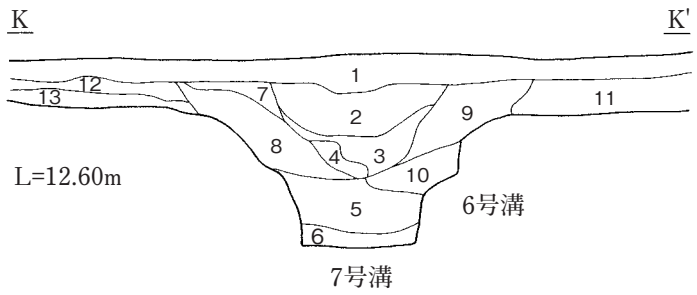
L=12.30m

※ポイント位置不明

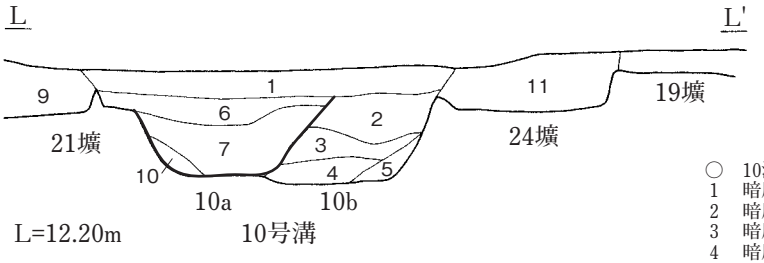
○　6溝セクション
1　暗灰褐色／LR、LB△　やや締悪
2　LB層　LBを主体　LR△　やや締悪
3　暗灰褐色(1層より明)／LR、LB△　締悪
4　暗灰褐色／LR、C　S▲　締良



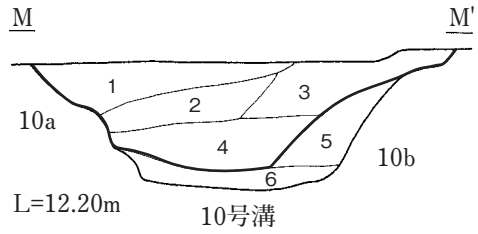
第34図　遺構27　溝2

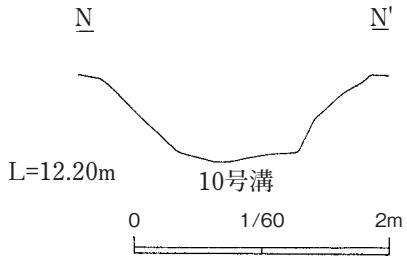


○　6・7溝セクション
1　耕作土　LR、T◎締良
2　LB層　LR△　締良　堅緻
3　暗灰褐色／CR　白色粘土R▲　軟度低
4　LB層　暗灰褐色B△　締良　堅緻
5　暗灰褐色／LR、LB△　FE▲　締良
6　暗灰褐色(5層より明)／LR　FE△　やや砂っぽい
7　暗灰褐色／LR、LB△　締良　堅緻
8　暗灰褐色／LB、LR、FE△　締良　堅緻
9　暗灰褐色／LB、LR△　C　白色粘土B▲　軟度低
10　暗灰褐色／LR△　FE　S△　締良
11　暗灰褐色／LR　C▲　締良
12　暗灰褐色／LR　T△　軟度低
13　黒褐色／LR△　軟度低

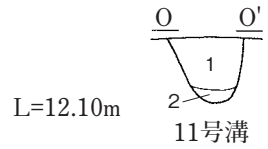


○　10溝、19·21・24壙セクション
1　暗灰褐色／LR◎、C、LB△、S▲　締良
2　暗灰褐色／LR◎、LB、C、S▲　締良
3　暗灰褐色(灰色味強)／C、LR△　軟度低
4　暗灰褐色(3層より灰色味強)／FE、LR　軟度低
5　暗灰褐色(灰色味強)／LR△　締良
6　暗灰褐色／LR、FE△、C▲　締良
7　暗灰褐色(2・3層より灰色味強)／FE◎、LR△、C▲　締良
9　黒褐色／LR、LB◎、C▲　締良
10　暗灰褐色／LR　LB△　締良
11　灰黒褐色／LR　LB◎　灰白色土R△　軟度低

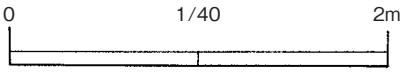




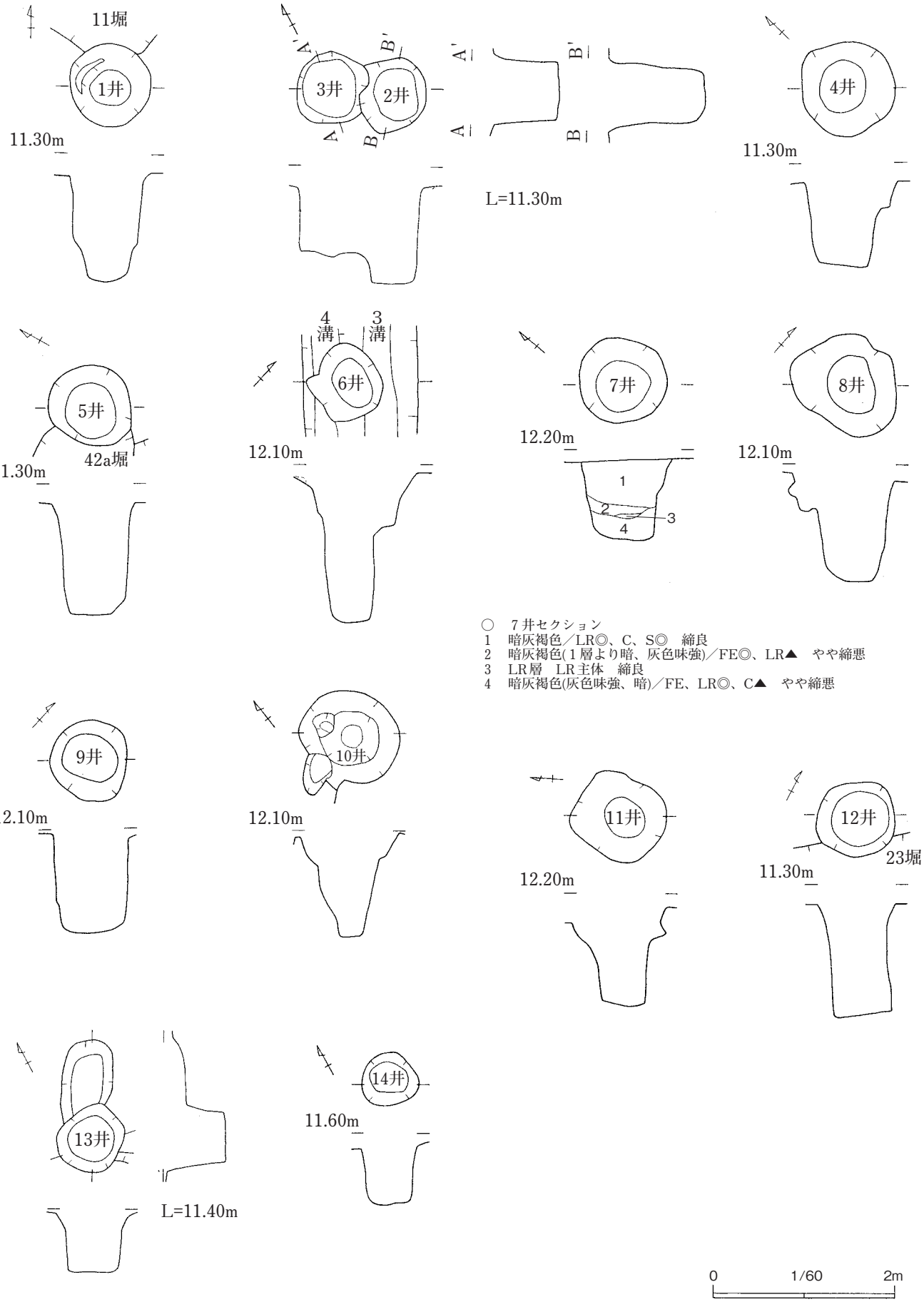
○　10溝セクション
1　暗灰褐色／LB◎、C、T▲　暗灰褐色B△　締良
2　暗灰褐色／LR　FE△、C▲　締良
3　暗灰褐色／LR◎、LB、CS▲　締良
4　暗灰褐色(2・3層より暗、灰色味強)／FE◎、LR△、C、S▲　締良
5　暗灰褐色／LR、LB△　軟度低
6　暗灰褐色／4層に似る　LR、FE△　締良



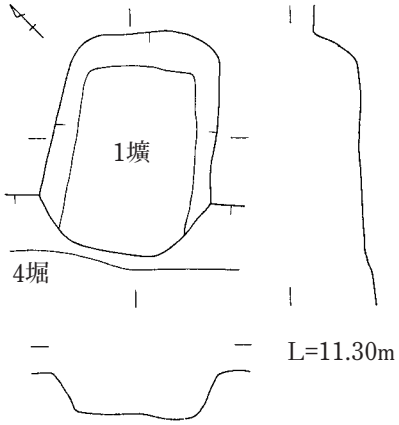
○　11溝セクション
1　灰黒褐色／LR、C▲　締良
2　黄褐色／灰黒褐色B△　軟度低

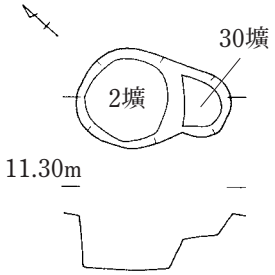


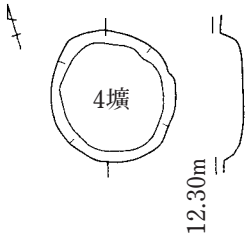
第35図　遺構28　溝3

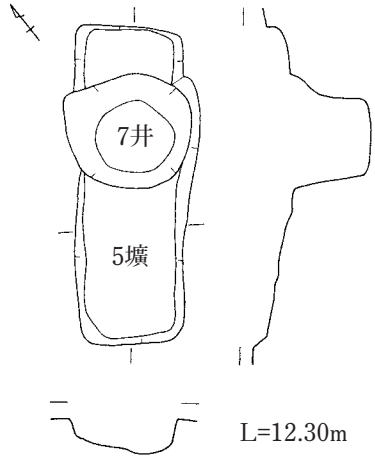


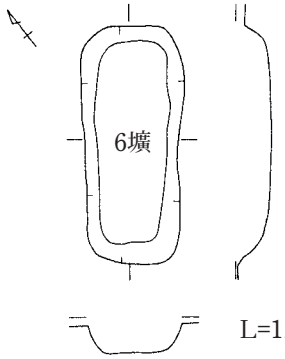
第36図　遺構29　井戸状遺構

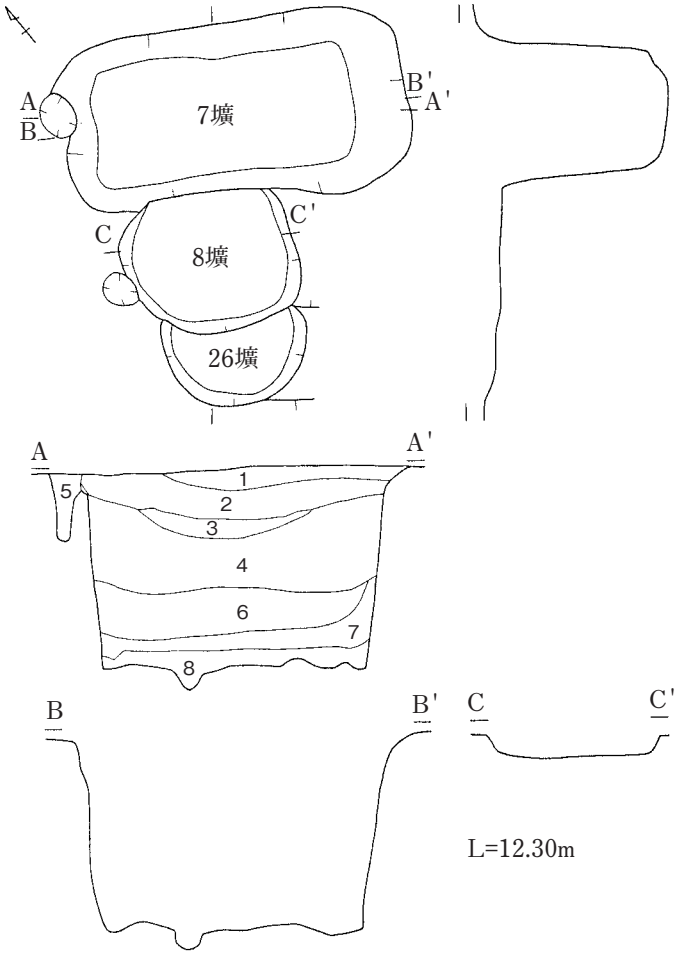








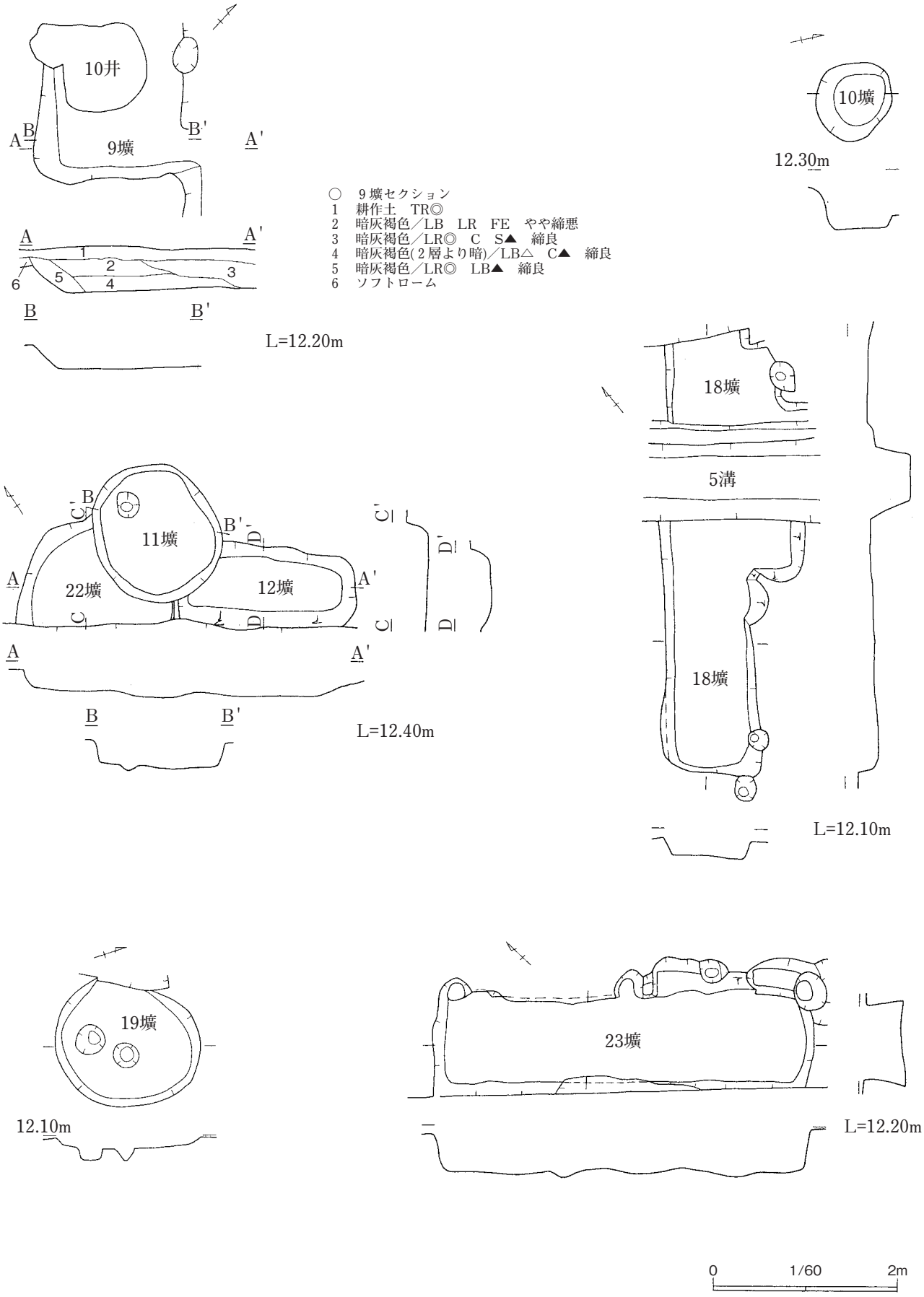




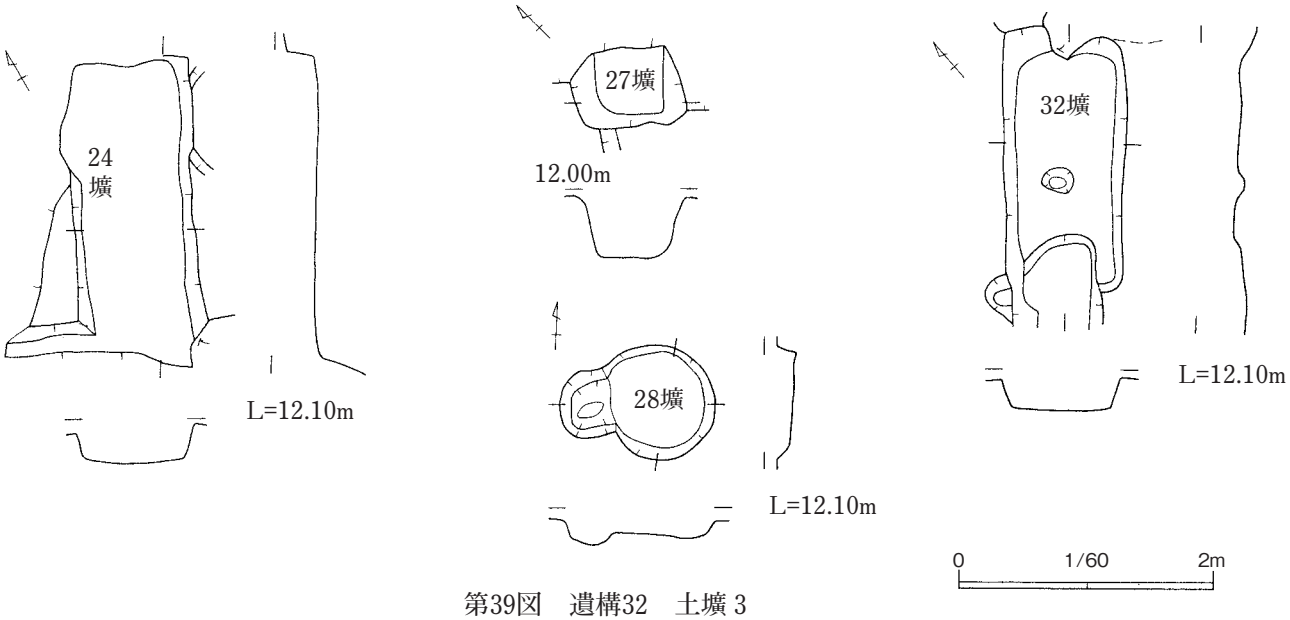
○　7壙セクション
1　暗灰褐色／T、LR、LB▲　締良
2　暗灰褐色／LR、LB◎万　軟度低
3　暗灰褐色(2層より暗)／LR、LB◎　軟質
4　暗灰褐色(2層より暗)／LR、LB△　軟質
5　LB層　LB主体　締良
6　暗灰褐色／LR(5層より△)、LB◎　軟質
7　暗灰褐色(非常に暗)／LR、C△　軟質
8　黄褐色／粘土層　軟度高　粘性強

0　1/60　2m

第37図　遺構30　土壙1



第38図　遺構31　土壙 2



第39図　遺構32　土壙 3

堀　掘り下げ

堀　掘り下げ

○は当該遺構　〈 〉は調査時のメモより　( )は残存値、☆はセクション図計測値　覆土(T＝テフラ、L＝ローム、S＝焼土、C＝炭化物、Fe＝酸化物/B＝ブロック、R＝粒子)

遺構名	位置	重複	平面形	断面形	規模(cm)	深さ(cm)	覆土	施設	出土遺物	年代	備考
1号堀	D-6･7G	なし	長方形	ゆるやか	(534)×146	10	不明	なし	肥前磁器皿/志野/在地(片口鉢)/飾り金具/漆椀/種(桃)		2堀とつながる
2号堀	D･E-6G	なし	長方形	ゆるやか	(250)×207	16	不明	なし	粉挽臼/種(桃)		1堀とつながる
3号堀	E-6G	なし	長方形	ゆるやか	915×220	7	不明	なし	板材		
4号堀	D-6G、E-5･6G、F-6G	1壙	L字形	ゆるやか	(2460)×290	☆46	暗灰褐色/含LR△、T▲　締良　堅緻	円形土壙2、方形土壙=1壙、畝2	龍泉青磁皿/中国染付皿/瀬美(皿･擂鉢)/かわらけ/焙烙/熔融物付着土器/在地(擂鉢･香炉ヵ)/漆蓋/漆椀/板材/柄/部材/加工材/小型壺/矧矢/竹材/下駄/折敷(底板)/円盤状製品/銭貨/粉挽き臼/茶臼/砥石/磨石/板碑/銭貨/種(桃･他)/胡桃/スラグ19g/〈煙管〉		
5号堀	F-6G	なし	方形ヵ	ほぼ直上	(935)×(263)	67	不明	なし	部材/砥石		KB15調査時に調査
6号堀	C･D-6G	なし	長方形	下突箱薬研	(300)×316	134	不明	長楕円形土壙1	備前ヵ蓋/漆椀/〈石臼〉		
7号堀	D-5･6G	なし	長方形	下突箱薬研	1040×380	☆138	暗灰褐色/含LR、T△、C▲　締良　堅緻	長楕円形土壙2、半円形ピット7	瀬美香炉/肥前大皿/在地片口鉢/かわらけ/砥石/種(桃)/マツカサ/〈土垂〉		
8号堀	E-5G	なし	長方形	下突箱薬研	(980)×323	☆136	暗灰褐色/含T、LR▲締良　堅緻	長楕円形土壙2	肥前甕ヵ/志戸呂皿/瀬美菊皿/焙烙/漆椀/銭貨(寛永通宝)		
9号堀	-	-	-	-	-	-	-	-	瀬美(天目･碗･香炉)/熔融物付着土器/釘(角)/刀子/煙管/棒状製品/竹片/板碑/銭貨/種(桃)/スラグ6g		
9号a堀	C-6G	なし	長方形	中突箱薬研	(350)×235	137	不明	長楕円形土壙1			9b堀との間掘込
9号b堀	D-5G、E-4･5G	なし	長方形	中突箱薬研	(2080)×235	☆130	暗灰褐色/含T、LR▲、LB　堅緻　締良	長楕円形土壙4、半円形ピット5、畝状掘残し2			9a堀との間掘込
10号堀	C-5G	なし	長方形ヵ	不明	246×(59)	不明	不明	なし			
11号堀	C-5G	1井→○	長方形	中突箱薬研	390×250	134	暗灰褐色/含LR△LB▲、T▲、C▲　堅緻　締良	弧状段、半円形段1、溝(12堀と接続)	木製品/種(桃)/スラグ32g		
12号堀	D-5G	なし	長方形	中突箱薬研	418×283	140	不明	半円形段、溝(11堀と接続)	瀬美皿/石製円盤/種(桃)/〈焙烙/坩堝〉		
13号堀	D-5G	なし	長方形	中突箱薬研	375×318	143	不明	長方形段、半円形ピット4、三角形段1	瀬美(天目･皿)/かわらけ/スラグ42g/〈栓〉		
14号堀	D-4･5G、E-4G	なし	長方形	下突箱薬研	420×346	140	不明	長三角形掘込3、半円形ピット3	かわらけ/杓子片ヵ/炭化材/種(桃)		
15号堀	E-4G	なし	方形	下突箱薬研	340×326	148	不明	円形堀込、長三角形掘込2、半円形段、半円形ピット	中国坏/在地擂鉢/板状銅製品/板材/火打石/種(桃)		
16号堀	C-5G	なし	長方形ヵ	不明	170×(52)	不明	不明	なし			
17号堀	C-5G	なし	長方形	下突箱薬研	440×320	143	南辺にLB	なし	志戸呂皿/板材/砥石/板碑/〈かわらけ/炭/種(桃)〉		
18号堀	C･D-5G	なし	長方形	中突箱薬研	350×250	122	不明	長楕円形段、半円形段3、半円形ピット3	〈かわらけ/板碑片/種(桃)〉		
19号堀	D-4G	-	-	-	-	-	-	-	中国染付皿/磨石/種(桃)		
19a号堀	D-4G	なし	長方形	下突箱薬研	458×275	140	不明	長楕円形土壙2、段1、ピット1, 小ピット5	粉挽臼		
19b号堀	D-4G	なし	長方形	下突箱薬研	403×270	154	不明	楕円形土壙1、長三角形掘込2	かわらけ/炭化縄/種(桃)/〈籾〉		
20号堀	E-4G	なし	長方形	中突箱薬研	(360)×(258)	128	灰層10cm	半円形掘込1、方形段1、長三角形掘込1	かわらけ/角材/種(桃)/胡桃/マツカサ/〈素焼擂鉢〉		

第1表　遺構一覧表1

○は当該遺構　〈　〉は調査時のメモより　（　）は残存値、☆はセクション図計測値　覆土（T＝テフラ、L＝ローム、S＝焼土、C＝炭化物、Fe＝酸化物/B＝ブロック、R＝粒子）

遺構名	位置	重複	平面形	断面形	規模(cm)	深さ(cm)	覆土	施設	出土遺物	年代	備考
21号堀	B･C-5G	なし	方形ヵ	箱薬研ヵ	424×(118)	140	不明	楕円形土壙			
22号堀	C-4･5G	なし	方形	下突箱薬研	340×360	134	不明	楕円形土壙	火打石/種(桃)/胡桃		
23号堀	C-4G	〈12井→○〉	方形	中突箱薬研	356×318	132	不明	円形土壙、長方形落込、半円形ピット	常滑甕/瀬美天目/桶(底板)/銭貨/磨石/板碑		
24号堀	C･D-4G	なし	方形	下突箱薬研	342×350	☆120	暗灰褐色/含LB▲、C、LR 堅緻締良	長三角形掘込2、楕円形段	L字状製品/種(桃)		
25号堀	D-4G	なし	長方形	中突箱薬研	350×255	☆132	暗灰褐色/含LB▲、C、LR 堅緻締良	楕円形土壙	瀬美擂鉢/かわらけ/熔融物付着土器/磨石/種(桃)/〈板材〉		
26号堀	D-4G	なし	長方形	中突箱薬研	296×250	128	暗灰褐色/含LB	半円形土壙、長三角形掘込	瀬美天目/焙烙/加工材/種(桃)		
27号堀	D-3･4G、E-4G	なし	不整方形	下突箱薬研	385×(375)	130	暗灰褐色/含C、LR△堅緻	半円形段3	瀬美志野皿〈17c代〉/銭貨/種(桃)/〈肥前陶器/焙烙/かわらけ/火打石/板碑〉		堀底V字形
28号堀	B-4G	なし	長方形	中突箱薬研	(206)×228	90	不明	溝(29堀と接続)	中国染付皿/炭化材		
29号堀	C-4G	なし	長方形	中突箱薬研	268×220	143	不明	半円形ピット2、ピット、溝(28堀と接続)	焙烙/かわらけ/加工材/握り鋏/砥石		
30号堀	C-4G	なし	長方形	中突箱薬研	306×184	130	暗灰褐色/含LR、T△、C▲　締良	半円形ピット、溝(31堀と接続)	かわらけ/〈焙烙/種(桃)〉		
31号堀	C-4G	なし	長方形	中突箱薬研	352×237	134	暗灰褐色/含LR、T△、C▲　締良	楕円形の段2、半円形ピット2、溝(30堀と接続)	瀬美擂鉢/板碑/〈焙烙/かわらけ/竹/種(桃)/木の実(茶ヵ)〉		
32号堀	C-4G、D-3･4G	なし	長方形	中突箱薬研	310×237	126	中位にLB層	長楕円形掘込、半円形ピット、溝(33堀と接続)	粉挽臼(下)/火打石/〈焙烙/板碑/炭〉		
33号堀	D-3G	なし	長方形	中突箱薬研	268×220	132	中位にLB層	半円形ピット、溝(32堀と接続)	桶側板/〈肥前陶器(16c後半)/在地擂鉢/焙烙/かわらけ/種(桃)〉		
34号堀	D-3G	なし	長方形	中突箱薬研	(326)×250	100	暗灰褐色/含LR、C、FE△　堅緻　中位にLB	円形土壙	かわらけ/銭貨/〈焙烙/急須の蓋/在地擂鉢/板碑片/種(桃)/実(ヒシ･茶ヵ)〉		
35号堀	B-4G	なし	長方形ヵ	不明	186×(42)	不明	不明	なし			
36号堀	B-4G、C-4G	なし	長方形	中突箱薬研	486×180	119	不明	半円形ピット2	志戸呂香炉ヵ/かわらけ/板碑/種(桃)		
37号堀	C-4G	なし	長方形	中突箱薬研	346×200	122	不明	長楕円形掘込	火打石/板碑/種(桃)		
38号堀	C-3G、C-4G	なし	長方形	中突箱薬研	390×160	100	不明	半円形ピット	焙烙/火打石/種(桃)		
39号堀	C･D-3G	なし	長方形	中突箱薬研	613×150	106	暗灰褐色/含LB	ピット	瀬美鼠志野鉢/中国染付皿/かわらけ/種(桃･他)/胡桃		
40号堀	D-3	なし	長方形	下突箱薬研	(268)×186	114	暗灰褐色/含LR、C、FE△　堅緻	半円形ピット2	割材		
41号堀	B-4G	なし	長方形	箱薬研	(118)×143	87	不明	なし			
42号堀	-	-	-	-	-	-	-	-	かわらけ		
42a号堀	B-4G	5井	長方形	中突箱薬研	320×135	113	不明	半円形ピット、半円形段	かわらけ/熔融物付着土器/板材/種(桃･他)/〈骨片〉		
42b号堀	C-3･4G	なし	長方形	中突箱薬研	474×143	129	暗灰褐色/含T◎　LR△　締良　堅緻　中位はLB◎	なし	茶臼/硯/板材/種(桃)		
43号堀	C-3G	なし	長方形	中突箱薬研	396×130	102	暗灰褐色/含LR、LB△、FE△　粘強　軟質	なし	瀬美天目/石製円盤/種(桃)/スラグ198ｇ		
44号堀	C･D-3G	なし	長方形	中突箱薬研	650×170	125	不明	長三角形掘込2、半円形段、ピット	中国青磁碗/在地擂鉢/漆椀/漆片/種(桃)/〈下駄〉		
45号堀	D-3G	なし	長方形	箱薬研	(297)×154	88	不明	なし	瀬美香炉/焙烙/杓子ヵ/板材		
46号堀	B-4G	1･10溝	方形ヵ	下突箱薬研	376×(186)	95	不明	なし	瀬美菊皿/〈焙烙〉		

第2表　遺構一覧表2

○は当該遺構　〈 〉は調査時のメモより　( )は残存値、☆はセクション図計測値　覆土(T＝テフラ、L＝ローム、S＝焼土、C＝炭化物、Fe＝酸化物/B＝ブロック、R＝粒子)

遺構名	位置	重複	平面形	断面形	規模(cm)	深さ(cm)	覆土	施設	出土遺物	年代	備考
47号堀	B･C-3G	1溝	方形	下突箱薬研	315×338	77	暗灰褐色/含T、FE◎LR、C▲粘強	長楕円形掘込、半円形土壙	龍泉青磁碗/瀬美(擂鉢･徳利)/かわらけ/焙烙/熔融物付着土器/在地片口鉢/鞴の羽口/加工材/板材/茶臼/火打石/磨石/鋲/鉤状製品/種(桃)		
48号堀	C-3G	なし	方形	箱薬研	375×346	122	不明	長三角形掘込3	中国ヵ染付皿/瀬美(平碗･天目･丸皿)/かわらけ/焙烙/目貫/粉挽臼/板材/枝/漆椀片/種(桃･他)/ス ラ グ35g/〈骨(角ヵ)/鉄釘/石臼〉		
49号堀	C-3G	1溝	長方形	下突箱薬研	404×312	120	不明	長三角形掘込2、半円形段	中国青磁稜花皿ヵ/瀬美(皿･瓶子ヵ･擂鉢)/かわらけ/熔融物付着土器/粉挽臼/砥石/磨石/板碑/塊状品(銅)/木錘ヵ/漆椀(膜)/種(桃)/スラグ8g/〈杭/竹〉		50堀との間に高まり/杭有り
50号堀	D-2･3G	1溝	方形	下突箱薬研	357×310	124	不明	半円形ピット	中国白磁端反皿/瀬美徳利/志戸呂丸皿/かわらけ/塊状品(銅)/銭貨/磨石/砥石/曲物ヵ/漆椀/種(桃)/〈桶〉		49･51堀との間に高まり
51号堀	D-2G	なし	長方形ヵ	箱薬研ヵ	276×(76)	不明	不明	なし	かわらけ/石製円盤/種(桃)		50堀との間に高まり
52号堀	B-3･4G	1溝	長方形	中突箱薬研	464×320	138	不明	長楕円形掘込、半円形段	瀬美(志野丸皿･皿)/かわらけ/焙烙/種子(ヒシの実)		

第3表　遺構一覧表3

調査風景

○は当該遺構　〈　〉は調査時のメモより　（　）は残存値、☆はセクション図計測値　覆土（T＝テフラ、L＝ローム、S＝焼土、C＝炭化物、Fe＝酸化物/B＝ブロック、R＝粒子）

遺構名	位置	重複	平面形	断面形	規模(cm)	深さ(cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
1号溝	B-3G、C-1・3G、D-2G	47・48堀→○/49・50・52堀	直線	箱薬研	幅☆(180)	☆70	暗灰褐色/含LR、灰褐色B◎　締良	瀬美(擂鉢・皿・天目)/志戸呂丸皿/在地(片口鉢・擂鉢)/焙烙/かわらけ/粉挽臼/砥石/五輪塔/磨石/板碑/銭貨/塊状品(銅)/スラグ302g/〈初山〉		
2号溝	B・C-3G	9・10・11溝、13井	直線	箱薬研	幅☆95	64	灰黒褐色/含ＦＥ△、LR▲締良　堅緻	在地擂鉢/焙烙/砥石/スラグ18g		3溝と断続
3号溝	C・D-2G	〈4溝、6井→○〉	直線	箱薬研	幅(80)	60	不明	粉挽臼		2溝と断続
4号溝	C・D-2G	〈○→3溝〉/6井	直線	箱薬研	幅(54)	35	ブカブカ	板碑		
5号溝	A・B-2G	14・18・34壙→○/10溝、24・27壙	直線	箱薬研	幅☆196	☆96	暗灰褐色/含LR◎、LB△、C▲　締良　上層にLB層	中国染付碗/瀬美平碗/かわらけ/焙烙/鞴の羽口/粉挽臼/砥石/擂石/銭貨/巻貝/スラグ44g		7溝と断続する
6号溝	C-1G	7溝→○	直線	箱薬研	幅☆(96)	☆37	暗灰褐色/含LR△、C▲　締良	かわらけ/焙烙/板碑/砥石/スラグ34g		
7号溝	C-1G	○→6溝	直線	箱薬研	幅☆(134)	☆90	暗灰褐色/含ＦＥ◎、LR△、C▲T▲　締良　堅緻	かわらけ/在地擂鉢/焙烙/板碑		
8号溝	欠番									34壙に振替
9号溝	B-3G	10、11溝	直線	箱薬研	幅53	22	暗灰褐色/LB、LR△　締良	かわらけ		
10号溝	A-2・3G、B-3G	21・24壙→○	直線	箱薬研	幅☆228	☆72	暗灰褐色/含LB◎、C、T▲　暗灰褐色B△　締良	瀬美(天目・志野丸皿・縁釉小皿・鉄絵皿・鼠志野鉢・織部向付)/志戸呂擂鉢/かわらけ/熔融物付着土器/粉挽臼/硯/砥石/板碑/磨石/銭貨/巻貝/スラグ350ｇ		
10a号溝	A-2・3G、B-4G	10ｂ溝→○	直線	箱薬研	幅125	40	暗灰褐色/含LR、FE△、C▲　締良	瀬美(天目・皿)/かわらけ/巻貝		
10b号溝	A-2・3G、B-5G	○→10ａ溝	直線	箱薬研	幅(55)	46	暗灰褐色/含LR◎、LB、C、S▲　締良			
11号溝	B-3G	2・9溝	直線	ほぼ直上	幅☆80	☆66	灰黒褐色/LR、C▲　締良			旧20壙

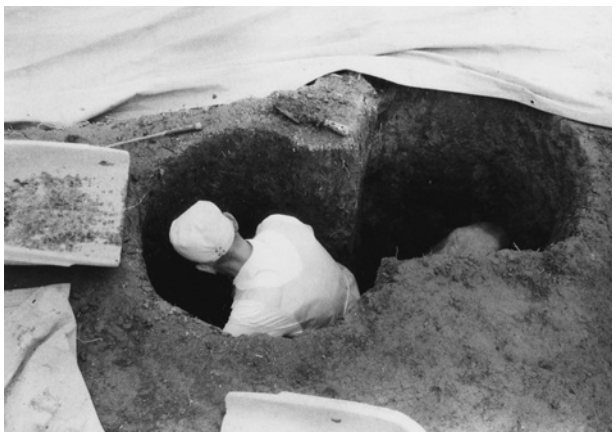
第４表　遺構一覧表４

調査風景

○は当該遺構　〈　〉は調査時のメモより　（　）は残存値、☆はセクション図計測値　覆土（T＝テフラ、L＝ローム、S＝焼土、C＝炭化物、Fe＝酸化物/B＝ブロック、R＝粒子）

遺構名	位置	重複	平面形	断面形	規模(cm)	深さ(cm)	覆土	施設	出土遺物	年代	備考
1号井戸	C-5G	○ → 11堀	円形	直上	径92	120 K-230	暗灰褐色/含LB、LR△　締良	なし	桶(底・側板)/折敷(縁ヵ)/丸棒加工品/茶臼/粉挽臼/種(桃)		
2号井戸	C-5G	○→3井	円形	直上	径84	106 K-226	暗灰褐色/含LB△、LR▲　締良	壁面凹み3ヶ所	板碑(貞治5年ヵ・貞和2年)/〈かわらけ/竹片/板〉		
3号井戸	C-5G	2井→○	円形	直上	径74	74 K-186	暗灰褐色/含LB△　締良	なし	折敷底板ヵ/種(桃)/〈焙烙/かわらけ/竹/板碑片/石〉		
4号井戸	D･E-4G	なし	円形	ほぼ直上	径105	95 K-203	不明	なし	かわらけ/磨石/〈焙烙/桶のタガ/板碑片〉		
5号井戸	B-4G	42a堀	円形	ほぼ直上	径93	127 K-237	不明	なし	桶(底・側板)/銭貨/板碑		
6号井戸	C-2G	〈○→3溝〉/4溝	円形	直上	径82	166	不明	なし	肥前皿/熔融物付着土器/鉄鏃ヵ/銭貨/〈青花片〉		
7号井戸	C-2G	5壙→○	円形	ほぼ直上	径100	☆92	暗灰褐色/含LR◎、C、S△　締良	なし	かわらけ/熔融物付着土器/碁石		
8号井戸	B-2G	16壙→○/18壙	楕円形	ほぼ直上	116×90	☆124	暗灰褐色/含LB◎　締悪	壁面凹みヵ	スラグ6g		
9号井戸	B-2G	なし	円形	直上	径90	☆110	暗灰褐色/含LR、LB◎　締悪	壁面凹みヵ			
10号井戸	C-2G	〈9壙→○〉	円形	ロート形	径110	117	不明	なし			
11号井戸	B-3G	なし	不整円形	ロート形	102×90	110	暗灰褐色/含LR、LB◎　締悪	なし	小柄(刀身)		
12号井戸	C-4G	〈○→23堀〉	円形	ほぼ直上	径90	125 K-237	不明	なし	桶(底板)/銭貨		
13号井戸	B-3G	2･10溝	円形	ほぼ直上	径80	65 K-186	不明	なし			

第5表　遺構一覧表5



調査風景

○は当該遺構　〈　〉は調査時のメモより　（　）は残存値、☆はセクション図計測値　覆土（T＝テフラ、L＝ローム、S＝焼土、C＝炭化物、Fe＝酸化物/B＝ブロック、R＝粒子）

遺構名	位置	重複	平面形	断面形	規模(cm)	深さ(cm)	施設	覆土	出土遺物	年代	備考
1号土壙	D-6G	4堀	長方形	ほぼ直上	(180)×130	40 K-146	なし	黒褐色/含LB◎	焙烙/種(桃)		
2号土壙	D-4G	30壙	円形	ほぼ直上	径80	46 k-151	なし	不明			
3号土壙	C-1G	なし	楕円形	ゆるやか	66×90	9	なし	暗灰褐色/含LB、LR、白色粘土△、C▲　ボロボロ			遺構位置図の平面形は方形
4号土壙	C-2G	なし	円形	ほぼ直上	径110	16	なし	暗灰褐色(暗)/含LR、C▲　締良			
5号土壙	C-2G	○→7井	長方形	ほぼ直上	258×86	32	なし	不明			
6号土壙	C-2G	なし	長方形	ほぼ直上	192×74	26	なし	暗灰褐色/含LR▲、S▲　締良			
7号土壙	C-2G	8壙→○	長方形	ほぼ直上	275×140	☆162	なし	暗灰褐色/含T、LR、LB▲　締良	砥石		壁、底面粗い掘り
8号土壙	C-2G	7・26壙	円形	ほぼ直上	径150	19	なし	不明	スラグ10g		
9号土壙	C-2G	〈○→10井〉	方形ヵ	ゆるやか	(186)×(134)	☆50	なし	暗灰褐色/含T、LR◎			
10号土壙	B-2G	5溝→○	円形	ほぼ直上	径85	☆34	なし	暗灰褐色/含LB、LR◎、C△　締悪　ボロボロ	かわらけ		
11号土壙	C-1G	〈12壙→○〉/22壙	円形	ほぼ直上	径160	28	なし	不明			
12号土壙	C-1G	〈○→11壙〉/22壙	長方形	ほぼ直上	196×96	24	なし	不明	銭貨/碁石		
13号土壙	C-1G	なし	長方形	ほぼ直上	(194)×(90)	17	なし	不明	かわらけ		
14号土壙	A-2G	○→5溝、15壙	長方形	ゆるやか	(64)×68	6	なし	暗灰褐色/含LR◎、C、S▲　締良			
15号土壙	B-2G	14・16壙→○/17壙	長方形ヵ	ほぼ直上	(130)×(109)	20	なし	暗灰褐色/含LR、灰白色粘土B、LB△、C▲　締良			
16号土壙	B-2G	17壙→○→14・15壙、8井	長方形	ほぼ直上	(400)×95	☆22	なし	暗灰褐色/含LR△　C▲　締良			
17号土壙	B-3G	○→16壙/15壙	円形ヵ	ほぼ直上	(116)×(58)	☆17	なし	暗灰褐色/含LR、LB△、T、S▲　締良			
18号土壙	A・B-2G	○→5溝/16壙	長方形	ほぼ直上	(497)×98	☆24	なし	暗灰褐色/含LR◎　T△　C、S▲　締良			
19号土壙	A-3G	○→24壙	円形	ゆるやか	径168	☆12	なし	暗灰褐色/含LR、LB△万　締良			
20号土壙	欠番										11溝へ振替
21号土壙	A-3G	○→10溝	長方形	ほぼ直上	(280)×(82)	26	なし	黒褐色/含LR、LB○、C▲　締良			
22号土壙	C-1・2G	7溝、11・12壙	円形ヵ	ほぼ直上	180×(122)	20	なし	不明			
23号土壙	B-1・2G	なし	長方形	オーバーハング	424×82	48	なし	不明			
24号土壙	A-3G	19壙→○→10溝/5溝	長方形	ほぼ直上	(230)×96	26	なし	灰黒褐色/含LR、LB◎　灰白色土R△　軟度低	焙烙		
25号土壙	B-2G	なし	円形ヵ	ゆるやか	(140)×(84)	14	なし	灰黒褐色/含T、C、S▲　締良			
26号土壙	C-2G	8壙	円形ヵ	ゆるやか	118×(76)	10	なし	不明			
27号土壙	B-2G	5溝	方形ヵ	ほぼ直上	94×(63)	50	なし	不明			
28号土壙	B-3G	なし	円形	ほぼ直上	径90	16	なし	暗灰褐色/含LB、LR◎			
29号土壙	B-3G	なし	円形	ほぼ直上	径90	9	なし	不明			
30号土壙	D-4G	2壙	楕円形ヵ	ほぼ直上	52×(50)	18 K-130	なし	不明	種(桃・他)		
31号土壙	A-2G	33壙	長方形	ほぼ直上	(266)×108	16	なし	不明	砥石		
32号土壙	A-2G	10溝	長方形	ほぼ直上	202×90	28	なし	不明			
33号土壙	A-2G	31壙	長方形	ほぼ直上	(133)×(42)	20	なし				
34号土壙	B-2G	なし	隅丸長方形	ほぼ直上	222×71	☆45	なし	暗灰褐色/含LR△、LB△、T▲、C▲　軟度低			旧8溝

第6表　遺構一覧表6

第Ⅳ章　出土した遺物

第１節　土器類

騎西城跡で出土している土器類は大略以下の通りに分類できる。

胎質では磁器・陶器・土器、生産地では国外産である輸入品、国内産に大別できる。また、器種は多様である。

これらの要素により時代等を加味し、掲載順は、輸入品では青磁・白磁・陶器・染付・朝鮮陶磁・その他、国産品では渥美・常滑・瀬戸美濃・肥前系陶器・志戸呂・初山・備前・丹波信楽・ほか・産地不明・肥前系磁器・瀬戸美濃系磁器・在地産土器とする。その他で鞴の羽口や土製品を扱う。

以上、分類・年代等はいずれも暫定的なものでいずれ整理をしたい。さて、今回の調査で報告する土器類は主に以下の通りで細片は省略している。

【輸入陶磁】

〈青磁〉　碗が44堀（71）・47堀（76）・遺構外（173～175）で、稜花皿が４堀（３）・49堀（96）・遺構外（176・177）で出土した。

〈白磁〉　口禿碗が遺構外（178）で、端反皿が50堀（113）・遺構外（179）で、小坏が15堀（43）で出土した。

〈染付〉　碗が５溝（140）・遺構外（180～182）で、皿が４堀（４）・19堀（46）・28堀（55）・39堀（65）・48堀（86）・遺構外（183～186）で、香炉ヵが遺構外（187）で出土した。

〈陶器〉　甕が遺構外（188）で出土した。

【国産】

〈渥美〉　甕が遺構外（189）で出土した。

〈常滑〉　甕が23堀（49）で出土した。

〈瀬戸美濃〉

○古瀬戸中期　瓶子ヵが49堀（99）で出土した。

○古瀬戸後期　擂鉢が４堀＋25堀（７）・４堀（８）・47堀（77）で、平碗が48堀（87）で出土した。

◎大窯前半　天目茶碗が48堀（89）・遺構外（190・191）で、平碗が５溝（141）で、皿が４堀（５・６）・12堀（38）・13堀（40）・48堀（90）・１溝（132）・遺構外（193）で、３／４以上残存の丸皿が遺構外（192）で、縁釉小皿が10溝（153）で出土した。

◎大窯後半　天目茶碗が９堀（34）・13堀＋26堀（39）・23堀（50）・43堀（70）・48堀＋１溝（88）略完形・外堀＋６Ｔ（123）で、皿が１溝（132）で、志野丸皿が10溝（151）で、擂鉢が31堀（59）・47堀（78）・遺構外（201～203）で、鼠志野鉢が39堀＋ＫＢ15＋ＫＢ18＋ＫＢ19＋騎５（64）・10溝（156）で、志野小坏が遺構外（199）で出土した。

◎大窯ヵ　志野皿が27堀（54）で、徳利が47堀（79）が出土した。

●登窯期　天目茶碗が10溝（150）で、略完形の小碗（124）が外堀＋２Ｔで、菊皿が46堀＋８堀（75）で、皿が52堀（118）・10溝（154）・遺構外（194・195）で、志野丸皿が52堀（119）・遺構外（196）で、灯明皿が外堀（125）３／４以上残存・遺構外（198）で、鉄絵皿が10溝＋ＫＢ16（152）で、香炉が７堀（27）・９堀（36）で、織部向付が10溝（155）で、擂鉢が49堀＋１溝（98）で、黄瀬戸鉢が遺構外（200）で出土した。

〈肥前系陶器〉　皿が６井（166）で、大皿が７堀（27）で、甕ヵが８堀（31）で出土した。

〈志戸呂〉　皿が８堀（32）・17堀（45）・50堀＋１溝（115）３／４以上残存で、灯明皿が遺構外（204・205）で、擂鉢が10溝（157）・遺構外（206）で、徳利が遺構外（207）で、香炉ヵが36堀（61）で出土した。

〈備前〉　蓋が６堀（26）で出土した。

〈肥前系磁器〉　皿が１堀（１）で出土した。

〈在地産土器〉

○かわらけ　ほぼすべての遺構から出土した。

完形のものは４堀（11・12）で出土した。

略完形のものは４堀（13・14）・20堀（48）・34堀（60）・48堀（91）・49堀（100）で出土した。

黒色物質が付着するもの

灯芯油痕が４堀（13・14）・１溝（134）に、黒色物が50堀（116）に、内面に漆ヵが10溝（162）に、

ススが10溝（163）・遺構外（221）に付着していた。

赤褐色被膜（漆ヵ）が付着するもの

48堀（92）で出土した。

手づくねと思われるものが１溝（136）で出土した。

○熔融物付着土器　　４堀(17～19)・９堀(37)・25堀（52）・42ａ堀（69）・47堀（82）・49堀（101～112）・外堀（126～129）・10溝（164）・６井（167）・７井（169）・遺構外（223～228）で出土した。そのうち**金粒子が付着しているもの**は、49堀(104・105・106・107)、10溝（164)、遺構外（223・225・228）である。

○ほうろく　４堀（20～22）・８堀（33）・26堀＋29堀(53)・38堀(63)・45堀(74)・47堀＋１溝(83)・48堀（94・95）・52堀（122）・２溝（139）・５溝（143）・６溝＋７溝（145）・１壙（170）・遺構外（229・230）で出土した。４堀（20）は３／４以上残存する。

○火鉢　外堀（131）で出土した。

○擂鉢　４堀（23・24）・15堀（44）・44堀（72）・１溝（137）・１溝＋２溝（138）・７溝（148）・遺構外（231）で出土した。

○土鍋　外堀（130）で出土した。

○片口鉢　７堀（30）・47堀＋１溝（84・85）で出土した。

○香炉　４堀（25）・遺構外（232・233）で出土した。

【その他】

スサ痕のある土壁片（234・235）が遺構外で、鞴の羽口が47堀（236）・５溝（237）で、炉床ヵ（238）が２Ｔで、スラグヵ（239）が外堀で出土した。

４号堀　在地擂鉢（土－23）

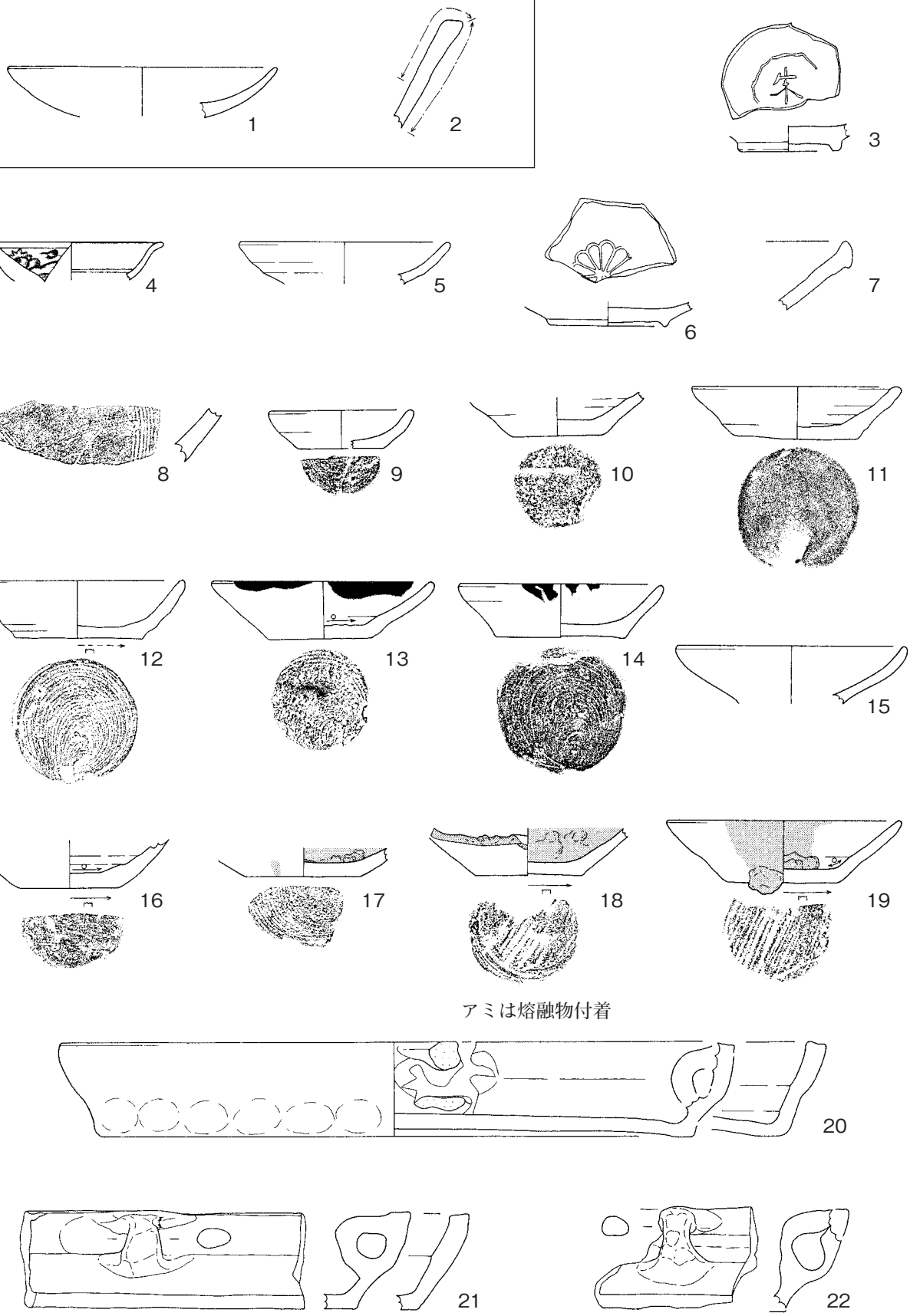
４号堀　ほうろく（土－20）

20号堀　かわらけ（土－48）

17号堀　かわらけ（未図化）

1堀

4堀-1

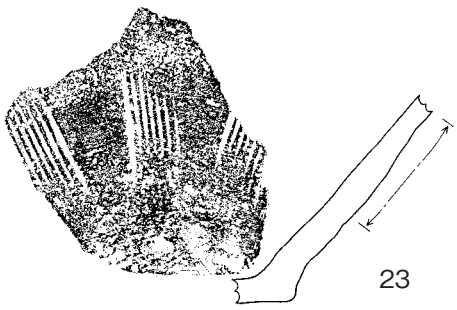


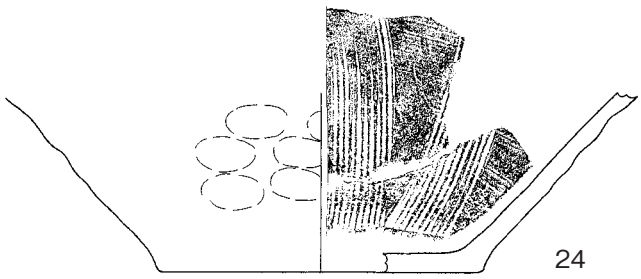
アミは熔融物付着

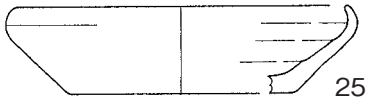
第40図　土器類１

0　1/3　10cm

4堀-2

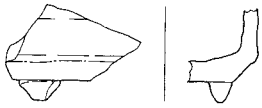


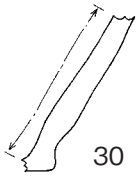




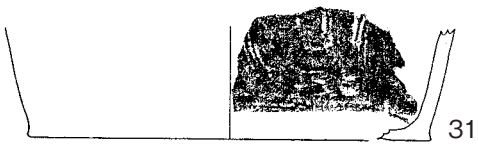
6堀

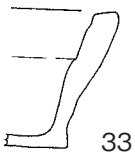
7堀



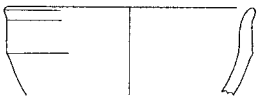


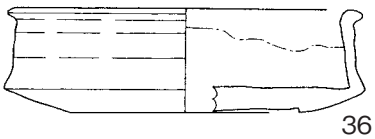
8堀





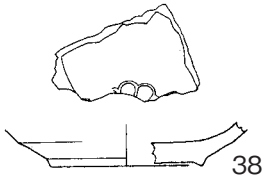
9堀



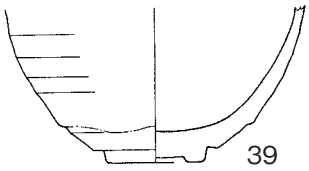


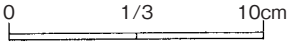
アミは熔融物付着

12堀



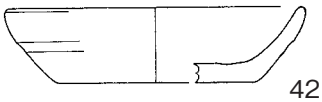
13堀





第41図　土器類 2

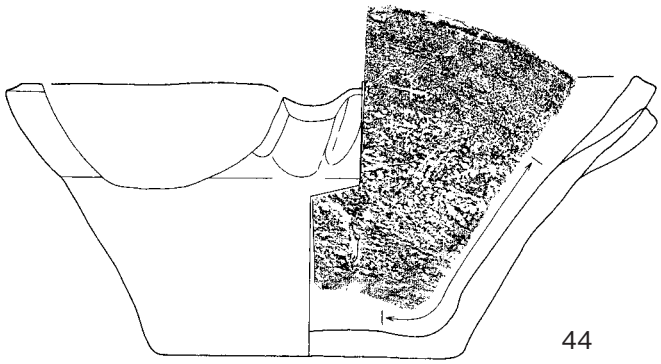
14堀



42

15堀

43



44

17堀

45

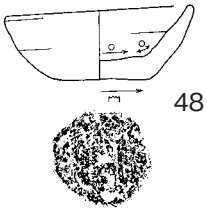
19堀

46

(19b堀)

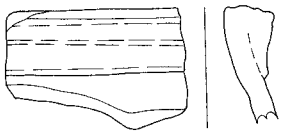
47

20堀

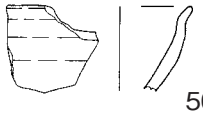


48

23堀

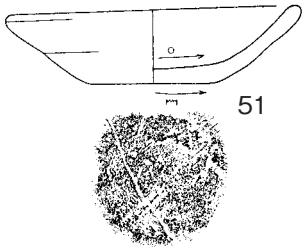


49



50

25堀

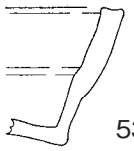


51

52

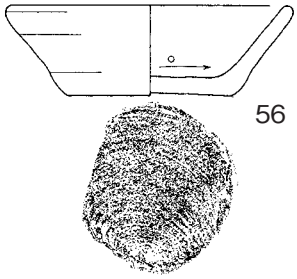
アミは熔融物付着

26堀



53

29堀



56

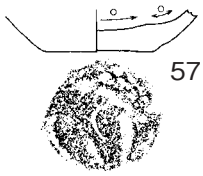
27堀

54

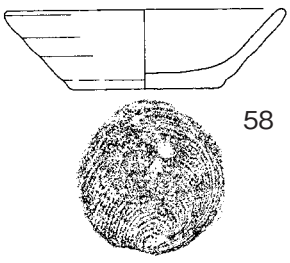
28堀

55

30堀

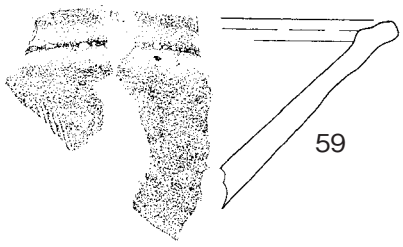


57



58

31堀

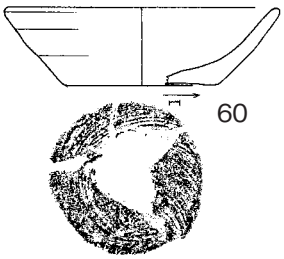


59

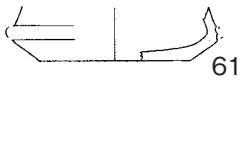
0 1/3 10cm

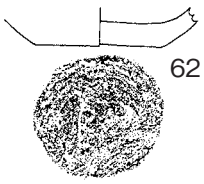
第42図　土器類 3

34堀

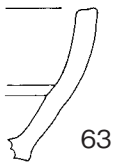


36堀

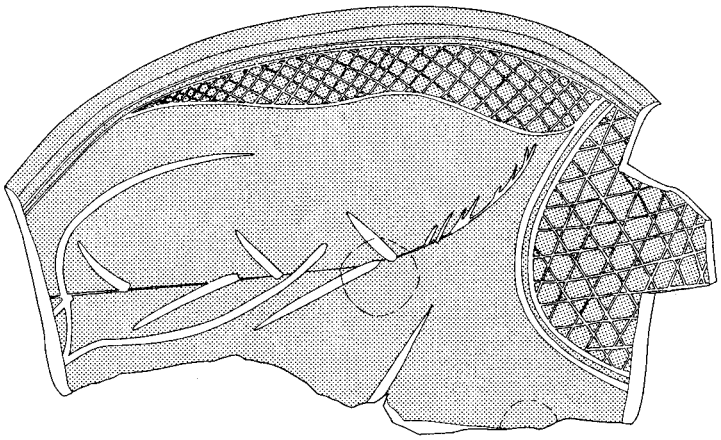


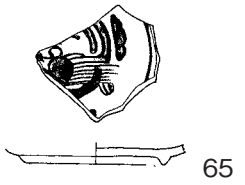


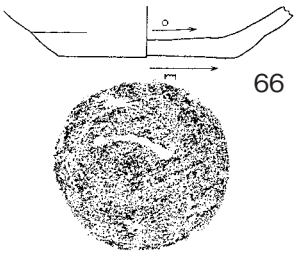
38堀



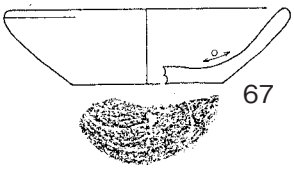
39堀



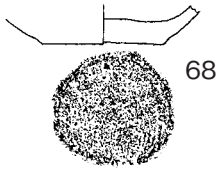




42堀

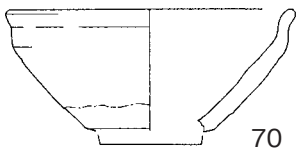


(42a堀)

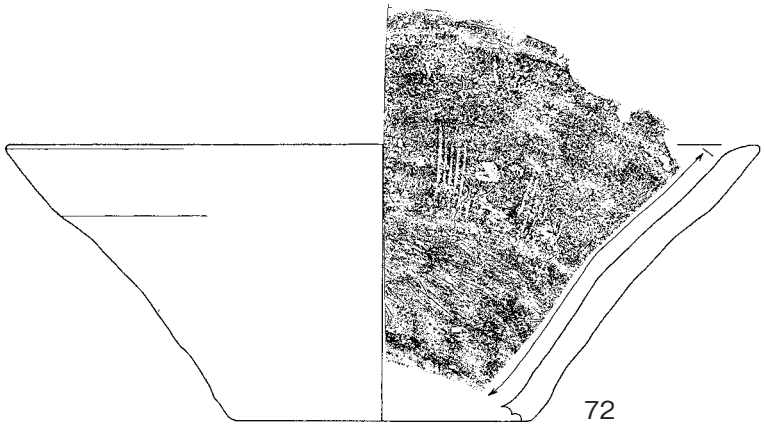


アミは熔融物付着

43堀



44堀

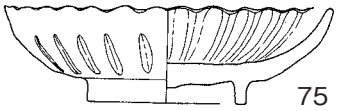


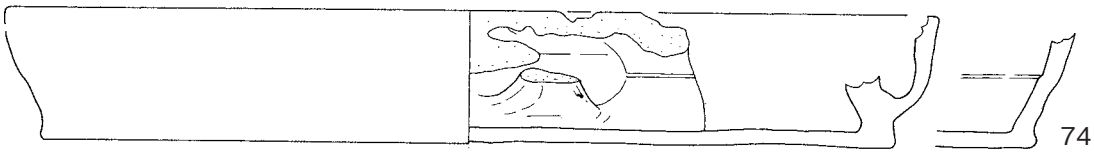
0 1/3 10cm

第43図　土器類 4

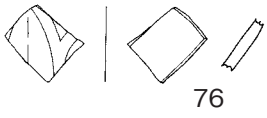
45堀

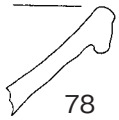
46堀

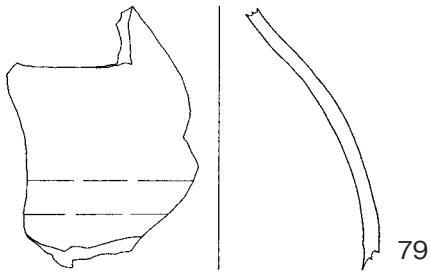


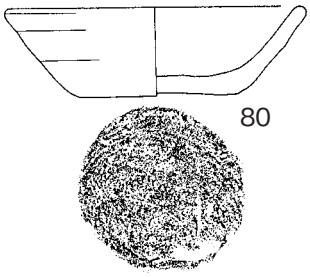


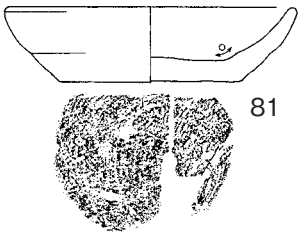
47堀



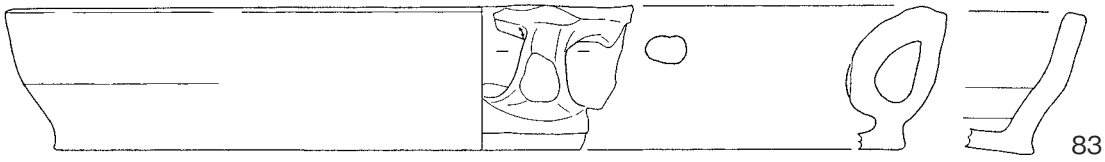


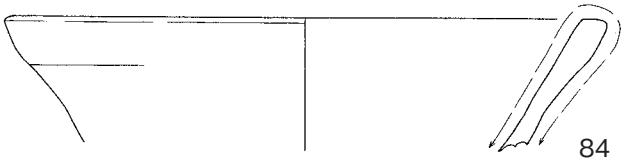


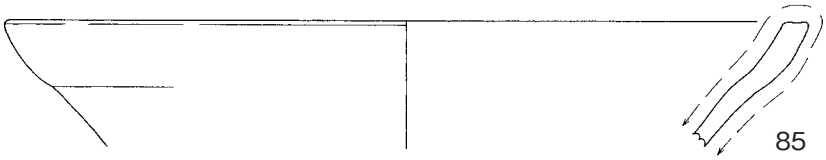


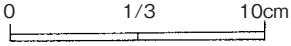


アミは熔融物付着



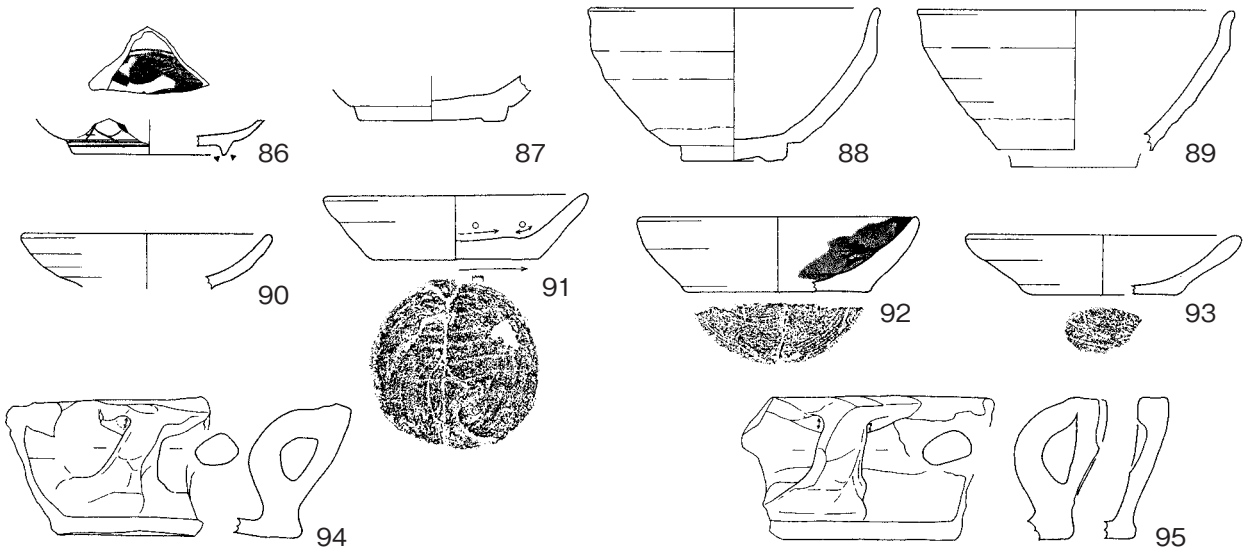




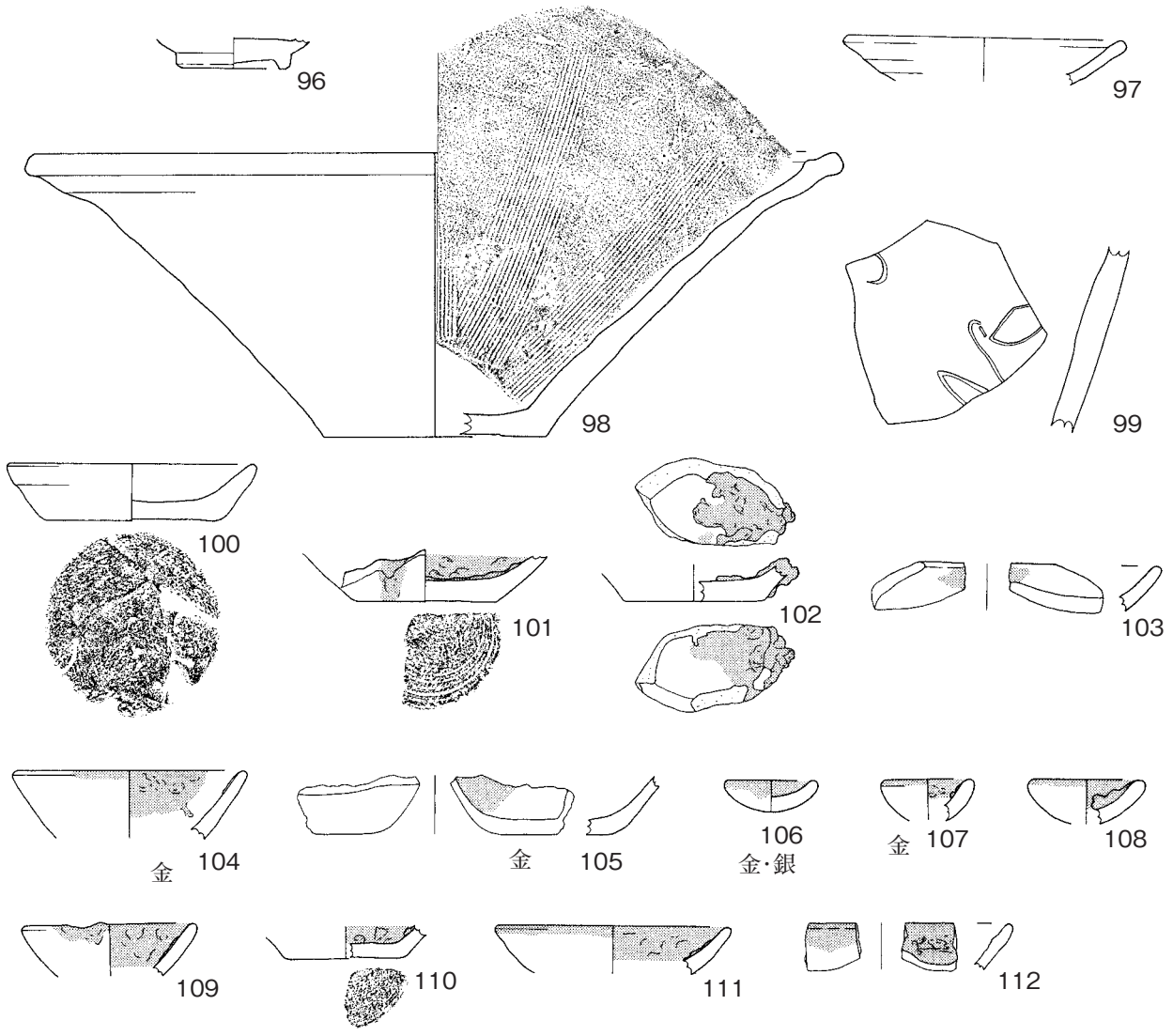


第44図　土器類 5

48堀



49堀

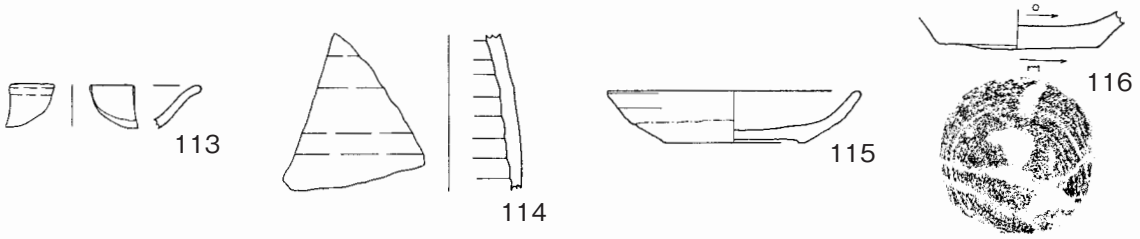


アミは熔融物付着

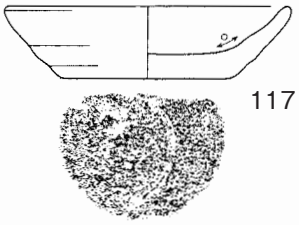
0 1/3 10cm

第45図　土器類 6

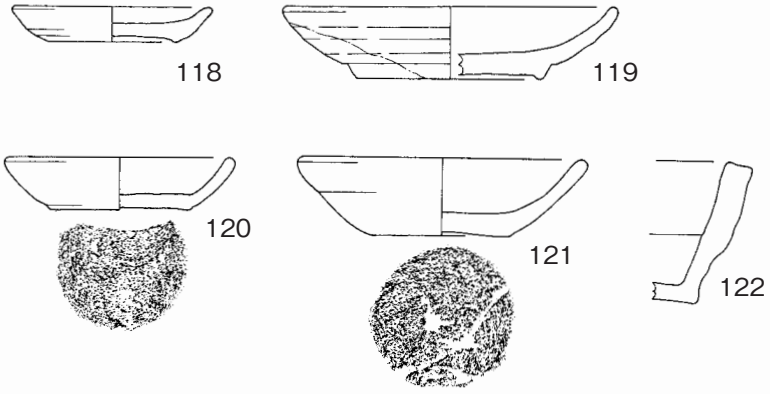
50堀



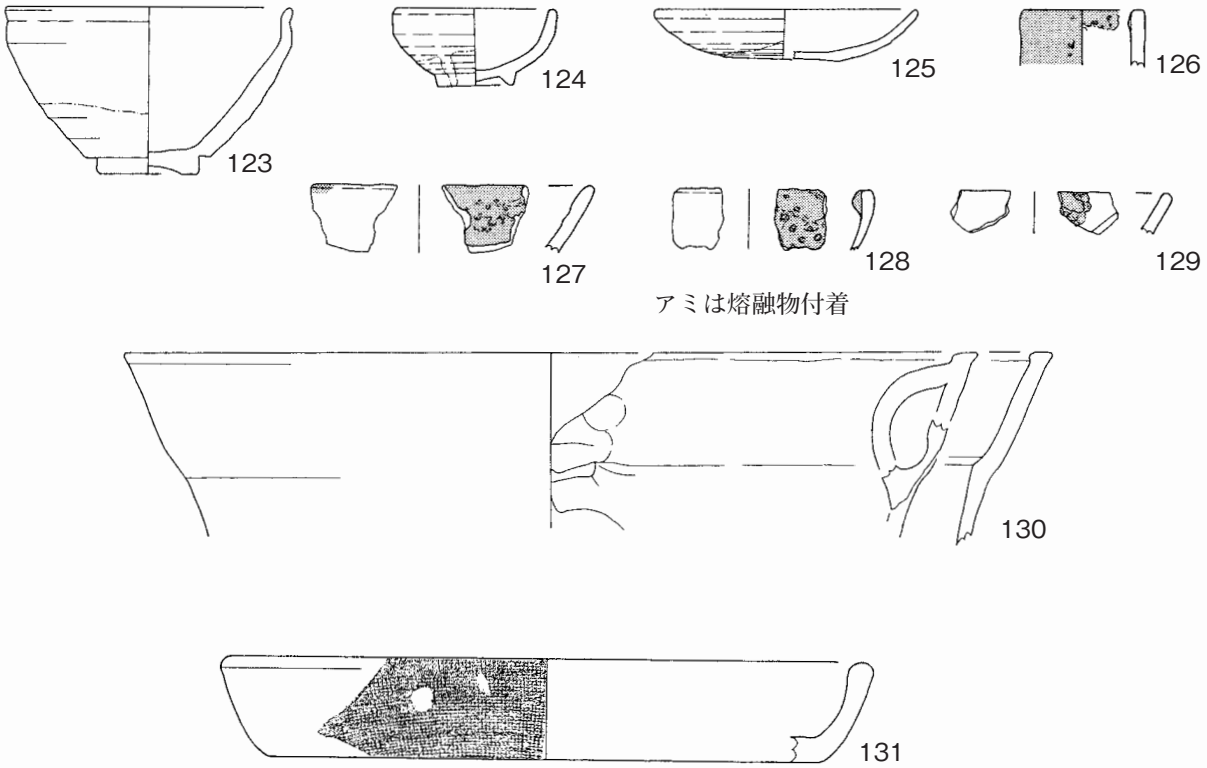
51堀



52堀



外堀

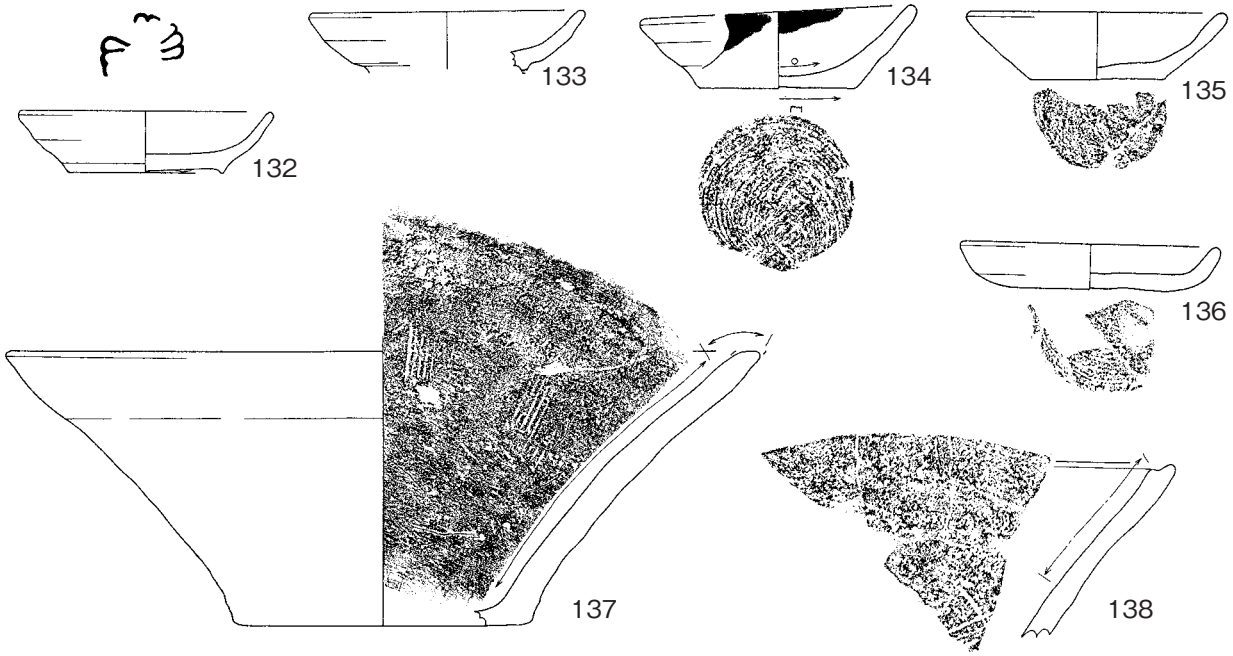


アミは熔融物付着

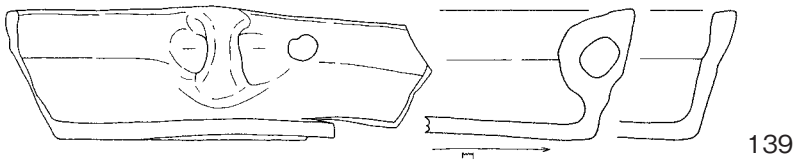
0 1/3 10cm

第46図　土器類７

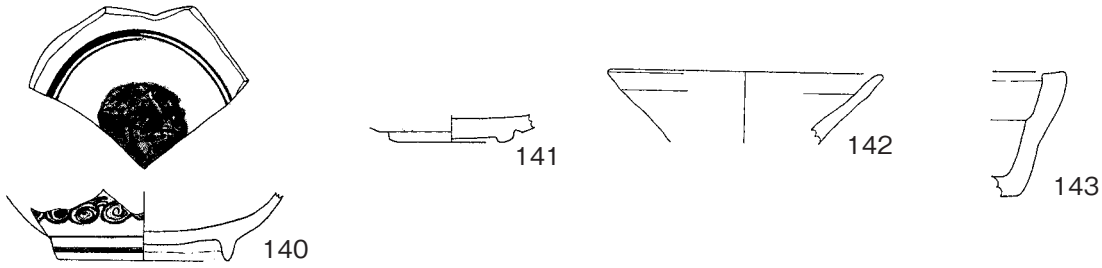
1溝



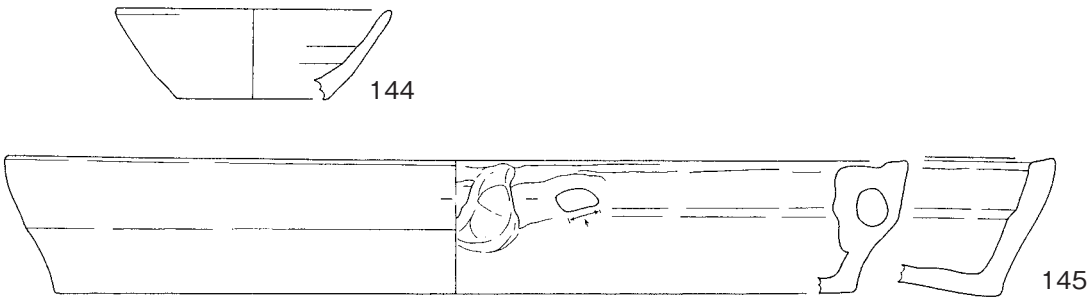
2溝



5溝



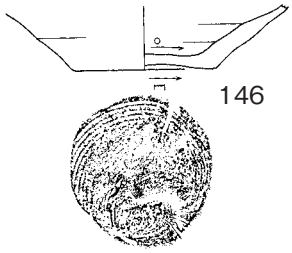
6溝

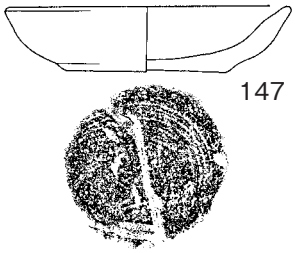


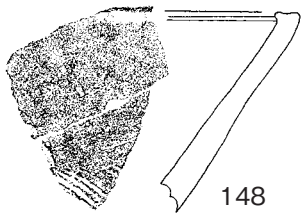
0 1/3 10cm

第47図　土器類 8

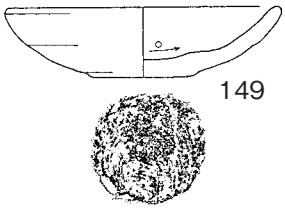
7溝



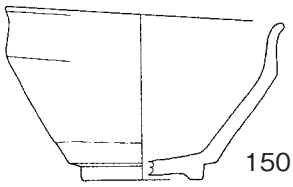


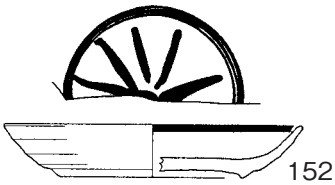


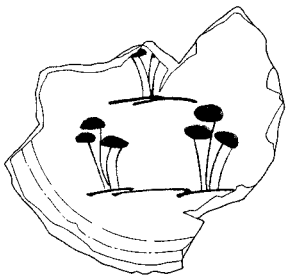
9溝

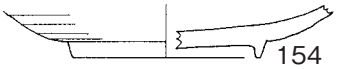


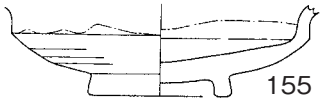
10溝

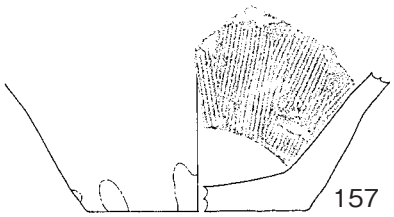


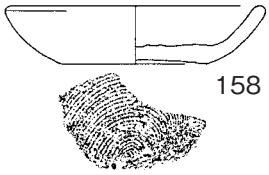


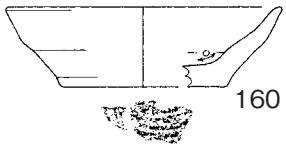


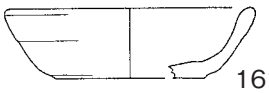


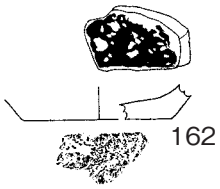


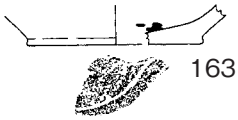










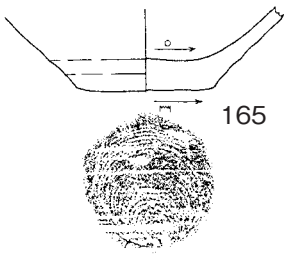


金

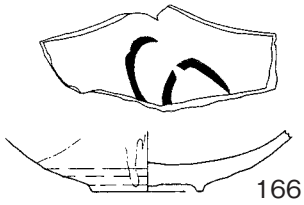
黒塗は漆ヵ

アミは熔融物付着

4井



6井

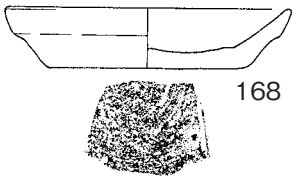


アミは熔融物付着

0 1/3 10cm

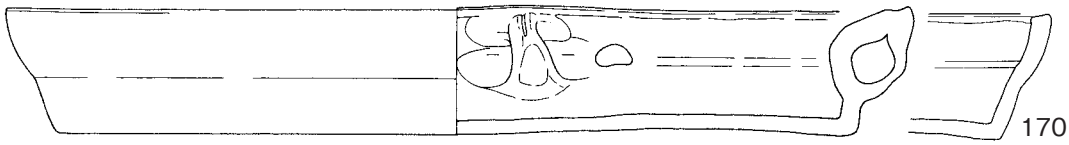
第48図　土器類 9

7井

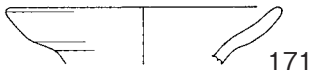


アミは熔融物付着

1壙

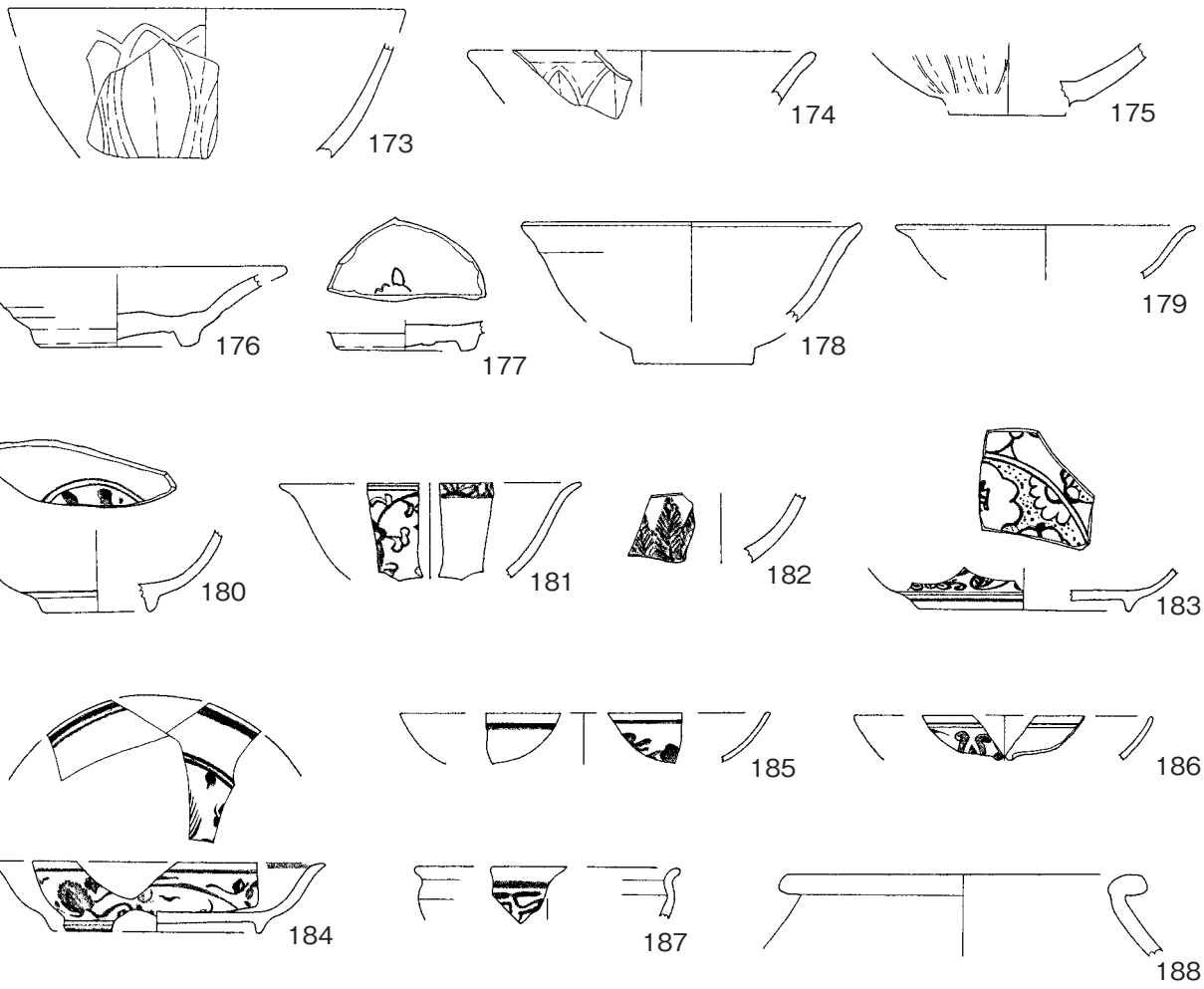


10壙



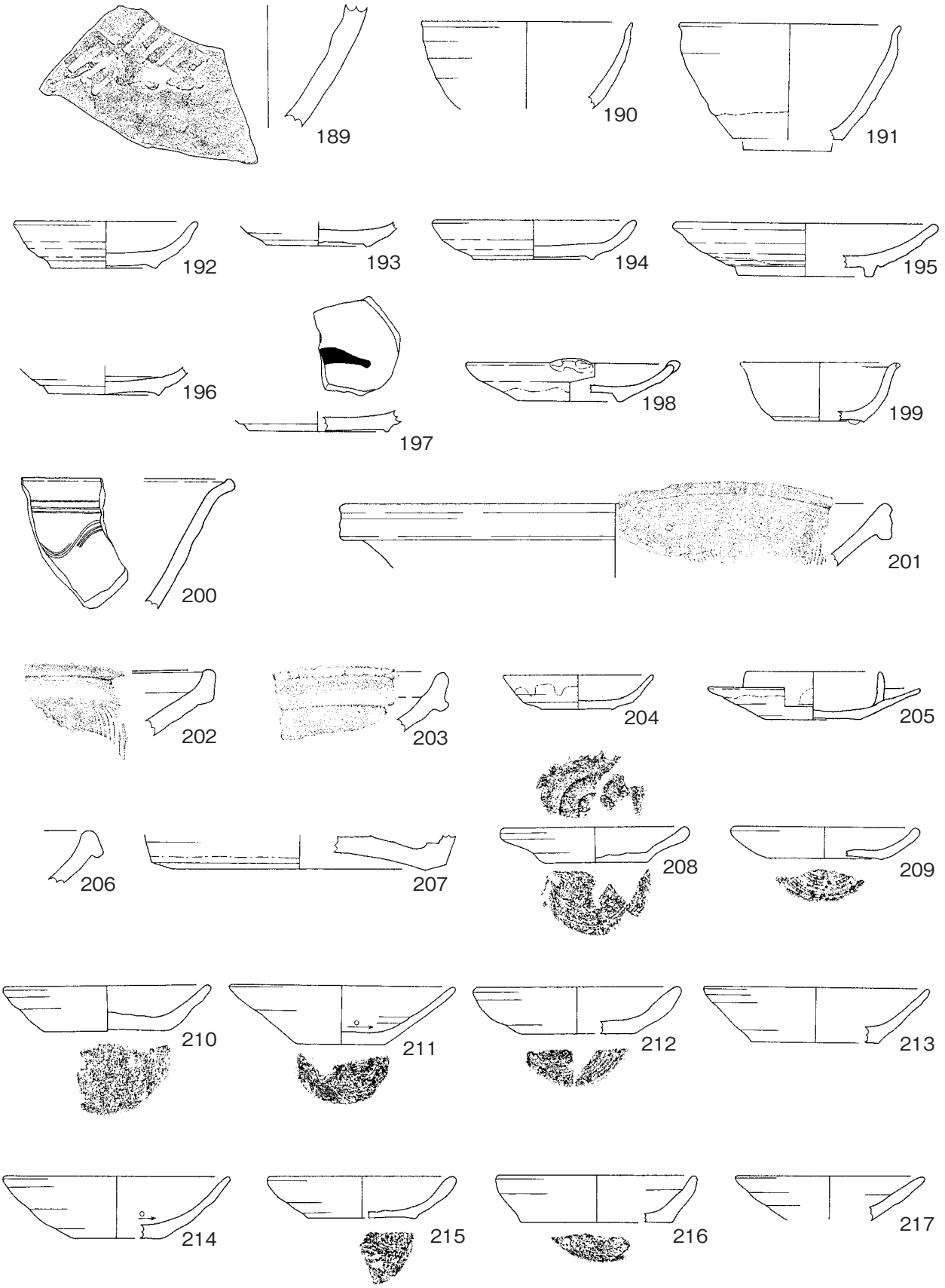
13壙

遺構外

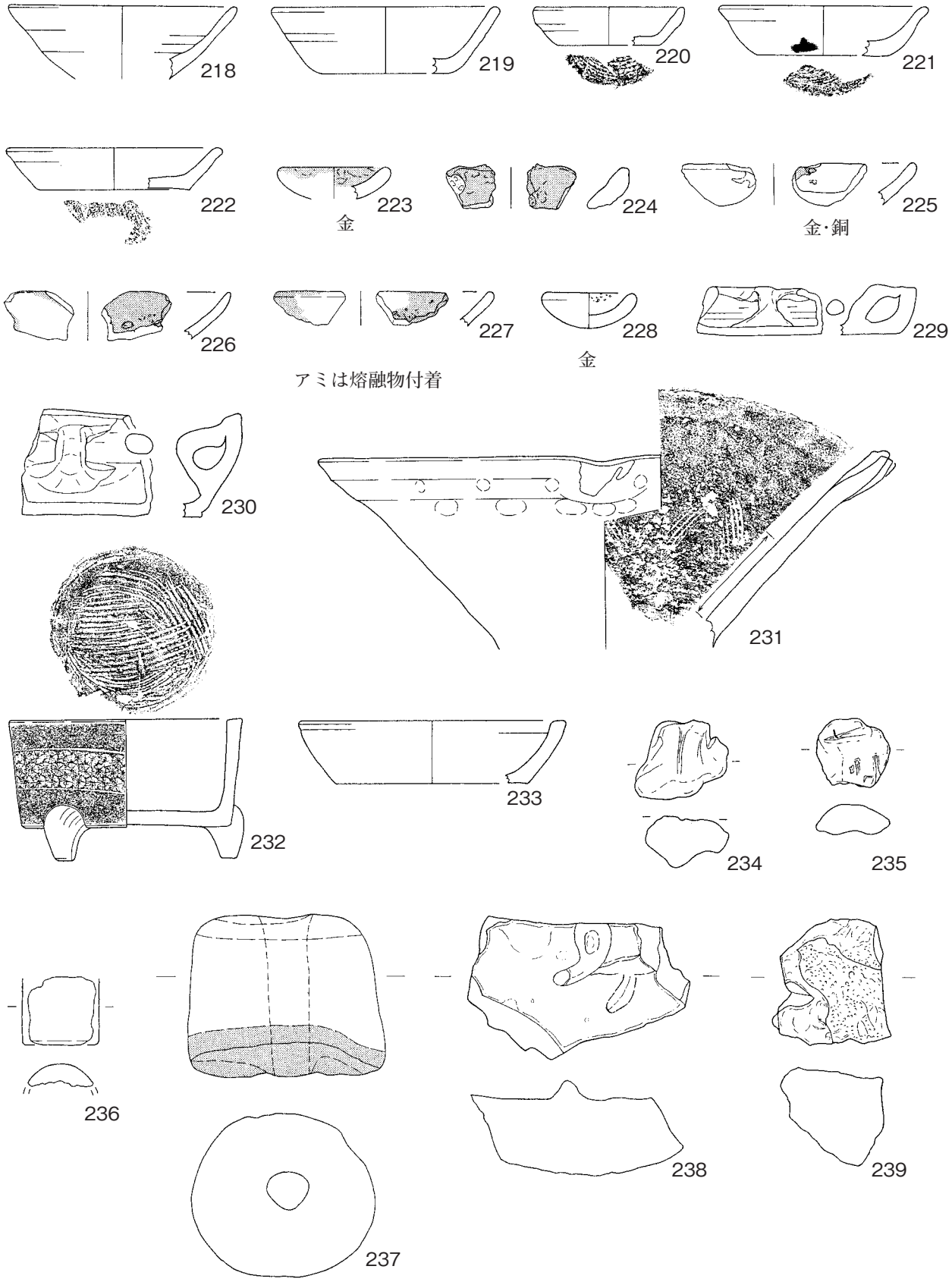


0 1/3 10cm

第49図　土器類10


189
190
191
192
193
194
195
196
197
198
199
200
201
202
203
204
205
206
207
208
209
210
211
212
213
214
215
216
217
0
1/3
10cm

第50図　土器類11


218
219
220
221
222
223
金
224
225
金·銅
226
227
228
金
229
アミは熔融物付着
230
231
232
233
234
235
236
237
238
239
0
1/3
10cm

第51図　土器類12

＊は不確定な推定復元値、法量の単位はcm

図№	器種	産地	出土地点	口径	底径	器高	時期・分類	年代	器種№	備考	残存率
1	磁器・皿	肥前	1堀 D-6G №53	＊14.0	-	-			伊01		1/2以下
2	土器・片口鉢	在地	1堀 D-7G №7	-	-	-			鉢09	内面剥落顕著	1/2以下
3	磁器・皿/青磁稜花皿	龍泉窯系中国	4堀	-	5.0	-		15cヵ	町青47	内外暗緑色の釉・高台内無釉/刻線・円内に宋ヵ	1/2以下
4	磁器・皿/染付端反皿	中国	4堀 D-6G №70	＊9.6	-	-	Ⅲ B1群	15c後～16c後	町染55	草花文・界線	1/2以下
5	陶器・皿/丸皿	瀬戸美濃	4堀 D-6G №28	＊11.0	-	-	大2	16c中	Ⅲ01	内外灰釉	1/2以下
6	陶器・皿	瀬戸美濃	4堀 E-6G №11	-	＊6.0	-	大1～2	15c末～16c後	Ⅲ02	内外灰釉/印花/外面輪ドチ痕	1/2以下
7	陶器・鉢/擂鉢	瀬戸美濃	4堀 、25堀	-	-	-	古後Ⅳ(新),Ⅰ類	15c後	町鉢178	内外錆釉	1/2以下
8	陶器・鉢/擂鉢	瀬戸美濃	4堀	-	-	-	古後Ⅳ(新)	15c後	鉢02	内外錆釉	1/2以下
9	土器・かわらけ	在地	4堀 D-6G №10、一括	＊7.5	＊4.4	2.0			K01	胎土精良	1/2以下
10	土器・かわらけ	在地	4堀 D-6G №81	-	3.8	-			K03	外面剥落	1/2以下
11	土器・かわらけ	在地	4堀	11.0	6.5	2.5～2.7			町K234	粉っぽい	完形
12	土器・かわらけ	在地	4堀	11.0	6.7	3.0			町K235	底部外面弱い板ナデ痕	完形
13	土器・かわらけ	在地	4堀	11.6	5.3	2.9～3.1			町K239	底部内面指頭ナデ/灯芯油痕	略完形
14	土器・かわらけ	在地	4堀	10.6	6.8	2.5～3.0			K02	灯芯油痕	略完形
15	土器・かわらけ	在地	4堀	＊12.0	-	-			K04		1/2以下
16	土器・かわらけ	在地	4堀	-	5.2	-			K05	底部内面指頭ナデ/底部外面板ナデ	1/2以下
17	土器・熔融物付着	在地	4堀 D-6G №68	-	＊6.0	-			K08	内面熔融物付着、一部緑錆あり	1/2以下
18	土器・熔融物付着	在地	4堀 E-6G №5、49堀	-	5.6	-			K07	内面及び断面に熔融物付着、緑錆ほぼ全面	1/2以上
19	土器・熔融物付着	在地	4堀	＊12.2	5.8	3.2			K06	内外熔融物付着、一部緑錆あり/内面体底部境ナデ/底部外面板ナデ	1/2以上
20	土器・ほうろく	在地	4堀 D-6G №36・73・83・84、一括	35.0	31.0	4.9			H01	底部外面板ナデ痕ヵ	3/4以上
21	土器・ほうろく	在地	4堀	-	-	-			H03	内耳右上部使用による損耗/外面スス付着	1/2以下
22	土器・ほうろく	在地	4堀	-	-	-			H04	外面スス付着	1/2以下
23	土器・擂鉢	在地	4堀 D-6G №1	-	-	-			鉢07		1/2以下
24	土器・擂鉢	在地	4堀、一括	-	＊13.0	-			鉢08	外面剥落	1/2以下
25	土器・香炉ヵ	在地	4堀 D-6G №75	＊13.0	＊9.0	3.5			素他01		1/2以下
26	陶器・蓋	備前ヵ	6堀	-	-	-			他01	内外一部錆釉/底面糸切り	1/2以下
27	陶器・香炉	瀬戸美濃	7堀	-	-	-	登3～6	17c中~18c前	香01	外面灰釉	1/2以下
28	陶器・鉢/大皿	肥前(唐津)	7堀	-	-	-			鉢01	白泥・錆釉・緑釉	1/2以下
29	土器・かわらけ	在地	7堀	＊10.0	＊6.0	2.6			K09		1/2以下
30	土器・片口鉢	在地	7堀	-	-	-			鉢10	内面剥落	1/2以下
31	陶器・甕ヵ	肥前	8堀	-	＊16.0	-			袋03	内面同心円?叩痕	1/2以下
32	陶器・皿	志戸呂	8堀	＊11.0	＊5.0	1.9			Ⅲ03	無釉	1/2以下
33	土器・ほうろく	在地	8堀 E-5G №3	-	-	-			H05	外面スス付着	1/2以下
34	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	9堀	＊10.0	-	-	大4前	16c末	天03	内外鉄釉	1/2以下
35	陶器・碗	瀬戸美濃	9堀	-	4.4	-			碗01	内面透明釉・外面鉄釉・高台端部磨耗	1/2以下
36	陶器・香炉	瀬戸美濃	9堀 E-5G №1	＊14.1	9.2	4.2	登	17c末～18c	町香06	内外鉄釉	1/2以下
37	土器・熔融物付着	在地	9堀上層	-	-	-			K10		1/2以下
38	陶器・皿	瀬戸美濃	12堀	-	＊6.0	-	大1～2	15c末～16c中	Ⅲ04	内外灰釉/印花/被熱	1/2以下
39	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	13堀 D-5G №1、26堀	-	4.0	-	大3後	16c後	天01	内外鉄釉・高台周辺露胎	1/2以下
40	陶器・皿	瀬戸美濃	13堀	-	-	-	大1～2	15c末～16c中	Ⅲ05	内外灰釉/印花	1/2以下
41	土器・かわらけ	在地	13堀	＊11.0	＊7.0	3.0			K11		1/2以下
42	土器・かわらけ	在地	14堀	＊12.0	＊8.0	3.0			K12		1/2以下
43	磁器・小坏	中国	15堀	＊7.0	-	-			白02	内外白色	1/2以下
44	土器・擂鉢	在地	15堀	26.0	12.5	10.8～11.4			鉢11	内面磨痕顕著/外面被熱により荒れ、スス付着/底部外面赤白化	1/2以上
45	陶器・皿	志戸呂	17堀	＊11.0	-	-			Ⅲ06	無釉/内外黒色付着物	1/2以下
46	磁器・皿/染付皿	中国	19堀	-	-	-	Ⅲ B1群	15c後～16c後	染01	界線・唐草文	1/2以下
47	土器・かわらけ	在地	19b堀、一括	＊11.4	-	-			K13		1/2以下

第7表　土器類一覧表1

＊は不確定な推定復元値、法量の単位はcm

図№	器種	産地	出土地点	口径	底径	器高	時期・分類	年代	器種№	備考	残存率
48	土器・かわらけ	在地	20堀	7.6	3.8	2.6～3.0			K14	底部内面指頭ナデ/内面体底部境ナデ/底部外面板ナデ	略完形
49	焼締陶器・甕	常滑	23堀	-	-	-	12形式		町袋23		1/2以下
50	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	23堀	-	-	-	大3		天02	内外鉄釉	1/2以下
51	土器・かわらけ	在地	25堀	11.8	5.0	2.8～3.1			K15	底部内面指頭ナデ/底部外面板ナデ	3/4以上
52	土器・熔融物付着	在地	25堀	-	-	-			K16	内面黒色熔融物付着、高熱による硬化	1/2以下
53	土器・ほうろく	在地	26堀、29堀	-	-	-			H07		1/2以下
54	陶器・皿/志野皿	瀬戸美濃	27堀	-	6.2	-	大ヵ		皿07	内外灰釉/削出高台/内面輪ドチ痕	1/2以下
55	磁器・皿/染付皿	中国	28堀	＊10.0	-	-	皿E群	16c後	町染69	界線・四方襷・草花文	1/2以下
56	土器・かわらけ	在地	29堀	11.5	6.5	3.6			K17	底部内面指頭ナデ	1/2以上
57	土器・かわらけ	在地	30堀	-	4.5	-			K18	底部内面指頭ナデ/内面体底部境ナデ	1/2以上
58	土器・かわらけ	在地	30堀	11.2	6.0	3.2			K19	内外一部黒色/底部内面一部剥落/底部直上	1/2以上
59	陶器・鉢/擂鉢	瀬戸美濃	31堀、一括	-	-	-	大4後	17c初	鉢05	内外錆釉	1/2以下
60	土器・かわらけ	在地	34堀Ⅱ層	11.0	6.0	3.1			K22	底部外面板ナデ/被熱により一部赤化/粉っぽい	略完形
61	陶器・香炉ヵ	志戸呂	36堀	-	＊6.0	-			香03	腰部以下ヌス付着	1/2以下
62	土器・かわらけ	在地	36堀	-	5.0	-			K21		1/2以下
63	土器・ほうろく	在地	38堀	-	-	-			H06	外面ヌス付着	1/2以下
64	陶器・鉢/鼠志野	瀬戸美濃	39堀 上層、KB15 5堀 上層№6、KB18、KB19、KB19 C区、私5	＊34.2	＊17.0	7.4	大4後	17c初	町鉢49	錆化粧後、文様掻き取り長石釉/芦と斜格子文/団子トチ痕2ヶ所、高台にヨリ土痕	1/2以下
65	磁器・皿/染付皿	中国	39堀上層	-	＊5.6	-	皿E群		町染020	蛟龍文/高台端部露胎	1/2以下
66	土器・かわらけ	在地	39堀	-	7.0	-			K20	底部内面指頭ナデ/底部外面板ナデ	1/2以上
67	土器・かわらけ	在地	42堀	＊11.4	＊6.0	3.0			K25	内面体底部境ナデ	1/2以下
68	土器・かわらけ	在地	42a堀	-	5.0	-			K23		1/2以上
69	土器・熔融物付着	在地	42a堀	-	-	-			K24	内面黒・赤黒色熔融物厚く付着	1/2以下
70	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	43堀	＊11.6	-	-	大3後	16c後	町天35	内外鉄釉・腰部錆釉	1/2以下
71	磁器・碗/青磁碗	中国	44堀	-	-	-			青02		1/2以下
72	土器・擂鉢	在地	44堀	＊30.0	＊12.0	11.0			鉢12	内面磨痕顕著、ヌス付着	1/2以下
73	陶器・香炉	瀬戸美濃	45堀	-	-	-	登ヵ		香02	内面一部・外面灰釉	1/2以下
74	土器・ほうろく	在地	45堀、一括	＊37.0	＊34.0	5.3			H02		1/2以下
75	陶器・皿/菊皿	瀬戸美濃	46堀、8堀、外堀、2T、一括	13.2	6.3	3.8	登3	17c中	町皿158	内外灰釉・高台周辺露胎/底部内面団子トチ痕2ヶ所	1/2以上
76	磁器・碗/青磁蓮弁文碗	龍泉窯系中国	47堀	-	-	-	Ⅰ-5-b		青03	内外暗緑色/蓮弁文	1/2以下
77	陶器・鉢/擂鉢	瀬戸美濃	47堀 B-3G №22	-	-	-	古後Ⅳ(新)	15c後	鉢03	内外錆釉	1/2以下
78	陶器・鉢/擂鉢	瀬戸美濃	47堀	-	-	-	大4前	16c末	鉢04	内外鉄釉	1/2以下
79	陶器・徳利	瀬戸美濃	47堀	-	-	-	大ヵ		袋01	外面鉄釉	1/2以下
80	土器・かわらけ	在地	47堀	12.0	6.5	3.6			K29	底部外面板ナデヵ	3/4以上
81	土器・かわらけ	在地	47堀(B-3G №13、一括)	＊11.6	7.2	3.0			K30	内面体底部境ナデ	1/2以上
82	土器・熔融物付着	在地	47堀	-	-	-			K86	内面発泡、赤黒～赤褐色熔融物・緑錆粒付着	1/2以下
83	土器・ほうろく	在地	47堀 B-3G №19・20、1溝 C-3G №5、一括	＊38.0	＊34.0	5.8			H10	外面ヌス付着	1/2以下
84	土器・片口鉢	在地	47堀 B-3G №18、49堀、1溝 C-3G №6	＊24.0	-	-			鉢13	内外剥落顕著	1/2以下
85	土器・片口鉢	在地	47堀 B-3G №9、1溝、一括	32.0	-	-			鉢14	内外剥落顕著	1/2以下
86	磁器・皿/染付ツバ皿	中国ヵ	48堀	-	＊6.0	-	皿F群	16c末～	染02	高台端部無釉/松文・唐草ヵ	1/2以下
87	陶器・碗/平碗	瀬戸美濃	48堀	-	5.9	-	古後Ⅱ	14c末～15c初	平01	内面灰釉/高台糸切後削込	1/2以下
88	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	48堀 C-3G №8、1溝 C-3G №105・106(ドットは48堀上)	11.5	4.1	6.1	大4前	16c末	町天27	内外鉄釉・高台周辺露胎/土91と共伴	略完形
89	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	48堀 C-3G №63	＊12.6	-	-	大2	16c中	町天24	内外鉄釉・腰部一部錆釉/内面被熱	1/2以下
90	陶器・皿/丸皿	瀬戸美濃	48堀 C-3G №67	＊10.0	-	-	大2	16c中	皿08	内外灰釉	1/2以下
91	土器・かわらけ	在地	48堀 C-3G №9	10.5	6.5	2.3～2.8			K26	底部内面指頭ナデ/内面体底部境ナデ/底部外面板ナデ/土88と共伴	略完形

第8表　土器類一覧表2

＊は不確定な推定復元値、法量の単位はcm

図№	器種	産地	出土地点	口径	底径	器高	時期・分類	年代	器種№	備考	残存率
92	土器・かわらけ	在地	48堀 C-3G №88	＊11.2	＊7.4	3.0			K27	赤褐色被膜付着漆ヵ	1/2以下
93	土器・かわらけ	在地	48堀	＊11.0	＊6.0	2.4			K28		1/2以上
94	土器・ほうろく	在地	48堀 C-3G №11	-	-	-			H08	外面スス付着	1/2以下
95	土器・ほうろく	在地	48堀	-	-	-			H09	外面スス付着	1/2以下
96	磁器・皿/青磁稜花皿ヵ	中国	49堀	-	4.8	-		明代16cヵ	青01	暗緑色・灰味/高台内露胎	1/2以下
97	陶器・皿	瀬戸美濃	49堀	＊12.0	-	-	登ヵ		皿09	内外灰釉	1/2以下
98	陶器・鉢/擂鉢	瀬戸美濃	49堀 C-3G №25、1溝 C-3G №19・42、C-3G №35、堀南	＊35.8	＊9.5	12.0	登1	17c初	町鉢51	確認面より上位出土/内外鉄釉/内外団子トチ痕/櫛目22本	1/2以下
99	陶器・瓶子ヵ	瀬戸美濃	49堀 C-3G №78	-	-	-	古中Ⅰ～Ⅲ	13c後～14c中	町他19	外面灰釉/刻線/釉薬/被熱による発泡	1/2以下
100	土器・かわらけ	在地	49堀 C-3G №80・81、一括	10.6	7.2	2.4			K31	焼成不良	略完形
101	土器・熔融物付着	在地	49堀 C-3G №26	-	＊6.0	-			K32	内面・外面一部・断面一部に緑錆・熔融物付着	1/2以下
102	土器・熔融物付着	在地	49堀 C-3G №55	-	＊6.0	-			K33	内面・外面一部・断面一部に熔融物付着	1/2以下
103	土器・熔融物付着	在地	49堀 C-3G №61	-	-	-			K84	内～断面　黒色熔融物付着/外面ガラス質付着	1/2以下
104	土器・熔融物付着	在地	49堀	＊10.0	-	-			K34	内面金粒子、内面・断面一部に熔融物付着	1/2以下
105	土器・熔融物付着	在地	49堀	-	-	-			K35	内面金粒子・熔融物付着	1/2以下
106	土器・熔融物付着	在地	49堀	＊4.0	-	1.3			K36	内面金・銀粒子・熔融物付着	1/2以下
107	土器・熔融物付着	在地	49堀	＊4.0	-	-			K37	内面金粒子・緑錆・熔融物付着	1/2以下
108	土器・熔融物付着	在地	49堀	＊5.0	-	-			K38	内面緑錆・熔融物付着	1/2以下
109	土器・熔融物付着	在地	49堀	＊7.6	-	-			K43	内面緑錆・熔融物付着	1/2以下
110	土器・熔融物付着	在地	49堀	-	＊5.0	-			K44	内面緑錆・熔融物付着	1/2以下
111	土器・熔融物付着	在地	49堀	＊10.0	-	-			K45	内面緑錆・熔融物付着	1/2以下
112	土器・熔融物付着	在地	49堀	-	-	-			K85	内面　黒～赤黒色熔融物付着/外面ガラス質付着	1/2以下
113	磁器・皿/白磁端反皿	中国	50堀	-	-	-		16c	白01	内外淡灰白色	1/2以下
114	陶器・徳利	瀬戸美濃	50堀	-	-	-	登ヵ		袋02	外面鉄釉	1/2以下
115	陶器・皿/丸皿	志戸呂	50堀 C-3G №40、1溝 C-3G №15、一括	10.2	5.5	2.1		16c中～17c	町皿156	内外鉄釉・底部内外露胎	3/4以上
116	土器・かわらけ	在地	50堀(D-3G №4、一括)	-	6.2	-			K39	底部内面指頭ナデ/底部外面板ナデ/底部内面黒色物付着	1/2以下
117	土器・かわらけ	在地	51堀	＊11.4	6.8	2.9	騎西城Ⅰ期	15c中～16c前	K40	内面体底部境ナデ	1/2以下
118	陶器・皿	瀬戸美濃	52堀	＊8.0	＊5.0	1.4	登4～5	17c後～末	皿10	内外灰釉・高台内無釉	1/2以下
119	陶器・皿/志野丸皿	瀬戸美濃	52堀、一括	＊13.4	＊7.4	2.9	登5～6	17c末～18c前	皿17	内外長石釉・高台周辺露胎/削出高台	1/2以下
120	土器・かわらけ	在地	52堀	＊9.2	5.6	2.1			K41		1/2以上
121	土器・かわらけ	在地	52堀	11.6	5.6	3.1			K42	底部内面指頭痕	3/4以上
122	土器・ほうろく	在地	52堀	-	-	5.7			H11	外面スス付着	1/2以下
123	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	外堀、6T	＊11.2	4.0	6.7	大3	16c後	町天25	内外鉄釉・高台周辺錆釉/被熱ヵ	1/2以下
124	陶器・碗/小碗	瀬戸美濃	外堀、2T、一括	6.5	3.1	3.0～3.2	登7～11	18c中～19c前	他02	内外灰釉・高台周辺露胎/体部～底部ヘラ削り	略完形
125	陶器・皿/灯明皿	瀬戸美濃	外堀、一括	10.5	4.5	1.8～2.2	Vb～Ⅷb	1730～1830	皿16	内外鉄釉(柿釉)・高台周辺露胎/内外重ね焼き痕	3/4以上
126	土器・熔融物付着	在地	外堀	＊5.0	-	-			K91	筒形坩堝/内外　黒色熔融物付着	1/2以下
127	土器・熔融物付着	在地	外堀	-	-	-			K92	内～断面　黒～赤黒色・灰緑色熔融物、緑錆粒付着	1/2以下
128	土器・熔融物付着	在地	外堀	-	-	-			K93	内面　黒～赤黒色熔融物、緑錆粒付着/外面砂粒多い/スラグヵ	1/2以下
129	土器・熔融物付着	在地	外堀	-	-	-			K94	内面　灰緑色・赤黒色・白色熔融物付着	1/2以下
130	土器・土鍋	在地	外堀、KB15	＊34.0	-	-			D01	外面スス付着	1/2以下
131	土器・火鉢	在地	外堀、一括	＊26.0	＊22.0	5.0			火鉢01	底面まで格子目文	1/2以下

第9表　土器類一覧表3

＊は不確定な推定復元値、法量の単位はcm

図№	器種	産地	出土地点	口径	底径	器高	時期・分類	年代	器種№	備考	残存率
132	陶器・皿/丸皿	瀬戸美濃	1溝 C-3G №14・43・44	＊10.2	6.2	2.5	大2後	16c中	町Ⅲ145	内外灰釉(暗緑色)/外面輪ドチ痕	1/2以上
133	陶器・皿	瀬戸美濃	1溝 D-2G №11、4T	＊11.0	-	-	大3ヵ	16c後ヵ	Ⅲ11	内外灰釉/被熱	1/2以下
134	土器・かわらけ	在地	1溝 C-3G №23・24	11.0	6.2	2.8～3.3			K47	底部内面指頭ナデ/底部外面板ナデ/灯芯油痕が広く付着	3/4以上
135	土器・かわらけ	在地	1溝、一括	＊10.4	＊5.4	2.7			K46		1/2以下
136	土器・かわらけ	在地	1溝、一括	＊10.4	＊6.0	1.8			K48	手づくねヵ	1/2以下
137	土器・擂鉢	在地	1溝 C-3G №2	＊30.0	＊12.0	11.0			鉢17	内面スス付着/口縁部磨耗により欠損顕著、以下磨耗により光沢あり/下半横位擦痕	1/2以下
138	土器・擂鉢	在地	1溝南、2溝、一括	-	-	-			鉢15	内面剥落	1/2以下
139	土器・ほうろく	在地	2溝 B-3G №28	-	-	-			H13	底部外面板状痕	1/2以下
140	磁器・碗/染付碗	中国	5溝 B-2G №3	-	＊6.8	-	碗C群	15c後～16c後	町染17	外面　界線・渦巻文、内面界線・花文	1/2以下
141	陶器・碗/平碗	瀬戸美濃	5溝 A-2G №84	-	5.0	-	大1ヵ	15c末～16c前ヵ	平02	内面・外面一部灰釉/内面団子トチ痕3ヶ所/高台磨耗	1/2以下
142	土器・かわらけ	在地	5溝	＊11.0	-	-			K50		1/2以下
143	土器・ほうろく	在地	5溝	-	-	-			H12	外面スス付着	1/2以下
144	土器・かわらけ	在地	6溝 C-1G №26	＊11.0	＊6.0	3.6			K49		1/2以下
145	土器・ほうろく	在地	6溝 C-1G №6・7、7溝	＊36.0	＊32.0	5.3～5.5			H14	外面スス付着	1/2以下
146	土器・かわらけ	在地	7溝 C-1G №12	-	5.7	-			K51	底部内面指頭ナデ/底部外面板ナデ	3/4以上
147	土器・かわらけ	在地	7溝 C-1G №13	11.4	6.5	2.5～2.7			K52		3/4以上
148	土器・擂鉢	在地	7溝(C-1G №15、一括)	-	-	-			鉢16		1/2以下
149	土器・かわらけ	在地	9溝	＊11.0	4.2	2.8			K53	底部内面指頭ナデ	1/2以上
150	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	10溝(A-3G №73・一括)	11.1	＊4.8	6.2～7.0	登1	17c初	町天32	内外鉄釉・高台周辺露胎	1/2以下
151	陶器・皿/志野丸皿	瀬戸美濃	10溝 A-2G №26、一括	＊12.5	6.5	2.9	大4	16c末～17c初	Ⅲ12	内外長石釉/内面円錐ピン痕	1/2以下
152	陶器・皿/鉄絵皿	瀬戸美濃	10溝 A-2G №28・37、KB16	＊12.0	＊7.3	2.1	登2ヵ	17c前ヵ	町Ⅲ188	内面口唇底部に鉄釉・円錐ピン痕	1/2以下
153	陶器・皿/緑釉小皿	瀬戸美濃	10溝 B-3G №59	＊11.6	＊4.7	2.6	大1	15c末～16c前	町Ⅲ133	口縁内面灰釉	1/2以下
154	陶器・皿	瀬戸美濃	10溝 (A-3G№41・68、一括)	-	＊7.5	-	登		Ⅲ15	内外長石釉/外面団子トチ痕1ヶ所	1/2以下
155	陶器・向付/織部向付	瀬戸美濃	10溝 A-2G №55、KB10 27溝 G-10G №6、KB10 F-9G №10	-	＊5.8	-	登1	17c初	Ⅲ13	体部内外緑釉・内面長石釉・外面露胎/鉄による草花文/10集土393と接合	1/2以上
156	陶器・鉢/鼠志野鉢	瀬戸美濃	10溝 A-3G №20	-	＊7.5	-	大4ヵ	16c末～17c初ヵ	Ⅲ14	内外長石釉/外面団子トチ痕1ヶ所	1/2以下
157	陶器・鉢/擂鉢	志戸呂	10溝 A-3G №12	-	8.9	-		16c	町鉢182	内外錆釉/団子トチ痕/櫛目12本	1/2以下
158	土器・かわらけ	在地	10溝 A-2G №41	＊10.4	＊6.0	2.3			K57	底部内面ろくろ目	1/2以下
159	土器・かわらけ	在地	10溝 A-2G №48・71	＊10.0	-	-			K54		1/2以下
160	土器・かわらけ	在地	10溝 A-3G №46	＊11.0	＊6.6	3.2			K56	内面体底部境指頭ナデ	1/2以下
161	土器・かわらけ	在地	10溝 A-3G №49	＊10.0	＊6.0	2.8			K55		1/2以下
162	土器・かわらけ	在地	10溝 A-3G №101	-	＊6.0	-			K59	内面漆ヵ付着	1/2以下
163	土器・かわらけ	在地	10溝	-	＊7.0	-			K58	内面一部スス付着	1/2以下
164	土器・熔融物付着	在地	10溝	-	-	-			K60	内面金粒子・熔融物付着	1/2以下
165	土器・かわらけ	在地	4井	-	5.4	-			K61	底部内面指頭ナデ/底部外面板ナデ	1/2以上
166	陶器・皿	肥前(唐津)	6井、一括	-	＊4.4	-			Ⅲ24	内外灰釉・腰部以下露胎/鉄絵	1/2以下
167	土器・熔融物付着	在地	6井	＊9.0	-	-			K63	坩堝ヵ/内面口縁から体部に緑錆・熔融物付着	1/2以下
168	土器・かわらけ	在地	7井	＊11.4	＊8.0	2.4			K62		1/2以下
169	土器・熔融物付着	在地	7井、一括	-	-	-			K82	内面緑錆・熔融物付着/外面砂粒ー碗形鉱滓	1/2以下
170	土器・ほうろく	在地	1壙、一括	＊36.0	32.0	5.0			H15		1/2以下
171	土器・かわらけ	在地	10壙	＊11.0	-	-			K65		1/2以下
172	土器・かわらけ	在地	13壙 C-1G №25	＊11.2	＊7.0	2.5			K64		1/2以下
173	磁器・碗/青磁蓮弁文碗	龍泉窯系中国	一括	-	-	-	Ⅰ-5-b	13c～14c	町青17	内外淡青緑色/蓮弁文	1/2以下
174	磁器・碗/青磁蓮弁文碗	龍泉窯系中国	一括	＊14.0	-	-	Ⅰ-5	13c～14c	町青32	内外緑色/蓮弁文	1/2以下
175	磁器・碗/青磁蓮弁文碗	龍泉窯系中国	一括	-	-	-	Ⅰ-5	13c～14c	町青46	内外青緑色/蓮弁文・内面線条痕	1/2以下

第10表　土器類一覧表4

＊は不確定な推定復元値、法量の単位はcm

図№	器種	産地	出土地点	口径	底径	器高	時期・分類	年代	器種№	備考	残存率
176	磁器・皿/青磁稜花皿ヵ	龍泉窯系ヵ中国	一括、KB15	-	＊6.2	-		15c前～16c前	町青79	内外暗緑色・高台内露胎	1/2以下
177	磁器・皿/青磁稜花皿ヵ	龍泉窯系中国	一括	-	＊5.6	-			町青44	内外青緑色/高台内トチ痕/内面印花ヵ	1/2以下
178	磁器・碗/口禿碗	中国	一括	＊13.7	-	-	Ⅸ	13c～14c	町白11	内外淡青灰白色	1/2以下
179	磁器・皿/白磁端反皿	中国	一括	＊12.0	-	-	ⅢC群	15c後～16c後	町白26	内外淡灰白色	1/2以下
180	磁器・碗/染付碗	中国ヵ	一括	-	＊4.5	-			町染14	界線/高台端部露胎	1/2以下
181	磁器・碗/染付碗	中国	一括	＊12.2	-	-	碗B群	14c末～15c中	町染50	界線・唐草・四方襷文ヵ	1/2以下
182	磁器・碗/染付碗	中国	5T	-	-	-	碗C群	15c後～16c後	町染74	芭蕉葉文	1/2以下
183	磁器・皿/染付皿	中国	一括	-	＊8.6	-	ⅢB1群	15c後～16c後	町染21	界線・唐草・花文/高台端部露胎	1/2以下
184	磁器・皿/染付皿	中国	一括	＊13.4	＊8.3	2.8	ⅢB1群	15c後～16c後	町染28	玉取獅子・牡丹唐草/高台端部露胎/底部内面　体底部境が荒れる	1/2以下
185	磁器・皿/染付皿	中国	一括	＊14.8	-	-	ⅢE群	16c後	町染72	界線・草花文	1/2以下
186	磁器・皿/染付皿	中国	一括	＊12.0	-	-	ⅢE群	16c後	町染76	界線	1/2以下
187	磁器・香炉ヵ/染付香炉	中国ヵ	一括	＊10.6	-	-			町染54		1/2以下
188	陶器・甕	中国ヵ	一括	＊14.8	-	-			町袋61	内外錆釉・内面ヘラ痕	1/2以下
189	焼締陶器・甕	渥美	一括	-	-	-			町袋82		1/2以下
190	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	一括	＊11.2	-	-	大1	15c末～16c前	町天59	内外鉄釉・下端錆釉	1/2以下
191	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	一括(47堀 上 ｵﾁｷﾘ)	＊11.8	-	-	大2	16c中	町天33	内外鉄釉・腰部露胎	1/2以下
192	陶器・皿/丸皿	瀬戸美濃	一括	9.6	5.5	2.5	大2前	16c中	町Ⅲ126	内外灰釉/外面輪ドチ痕	3/4以上
193	陶器・皿	瀬戸美濃	一括(47堀 上 ｵﾁｷﾘ)	-	5.5	-	大1～2ヵ	15c末～16c中	Ⅲ19	内外灰釉/被熱	1/2以下
194	陶器・皿	瀬戸美濃	一括	＊10.8	＊6.4	2.1	登4・5ヵ	17c後・末ヵ	Ⅲ18	内外灰釉・高台内露胎/削出高台/2次焼成	1/2以下
195	陶器・皿	瀬戸美濃	一括	＊14.0	＊7.2	2.8	登4～5	17c後～末	Ⅲ20	内外灰釉・高台周辺露胎/内面重ね焼き痕	1/2以下
196	陶器・皿/志野皿	瀬戸美濃	一括	-	＊6.0	-	登2～5	17c前～末	Ⅲ22	内外長石釉/内外団子トチ痕1ヶ所ずつ/削出高台	1/2以下
197	陶器・皿/鉄絵皿	瀬戸美濃	一括	-	＊7.4	-	登ヵ		Ⅲ23	内面長石釉/鉄で文様	1/2以下
198	陶器・皿/灯明皿ヵ	瀬戸美濃	一括	＊11.0	＊5.6	2.0	登3～5	17c中～末	Ⅲ21	内外鉄釉・高台周辺露胎/削出高台/口縁部に貼付あり	1/2以下
199	陶器・小坏/志野小坏	瀬戸美濃	6T	＊8.2	＊4.6	3.1	大4後	17c初	町他11	内外長石釉	1/2以下
200	陶器・鉢/黄瀬戸鉢	瀬戸美濃	一括	-	-	-	登	17c前～中	鉢06	穴田窯類似、内外灰釉	1/2以下
201	陶器・鉢/擂鉢	瀬戸美濃	一括	＊29.2	-	-	大4前、Ⅰ類	16c末～17c初	町鉢109	内外錆釉	1/2以下
202	陶器・鉢/擂鉢	瀬戸美濃	一括	-	-	-	大3後、Ⅰ類	16c後	町鉢147	内外錆釉	1/2以下
203	陶器・鉢/擂鉢	瀬戸美濃	B-3Gヵ №33	-	-	-	大3後、Ⅰ類	16c後	町鉢148	内外錆釉	1/2以下
204	陶器・皿/灯明皿	志戸呂	一括	8.0	3.8	1.8		17c～	町Ⅲ201	内面・外面口縁　錆釉	1/2以下
205	陶器・皿/灯明皿	志戸呂	一括	＊11.3	5.2	2.5		17c～	町Ⅲ206	内面・外面口縁　錆釉/重ね焼痕/内外スス付着	1/2以下
206	陶器・鉢/擂鉢	志戸呂	1T	-	-	-		16c	町鉢185	内外錆釉	1/2以下
207	陶器・徳利	志戸呂	一括	-	＊13.5	-			町袋59	外面鉄釉	1/2以下
208	土器・かわらけ	在地	3T	＊10.0	＊5.6	1.9			K67	底部内面ロクロ目	1/2以下
209	土器・かわらけ	在地	4T	＊10.0	＊6.0	1.7			K78		1/2以下
210	土器・かわらけ	在地	5T	＊11.0	＊6.6	2.4			K68		1/2以下
211	土器・かわらけ	在地	一括	＊12.0	＊4.8	3.1			K66	底部内面指頭ナデ	1/2以下
212	土器・かわらけ	在地	一括	＊11.0	＊6.0	2.5			K69		1/2以下
213	土器・かわらけ	在地	一括	＊12.0	＊6.8	2.9			K70		1/2以下
214	土器・かわらけ	在地	一括	＊12.0	＊4.6	3.3			K71	底部内面指頭ナデ	1/2以下
215	土器・かわらけ	在地	一括	＊10.0	＊5.6	2.2			K72		1/2以下
216	土器・かわらけ	在地	一括	＊10.6	＊8.0	2.5			K73		1/2以下
217	土器・かわらけ	在地	一括	＊10.0	-	-			K74		1/2以下
218	土器・かわらけ	在地	一括	＊12.0	-	-			K75		1/2以下
219	土器・かわらけ	在地	一括	＊12.0	＊7.0	3.5			K76		1/2以下
220	土器・かわらけ	在地	一括	＊8.0	＊5.4	2.0			K77		1/2以下
220	土器・かわらけ	在地	一括	＊8.0	＊5.4	2.0			K77		1/2以下
221	土器・かわらけ	在地	一括	＊11.0	＊7.0	2.6			K79	外面スス付着	1/2以下

第11表　土器類一覧表5

＊は不確定な推定復元値、法量の単位はcm

図№	器種	産地	出土地点	口径	底径	器高	時期・分類	年代	器種№	備考	残存率
222	土器・かわらけ	在地	一括	＊11.4	＊8.0	2.2			K80		1/2以下
223	土器・熔融物付着	在地	一括	＊6.0	-	-			K81	坩塝ヵ/内面金粒子・熔融物付着	1/2以下
224	土器・熔融物付着	在地	一括	-	-	-			K83	スラグヵ/内外断面熔融物付着	1/2以下
225	土器・熔融物付着	在地	一括	-	-	-			K87	内面　全面に金粒子付着	1/2以下
226	土器・熔融物付着	在地	一括	-	-	-			K88	内～断面　黒～赤黒色・灰緑色熔融物、緑青粒付着	1/2以下
227	土器・熔融物付着	在地	一括	-	-	-			K89	内～断面　黒色・赤色熔融物付着	1/2以下
228	土器・熔融物付着	在地	一括	＊5.0	-	1.9			K90	塊形坩塝/口縁内面発泡/金粒子付着/胎土に小石包む	1/2以下
229	土器・ほうろく	在地	一括	-	-	-			H16	外面ススト付着	1/2以下
230	土器・ほうろく	在地	一括	-	-	-			H17		1/2以下
231	土器・擂鉢	在地	A-2G №23	＊30.0	-	-			鉢18	内面下半磨耗	1/2以下
232	土器・香炉	在地	A-2G №21・22	＊12.2	11.0	7.4			素他03	底部内面板目整形痕	1/2以下
233	土器・香炉	在地	一括	＊14.0	＊10.0	3.3			素他04		1/2以下
234	土器・土壁片	在地	一括	4.8	4.1	2.7			素他05	スサ痕	
235	土器・土壁片	在地	一括	3.8	3.6	1.6			素他06	スサ痕	
236	土器・鞴の羽口	在地	47堀	-	-	-			素他02		1/2以下
237	土器・鞴の羽口	在地	5溝 B-2G №7	-	-	-			町素他8	スラグ付着	
238	炉床ヵ	在地	2T	11.5	6.8	4.8			鋳02	鉄分を含む	
239	スラグヵ	在地	外堀	5.4	6.3	4.7			鋳01		

第12表　土器類一覧表6

調査区北　調査風景

第２節　木製品類

本報告ＫＢ14区の調査では生活用具、生業の道具、信仰に関わるもの、いくさ関係、その他の加工がある材など広範囲の遺物が出土している。一部繊維製品を含める。

○生活に関するもの

「衣」は１の外堀出土の黒色漆塗ヵの櫛がある。棟の一部を残すのみで、歯はほとんど残っていない。棟は平らで、山形ではない。歯間は比較的広く、断面形は平ら。

「貯蔵」では桶類（２～12）がある。

２は23号堀出土で底板の一部か。板目取り。片面炭化。

３は33号堀出土の側板。板目取り。

４は外堀出土で底板の一部とも考えられるが、径が小さいため曲物のものの可能性もある。柾目取り。片面に段があり蓋の可能性も高い。

５～８は側板と底板の一部である。いずれも１号井戸出土で、側板３枚は法量が類似しているため、同一個体の可能性がある。底板には木釘が１箇所残る。

９・10は５号井戸出土で、９は底板の一部で、厚みがある。板目取り。

10は大型の側板である。板目取り。下部の腐食が進み長さが確定できなかった。

11は12号井戸出土の底板２枚で、木釘により接合されている。表面に黒色付着物が確認できるが、科学分析をしていないため詳細不明。両面に加工痕あり。また、片面(図上面)に細かな線状痕(刃先痕ヵ)があり、刃物による作業の台として転用した可能性も考えられる。

12は第１トレンチ出土で、側板の可能性が高い。やや小型。一度乾燥した可能性が高く、劣化が著しい。第１トレンチは調査区南東側に設定されたものである。

「食膳」では漆椀等（13～19)、折敷（20・21）が出土している。

13～15は４号堀出土。

13は内外面黒色漆塗で外面に赤色の施文がある。器形から当初は皿と考えられていたが、底部が安定しないこと、底部付近全面の施文は想定できず、天井部と考え、合子のようなものの蓋と推測する。施文の意匠は不明。

14・15は漆椀である。14は内面赤色外面黒色漆塗である。外面には赤色施文を４箇所施す。文様の意匠は不明。高台が低く浅めの椀。横木取り。

15は内外面黒色漆塗で、「三つ巴文」を見込みと外面２箇所に赤色で施文。高台裏は漆が剥落しているが、わずかに黒色が残り、施文と思われる赤色の痕跡あり。14と同様で高台が低い椀。

16は６号堀出土。出土時は腰部まで遺存していたが、破片化し、高台のみ図化した。外面・高台裏は黒色漆塗、内面には赤色が残るため赤色漆塗か。高台端部は低く、高台部が厚いことから身が深めの大型椀であると推測。

17は８号堀出土で内外面・高台裏赤色漆塗の皆朱椀である。漆の剥落が進み、遺存状態は非常に悪く、施文の有無は確認できなかった。高台部は低く厚い。やや深めの大型椀。横木取り。

18は44号堀出土で内面赤色、外面黒色漆塗。胴部の欠損部分が大きく、外面に１箇所赤色の施文のみ確認。文様の意匠は不明。高台が低く浅めの椀。

19は内外面黒色漆塗で胴部破片のため高台部の様子は不明。施文は確認できず。漆膜がやや硬質である。胴部の形状から大型椀と推測。

20・21は折敷の一部。

20は１号井戸出土の縁。破片ではあるが、樺で綴じた状態が良く残る。

21は３号井戸出土の底板の一部。２ケずつ２箇所に孔がある。柾目取り。少し歪みが見られる。

○生業に関するもの

22は19号堀出土の炭化した縄である。繊維製品であるが少数であるためここで報告する。報告時には崩壊しており、比較的残りが良く、縄の編み方が観察できるものを実測した。図面の作成は、崩壊前の

写真を参考に行った。確認できた縄の編み方は2つある。1つは縄に瘤を作り、瘤を右に置き縄を左にかえすもの（口絵14復元1）、もう1つは2本の縄を巻き込みながら縄を綯うもの（復元2）である。

崩壊前の写真では、22－1は取り上げた中で一番状態が良好なもので、瘤を3箇所、巻き込みを3か所確認できる。ただし瘤に絡めた縄が左に行くようだが絡め方は観察できない。22－2は、瘤を1箇所、巻き込みを2箇所確認できる。22－3は、瘤を1箇所、巻き込みを2箇所確認できる。

網状に編まれたものの一部と思われ、瘤や巻き込みは、編む際に繰り返し行われた作業の結果である。

○信仰に関するもの

23は4号堀出土の小型壺。内外面黒色漆塗で底には塗彩をしていない。口縁部の立ち上がりの形状から、蓋の存在を推測する。漆剥落部分から、ロクロの挽き痕を観察できる。騎西町史では「薬壺」としていたが、「小型壺」とする。仏具の可能性が高い。

○いくさに関するもの

「武具」として24の矧矢の一部がある。4号堀出土。やじり部分のみ残る。小雁股の一部と小鏑の一部に欠損あり。樹種は未分析であるが、目視により桐である可能性が高い。矧矢は水鳥を射るものとされるが、類似する鏑矢はその中に油に浸した綿を入れて、火矢として用いられていることからここでは武具として扱った。

○その他（25～38）

製品または明確な加工はあるが、名称不明のものである。

25は小破片であるため詳細は不明であるが、形状から漆塗を施した杓子の可能性が高い。45号堀出土。塗布されている物質は科学分析が未実施のため、漆と確定できない。

26は樽の栓か。外堀出土。

27・28は柄と考えられる。両者とも一辺の中央に溝を彫っている。機能部を挟むためのものか。27は4号堀出土で遺存状態が非常に悪い。28は外堀出土で、現代にも見ることができる苧引鋸に形状が類似している。また、火打金の柄の可能性も考えられる。

29～38は加工材である。

29・30は4号堀ヵ出土。29は全面を整え、片面に段を刻んでいる。中央に長方形の孔を穿つ。

30は片面に2箇所切り込みがある。穴もあるが裏面には貫通していない。

31は29号堀出土で29・30に比べやや大型である。半裁材を加工したもので、片面のみ整え、中央に大きな方形の切り込みを施す。

32は26号堀出土で小型方形の板状のものに3箇所孔を穿っている。非常に薄い。部品か。

33は47号堀出土で板状の加工材である。片側端部に2箇所の孔を穿つ。含水率が高かったため詳細な観察はできなかった。

34は1号井戸出土で丸棒状のものを加工したものである。断面形は片側を方形に整え、反対側は丸形のままである。片面中央に1本線を刻んでいる。小型である。

35は外堀出土の竹製品である。竹を割って板状にし、上部端部に孔を穿つ。

36は47号堀出土の板材である。板目取りで、片面を一部丁寧に整えている。断面形が弧を描いていないことから桶の側板とは区別した。

37も板材である。3号堀出土で板目取り。片側を斜めに面を削り出している。

38は外堀出土の角材である。ほぼ角柱に作られているが、先端が削られて尖っている。片側端部が炭化。

以上が図化できたものであるが、このＫＢ14区では、これらの他にも遺存状態が悪く、図化できなかったものが多数存在している。それらの中で計測可能なものは一覧表後半に掲載した。その詳細は以下の通りである。

「生活に関するもの」では白木で棟が山形を呈する櫛の破片がある。さらに連歯下駄の破片が2点、前緒穴と前歯の一部が残っている小破片である。漆椀片は6点あり、そのうち5点は内外面黒色漆塗で、

１点は内面赤色外面黒色漆塗であった。いずれも小破片で遺存状態も悪く、詳細は不明であった。他に腐食が顕著で現場から取り上げられなかったものも少数ある。他に杓子片と推測される小破片、折敷の底板片がある。栓や柄と思われる破片もある。

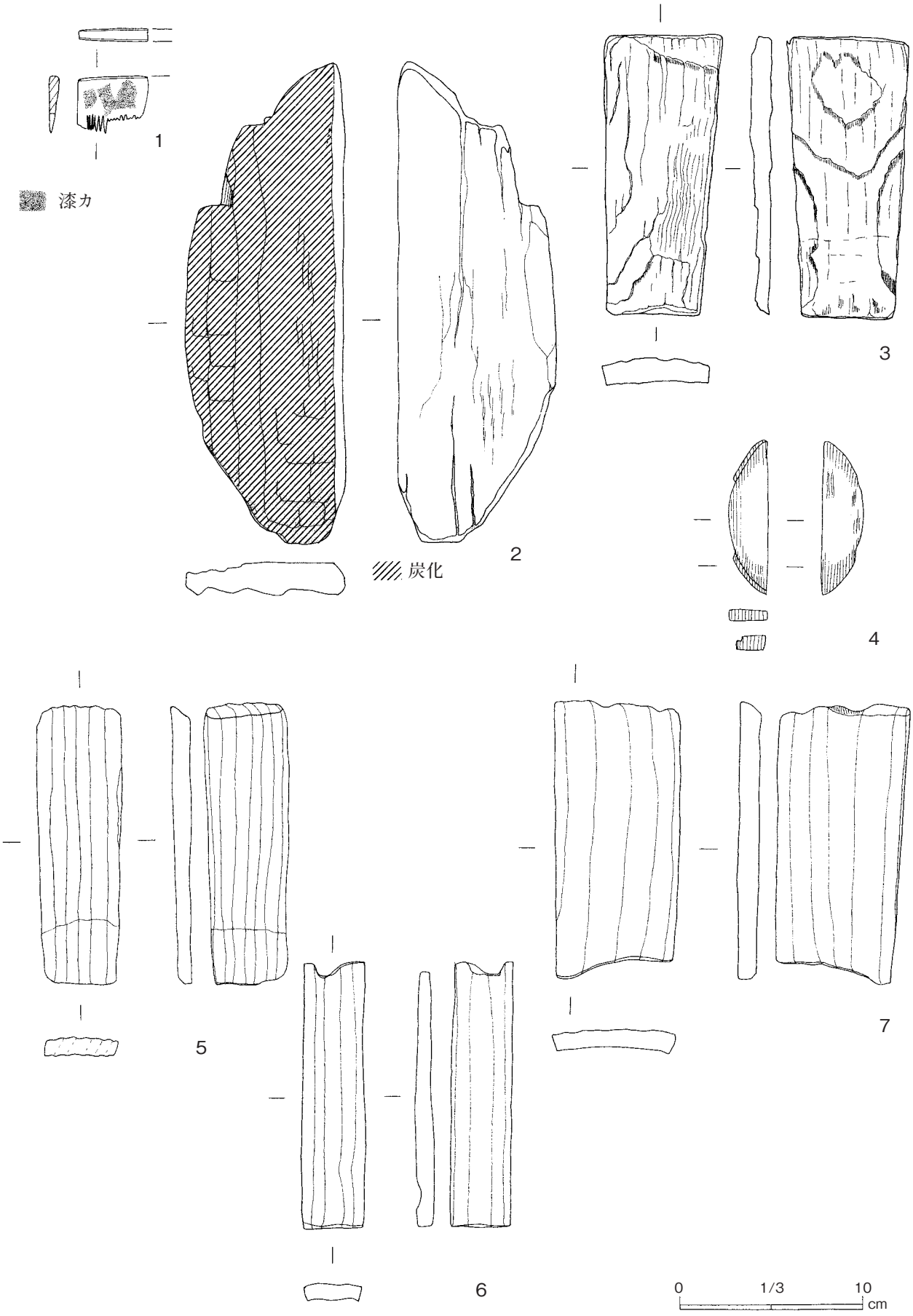
「その他」として加工材類がある。板材が多く、ほとんどが板目取りである。そのうち４号堀のものは比較的大きなものを含む。他に角材・丸材・端部のみに加工を施した加工材などがある。さらに、割材・竹片がある。竹片は劣化が著しく、崩壊したものが多い。

木製品　実測

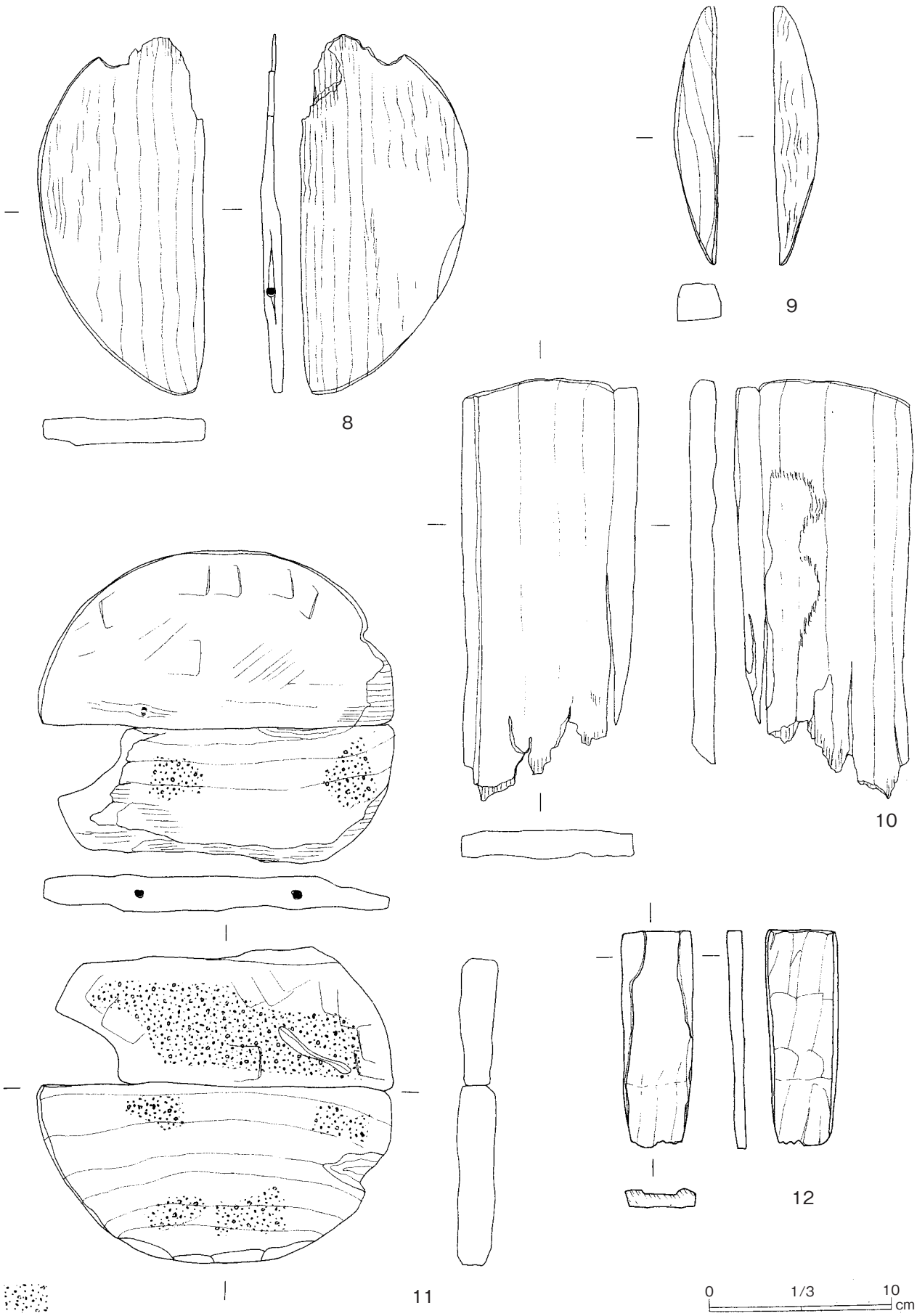
石製品　トレース

遺物　写真撮影

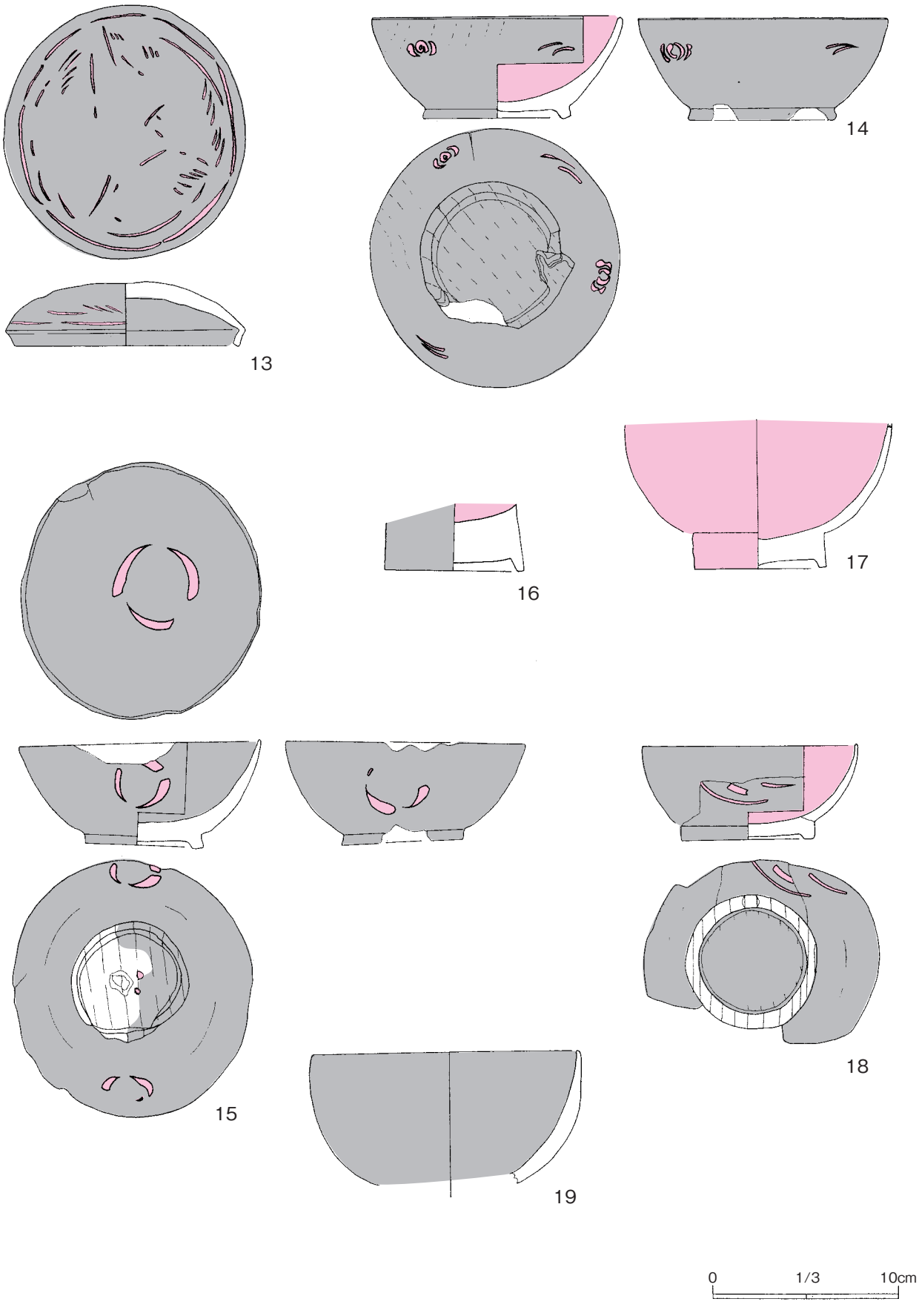
表　作成



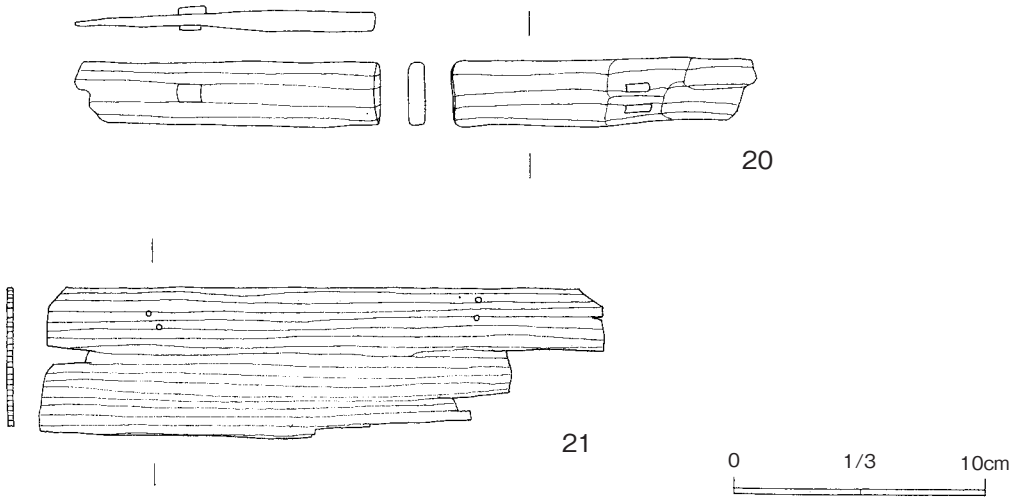
第52図　木製品類1

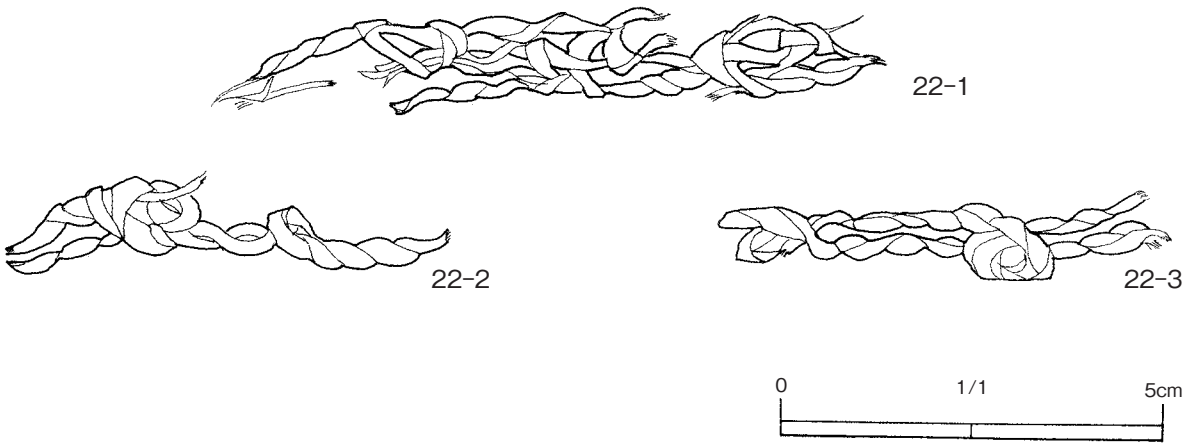


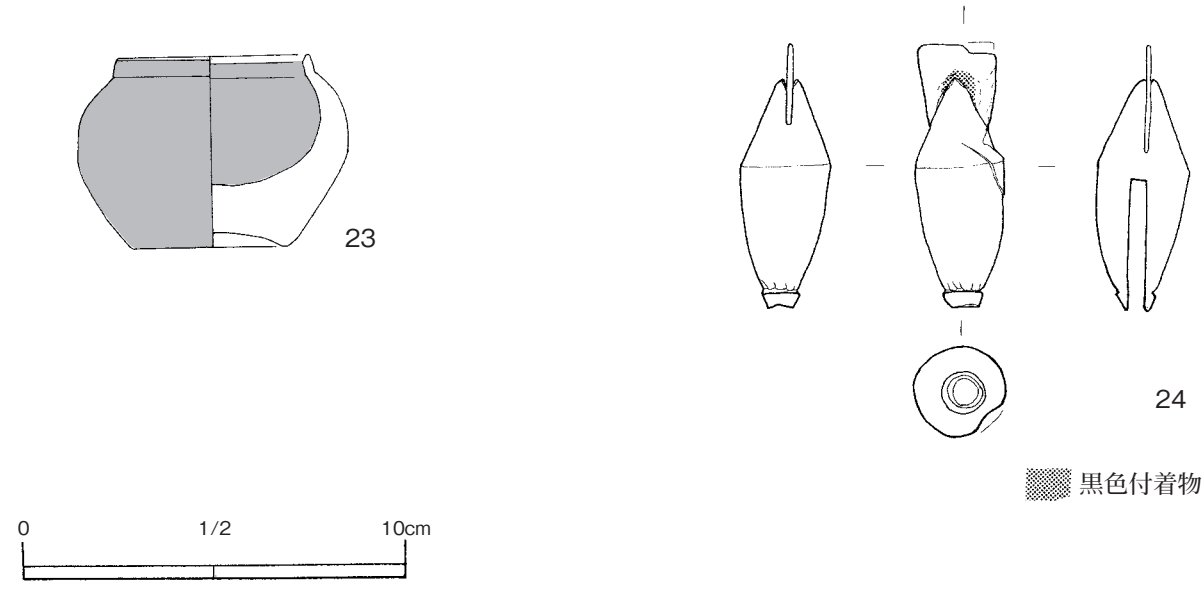
第53図　木製品類 2



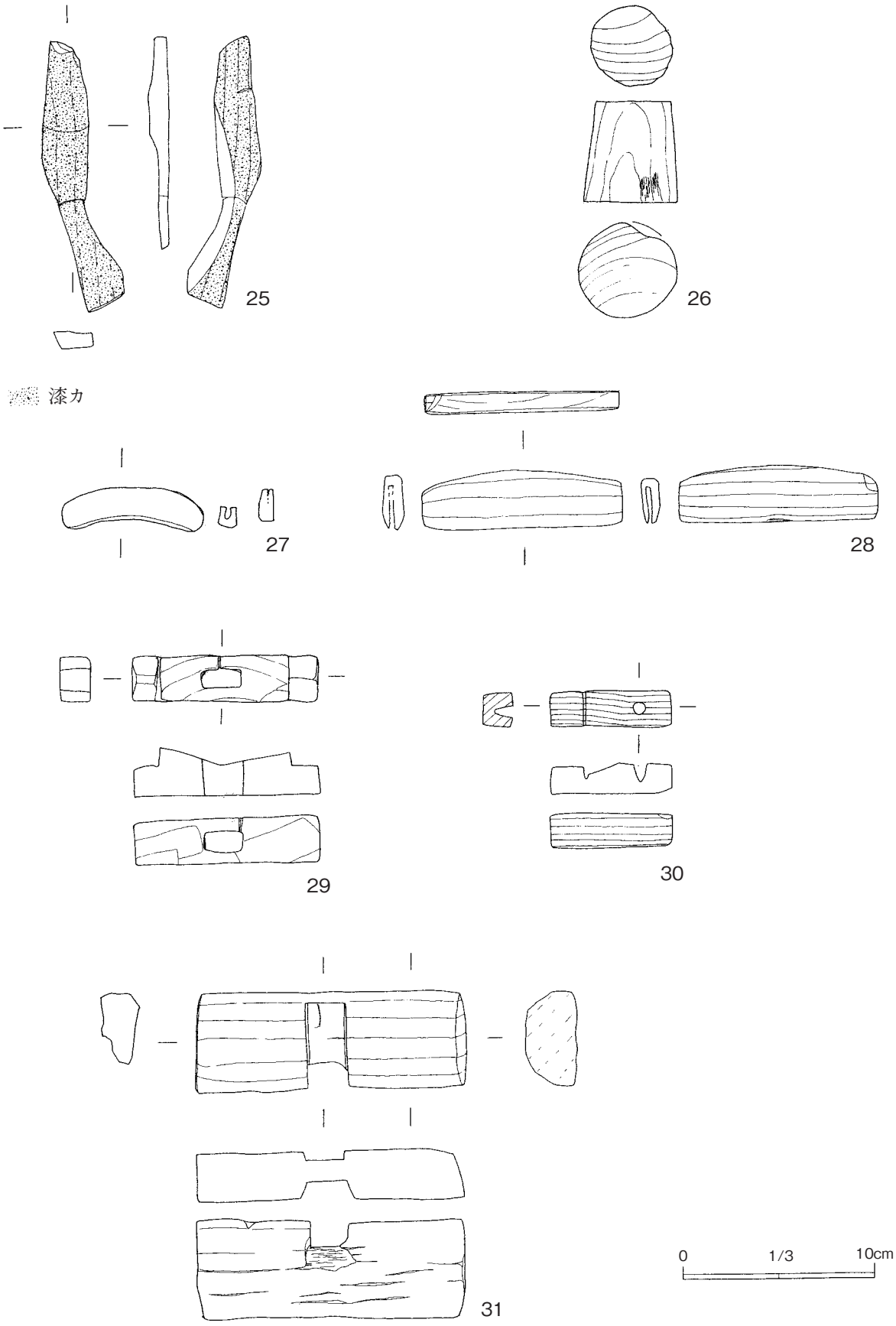
第54図　木製品類３



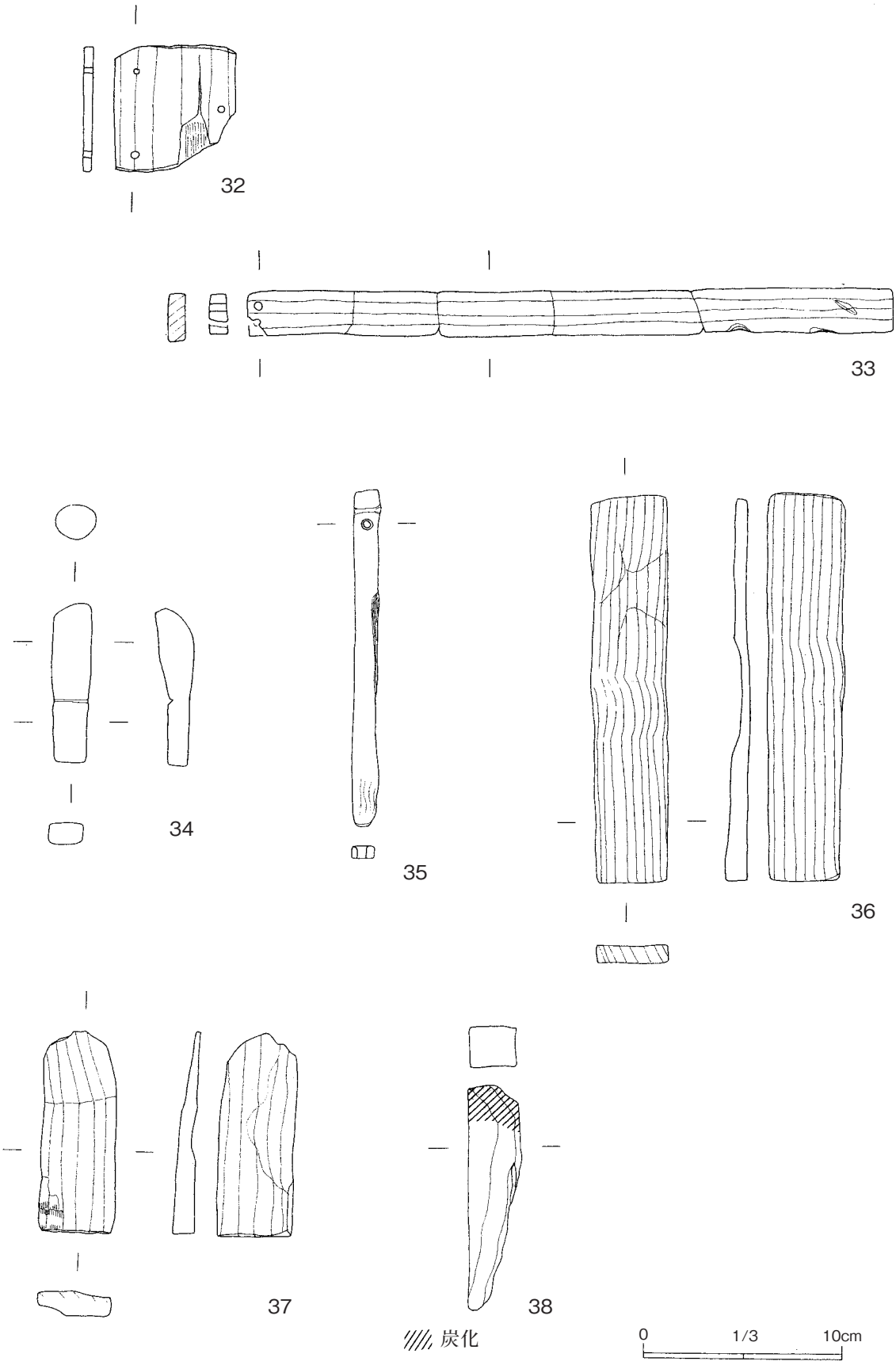




第55図　木製品類 4



第56図　木製品類５



第57図　木製品類 6

（ ）は残存値　　法量の単位はcm

図№	遺物名	出土地点	法量	特徴	備考	遺物ID (661-0705)
01	櫛	外堀	幅(3.7)/高さ(3.0)/棟部厚さ(0.6)		棟部の一部のみ残存	0014-0050
02	桶-底板	23号堀	径(34.8)/厚さ1.8	板目取り	片面炭化、劣化進行中	0014-0027
03	桶-側板	33号堀	長さ15.4/幅6.45/厚さ1.2	板目取り		0014-0030
04	桶-底板ヵ	外堀	径5.5/厚さ0.8	柾目取り	縁に一部段有り	0014-0046
05	桶-側板	1号井戸	長さ(15.0)/幅(4.0)/厚さ1.0	板目取り	片側端部欠損	0014-0055
06	桶-側板	1号井戸	長さ(14.2)/幅(3.0)/厚さ0.7	板目取り		0014-0056-3
07	桶-側板	1号井戸	長さ(15.0)/幅6.7/厚さ1.2	板目取り		0014-0056-1
08	桶-底板	1号井戸	径12.4/厚さ1.5	木釘が1箇所残存	縮みあり	0014-0057
09	桶-底板	5号井戸	径11.8/厚さ2.0	板目取り	小片	0014-0060
10	桶-側板	5号井戸	長さ(23.0)/幅9.2/厚さ1.5	板目取り。大型	劣化進行	0014-0061
11	桶-底板	12号井戸	径19.2/厚さ1.0	木釘2箇所残存。片面に線状痕あり	両面に黒色付着物	0014-0062
12	桶－側板	1トレンチ	長さ11.7/幅3.7/厚さ1.1	板目取り、小型	劣化が著しい	0014-0072
13	漆合子蓋ヵ	4号堀	口径12.0/器高3.4	内外面黒色漆塗。天井部に赤色で施文	口縁部一部欠損	0014-0012
14	漆椀	4号堀	口径13.3/器高5.4/高台径7.9	内面赤色外面黒色漆塗。赤色の施文あり。ヨコギ取り		0014-0013
15	漆椀	4号堀	口径13.6/器高5.2/高台径6.4	内外面黒色漆塗。赤色の施文あり	高台部漆剥落	0014-0014
16	漆椀	6号堀D-6GNo57	口径不明/器高(3.6)/高台径7.4	内面赤色外面黒色漆塗	高台部のみ残存	0014-0006
17	漆椀	8号堀E-5GNo2	口径≒14.0/器高(7.7)/高台径7.0	内外面赤色漆塗	含水率高く劣化進行中	0014-0019
18	漆椀	44号堀	口径≒11.3/器高5.0/高台径7.0	内面赤色外面黒色漆塗。赤色の施文あり	含水率高く劣化進行中	0014-0035
19	漆椀	外堀	口径14.0/器高(7.0)	内外面黒色漆塗。無文か	高台部欠損。破片	0014-0048
20	折敷-縁ヵ	1号井戸	幅(12.0)/高さ2.5/厚さ0.8	綴じ目の樺が良く残る	破片	0014-0056-4
21	折敷-底板	3号井戸	長さ22.0./幅(5.8)/厚さ0.2	柾目取り。2個ずつ2箇所の孔	薄い。歪みあり	0014-0059
22-1	炭化縄ヵ	19b号堀	長さ(9.0)/幅(1.3)/太さ0.2	炭化	残りの良いものを実測	0014-0025
22-2	炭化縄ヵ	19b号堀	長さ(6.0)/幅(1.3)/太さ0.2	炭化	残りの良いものを実測	0014-0025
22-3	炭化縄ヵ	19b号堀	長さ(6.0)/幅(1.2)/太さ0.2	炭化	残りの良いものを実測	0014-0025
23	小型壺	4号堀E-6GNo6	口径5.0/器高5.0/底径4.2	内外面黒色漆塗		0014-0002
24	矧矢	4号堀D-6GNo58	長さ7.0/径2.3	樹種は目視で桐と推測	一部欠損あり	0014-0008
25	杓子ヵ	45号堀	長さ(14.0)/幅(2.4)/厚さ1.0	表面に暗茶褐色の塗膜あり。漆又は柿渋か	破片	0014-0036
26	栓ヵ	外堀	径5.0/器高5.2			0014-0053
27	柄ヵ	4号堀D-6GNo31	長さ7.2/幅1.6/厚さ0.8	片面中央に溝あり	何かを挟んだ物か	0014-0007
28	柄ヵ	外堀	長さ10.2/幅2.8/厚さ1.0	片面中央に溝あり	何かを挟んだ物か	0014-0049
29	部材(ホゾ穴)	4号堀ヵ	長さ9.4/幅2.0/高さ2.4	中央に長方形の孔を穿つ。面を整えている		0014-0073
30	部材	4号堀ヵ	長さ6.3/幅1.8/厚さ1.4	切り込みと孔あり		0014-0074
31	材/加工材	29号堀	長さ13.9/径5.2	中央に切り込みあり。半裁材を利用。片面のみ整える		0014-0029
32	材/加工材	26号堀	長さ(6.2)/幅(6.0)/厚さ0.4	板状。3箇所に孔。板目取り		0014-0028
33	材/加工材	47号堀	長さ(32.0)/幅2.4/厚さ0.8	板状。片面端部に2箇所孔。板目取り	含水率高く崩壊が進行	0014-0038
34	丸棒加工品	1号井戸	長さ(8.0)/径2.0/幅1.7/厚さ1.0	片面に線を刻む		0014-0056-2
35	竹加工品	外堀	長さ(16.7)/幅1.1/厚さ0.6	片面端部に孔あり		0014-0053-2
36	材/板材	47号堀	長さ(19.0)/幅(3.5)/厚さ0.6	片面を整える。板目取り		0014-0034
37	材/板材	3号堀	長さ(10.0)/幅3.7/厚さ1.1	片面を斜めに整形。板目取り		0014-0001
38	材/角材	外堀	長さ(11.0)/幅2.2/厚さ2.0	片面端部炭化		0014-0053-3

第13表　木製品一覧表1

KB14区　　（　）は残存値　　法量の単位はcm

図No.	遺物名	出土地点	法量	特徴	備考	遺物ID (661-0705)
—	櫛	一括か	幅(6.8)/高さ(4.0)/厚さ1.0	白木。棟は緩やかに湾曲して、なだらかな山形	出土地不明	0014-0081
—	下駄片	44号堀	長さ(7.5)/幅(4.0)/高さ(1.7)	連歯下駄		0014-0065
—	下駄	一括	長さ(11.1)/幅(5.6)/高さ(2.2)	連歯下駄	前緒穴・前歯の一部残存。破片化	0014-0080
—	桶ー底板ヵ	一括	長さ7.9/幅2.5/厚さ0.6		小破片	0014-0078
—	曲物ヵ	50号堀	長さ(13.4)/幅(2.2)/厚さ0.2	薄い板状破片		0014-0043
—	漆椀片	38号堀	計測不可	内外面黒色漆塗、内面に赤色の痕跡あり、施文か	劣化著しい	0014-0063
—	漆椀片	44号堀	長さ(9.5)/幅(3.5)/厚さ0.7	内外面黒色漆塗、外面に赤色で施文。扇か	胴部破片。含水率高く、実測不可	0014-0034
—	漆椀片	50号堀	計測不可	内面赤色外面黒色漆塗	小破片	0014-0044
—	漆椀片	48号堀C-3GNo70	長さ(11.3)/幅(5.4)/厚さ0.8	内外面黒色漆塗。大型椀か	胴部破片。含水率高い	0014-0070
—	漆椀片	外堀	計測不可	内外面黒色漆塗	小破片	0014-0052
—	漆椀片	一括	長さ(6.0)/幅(4.5)/厚さ0.7	内外面黒色漆塗。赤色の痕跡あり、施文か	見込み付近か。小破片	0014-0075
—	折敷-底板	4号堀	長さ24.0/幅(2.5)/厚さ0.5	2個ずつ2箇所孔あり。柾目取り		0010-0016
—	杓子片ヵ	14号堀	長さ11.7/幅(1.8)/厚さ0.7		小破片	0014-0022
—	木錘ヵ	49号堀	長さ(6.5)/径≒4.5	中央刳り抜き。栓か		0014-0067
—	柄ヵ	4号堀D-6GNo59	長さ(22.0)/幅2.6～4.0/幅0.9～2.4	片側先端部が幅広く薄い	含水率高く劣化	0014-0009
—	材/板材	4号堀	長さ(23.0)/幅5.5/厚さ0.6	板目取り。薄い		0014-0003
—	材/板材	4号堀	長さ(4.1)/幅(5.9)/厚さ0.7	片面端部炭化	縮みあり	0014-0015
—	材/板材	4号堀	長さ(22.0)/幅(6.0)/厚さ1.5		大きく欠損	0014-0017
—	材/板材片	4号堀D-6GNo17	長さ(4.1)/幅(2.6)/厚さ1.1	板目取り	小破片	0014-0004
—	材/板材	15号堀	長さ(20.5)/幅(6.7)/厚さ1.4	板目取り	劣化進行中	0014-0023
—	材/板材	17号堀	長さ(14.5)/幅(6.2)/厚さ1.5	一部炭化		0014-0024
—	材/板材	42a号堀	長さ(7.6)/幅(6.3)/厚さ1.1		含水率高い	0014-0032
—	材/板材	42b号堀	長さ(15.6)/幅(5.2)/厚さ1.0	板目取り		0014-0033
—	材/板材	44号堀	長さ(11.3)/幅(5.4)/厚さ0.8			0014-0064
—	材/板材	45号堀	長さ(6.2)/幅(2.2)/厚さ0.9	板目取り		0014-0037
—	材/板材	48号堀C-3GNo68	長さ(13.5)/幅(2.5)/厚さ0.3	柾目取り。薄いため曲物か。1箇所孔あり		0014-0041
—	材/板材	外堀	長さ(7.5)/幅(3.3)/厚さ0.6	板目取り		0014-0051
—	材/板材	外堀	長さ(4.4)/幅(3.6)/厚さ1.0	板目取り		0014-0054
—	材/板材	一括	長さ(8.5)/幅(2.7)/厚さ2.2	木釘1箇所あり。一部炭化		0014-0077
—	材/角材	20号堀	長さ(4.0)/幅(2.9)/厚さ1.9	貫通しない孔あり	含水率高く劣化	0014-0026
—	材/角材	一括	長さ(17.6)/幅1.5/厚さ1.5	楔状		0014-0079
—	材/丸棒材	4号堀	長さ(27.3)/径2.8	先端加工あり		0014-0018
—	材/丸棒材	13号堀D-5GNo2	長さ(3.2)/幅3.5/厚さ2.6	先端加工。面を整えた楕円形		0014-0021
—	材/丸棒材	49号堀	長さ(3.7)/径1.9	縦穴穿孔。端部面取り		0014-0068
—	材/丸棒材	4号堀D-6GNo6	長さ8.4/径6.4	両端切断。側面を面取り		0014-0069
—	材/丸棒材	一括	長さ(1.5)/径2.6	加工痕無し		0014-0076
—	材/加工材	4号堀D-6GNo66	長さ(9.0)/幅(6.2)/厚さ6.1	片側端部に面取り、反対側端部は欠損		0014-0010
—	材/加工材	47号堀	長さ(9.0)/径5.9～7.4	非常に薄い	含水率高く崩壊	0014-0040
—	材/割材	40号堀	長さ(24.3)/幅8.5/厚さ3.5	みかん割材	含水率高く劣化進行中	0014-0031
—	材/割材	4号堀D-6GNo80	長さ(25.3)/径6.3/幅3.0/厚さ2.7			0014-0011
—	材/木片	4号堀D-6GNo23	長さ(21.4)/幅(3.6)/厚さ1.3			0014-0005
—	竹片	9号堀	長さ(17.6)/幅2.2/厚さ0.5	特に目立った加工痕はなし		0014-0020
—	竹片	2号井戸	長さ(17.5)/幅2.2	炭化		0014-0058

第14表　木製品一覧表 2

第３節　金属製品

金属製品は鉄製品と銅製品がある。それぞれ用途別に記述するが、銭貨は別に扱う。

（１）鉄製品

○生活に関するもの

「住」の釘（１・２）は断面角形で１は頭部を曲げて作出し、脚部曲がる。２は上下端が尖り、合釘と思われる。いずれも９堀出土。犬釘状製品（３）は全長20㎝と長く、頂部が潰れ頭部が作出されている。断面矩形で先端が屈曲している。鋲（４）は頭部円形・軸部矩形・下端は長方形板で厚さ2.8㎝のものを留めている。47堀出土。刀子（５）は切先・茎尻を欠損する。厚さ刃部背で３㎜。９堀出土。

○生業に関するもの

「加工」の握り鋏（６）は先端を欠損し、握り部が屈曲する。刃部の長さ4.8㎝。29堀出土。

○いくさに関するもの

「刀類」の小刀（７）は先端を欠損する。区は無く全体が反る。刃部は12.5㎝茎は8.0㎝である。茎に４㎜の穿孔を有する。小柄（８）は刀身部で切先・茎の一部を欠損する。11井出土。

「弓矢」の鉄鏃（９・10）の９は鏃身円錐・先端楕円形である。茎下端は欠損している。10は発錆後剥落顕著。先端欠損しており鏃身5.2㎝・茎は3.5㎝。いずれも断面矩形で鉄鏃と思われる。６井出土。

○不明

棒状製品（11）としたが断面平坦な長方形。表面剥落し、上下欠損する。９堀出土。Ｌ字状製品(12)はＬ字形の棒に板状の鉄板が巻き付けられる一部が残るもの。近現代のものか。24堀出土。鉤状製品(13)は左に先端が尖る。断面は発錆により不明瞭、あるいは鎌か。47堀出土。

（２）銅製品

○生活に関するもの

「衣」の簪（14）は頭部の耳かきを欠損する。長さ11.3㎝。頭部は菱形で４つの菱形の透かし穴を、中央に魚々子文を施す。表面には梅鉢文と篠文、裏面には梅鉢文を刻む。脚部は二股である。断面は頭部周辺は平坦で、他は丸味が強い。

「住」の飾り金具（15）は上下端を軽く折り曲げ、５つの穿孔を梅鉢文状に施し、わずかに鍍金が遺る。１堀出土。縁金具（16）は屈曲し、右端を切断している。把手（17）は持ち手部分は平坦である。

「嗜好・遊び」では、煙管があり、雁首（18～30）と吸口（31～40）がある。雁首の20～24・26は首が長く、22は接続部が細い。19・25・27は首が短く、19は側面屈曲した椀形・25は側面台形の火皿で首は太いまま接続する。18・28～30は火皿のみで30は浅い。吸口の34・38は中央部が膨らみ吸口部近くが絞られるバット状の側面である。36・37・40は円筒部を有する。33はラッパ状である。22・26は体部上面が平坦で灰を落とした際の叩打によるものであろう。35は扁平に潰れている。37には羅宇の木質が残る。31・32は９堀出土。

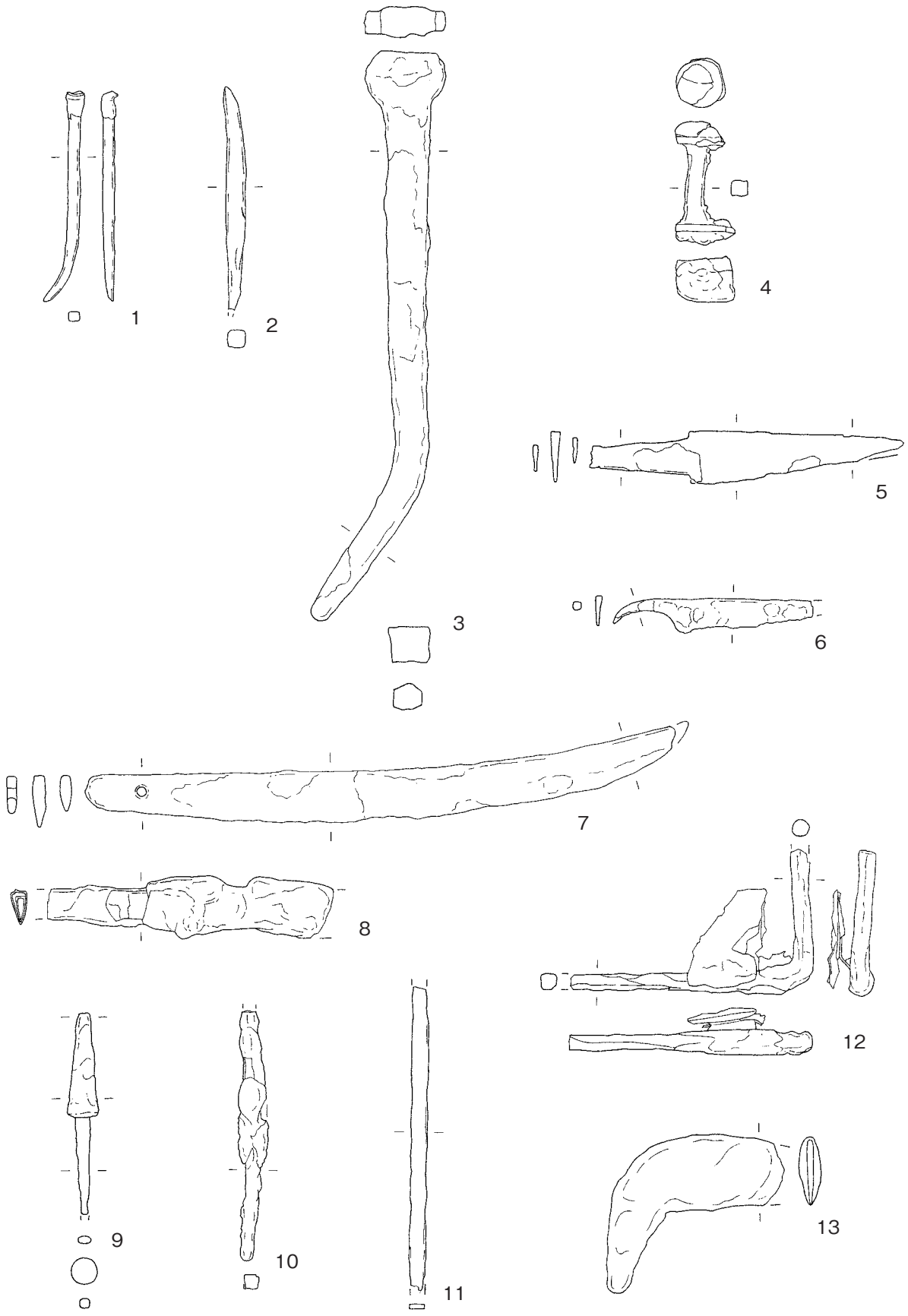
○いくさに関するもの

「甲冑」の茱萸金物（41）は甲冑の部品で、筒状だが小口径がやや大きく、左端は内側に折り込まれる。全面に菊文を刻んだ後、成形される。脇鞐（46）は長さ2.6㎝と小さく両面の一部に鍍金がみられる。

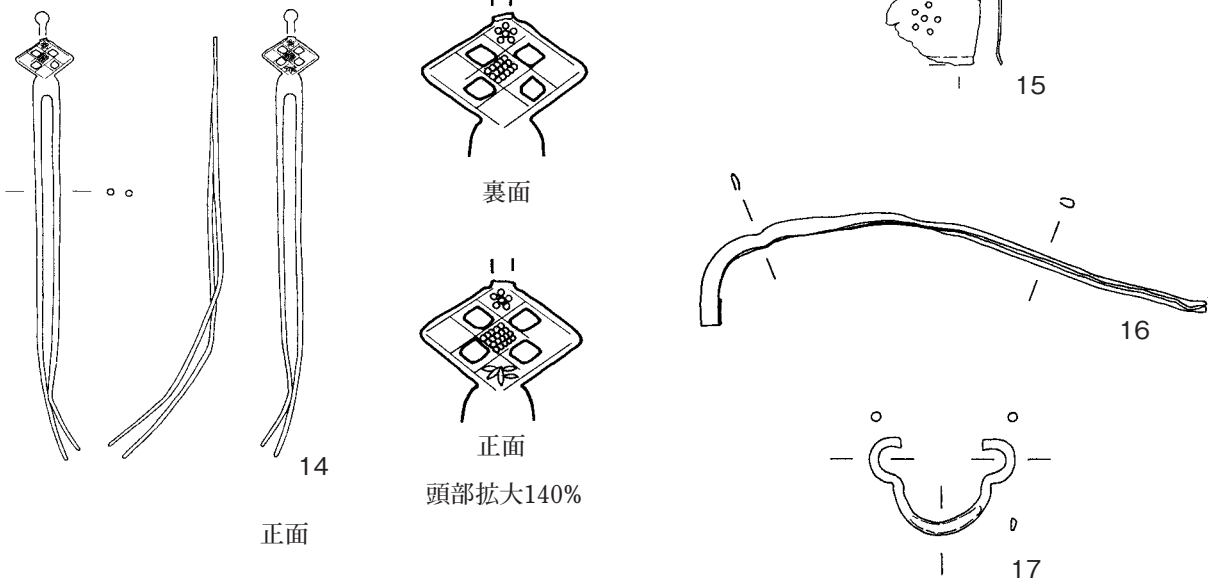
「刀類」の目貫（43・44）は、43は３つの円を繋げそれぞれに四つ菱中央に花文を置き、魚々子模様を施す。44は菱形で無文。端が曲がる。いずれも裏面は窪む。43は48堀出土。鎺（45）は高さ2.2㎝と小さい。

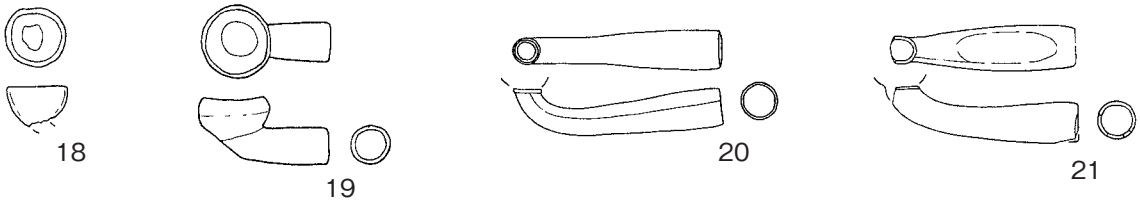
○ほか

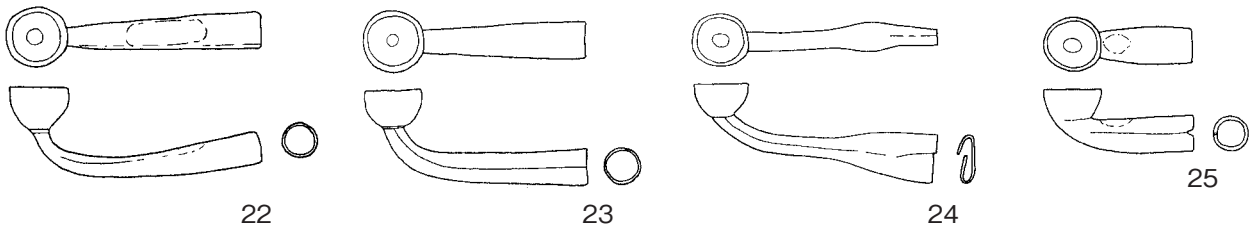
円盤状製品（42）は円形を呈し厚さ１㎜を測る。下部を欠損し屈曲する。鉛製か。7.1ｇ。４堀出土。指輪状製品（47）は幅0.6㎝の板を環状に曲げたもので両端が僅かに離れる。連続して斜めの刻み模様を入れる。端金物（48）は筒型で、頂部は丸く膨ら

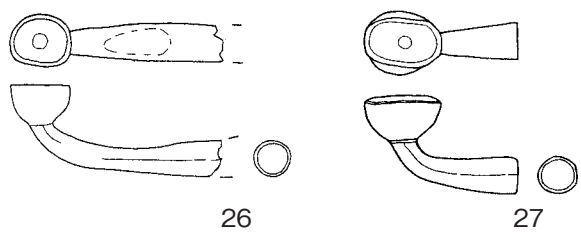


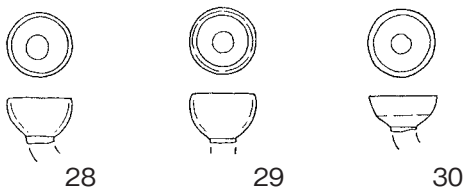
第58図　金属製品１（鉄）

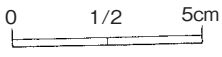




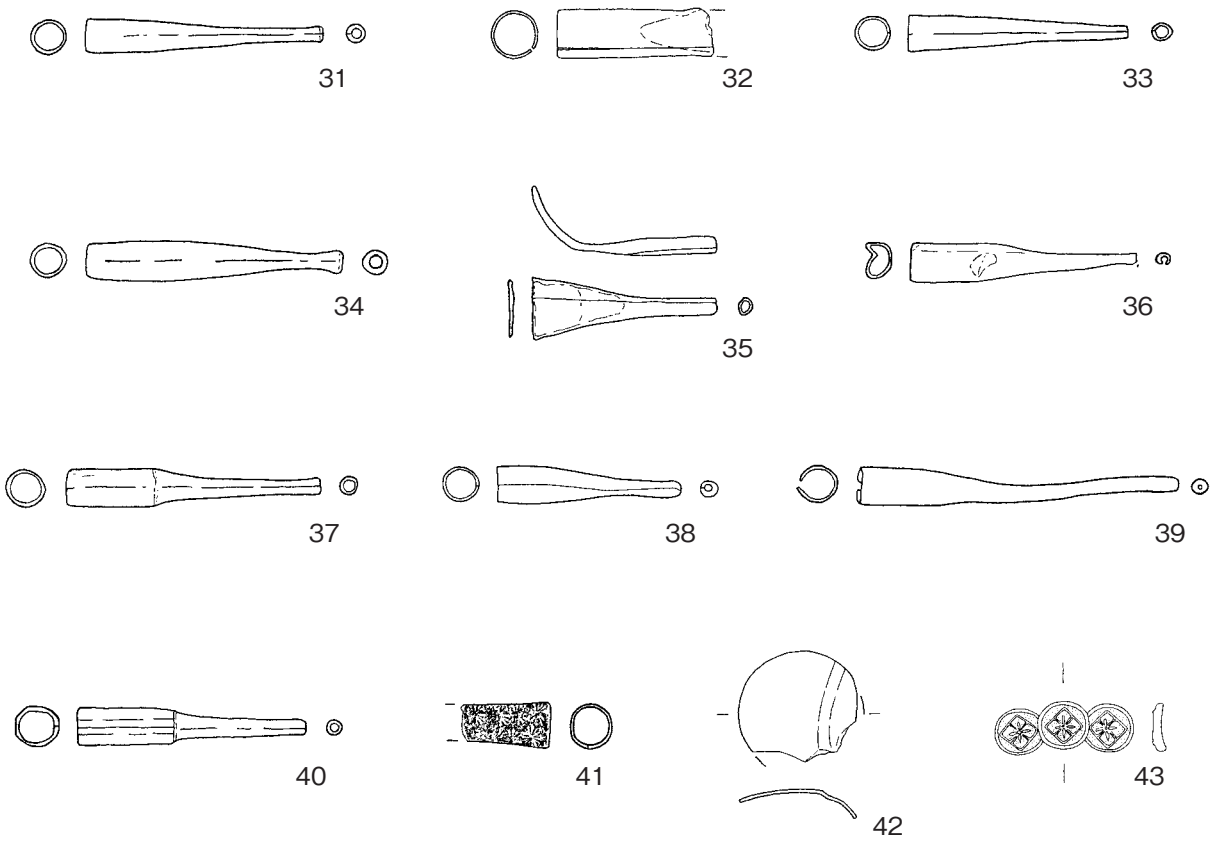




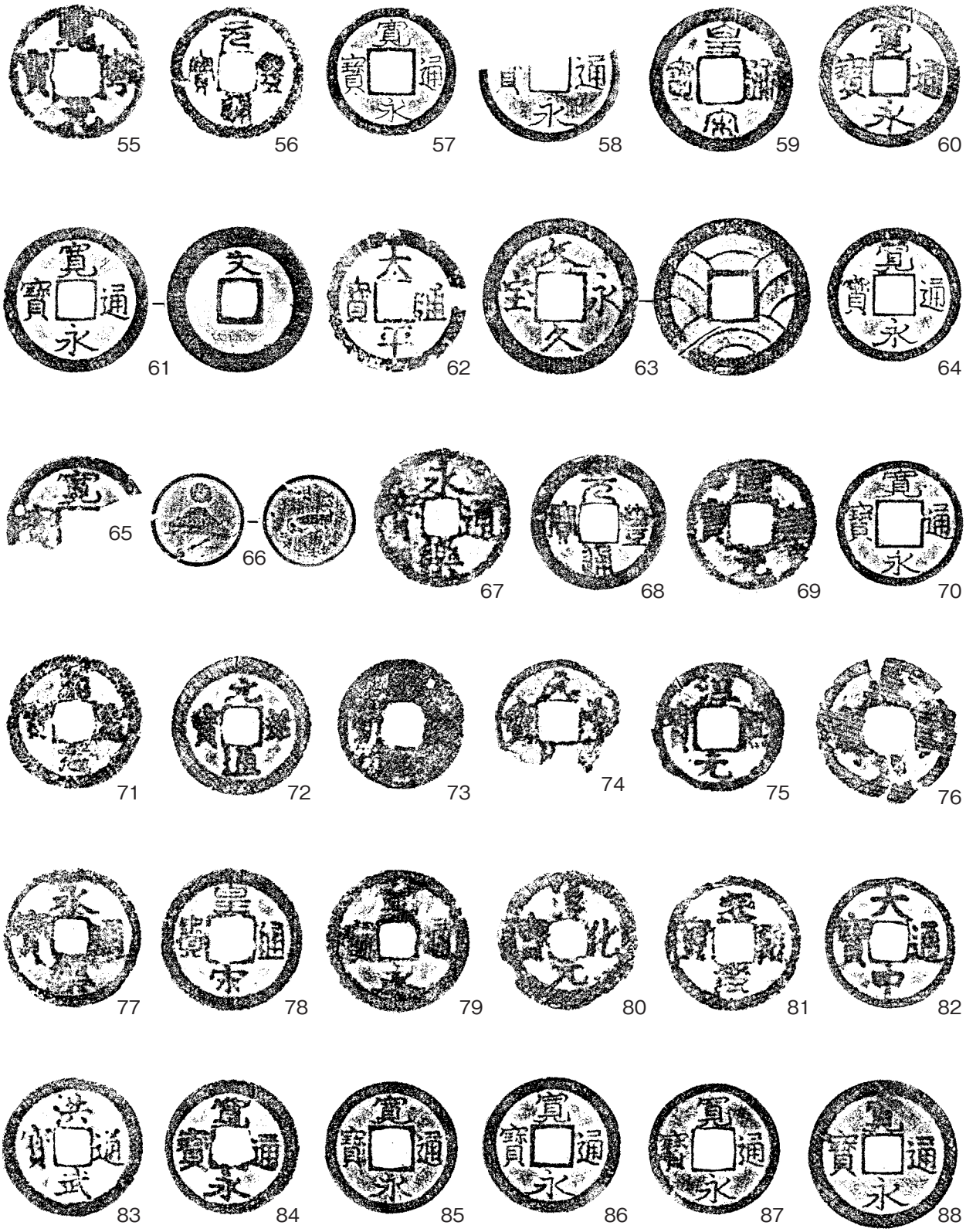




第59図　金属製品２（銅１）

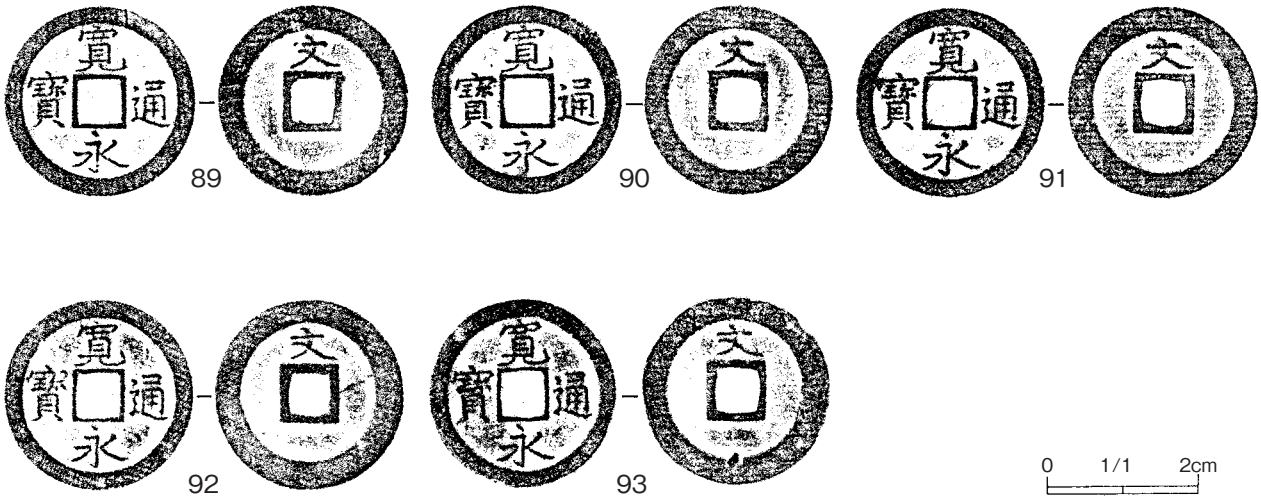


第60図　金属製品３（銅２）



0 1/1 2cm

第61図　金属製品４（銭貨１）



第62図　金属製品５（銭貨２）

み径３㎜の孔を有する。小口近くの側面に２条沈線を巡らせ一箇所穿孔を施す。板状製品（49）は、長方形のものが屈曲している。15堀出土。板状品(50)は厚さ0.3㎝で下端を欠損する。叩き整形か。鉛製。６Ｔ出土。塊状品（51～54）は不定形で緑青に覆われ、スラグと思われる。51は49堀・52は50堀、53・54は１溝出土。

（３）銭貨

総数39枚確認されている。うち近世の寛永通宝が18点、文久永宝が１点、近代以降の一銭が１点。他は中世以前の渡来銭で、不明１点である。

寛永通宝は61・89～93は背面に文の文字がある文銭である。寛永通宝は８・９・27・34堀、５井、外堀、オチキワ（外堀)、一括で出土している。文久永宝（63）は背面波紋で外堀出土。

（４）スラグ

本来は別の節を設けるべきだが本節で扱う。

スラグは、総量2,744ｇ出土している。数グラムの細片が多いが、４・９・11・13・43・48・49堀、外堀、１・２・５・６・10溝、８壙、８井、遺構外で出土している。特に多いのは、43堀の198ｇ、１溝の302ｇ、10溝の350ｇ、外堀の185ｇで遺構外では1455ｇである。

法量の単位はｃｍ　（　）は残存値＊は不確定な推定復元値　遺物ＩＤ２は、鉄662-/銅663-

図№	遺物名	材質	出土地点	長さ	幅	厚さ	遺物ID1	遺物ID2	備考
1	釘(角)	鉄	9堀	7.4	0.4	-		662-0705-0014-0002	
2	釘(角)	鉄	9堀	(7.8)	0.6	-		0014-0003	
3	犬釘状製品	鉄	一括	20.0	2.8	1.0		0014-0023	
4	鋲	鉄	47堀	4.3	2.0	1.6		0014-0008	
5	刀子	鉄	9堀	(11.0)	1.8	0.3		0014-0001	
6	握り鋏	鉄	29堀	(6.9)	1.2	0.3		0014-0006	
7	小刀	鉄	外堀	(20.5)	1.8	0.4		0014-0014	
8	小柄(刃身)	鉄	11井	(9.9)	2.1	0.6		0014-0013	
9	鉄鏃	鉄	一括	(7.0)	1.0	-		0014-0025	
10	鉄鏃ヵ	鉄	6井	(8.7)	1.0	-		0014-0012	
11	棒状製品	鉄	9堀	(11.0)	0.6	0.1		0014-0004	
12	Ｌ字状製品	鉄	24堀	(8.4)	(5.1)	1.6		0014-0005	
13	鉤状製品	鉄	47堀 B-3G №24	(6.2)	5.5	0.7		0014-0007	
14	簪	銅	一括	11.3	1.7	0.2	町金0140	663-0705-0014-0042	
15	飾り金具	銅	1堀 D-7G №3	(2.5)	(2.5)	0.8		0014-0001	
16	縁金具	銅	一括	13.2	0.5	0.3	町金0141	0014-0027	
17	把手	銅	一括	3.9	2.5	0.2	町金0134	0014-0043	

第15表　金属製品一覧表１

法量の単位はcm　（ ）は残存値＊は不確定な推定復元値

図No.	遺物名	材質	出土地点	長さ	幅	厚さ	遺物ID1	遺物ID2	備考
18	煙管(雁首)	銅	3T東	-	1.6	1.0		0014-0013	
19	煙管(雁首)	銅	外堀	3.4	1.8	1.8		0014-0015	
20	煙管(雁首)	銅	用水	5.4	0.7	1.4		0014-0019	
21	煙管(雁首)	銅	オチキワ(外堀)	(4.9)	1.0	1.3		0014-0022	
22	煙管(雁首)	銅	一括	6.7	1.6	2.4		0014-0032	
23	煙管(雁首)	銅	一括	5.8	1.6	2.6		0014-0034	
24	煙管(雁首)	銅	一括	6.5	1.4	2.7		0014-0036	
25	煙管(雁首)	銅	一括	3.9	1.5	1.7		0014-0037	
26	煙管(雁首)	銅	一括	(5.7)	1.6	2.3		0014-0038	
27	煙管(雁首)	銅	一括	4.0	2.0	2.4		0014-0039	
28	煙管(雁首)	銅	一括	-	1.7	(1.2)		0014-0041	
29	煙管(雁首)	銅	一括	-	1.7	(1.3)		0014-0044	
30	煙管(雁首)	銅	一括	-	1.8	(1.0)		0014-0045	
31	煙管(吸口)	銅	9堀	6.3	1.0	-		0014-0003	
32	煙管(吸口)	銅	9堀	(4.1)	1.3	-		0014-0004	
33	煙管(吸口)	銅	用水	5.8	1.0	-		0014-0020	
34	煙管(吸口)	銅	オチキワ(外堀)	6.7	1.0	-		0014-0023	
35	煙管(吸口)	銅	一括	4.9	1.7	-		0014-0024	
36	煙管(吸口)	銅	一括	5.9	1.0	-		0014-0028	
37	煙管(吸口)	銅	一括	6.7	1.0	-		0014-0033	
38	煙管(吸口)	銅	一括	4.9	1.0	-		0014-0035	
39	煙管(吸口)	銅	一括	8.3	1.0	-		0014-0040	
40	煙管(吸口)	銅	一括	6.0	1.0	-		0014-0046	
41	茱萸様金物	銅	オチキワ(外堀)	(2.3)	1.1	-	町金0137	0014-0021	
42	円盤状製品	鉛	4堀	3.2	-	0.1		0014-0002	
43	目貫	銅	48堀C-3GNo.72	3.7	1.4	0.3	町金0053	0014-0006	
44	目貫	銅	A-2GNo.7	3.8	1.2	0.2	町金0130	0014-0011	
45	鎚	銅	一括	2.2	1.5	1.0	町金0133	0014-0025	
46	脇鞐	銅	一括	2.6	0.8	0.3	町金0129	0014-0030	
47	指輪状製品	銅	C-3GNo.37埋土	2.4	0.6	0.1	町金0136	0014-0012	
48	端金物	銅	外堀	2.0	1.2	-	町金0135	0014-0016	
49	板状製品	銅	15堀	4.3	1.4	-		0014-0005	
50	板状品	鉛	6T	(2.0)	1.7	0.3		0014-0014	
51	塊状品	銅	49堀	2.9	1.8	0.9		0014-0007	
52	塊状品	銅	50堀	2.3	1.6	0.3		0014-0008	2.7g
53	塊状品	銅	1溝	2.3	1.2	0.6		0014-0009	3.3g
54	塊状品	銅	1溝	1.8	1.8	1.1		0014-0010	3.7g

第16表　金属製品一覧表2

No.	出土地点	銭種(銭貨名は番号順)	遺物ID(651-0705-0014)
55･56	4堀	熙寧元宝、元豊通宝	0020～0021
57	8堀	寛永通宝	0022
58	9堀	寛永通宝	0023
59	23堀	皇宋通宝	0024
60	27堀	寛永通宝	0025
61	34堀	寛永通宝	0026
62	50堀	太平通宝	0027
63～66	外堀	文久永宝、寛永通宝2、一銭	0016～0019
67	1溝	永楽通宝	0030
68	5溝	元豊通宝	0031
69	10溝A-3GNo.55	熙寧元宝	0032
70	5井	寛永通宝	0036
71	6井	紹聖元宝	0037
72	12井	元祐通宝	0038
73	12壙ヵC-1GNo.3	皇宋通宝	0029
74･75	3T	元豊通宝、淳熙元宝	0033～0034
76	4T	不明	0035
77	A-2GNo.19	永楽通宝	0015
78	C-1GNo.27	皇宋通宝	0028
79	オチキワ(外堀)	寛永通宝	0039
80～93	一括	淳化元宝、天聖元宝、大中通宝、洪武通宝、寛永通宝10	0001～0014

第17表　金属製品一覧表3（銭貨）

第４節　石製品類

ここでは、成形したものを使用した石製品と使用による損耗形態を呈す石器を石製品として、墓標・供養塔である板碑を石造物として扱う。

（１）石製品

石臼は１～23で、茶臼と粉挽臼と搗臼がある。茶臼は３・６・７・21で、16は搗臼、他は粉挽臼である。

12は方形・22は円形の挽木の挿入口を設ける。８・17・22の貫通する孔は、これまで挽木の挿入口としていたが、縄などを通して挽く起点としたか。２・９・12・14には供給口が、４・５・６・17・21には芯棒孔が、１には芯棒受けが認められる。

磨痕については、８・12・13・14・15・18の各所に磨痕が残る。17は上面のほぼ全面及び側面の一部が磨られている。21の磨面は分割した左側破片は平滑で右側破片はほぼ荒れている。16の表裏に深い溝がある。

１・３・４・８・11・15・17・18・20・21・22には一部あるいは全面に黒化が見られる。

24～27は扁平で、24は円形、他は不整形を呈し、径２㎝前後。24は暗褐色で光沢有り。25は黒色で光沢有り。26は黒色、27は黒灰色で光沢有り。碁石としておく。

硯は28～32で、29の海には墨が付着し、側面は黒色である。28・32の裏面の左右には台が作出される。31は仕上げ砥石の可能性もある。

33～39は緑泥石片岩を素材とした石製円盤で、周囲を敲打により剥離し円形にする。直径3.8cmから6.6㎝。38は周囲・表裏を摺る。現在のところKB14・15区以外では見られない。

砥石は40～71で、40～52・60・64～71は、直方体を基本形とし、損耗により変形するものがある。48は幅1.5～２㎝の溝状の窪みを有する。泥岩質のものがほとんどで、42は安山岩製、46は砂岩製。53～59・61は緑泥石片岩製で、板碑の２次利用と思われる。いずれも平坦面に磨痕があり、54・57・59・61は側縁に潰れが、53は側縁に磨痕・潰れ、55は側縁に潰れ・抉り痕が見られる。58は表裏に粗い条線・側面に抉りが見られる。

磨石は72～126で、礫の原形が残るものが多い。基本的に、手持ちで往復運動の結果による平坦面が形成される。96は敲打痕や鋭利なものにより線状痕が残る。使用により形成された面が不規則に存在する。石材はデイサイトが多数を占める。名称が縄文時代のものを連想させるが、砥石と区別するために別に扱う。

火打石は127～137で石英・チャートで擦痕・潰れが認められるものを火打石として扱った。判別は困難であるが火打金の出土例から想定しておくべきものである。

（２）石造物

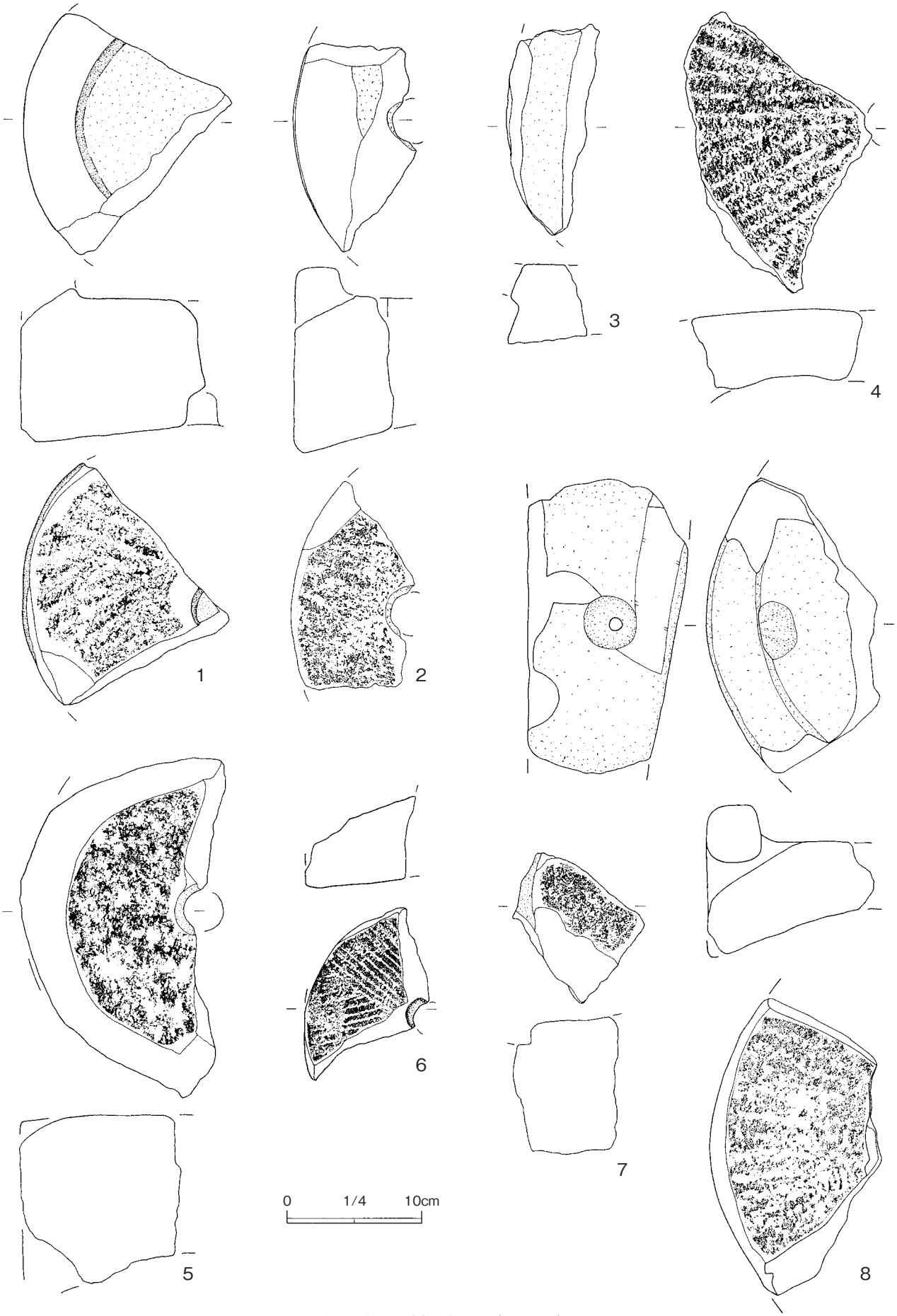
【板碑】板碑は31点を数えるが、156は頂部を一部欠くのみであるが、他はすべて破片である。

○**銘文など**　年号のわかるものは、156の貞治五年ヵ（1366ヵ）十一月廿二日、157の貞和二年（1346）二月日である。14世紀半ば。キリークは144・155・156・163に、138・141・166に光明真言を、150・153に名号を、152に供養者を、139・145・148・154・158・161・162・164・168に年号・干支・月日の一部を刻む。

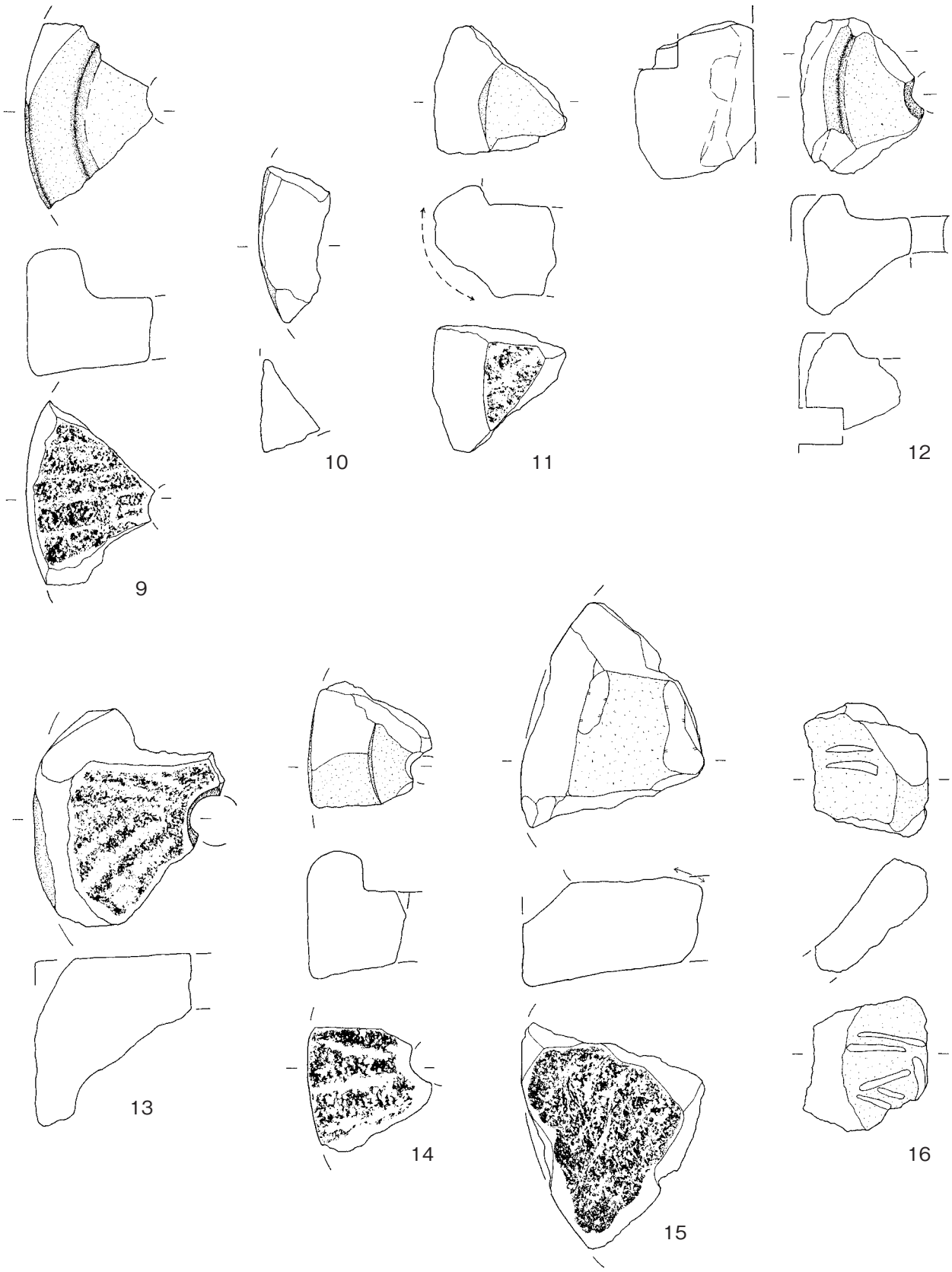
○**使用痕**　139・140・143・148・149・160・164・166・167には、２次使用としては表面及び側面に摩耗痕・線条痕が認められるものがあり、砥石として使用されたものであろう。153は下部断面が154は側面が潰れる。敲打によるものか。

○**付着物**　廃棄以降であろうか、139・144・145・155・161にはススが付着し、142・143・144・156には一部黒化が見られる。なんらかの焼却や戦乱時の燃焼に伴うものであろう。

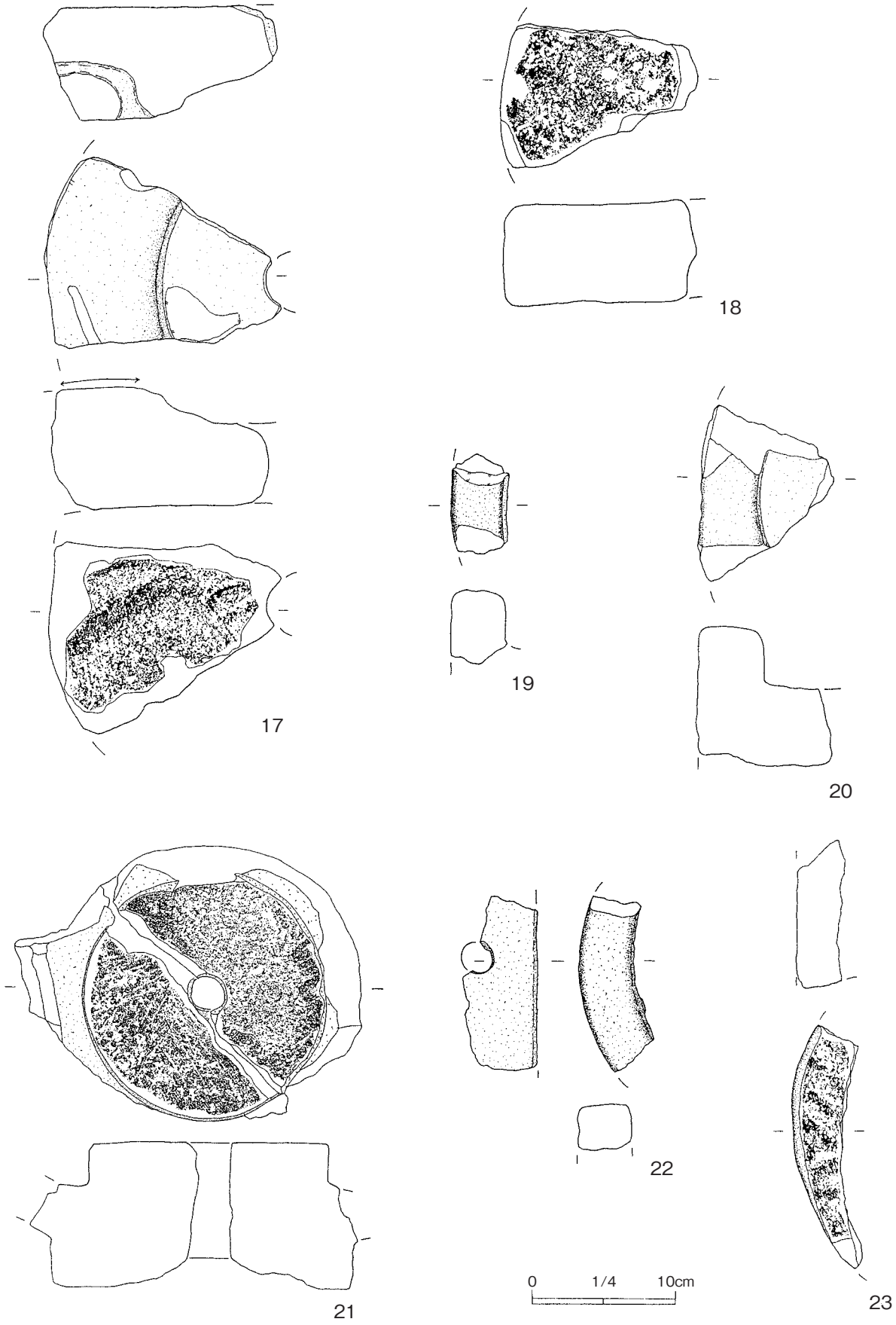
【五輪塔】　169は五輪塔の地輪と思われ、欠損部に摩耗痕が見られ一部黒化している。



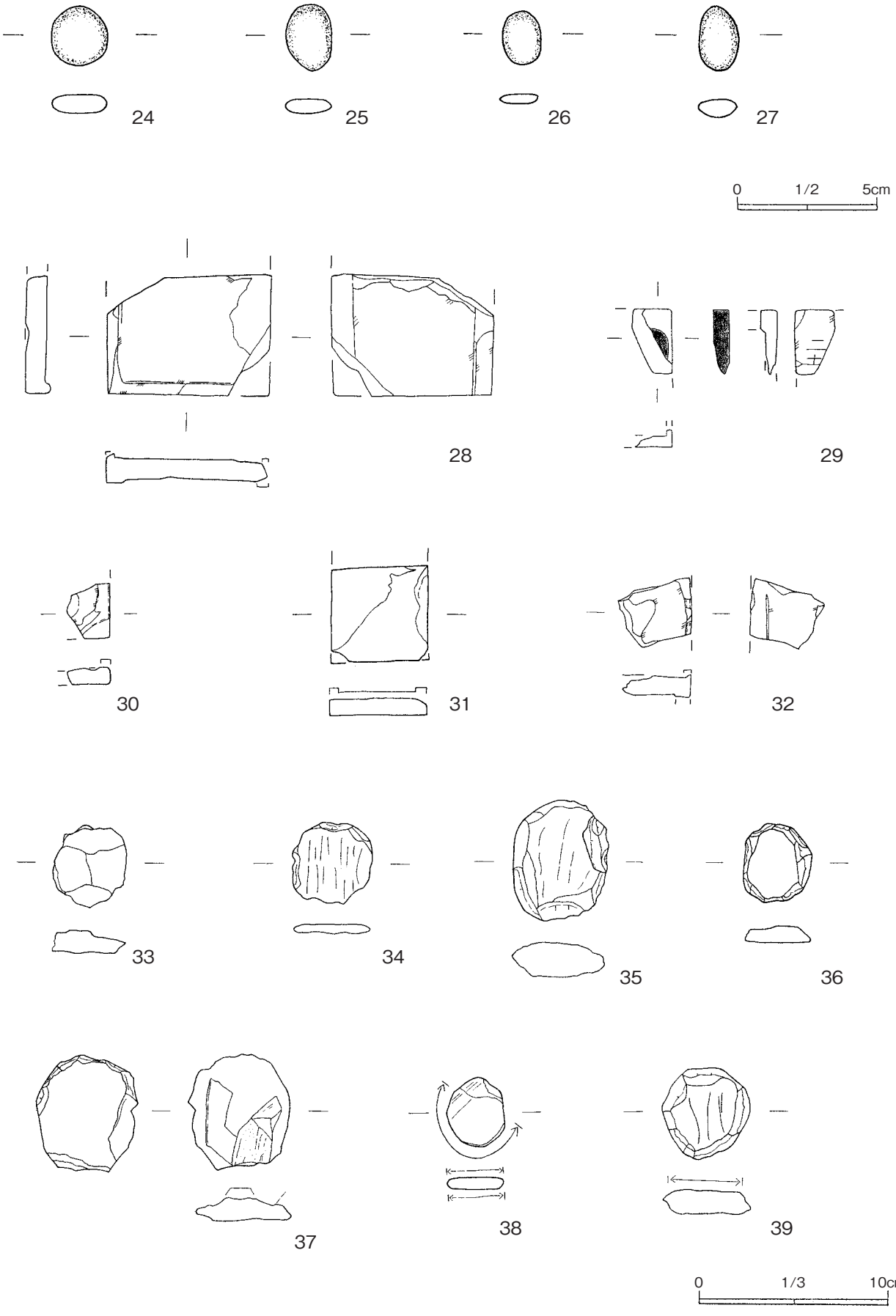
第63図　石製品類１（石臼１）



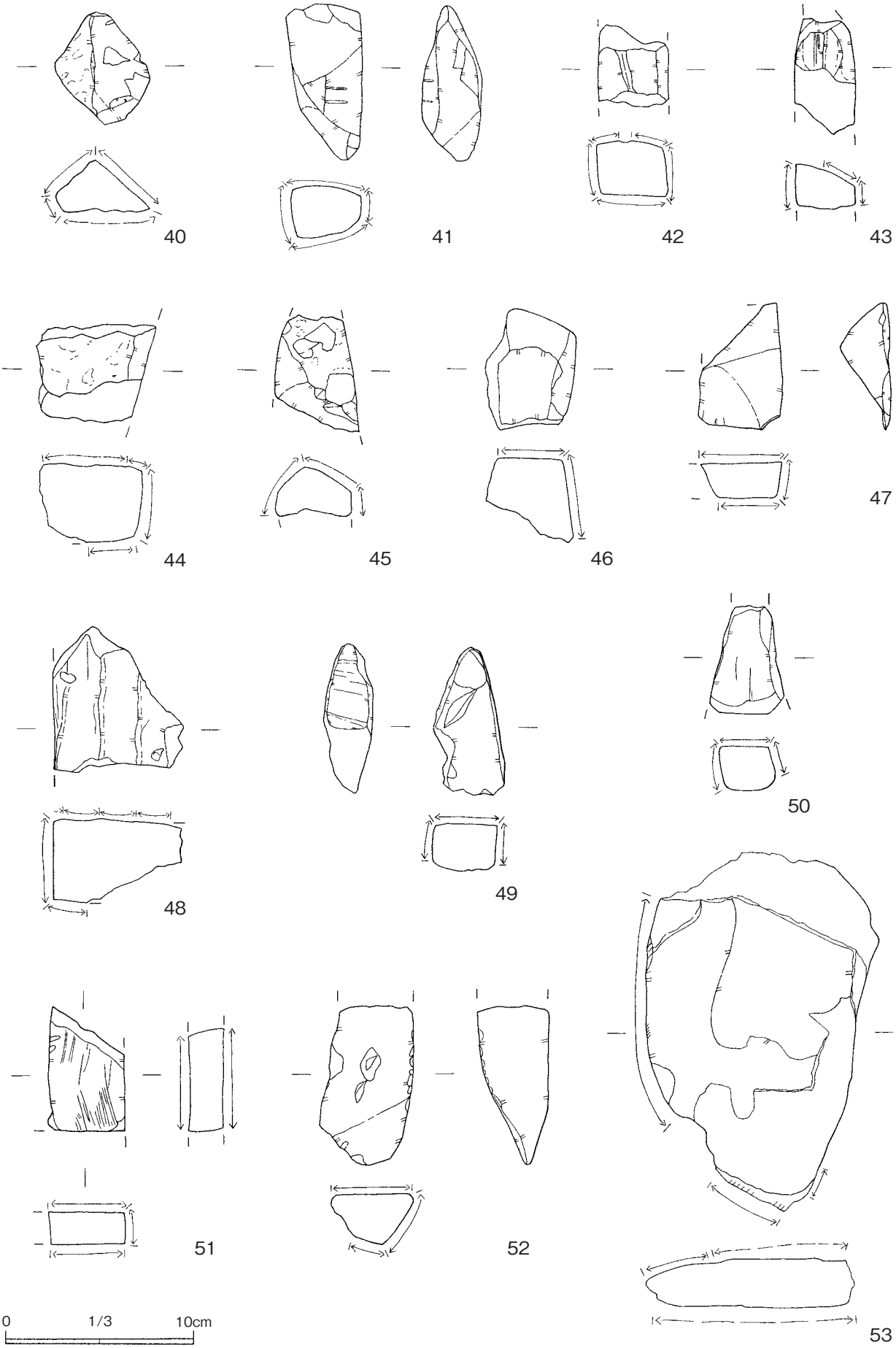
第64図　石製品類２（石臼２）



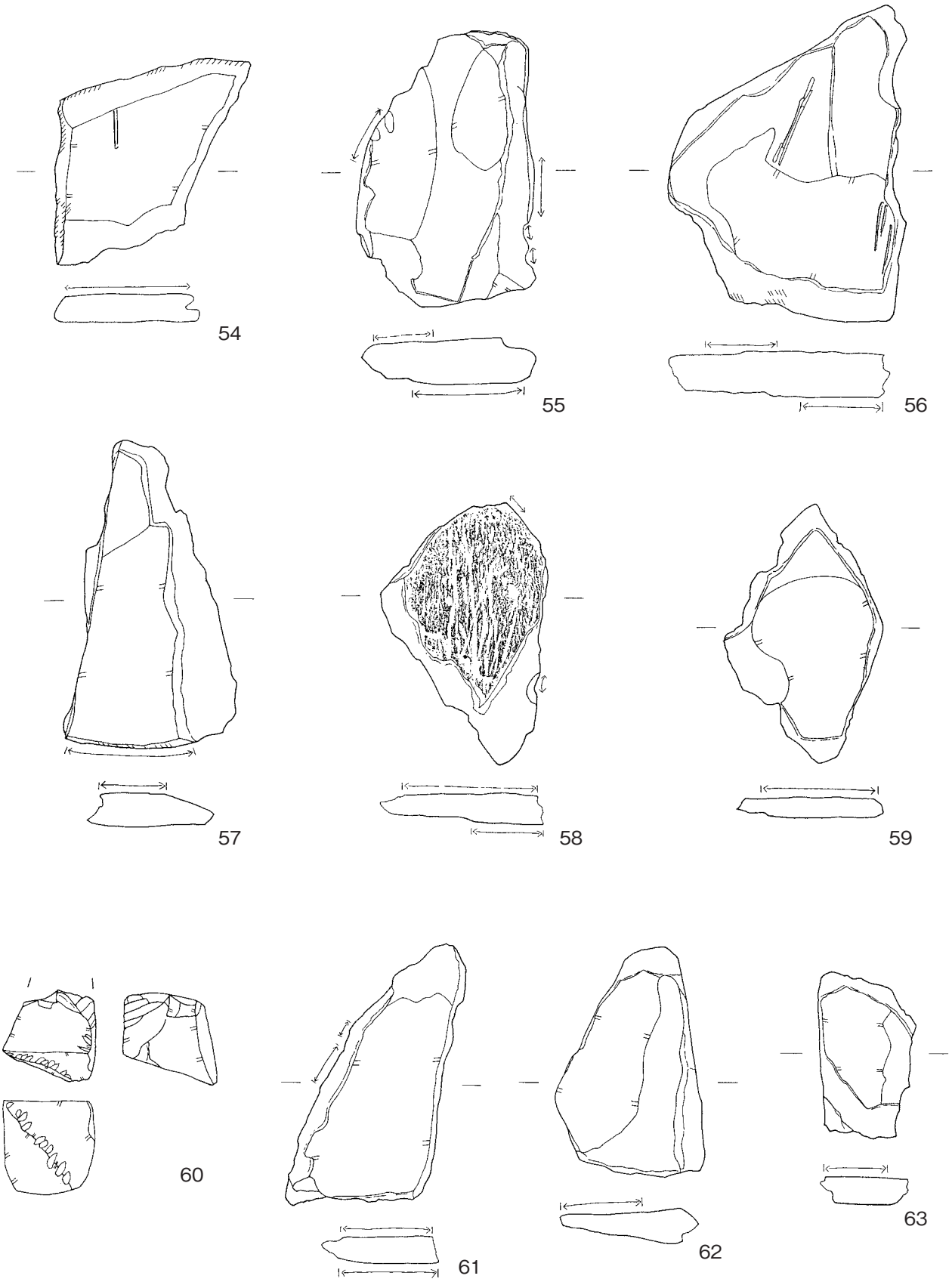
第65図　石製品類３（石臼３）



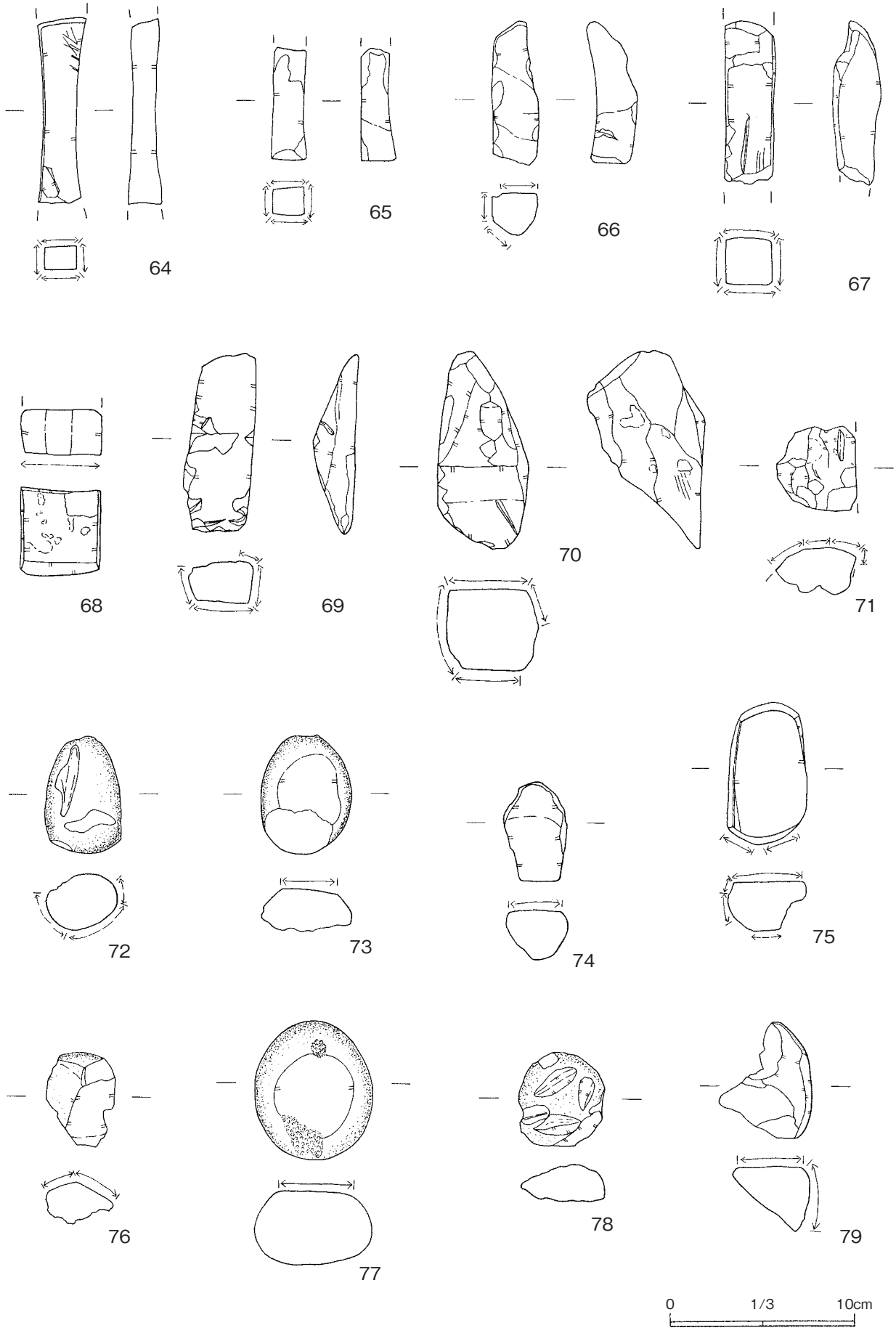
第66図　石製品類４（碁石・硯・石製円盤）



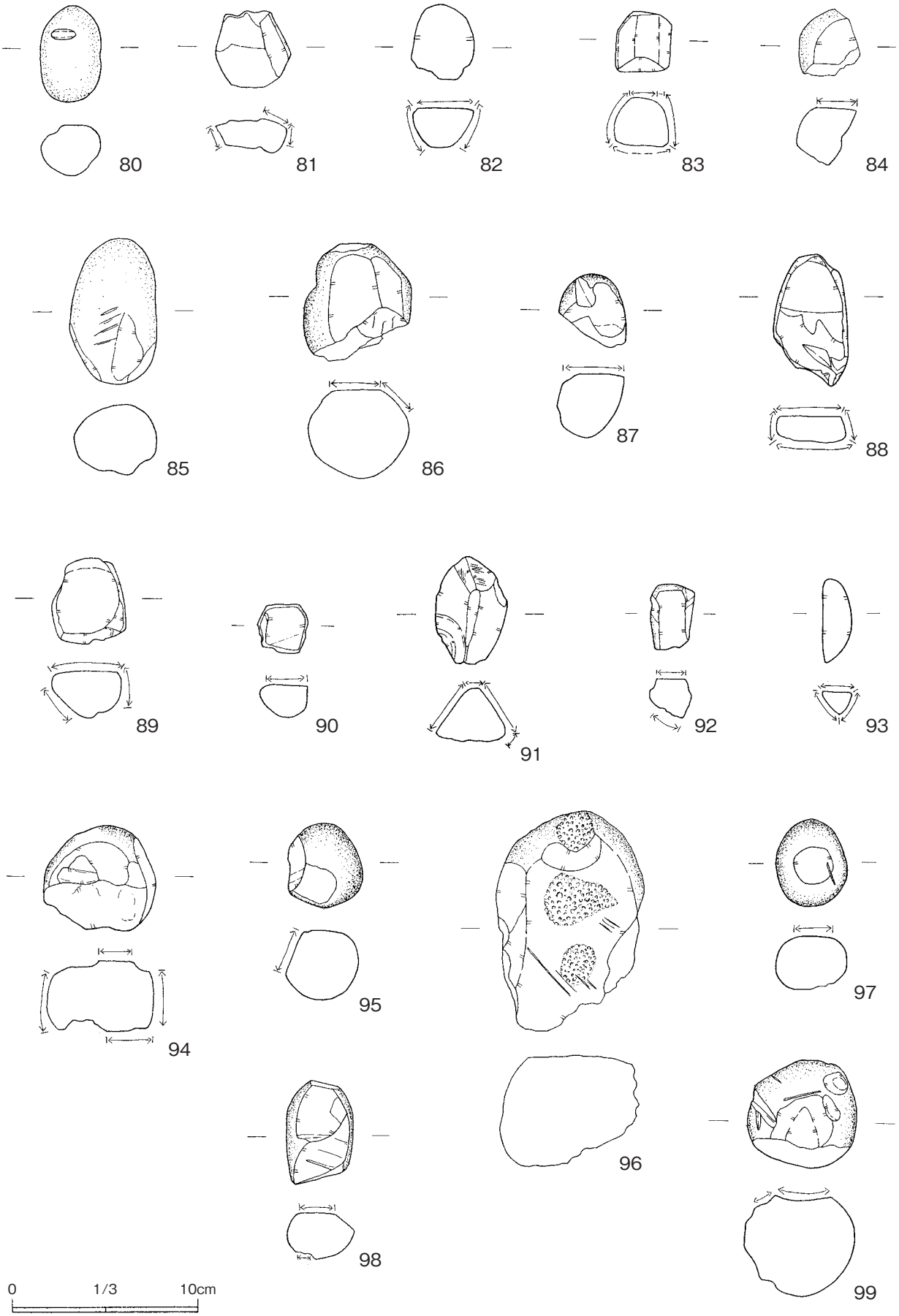
第67図　石製品類５（砥石１）



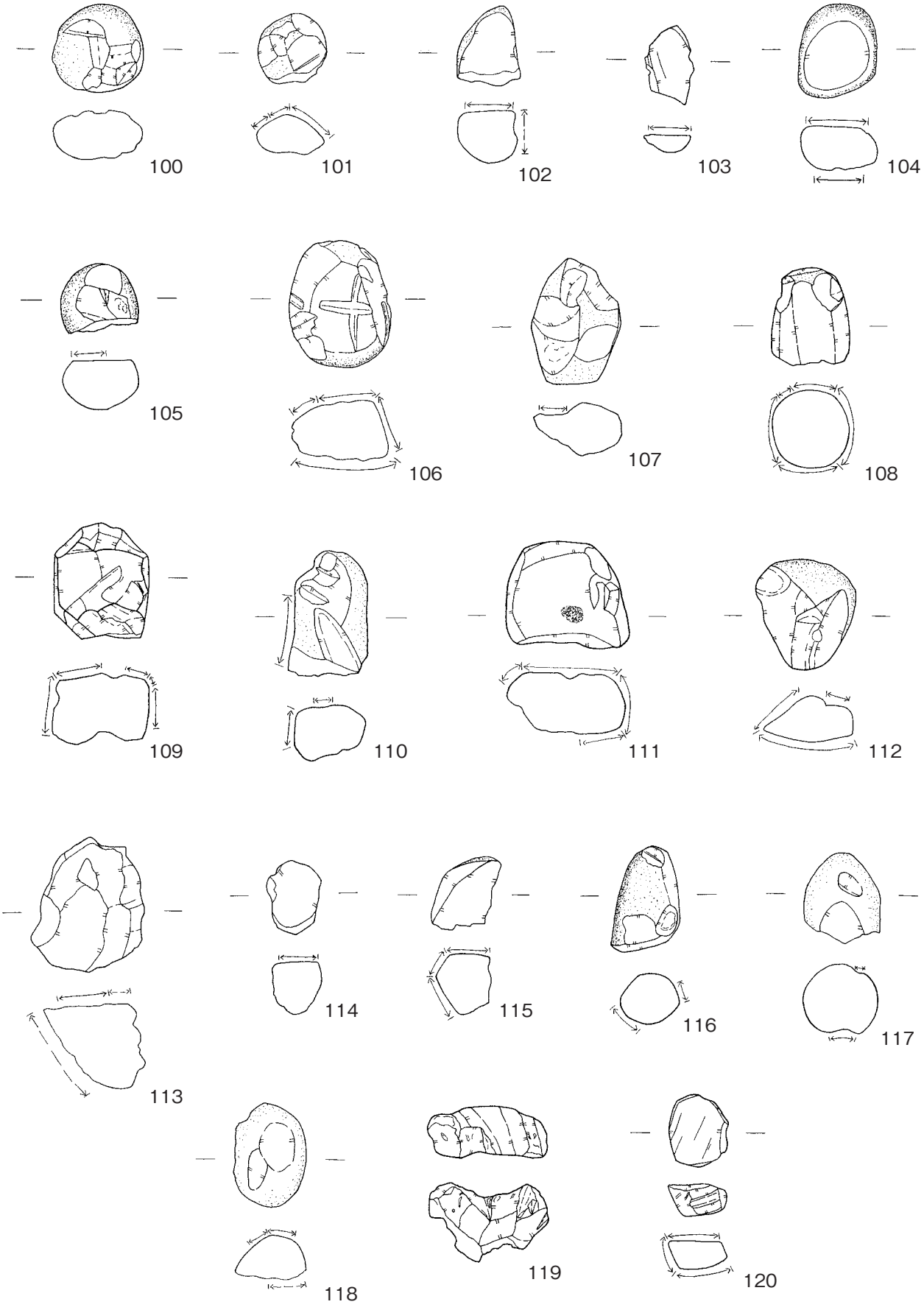
第68図　石製品類６（砥石２）



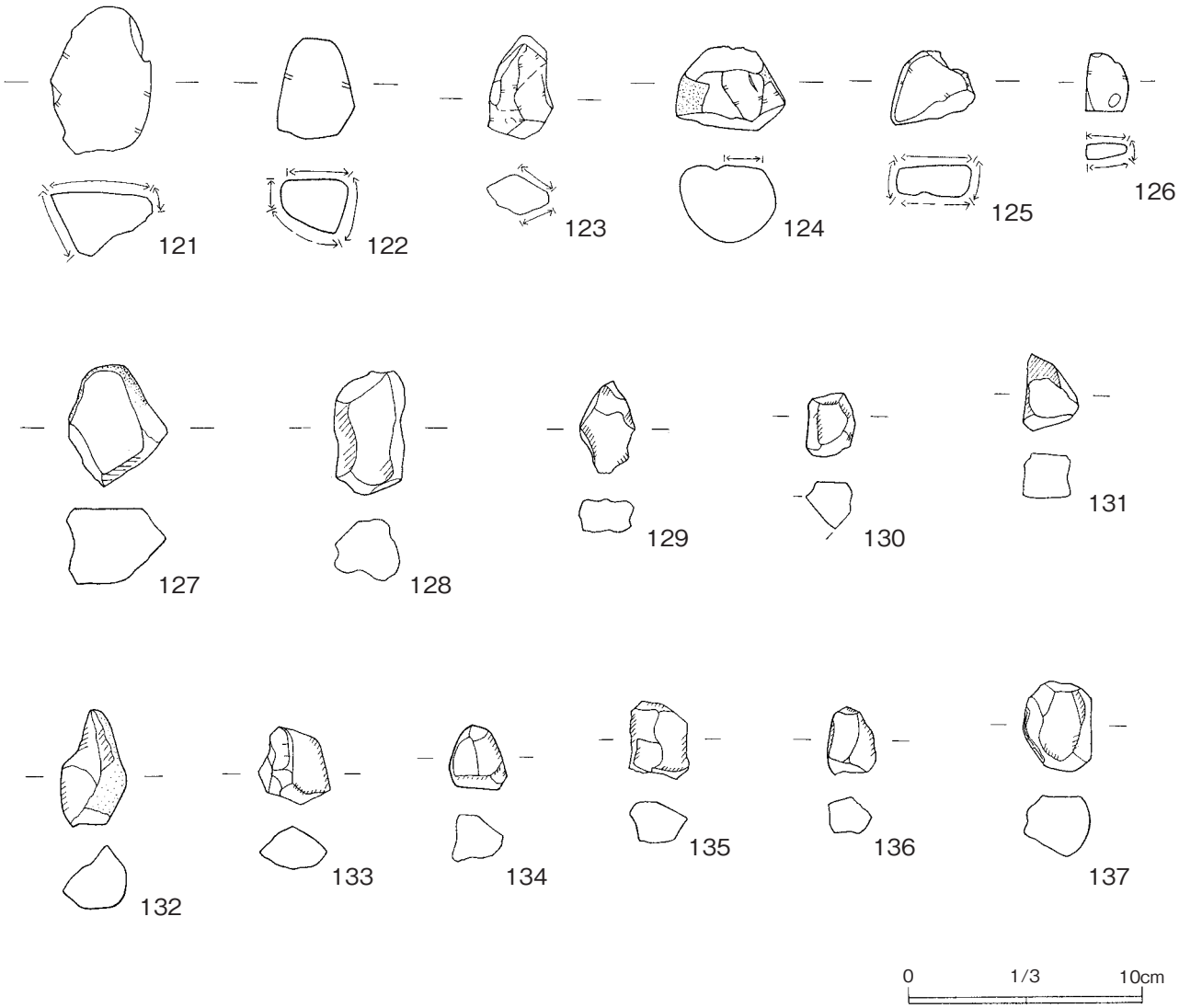
第69図　石製品類７（砥石３・磨石１）



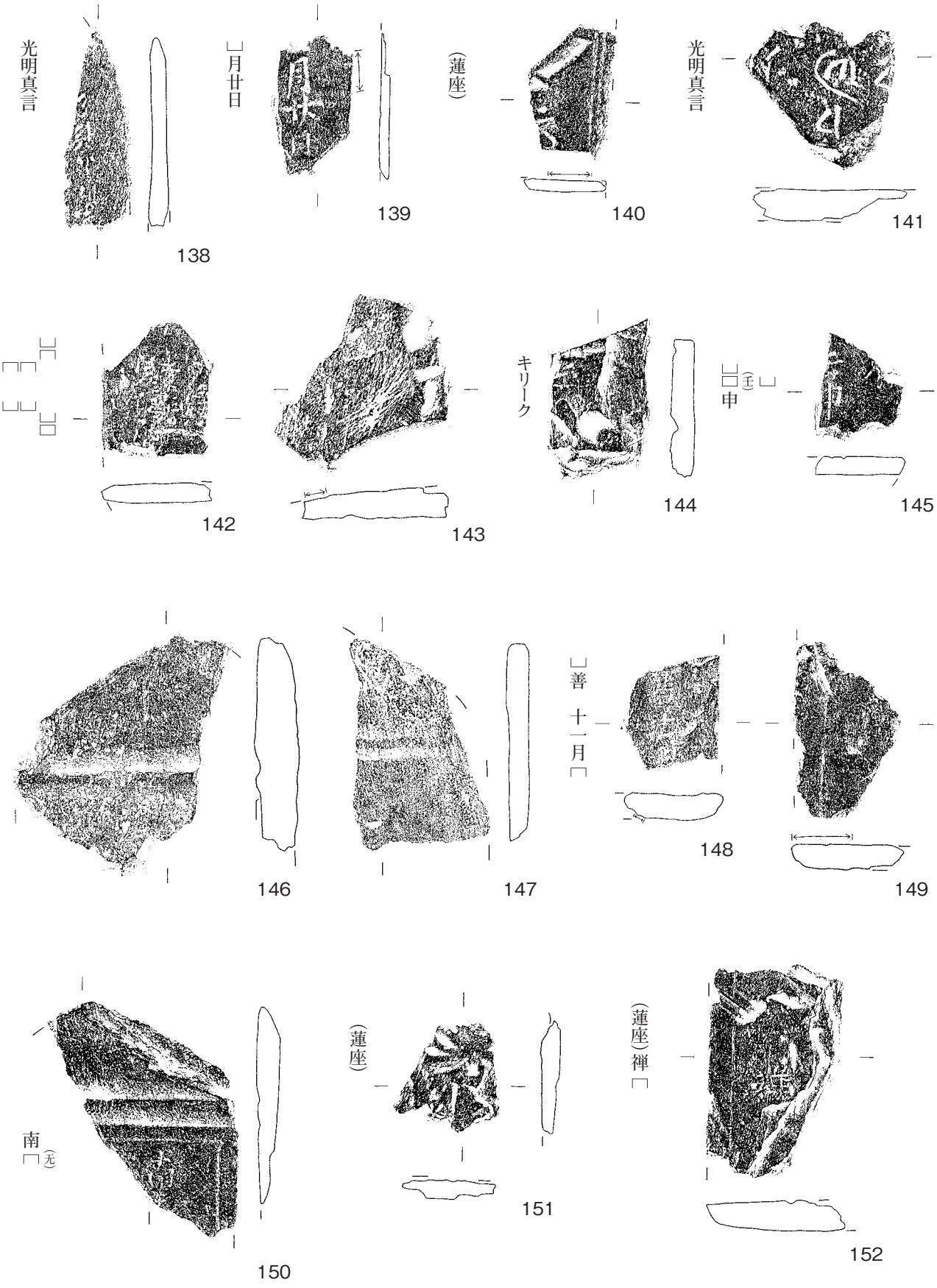
第70図　石製品類８（磨石２）



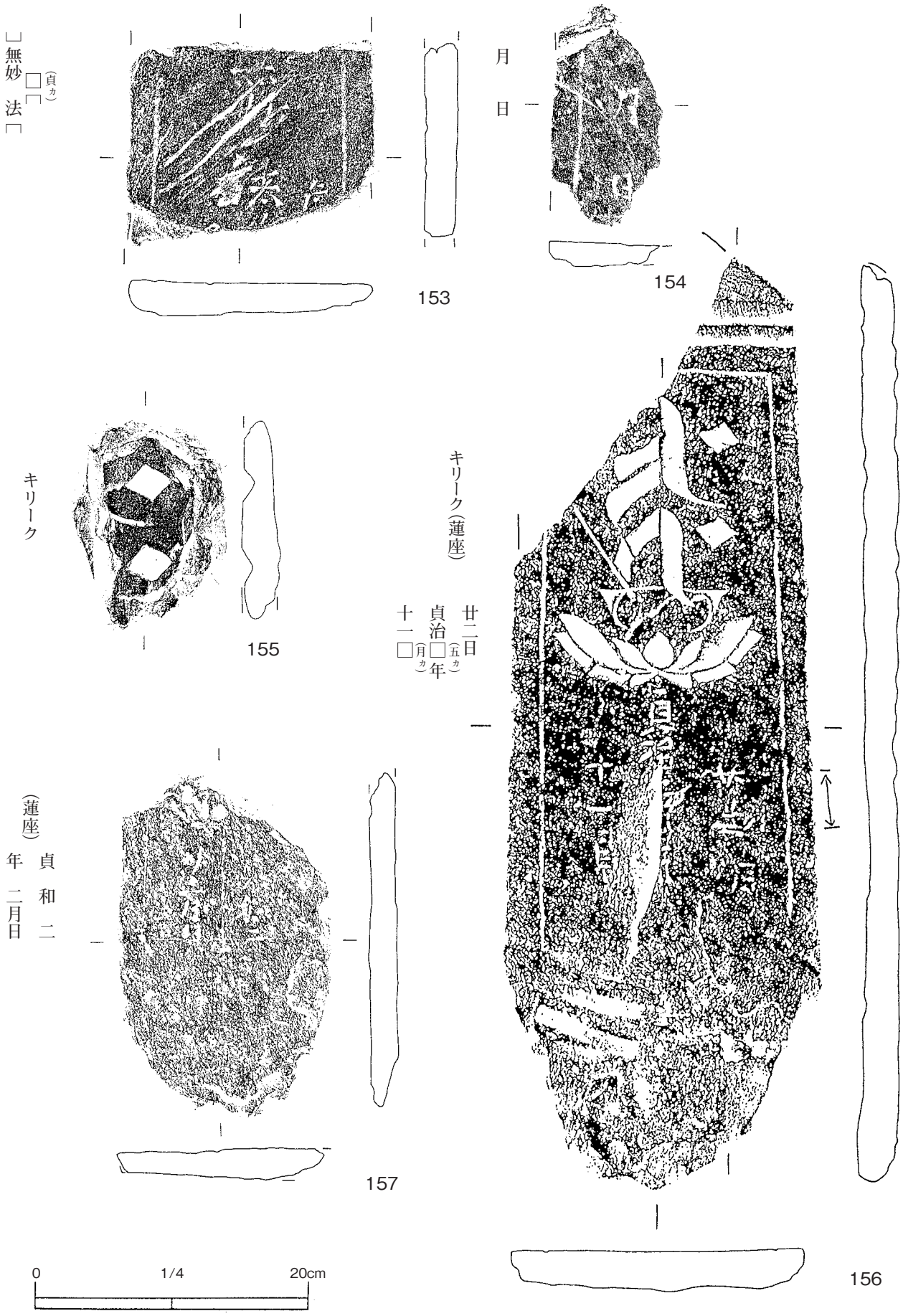
第71図　石製品類９（磨石３）



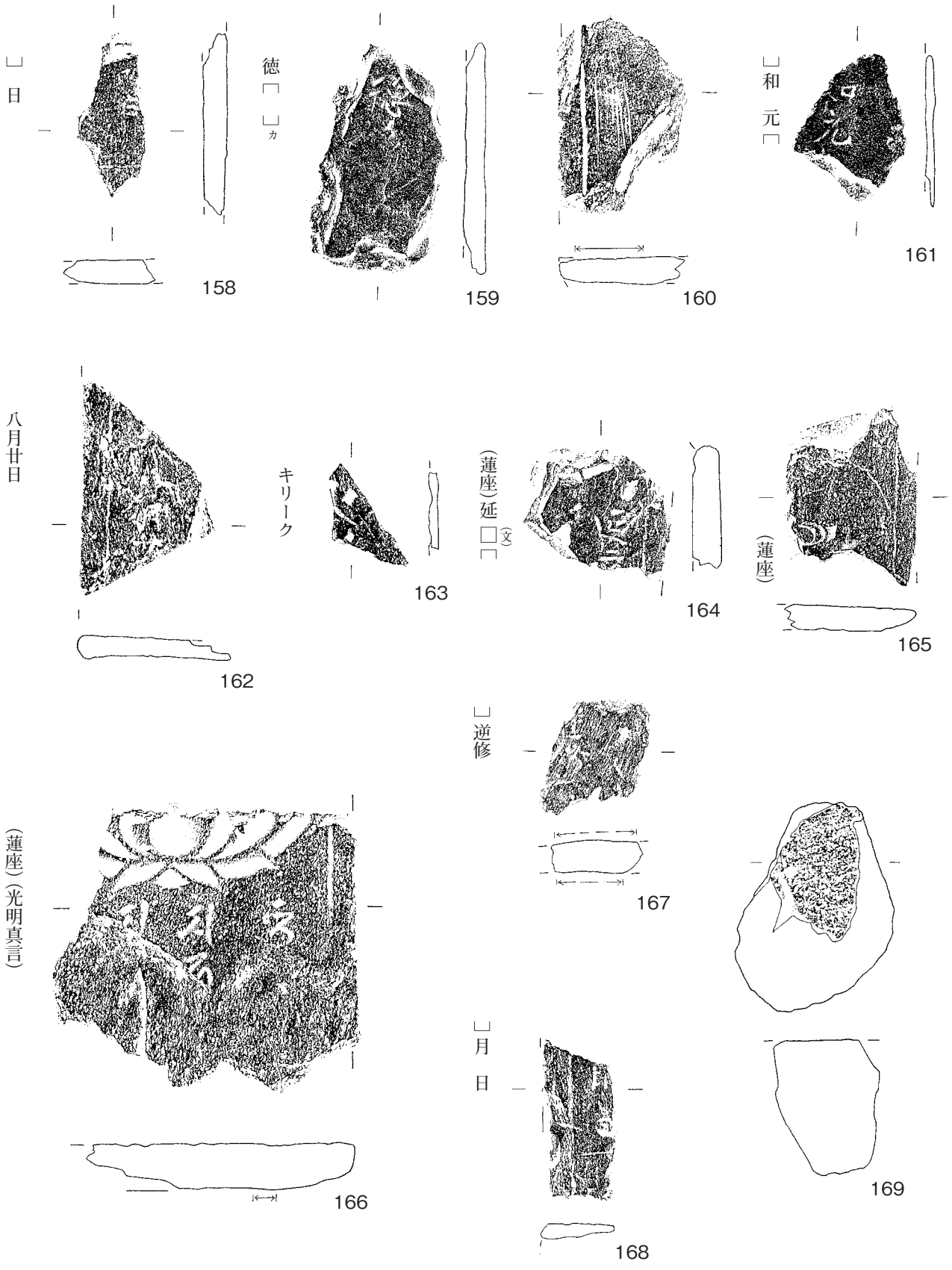
第72図　石製品類10（磨石４・火打石）



第73図　石製品類11（板碑１）



第74図　石製品類12（板碑２）



第75図　石製品類13（板碑３）

（ ）は残存値/法量の単位はcm　遺物IDは、石製品は604-/石器は601-

図No.	遺物名	材質	出土地点(遺構名)	長さ	幅	厚さ	遺物ID	備考
1	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	2堀		(17.9)	(11.4)	604-0705-0014-0001	
2	粉挽臼(上臼)		4堀E-6G No.4		(15.5)	(11.7)	0014-0038	町石36
3	茶臼(下臼)	角閃石安山岩	4堀		(15.7)	(6.0)	0014-0002	一部黒化
4	粉挽臼(下臼)	安山岩ヵ	19a堀		(20.9)	(6.0)	0014-0003	芯棒孔。下面黒化
5	粉挽臼(下臼)	角閃石安山岩	32堀		(25.3)	(12.6)	0014-0004	
6	茶臼(上臼)	砂岩ヵ	42b堀		(13.0)	(6.8)	0014-0005	
7	茶臼(下臼)	安山岩	47堀B-3G No.23		(11.2)	(10.2)	0014-0006	
8	粉挽臼(上臼)		48堀		(21.7)	(11.9)	0014-0039	町石37
9	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	49堀		(12.8)	(8.8)	0014-0007	物入れ孔
10	粉挽臼(上臼)	砂岩ヵ	49堀		(10.9)	(6.5)	0014-0008	
11	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	外堀		(9.2)	(7.9)	0014-0009	
12	粉挽臼(上臼)	砂岩ヵ	外堀		(10.8)	(8.3)	0014-0010	
13	粉挽臼(下臼)	角閃石安山岩	1溝C-3G No.6		(15.0)	(11.9)	0014-0011	
14	粉挽臼(上臼)	安山岩	1溝D-2G No.8		(8.7)	(6.8)	0014-0012	供給口あり
15	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	1溝		(15.6)	(7.6)	0014-0013	
16	搗臼	角閃石安山岩	一括		(9.3)	(8.0)	0014-0014	表裏に深い溝多し
17	粉挽臼(上臼)	花崗岩ヵ	1溝C－3G No.27		(16.4)	(8.6)	0014-0015	上面磨痕側面潰れ上側面に(割れ口)上部から側面に通じる孔あり。一部黒化
18	粉挽臼(下臼)	安山岩ヵ	5溝No.6		(13.6)	(7.4)	0014-0016	全面黒化穿孔不明
19	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	10溝A-2G No.35		(7.0)	(5.2)	0014-0017	
20	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	10溝A-3G No.10		(12.3)	(9.7)	0014-0018	
21	茶臼(下臼)	砂岩ヵ	1井		(25.0)	(10.2)	0014-0019	町石39
22	粉挽臼(上臼)	普通輝石安山岩	No.31		(12.1)	(3.2)	0014-0021	
23	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	用水		(17.0)	(10.3)	0014-0020	
24	碁石	頁岩	7井	2.1	2.0	0.7	0014-0022	
25	碁石	頁岩	7井	2.4	1.7	0.5	0014-0023	
26	碁石		12壙	1.9	1.4	0.3	0014-0024	
27	碁石		一括	2.3	1.4	0.6	0014-0025	
28	硯	凝灰岩	42b堀	(6.6)	8.9	(1.6)	0014-0026	
29	硯	頁岩	外堀	(3.6)	(2.2)	(0.9)	0014-0027	
30	硯	泥岩	10溝	(3.0)	(2.3)	1.0	0014-0028	
31	硯	頁岩	一括	(5.2)	5.3	(0.9)	0014-0029	
32	硯	泥岩	一括	(3.8)	(4.0)	1.2	0014-0030	
33	石製円盤	緑泥石片岩	12堀	(4.5)	(4.0)	(1.3)	0014-0031	
34	石製円盤	緑泥石片岩	43堀	4.5	4.3	0.5	0014-0032	
35	石製円盤	緑泥石片岩	51堀	6.6	5.1	1.9	0014-0033	
36	石製円盤	緑泥石片岩	外堀	4.3	3.7	0.9	0014-0034	
37	石製円盤	緑泥石片岩	D-2G No.9埋土	(6.4)	(5.5)	(1.3)	0014-0035	板碑再利用
38	石製円盤	緑泥石片岩	用水	3.8	3.1	0.6	0014-0036	
39	石製円盤	緑泥石片岩	一括	5.0	4.8	1.4	0014-0037	
40	砥石	泥岩	4堀	6.2	5.2	2.8	601-0705-0014-0001	
41	砥石	泥岩	5堀	8.5	4.2	2.9	0014-0002	
42	砥石	安山岩	7堀	(4.5)	3.9	3.0	0014-0003	
43	砥石	泥岩	17堀	(6.4)	3.3	(2.5)	0014-0004	
44	砥石	泥岩	29堀	(5.3)	(6.5)	4.3	0014-0005	
45	砥石	泥岩	49堀C-3G No.36	(6.5)	4.7	2.7	0014-0006	
46	砥石	砂岩	49堀	(6.6)	(4.9)	(4.6)	0014-0007	
47	砥石	泥岩	49堀	(7.0)	4.5	2.0	0014-0008	
48	砥石	泥岩	50堀	8.0	(7.1)	(4.6)	0014-0009	
49	砥石	泥岩	外堀	8.1	4.0	2.6	0014-0010	
50	砥石	泥岩	外堀	(6.0)	4.0	2.4	0014-0011	
51	砥石		外堀	(6.7)	4.2	1.8	0014-0012	
52	砥石	泥岩	1溝B-3G No.1	(8.7)	5.2	2.8	0014-0013	
53	砥石	緑泥石片岩	1溝C-2G No.3	(19.6)	(12.8)	(2.6)	0014-0014	
54	砥石	緑泥石片岩	1溝C-3G No.1	(11.0)	(10.3)	(1.5)	0014-0015	
55	砥石	緑泥石片岩	1溝C-3G No.7	(14.6)	(9.4)	2.4	0014-0016	
56	砥石	緑泥石片岩	1溝C-3G No.95	(16.8)	(12.6)	2.4	0014-0017	
57	砥石	緑泥石片岩	2溝B-3G No.84	(16.3)	(9.1)	1.8	0014-0018	
58	砥石	緑泥石片岩	2溝	(13.9)	(8.7)	1.6	0014-0019	
59	砥石	緑泥石片岩	5溝	(13.7)	(8.4)	1.1	0014-0020	
60	砥石	泥岩	6溝C-1G No.5	(4.8)	4.9	5.0	0014-0021	
61	砥石	緑泥石片岩	10溝A-2G No.35	(14.0)	(9.4)	1.4	0014-0022	
62	砥石	絹雲母片岩	10溝A-3G No.14	(12.1)	(7.9)	(1.9)	0014-0023	
63	砥石		10溝A-3G No.33	(8.8)	(5.1)	1.4	0014-0024	
64	砥石		7壙	(10.2)	2.7	1.3	0014-0025	
65	砥石		31壙	(6.2)	1.9	1.6	0014-0026	
66	砥石		堀南	7.9	2.6	2.3	0014-0027	
67	砥石		一括	9.0	2.8	2.6	0014-0028	

第18表　石製品一覧表 1

（ ）は残存値/法量の単位はcm　遺物IDは、石製品は604-/石器は601-

図No.	遺物名	材質	出土地点(遺構名)	長さ	幅	厚さ	遺物ID	備考
68	砥石		一括	4.8	4.4	2.5	0014-0029	
69	砥石		一括	9.8	3.9	2.3	0014-0030	
70	砥石		一括	10.8	5.0	4.8	0014-0031	
71	砥石		一括	4.7	4.4	(2.5)	0014-0032	
72	磨石	デイサイト	4堀D-6G No.20	6.4	4.2	3.1	0014-0033	
73	磨石	デイサイト	4堀D-6G No.90	6.5	5.0	2.3	0014-0034	
74	磨石	デイサイト	4堀	5.5	3.5	2.8	0014-0035	
75	磨石	デイサイト	19堀	7.8	4.4	2.7	0014-0036	
76	磨石		19堀	5.1	3.8	2.3	0014-0037	
77	磨石	デイサイト	23堀	7.6	6.5	4.0	0014-0038	
78	磨石	デイサイト	25堀	5.1	4.8	2.0	0014-0039	
79	磨石	デイサイト	47堀	6.4	5.1	3.5	0014-0040	
80	磨石	デイサイト	47堀	5.3	3.3	2.8	0014-0041	
81	磨石	デイサイト	47堀	4.2	4.1	1.9	0014-0042	
82	磨石	デイサイト	47堀	(4.1)	3.3	(2.2)	0014-0043	
83	磨石		49堀	3.3	3.0	2.7	0014-0044	
84	磨石	デイサイト	49堀	(3.6)	(3.3)	(3.2)	0014-0045	
85	磨石	デイサイト	50堀	7.9	4.8	3.9	0014-0046	
86	磨石	デイサイト	外堀	6.4	5.9	4.9	0014-0047	
87	磨石	デイサイト	外堀	(4.0)	3.7	(3.5)	0014-0048	
88	磨石	デイサイト	外堀	7.2	4.1	1.5	0014-0049	
89	磨石	デイサイト	外堀	4.7	4.0	2.5	0014-0050	
90	磨石	デイサイト	外堀	2.7	2.7	2.3	0014-0051	
91	磨石	デイサイト	外堀	5.9	3.9	3.0	0014-0052	
92	磨石	デイサイト	外堀	3.6	2.4	2.1	0014-0053	
93	磨石	デイサイト	外堀	4.6	1.6	1.2	0014-0054	
94	磨石	デイサイト	1溝	5.8	6.1	3.8	0014-0055	
95	磨石	デイサイト	1溝	4.6	4.1	3.8	0014-0056	
96	磨石	デイサイト	5溝B-2G No.5	12.0	8.1	6.1	0014-0057	
97	磨石	デイサイト	5溝	4.8	3.9	2.9	0014-0058	
98	磨石	デイサイト	10溝A-2G No.46	5.1	3.6	2.6	0014-0059	
99	磨石	デイサイト	4井	5.9	6.0	(5.5)	0014-0060	
100	磨石	デイサイト	1T	(4.8)	(4.9)	(2.7)	0014-0061	
101	磨石	デイサイト	1T	3.8	3.7	2.1	0014-0062	
102	磨石	デイサイト	2T	4.3	3.5	3.3	0014-0063	
103	磨石	デイサイト	4T	4.3	2.2	1.0	0014-0064	
104	磨石		5T	5.0	4.2	(2.3)	0014-0065	
105	磨石	デイサイト	用水	(3.8)	4.2	(2.7)	0014-0066	
106	磨石	デイサイト	用水	6.9	5.5	3.3	0014-0067	
107	磨石	デイサイト	用水	6.8	4.9	2.8	0014-0068	
108	磨石	デイサイト	用水	5.3	4.2	4.2	0014-0069	
109	磨石	デイサイト	堀南	(6.3)	5.2	(3.8)	0014-0070	
110	磨石	デイサイト	堀南	6.8	4.3	3.0	0014-0071	
111	磨石	デイサイト	堀南	5.8	6.7	3.3	0014-0072	
112	磨石	デイサイト	堀南	6.0	5.5	2.5	0014-0073	
113	磨石	デイサイト	堀南	7.3	6.0	4.6	0014-0074	
114	磨石	デイサイト	堀南	(4.0)	(2.9)	(2.8)	0014-0075	
115	磨石		堀南	(3.9)	(3.6)	(3.3)	0014-0076	
116	磨石	デイサイト	堀南	5.7	3.3	2.7	0014-0077	
117	磨石	デイサイト	一括	4.9	4.2	3.8	0014-0078	
118	磨石	デイサイト	一括	5.6	4.0	2.4	0014-0079	
119	磨石	デイサイト	一括	4.3	6.5	2.8	0014-0080	
120	磨石	デイサイト	一括	4.0	3.2	1.5	0014-0081	
121	磨石	デイサイト	一括	(6.3)	(4.4)	(2.7)	0014-0082	
122	磨石	デイサイト	一括	4.4	3.4	2.3	0014-0083	
123	磨石	デイサイト	一括	4.5	2.3	1.7	0014-0084	
124	磨石	デイサイト	一括	(3.6)	(4.3)	(3.3)	0014-0085	
125	磨石		一括	3.2	3.6	1.3	0014-0086	
126	磨石	デイサイト	一括	2.5	1.9	0.6	0014-0087	
127	火打石	石英	15堀	5.3	4.3	3.3	0014-0088	
128	火打石	チャート	22堀	5.3	3.0	2.6	0014-0089	
129	火打石	チャート	32堀	4.0	2.4	1.4	0014-0090	
130	火打石	石英	37堀	2.7	2.1	2.0	0014-0091	
131	火打石	チャート	38堀	3.3	2.4	2.0	0014-0092	
132	火打石	チャート	47堀	5.0	2.8	2.8	0014-0093	
133	火打石	石英	外堀	3.3	3.1	1.8	0014-0094	
134	火打石		外堀	2.8	2.5	2.0	0014-0095	
135	火打石		堀	3.4	2.1	1.8	0014-0096	
136	火打石		一括	2.9	2.1	1.6	0014-0097	
137	火打石	石英	一括	3.9	2.9	2.6	0014-0098	

第19表　石製品一覧表 2

（ ）は残存値　法量の単位はcm　板碑は606-

図No.	遺物名	出土地点	縦×横×厚	遺物ID (606-0705)	備考
138	板碑	4堀 D－6G No.24	(14)×(5)×1	0014-0001	刻み浅い
139	板碑	9堀	(11)×(6)×1	0014-0002	表面スス付着、側面磨耗、文字刻み浅し
140	板碑	17堀	(10)×(6)×1	0014-0003	刻みやや深い、表面使用による磨耗
141	板碑	23堀	(12)×(11)×2	0014-0004	表面平滑、刻字浅い
142	板碑	31堀	(11)×(8)×1	0014-0005	表面黒化、表左端ソギ？
143	板碑	37堀	(13)×(13)×2	0014-0006	刻み深い、表裏黒化、表面条線、磨耗により平滑
144	板碑	49堀 No.52	(12)×(7)×2	0014-0007	表スス付着、裏黒化
145	板碑	外堀	(9)×(7)×1	0014-0008	表面平滑、刻み浅い、表裏スス付着
146	板碑	1溝 C-2G No.2	(17)×(15)×3	0014-0009	刻み深い、二条線
147	板碑	1溝南	(16)×(10)×2	0014-0010	二条線、表面平滑、裏面平坦
148	板碑	4堀 E-6G No.12	(9)×(7)×2	0014-0011	文字刻み浅い
149	板碑	6溝 C-1G No.4	(13)×(8)×2	0014-0012	刻み浅い、表面磨耗により平滑
150	板碑	7溝 C-1G No.14	(17)×(14)×2	0014-0013	二条線、枠線、刻み浅い
151	板碑	10溝 A-3G No.44	(8)×(8)×1	0014-0014	
152	板碑	10溝 B-3G No.66	(16)×(10)×2	0014-0015	深い傷あり、刻み浅い
153	板碑	10溝 B-3G No.67	(16)×18×2	0014-0016	下部断面潰れ、表面深い条線、文字刻み浅い
154	板碑	10溝 B-3G No.68	(16)×(8)×2	0014-0017	刻み浅い、側面潰れ
155	板碑	10溝 B-3G No.69	(16)×(11)×3	0014-0018	表面平滑、刻み深い、表面スス付着
156	板碑	2井戸	(67)×(23)×3	0014-0019	側面平坦、二条線、枠線刻みやや浅い、一部黒化
157	板碑	2井戸	(25)×(14)×2	0014-0020	刻線浅い、枠線＝あたり線あり
158	板碑	5井戸	(13)×(7)×2	0014-0021	表裏平滑、刻み浅い
159	板碑	36堀	(17)×(9)×2	0014-0022	表面平滑、磨耗ヵ、刻み浅い
160	板碑	A-2G No.18	(14)×(9)×2	0014-0023	刻み浅い、表面条線、磨耗痕あり
161	板碑	C-3G No.97	(11)×(8)×1	0014-0024	刻み内スス付着
162	板碑	6T	(17)×(11)×2	0014-0025	刻線浅い
163	板碑	6T	(8)×(6)×(1)	0014-0026	刻みやや深い
164	板碑	用水	(10)×(10)×2	0014-0027	刻みやや深い、側面斜め磨耗顕著
165	板碑	一括	(13)×(10)×2	0014-0028	表面平滑、刻み浅い
166	板碑	一括	(22)×(21)×3	0014-0029	裏面一部磨耗、刻み深い
167	板碑	一括	(10)×(7)×2	0014-0030	刻み浅い、表裏磨耗ヵ
168	板碑	一括	(12)×(5)×(1)	0014-0031	刻み浅い
169	五輪塔(地輪)	1溝	(15)×(11)×(10)	0014-0001	

第20表　石製品一覧表 3

第５節　動植物遺体

（１）貝（口絵16）

貝が５号溝より１点、10号溝より12点出土している。いずれも巻き貝と思われ遺存状態は良くなく、軸の部分と結節（連続する突起）周辺や軸唇・外唇（入り口周辺）が見られる。一部微細なものだが貝の内面の光沢を帯びる真珠層が剥離したものがある。

（２）種子類（口絵16・図版 17）

種子は、桃・胡桃・梅・椿類と思われるものが出土している。特に桃は非常に多く、総数1,594点を数え、多くの堀から出土している。なかでも４号堀の590点、48号堀の259点は群を抜いている。その一部はネズミなどの齧歯類によるものか食痕が認められる。また、カラタチと考えられる枝やヒシの実がある。ほかに不明な種子があるが、遺構の章では種子とした。

第Ⅴ章　科学調査

騎西城武家屋敷跡出土金属生産関連遺物と金属製品の科学調査

国立科学博物館　沓名　貴彦

はじめに

騎西城武家屋敷跡では、これまでに蛭藻金や露金、切金などの金貨や、非鉄金属の生産に用いたかわらけ転用坩堝などの遺物が多数出土しており、その調査を筆者は行ってきた[1)2)3)]。今回のKB14区においても、金属の生産に用いられた遺物や金属製品が多数出土しており、中世末から近世初頭における金生産に関する新たな知見が得られる可能性が高いと考えられた。そこで、生産関連遺物とともに金属製品の詳細な科学調査を実施した。その結果について報告する。

調査対象資料

騎西城武家屋敷跡KB14区出土非鉄金属生産関連遺物　34点

騎西城武家屋敷跡KB14区出土非鉄金属製品（キセルを除く）18点

調査内容

今回実施した調査内容を、下記に示す。

○　エックス線透過撮影による遺物の非破壊調査

非鉄金属生産関連遺物は金属粒子や重元素類の表面付着状況の可視化、金属製品については構造調査を目的に実施した。

・使用装置（山梨県立博物館設置）

デジタルエックス線撮影システム（エクスロン・インターナショナル（株）製）

・撮影条件

管電圧：160kV

管電流：4.0mA

○　顕微鏡による詳細観察（国立科学博物館設置）

実体顕微鏡を用いて遺物表面の詳細観察を行った。

○　蛍光エックス線分析による非破壊定性分析

蛍光エックス線分析による非破壊定性分析を、非鉄金属生産関連遺物では金属粒子や付着物を主な対象部位に、金属製品では材質調査に適した部位に実施した。一部の資料については、マッピング分析を行った。

・使用機器（国立科学博物館設置）

エネルギー分散型蛍光エックス線分析装置ORBIS PC（AMETEK（株）製）

・分析条件

管電圧：50kV

管電流：200μA

照射面積：1.直径2.0mm、2.直径0.03mm

照射時間：100sec

分析環境：大気（マッピング分析：真空）

調査結果

○　エックス線透過撮影による遺物の非破壊調査（口絵17～19）

図１－１～３の①～⑦は非鉄金属生産関連遺物、図１－３の⑧，⑨は非鉄金属製品である。また各遺物の画像は、可視（a）とエックス線（b）を左右に並べている。

遺物のエックス線透過画像にみられる暗灰色から黒色の部分は、エックス線の透過しにくい部分であり、透過困難な部位ほど暗くなる。その様な部位は、生産遺物では金属粒子や重元素の付着部位であり、金属製品であれば金属が均一で厚い部位や重金属材質のためと考えられる。

生産関連遺物をみると、薄灰色で均一な部位は土器で金属などの未付着の部分にあたる。その様な均一の遺物もあれば、黒色の部分が遺物に広がる様子が見られるものもある。そのため、この黒色部位に着目して顕微鏡観察や蛍光エックス線分析を行って

いる。金属製品では、金－42と金－50が他の遺物に比べて暗くなっており、他の材質と異なる事が示唆された。

○　顕微鏡による詳細観察（口絵20・21）

エックス線透過画像を元に黒色部を詳細観察したところ、金属粒子などを確認した。しかし、図１－１～３のエックス線（b）で黒色や暗灰色部がみられない遺物のいくつかでも金属粒子を顕微鏡観察で確認した。図２－１・２に、顕微鏡画像を示す。④土－106－２以外の８点は、いずれも金粒子が付着する状況である。106は、金粒子（図２－１－③）銀粒子（図２－１－④）を示している。また図２－１－⑤の土－107では、右下の金粒子とともに、左上に銅粒子が付着する様子がみえる。

○　蛍光エックス線分析による非破壊定性分析（口絵21・22）（第21表）

各遺物について、蛍光エックス線分析による定性分析を実施した。

生産関連遺物では、表面に付着する金属粒子や熔融物を対象に行った。第21表に、確認した元素をまとめている。第21表の括弧中の元素は、小さいピークを確認した元素を示す。中でもいくつかの注目すべき遺物のスペクトルについては、図３－１・２に別途示した。このスポット分析は、図３－１－①，③，図３－２－⑤，⑥では直径2.0mmでエックス線を照射してその範囲内全体を分析し、図３－１－②，④は金属粒子を標的に直径0.03mmの微小部への照射で分析を行った。また、図中右上の画像はエックス線の照射部位であり、上下画像のうち上は下の拡大画像である。

図２－１・２の金粒子が確認された遺物８点では、Au（金）とともにAg（銀）Cu（銅）が確認されている。土－104のようにAuやAg, Cuのみのものや、土－164のようにPb（鉛）やBi（ビスマス）といった元素が金粒子周囲から確認された遺物も存在し、全体で見ると微量でもPbやBiなどの元素を確認する遺物が金粒子では多い。土－225はAu以外にCuが強く確認されている。土－106は、Au, Ag粒子やCuを確認した。表面にはCuとともにPbやAs（ヒ素）が確認されている。図３－１－①，②に土－106のスペクトルを示す。銀粒子にはAuが含まれていることも確認された。図３－１－③，④は、土－164の蛍光エックス線スペクトルを示す。その結果、金粒子周囲にPbやBiが付着することを確認した。

銅合金関係では、CuとともにZn（亜鉛）が確認された遺物が土－18や土－109など５点みられた（第21表）。真鍮生産に関わる遺物と考えられる。特に土－167について、図３－２－⑤は銅粒子、図３－２－⑥は内部表面の分析結果である。銅粒子はCuを確認し、表面の分析ではCuとともにZn, Pbが確認された。また他にも、Sn（スズ）とPbを含む

第21表　非鉄金属生産関連遺物の蛍光エックス線分析結果

遺物№	検出元素	備考
土－17	Cu, Pb, Sn	
18	Cu, Zn, As, (Pb)	真鍮生産
19	Cu, Zn, Pb, Sn	真鍮生産
37	Cu, Ni, Pb, Ag, (Zn)	
52	Cu, Pb, (Ni)	
69	Cu, As, Pb, Sn	
82	Cu, Pb, Sn	
101	Cu, Pb, Sn, (Zn)	
102	Cu, Pb, Sn, (Zn)	
103	Cu, Pb, (Sn)	
104	Au, Ag, Cu	金粒子
105	Au, Ag, Cu, (Bi)	金粒子
106	Ag, Au, Cu, As, Pb	金･銀粒子
107	Au, Ag, Cu, (Zn), (Pb), (Bi)	金粒子
108	Cu, Pb, Sn	
109	Cu, Zn, Pb, (Ni)	真鍮生産
110	Cu	
111	Cu, Pb, (Sn)	
112	Cu, As, Pb	
116	Pb, Sn, Cu, (Zn)	
126	Zn, Cu, Pb	真鍮生産
127	Cu, Pb	
128	Cu, Pb	
129	Cu, Pb, Sn	
163	Cu, Pb	
164	Au, Ag, Cu, Pb, Bi	金粒子
167	Cu, Zn, Pb, (Au)	真鍮生産
169	Cu, Pb, Sn	
223	Au, Ag, Cu, (Zn), (Bi)	金粒子
224	Cu, Pb, Sn	
225	Au, Cu, Ag	金銅合金
226	Cu, Pb, Sn	
227	Cu,As, (Pb)	
228	Au, Cu	金粒子

青銅系（土－17や82など）や、銅鉛系（土－127, 128, 163）、純銅（土－110）などを確認した。

非鉄金属製品の分析結果を、第22表に示す。銅合金は、純銅（金－17, 41, 43, 45）や銅鉛（金－44, 51）がみられ、青銅（金－52, 53, 54）は銅塊などの半製品である。金－44は表面に錫鍍金、金－46はHg（水銀）を用いた金鍍金が施されている。その他、Znを検出する真鍮製品を4点（金－14, 16, 47, 48）確認した。銅合金以外では、金－42は鉛製品、金－50はSn, Pbの合金であった。

第22表　非鉄金属製品の蛍光エックス線分析結果

遺物№	検出元素	備考
金－14	Cu, Zn	真鍮
15	Cu, (Sn)	
16	Cu, Zn	真鍮
17	Cu	
41	Cu	
42	Pb	
43	Cu	
44	Cu, Pb, Sn	錫鍍金
45	Cu	
46	Cu, Au, Hg	金鍍金
47	Cu, Zn, Pb	真鍮
48	Cu, Zn	真鍮
49	Cu, (Pb), (Sn)	
50	Pb, Sn	ハンダ
51	Cu, Pb	
52	Cu, Pb, Sn	
53	Cu, Pb, Sn	
54	Cu, Pb, Sn	

○　蛍光エックス線分析によるマッピング分析（口絵22・23）

一部の生産関連遺物は、蛍光エックス線を用いたマッピング分析を行った。その結果を図４－１・２に示す。土－106は金・銀粒子の付着が確認されている。106全体のマッピング分析では、Agは粒子などの状態で表面の付着が確認され、Au粒子も遺物表面に広がる様子がみられた（図４－１－(a)－②, ③）。一方Cuは、粒子ではなく表面全体に広がる傾向であった（図４－１－(a)－④）。土－164は金粒子が付着し、金粒子周辺の特徴的な元素としてPbやBiをスポット分析で検出している（図３－１－③）。164全体のマッピング分析結果により、PbやBiは遺物のごく一部に付着することを確認した（図４－２－(b)－⑤, ⑥）。土－167は、真鍮生産に関する遺物である。マッピング分析から、表面全体にZnが広く検出された（図４－２－(c)－③）。一方Cuは、粒子状に付着する様子が見られる（図４－２－(c)－②）。PbはZnよりも狭い範囲で付着が示された（図４－２－(c)－④）。

考察

○　非鉄金属生産関連遺物について

今回の調査では、特筆すべき遺物が複数存在する。第一には、Biなどを確認した金粒子付着遺物であり、土－105, 107, 164, 223が当てはまる。中でも164は、Pb, Biのピークが図３－１－③に見られるように他に比べて遥かに大きく確認する。しかし一方でこれら元素の付着部位は一部に限られることがマッピング分析から裏付けられている（図４－２－（b）－⑤, ⑥）。筆者はこれまでに金粒子が付着する生産関連遺物を数多く分析してきたが、同様の元素がみられる遺物は山梨県内でしか確認されていない[4)5)6)7)]。山梨県内でBiを検出した遺物は、黒川金山遺跡、勝沼氏館跡、武田氏館跡、武田城下町遺跡、甲府城下町遺跡、宮ノ上遺跡から出土している。山梨県内のPb検出遺物は、中山金山遺跡、甲府城下町遺跡、宮ノ上遺跡出土である。山梨におけるこれら元素付着に関する解釈は、黒川金山の金鉱石にはBiが不純物として含まれ、湯之奥金山の一つ中山金山には不純物にPbが含まれるため、金鉱石から産出した金（山金）には精錬が十分で無い場合に鉱石由来の不純物の元素が金に含まれるとしてきた。その両方が検出された甲府城下町遺跡、宮ノ上遺跡では、両金山の金が利用されたと考えている[8)]。坩堝など金粒子が付着する生産関連遺物は全国各地で確認される（第76図）ものの、金粒子とともに鉱石由来とみられる不純物が明確に確認された遺物は、今のところない。今回の騎西城武家屋敷跡の事例が、管見の限り山梨県外では初見である。その意味は非常に大きい。ただし、この金の生産元となる金山やその流通経路などは、他に事例が見つからないため明確にすることは難しいと考えている。

次の遺物は土－106である。この遺物は金・銀粒子とともにCuが表面に付着する。図４－１－(a)

のマッピング分析結果でも、金・銀粒子の付着とともにCuが広く付着する状況を確認した。また、Asなどの付着もみられる。以上から、金銀銅を用いて色金を作成していた可能性が考えられる。既報告の騎西城武家屋敷跡では金・銀粒子が付着する遺物が既に確認されており、この遺物の確認からも騎西城城下における刀装具などの金工品生産活動がより一層裏付けられたと考える[9]。

最後に注目するのは真鍮生産に関わる遺物であり、土－18, 19, 109, 126, 167が該当する。特に167の詳細分析結果は図3, 4に示されている。スポット分析結果である図３－２－⑤のスペクトルデータは金属粒子のためCuのみであり、図３－２－⑥では遺物表面にZnをCuとともに強く検出した。図４－２－(c)のマッピング分析では、表面全体にZn検出されること（図４－２－(c)－③）、Cuは粒子として付着がみられた（図４－２－(c)－②）。この結果から、銅と亜鉛により真鍮生産を行った、もしくは純銅と真鍮を用いて真鍮の成分調整を行った可能性が考えられないであろうか。真鍮生産に関する遺物は近年各地で確認されており、注目される遺物である。その多くは把手付きと呼ばれる特徴的な形状の遺物であり、一般的な坩堝やかわらけ転用の事例は、博多遺跡群と中世大友府内町跡程しか知られていない[10][11]。特に関東では真鍮生産に関わる初の事例とみられ、重要な資料といえるであろう。

○　非鉄金属製品について

非鉄金属生産関連遺物に比べて製品は少ないものの（キセルを除く）、18点ほど出土している。各遺物の分析結果である材質については第22表にまとめており、その材質に注目して考察する。

最初は、真鍮製品である。真鍮製品は金－14, 16, 47, 48の４点確認され、簪や指輪など装飾品に利用の点が注目される。いずれも検出された元素はCu, Znであり、生産関連遺物と比較するとPbをほとんど検出しない。もしくは、Pbは僅かに確認された程度である。近年、真鍮製品（キセルを除く）も戦国期の遺跡から報告が増加しているものの、そのほとんどで成分に鉛が確認されている。発掘調査から出土した真鍮製品類で分析の結果成分が銅と亜鉛（鉛はほとんど確認しない）の事例（除キセル）は、山口県大内氏関連町並遺跡の銅塊１点（11次）、福岡県博多遺跡群では鍵２点（56, 111次）や耳掻き１点（築港線１次）、大分県の中世大友府内町跡では錠前・小柄・耳掻き・チェーン・灰匙など各１点、長崎県興善町遺跡の聖遺物入１点などある[12][13][14][15][16]。製品の傾向から、装身具や海外輸入品とみられる遺物にこの材質が多いようである。その点でも注目すべきであろう。

その他の銅製品は、Cuのみ（純銅）やCu, Pb（銅鉛）、Cu, Pb, Sn（青銅）であり、銅製品としてみた場合に一般的な材質といえる。

他材質の金属製品では、金－42が鉛製品である。形状からインゴット的なものか何かの製品か判断出来ない。金－50ではSn, Pbが検出された。材質名称では、ハンダもしくはピューターと呼ばれる。この材質は戦国から江戸初頭ではほとんど確認されていない。管見の限り、博多遺跡群では容器２点（42, 111次）とメダイ１点（111次）、大分の中世大友府内町跡メダイ４点（12, 13, 21, 51次）と指輪１点（43次）、仏具付属品１点（次数不明）、長崎の万才町遺跡でメダイ１点と十字架１点など極めて限られ、さらにキリシタン遺物など海外製とみられる製品に多いのが特徴である[17][18][19][20]。今回出土の遺物は形状では何かはっきりせず、インゴットの可能性も否定できない。今後の調査から類例が増えることを期待したい。

参考文献

１）沓名貴彦（2013）「騎西城武家屋敷跡出土の金粒子付着かわらけについて」加須市埋蔵文化財調査報告書第５集『騎西城武家屋敷跡　第４～６・10～12・46・47・53～56次調査』p127－128

２）沓名貴彦（2014）「騎西城武家屋敷跡第50次10号土壙出土金貨について」加須市埋蔵文化財調査報告書第７集『騎西城武家屋敷跡第２・３・８・９・50・51次調査、騎西城跡第３・12・14・15次調査、多賀谷氏館跡第１～３次調査』p146－150

３）沓名貴彦（2018）「騎西城武家屋敷跡出土の金

第76図　金粒子付着生産関連遺物が出土した戦国から江戸初頭の主な遺跡

粒子付着遺物の科学調査について」加須市埋蔵文化財調査報告書第11集『騎西城武家屋敷跡 KB10区調査　－中近世編－　遺物２　遺構』p111－114

4）沓名貴彦（2010）「内郭部出土資料の自然科学的調査について」甲州市文化財調査報告書第５集『史跡勝沼氏館跡　－内郭部発掘調査報告書（中世編）－』p35－39

5）山梨県立博物館編（2011）山梨県立博物館調査・研究報告５『甲斐金山における金生産に関する自然科学的研究』

6）沓名貴彦（2012）「宮ノ上遺跡出土の金付着陶器の科学調査について」山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第285集『山梨県山岳信仰遺跡詳細分布調査報告書　－富士山信仰遺跡に関わる調査報告－』p176－178

7）沓名貴彦（2016）「甲府城下町遺跡出土の金粒子付着遺物の科学調査について」甲府市文化財調査報告85『甲府城下町遺跡 XVII －甲府駅周辺土地区画整理事業（甲府市北口二丁目17・18・21地点他に伴う文化財発掘調査報告書－）p165－169

8）沓名貴彦（2018）「三都市における銀を中心とする非鉄金属生産」『博多・山口・大分三都市研究会　第８回研究集会』報告資料集、p１－11

9）参考文献１）参照。

10）沓名貴彦（2014）「中世大友府内町跡出土金属加工関連遺物の非破壊分析」国立科学博物館研究報告Ｅ類（理工学）、37、p43－50

11）比佐陽一郎・松園菜穂（2018）「博多における中世後期の非鉄金属生産」『博多・山口・大分三都市研究会　第８回研究集会』報告資料集、p52－74

12）山口市教育委員会文化財保護課編（2014）山口市埋蔵文化財報告第112集『大内氏関連町並遺跡８　～第11・15・19・24次調査と金属生産関連遺物の自然科学的調査～』

13）後藤晃一（2015）『キリシタン遺物の考古学的研究　ー布教期におけるキリシタン遺物流入のプロセスー』溪水社
14）参考文献11）参照。
15）清尾美喜・稗田優生・後藤晃一（2018）「豊後府内における非鉄金属関連遺物」『博多・山口・大分三都市研究会　第８回研究集会』報告資料集、p35－51
16）沓名貴彦（2018）「豊後府内における非鉄金属生産」『戦国大名大友氏の館と権力（鹿毛敏夫・坪根伸也編）』p309－319、吉川弘文館
17）参考文献11）参照。
18）参考文献13）参照。
19）参考文献15）参照。
20）参考文献16）参照。

参考
Au（金）　Ag（銀）　Cu（銅）　Pb（鉛）　Bi（ビスマス）　As（ヒ素）
Zn（亜鉛）Sn（スズ）

第Ⅵ章　まとめ

１　調査区の位置（第77図）

武家屋敷跡の西で北端、及び城跡との境の堀に位置する。『武州騎西之絵図』（17世紀初頭の制作か。以下絵図）では武家屋敷の北端に位置する御蔵屋舗及び丸（仮５の丸と６の丸）の南の堀に相当する。図では屈曲するが本来は直線である。

２　堀について（第78図）

本調査区で検出した堀は、城郭の南に位置する（仮称城郭南堀）。南北方向に幅43m あり、北に位置する KB15区と合わせた本来の堀幅は48m である。全体を調査区南の確認面から１m 程度掘り下げ、さらに平面方形及び長方形に掘り下げ（以下『堀』）、障子堀とする。

配列は、同様な型式の『堀』が東西方向に連なり、北から南まで11列を数える。北端の第１・２列の『堀』は東西は長く、断面が直上し、深さ10～50cm の浅いものである。第２列は平面Ｌ字状を呈する特異なものである。

第３～11列は、断面が逆四角錐を呈し、底面は僅かに平坦である。平面形は、第３・４列は長さ10～20m と長く、第４列の『堀』内には畝を設ける。第５列から８列は２基一対の傾向が見られ、第５・８列は浅い溝により連結される。平面形は、第５・６・11列は方形に近い長方形、第７列はほぼ方形、第９・10列は短辺が1.5m と短い潰れた長方形である。

掘り残された幅１m 程度の平坦面は、『堀』掘返し時は排土・排水の作業通路であったと思われるが、水田耕作等により上部を削平された可能性もある。第47～51堀の間に確認された20～30cm の高まりがその痕跡か。平坦面は、南北方向は抜けておらず、第１と２列、第４と５列、第６と７列、第８と９列、第10と11列の間に、あわせて５箇所のギャップがある。侵入路としての機能を阻害し、防御機能の強化をめざしたものであろう。

南北方向の『堀』の断面形を詳細に見ると、ほとんどが、箱薬研の中～下位が直上する『突箱薬研』形である。また、断面が四角錐であることは、『堀』からの脱出を困難にすると同時に、掘削体積を１/３に減じる効果があり作業効率を上げたものと思われる。

また、施設として土壙・段・掘込・ピットがあるが、堀底面まで掘り込まれる土壙はほぼ南に設けられる。『堀』の掘削時の排水のためのものか。段やピットは掘削時、昇降するための階段であったか。これらの施設については、後の報告で KB15・19区などの他地区と比較し検討したいが、KB14区のみに見られる特徴的なものである。例えば掘削が湧水の顕著な時期に行われるなど、作業効率を必要とした状況であったものと思われる。

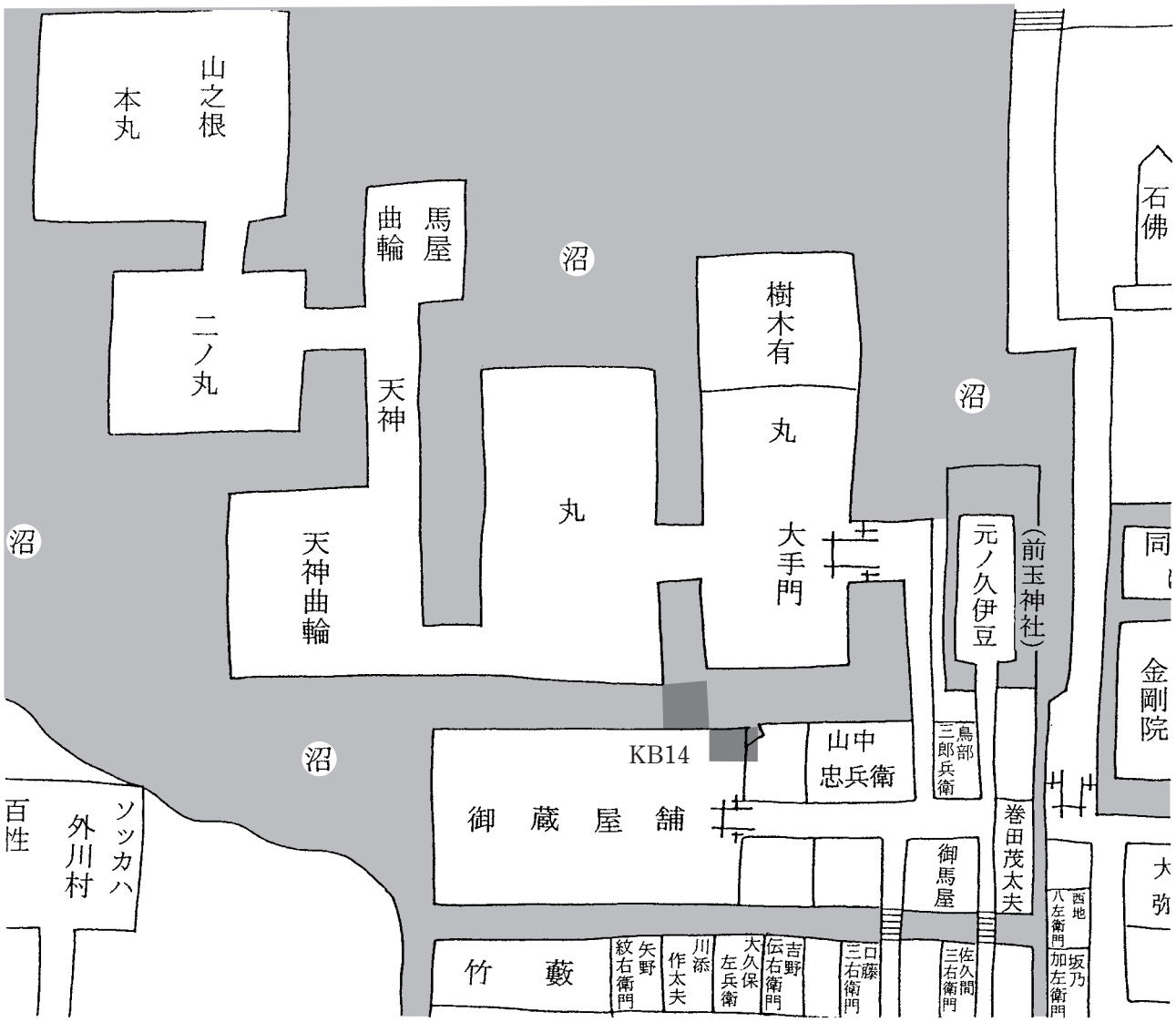
土壙など施設が『堀』南辺に多いのは、排土・排水を南に送ったもので、掘削が北から南へ行われたものか。

『堀』の平面形は、施設だけでなく井戸や土壙によりゆがめられている。『堀』掘削時に存在していたもので、その機能を考える必要がある。

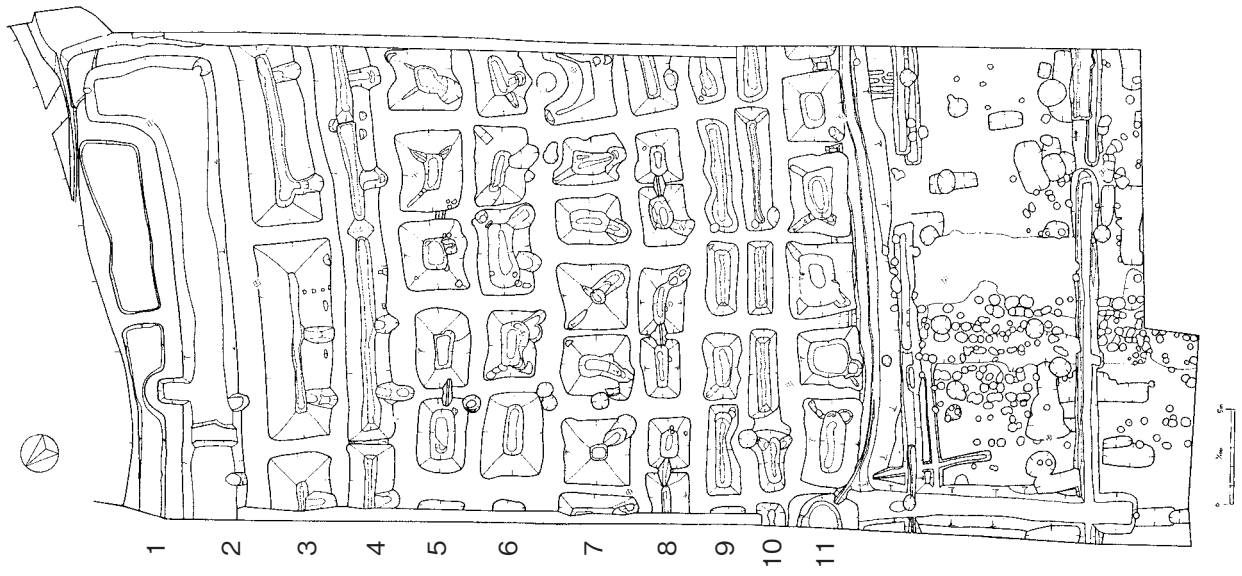
出土遺物については、『堀』確認面上位及び上層出土が多く、また、寛永銭や廃城後の陶磁器など後世の流れ込みを十分考慮しなければならない。堀の掘削・使用・廃絶の時期については良好な出土状況の遺物が多い KB15区の報告に譲る。

３　並行溝について（第79図）

調査区南に、城郭南堀と並行して東西方向に断続的に走行する２・３・５・７号溝は、幅100cm・深さ60cm の小規模なものであるが、周辺の調査区で、その延長が確認されており、長さ８～17m 以上、10m 間隔で２条走行するものである。また、覆土上層にロームが２次的に堆積するものがあり、隣接して掘上げた土を盛った土塁があった可能性がある。そのため、道路に伴う側溝の可能性も残すが、城郭南堀に並行することを併せて、防御機能も想定しておく。ただし、城郭南堀は東では北へ屈曲し、並行溝は東では直進するもので、連動しておらず同時期には存在していなかったか。



第77図　『絵図』との対照図



第78図　堀の位置

4　ほか

○金属生産関連遺物　当調査区では、49号堀、10号溝などから金粒子付着遺物が８点、ほかに炉床ヵ・スラグが出土している。金粒子・銀粒子付着遺物は南接するKB10区で９点、さらに騎武第５・49次などの周辺の調査区から出土していることから当地区を含めた区域が金銀加工の作業を行ったものと思われる。

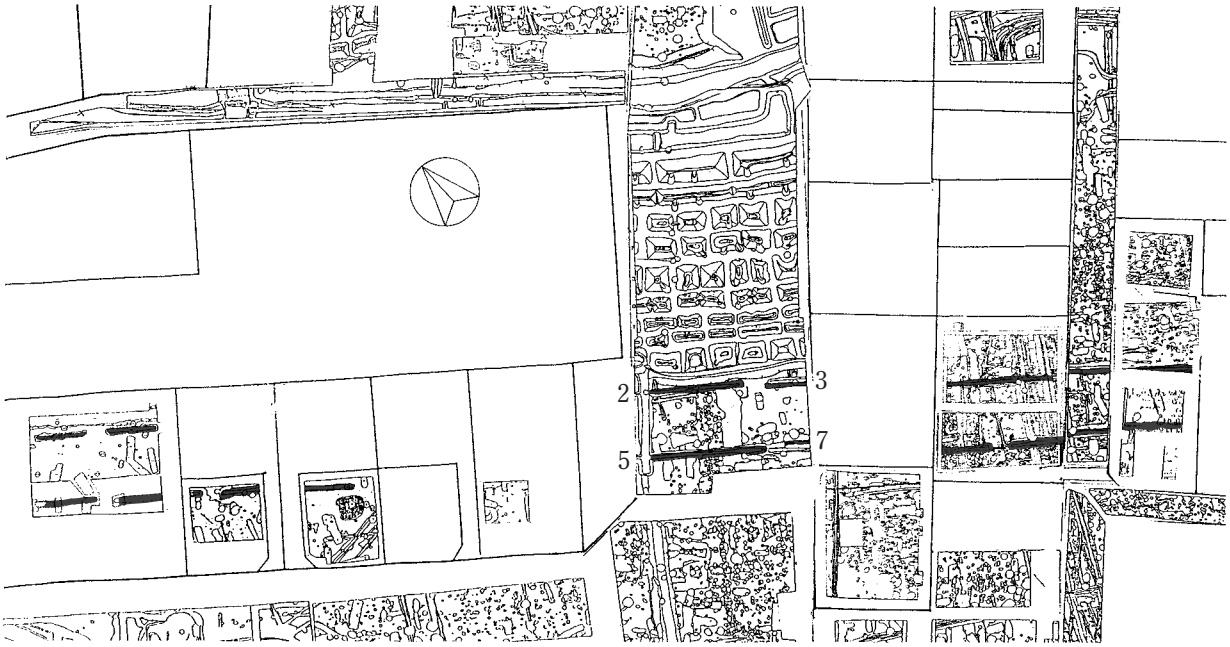
また、第Ⅴ章の科学調査により、金粒子付着遺物について山梨県以外で鉱物由来の不純物が確認されたこと、金銀粒子ともに銅が付着し、色金を作成した可能性があること、金属粒子付着遺物の中に銅と亜鉛を強く検出し、真鍮生産を行った関東で初の事例と見られることなどが明らかとなった。

非鉄金属製品についても、真鍮製品・銅製品について分析がなされた。これらについては製作・廃棄年代が確定できず現代にまで下がる可能性を有するが、今後の調査によりこの成果を生かしたい。

さらに、10号溝を主体に巻貝や漆付着ヵのかわらけ・47号堀から漆付着ヵの杓子が出土することから、螺鈿製品を製作した工房の存在の可能性を指摘しておく。今後科学的な分析により同定したい。

○桃の種　４・48号堀から大量に出土している。現在、その意味は不明だが、今後の課題として明記しておく。

○石製円盤　当調査区と、KB15区で出土している。城郭及び堀での出土から、武器の代用や水切りなどの遊技に伴うものが想定できる。



第79図　周辺調査区の並行溝

第Ⅶ章　遺物概観（ほうろく）

これまで、騎西城跡及び騎西城武家屋敷跡（以下『騎西城跡』）の報告を行ってきたが、今回出土遺物の中でほうろくを取り上げ「概観」という形でまとめを述べたい。

『騎西城跡』では、編年が確立された良好な陶磁器類が遺構から出土することが少ない。そのため、概略ではあるが、ほうろくの型式的傾向を確認し、遺構や伴出する遺物の年代を推定する材料としたい。

本報告においての確認

『騎西城跡』出土ほうろくの詳細な観察や分類を行うため、調査報告書による既報告分を取り上げ、その内容を改めて確認する。必要に応じ市内の他遺跡資料を補完する。

扱う資料は、良い条件のものが少なく、集中出土したKB10区１号溝のもの以外は、まとまって出土していない。そのため、単独破片資料であるが陶磁器類（小破片も含む）が伴出するものを扱う（№１～45）。溝、土壙や井戸出土遺物は、流れ込みの可能性があるが、伴出遺物により年代順に並べ、型式を意識し観察する。

また、今後の検討のため、伴出遺物を伴なわず型式的に時期比定を試みたもの（№52～69）の図及び観察表を、型式的な特徴のあるもの（№72～91）の観察表を掲載しておく。参考に土鍋２点（№70・71）の図・観察表も掲載した。

また、今回、これまでの報告の誤り（出土遺構・共伴遺物の年代）なども適宜修正する。

※本文中遺物№は、別表の通り通し№とし、（　）内に報告書の土器類№を記した。

※例：加須市埋蔵文化財第１集土器類№１は01－001。第１・３集は調査次ごとのナンバーなので34次１は03－34次－001とした。

実測図については内耳の正面を再実測し、断面図を追加した。必要に応じ２か所目を実測し、隣に並べた。

第１節　観察視点及び分類

今回、詳細に見ていくために、基本的な視点を設ける。

観察項目は色調、胎土含有物、内耳の形態・大きさ・取付位置、整形、体部内面の段の形態、付着物、使用痕等についてである。

また、器高が高く、内耳が口縁部に取り付けられるものを土鍋とし分離する。

以下の通りの順に分類する

○胎土により大別する。

A群：胎土に多くの金雲母を含まないもの

B群：胎土に多くの金雲母を含むもの

以下は再細分ではなく、各類の組み合わせとなる。

○器形により

Ⅰ類：体部上部が外反するもの

Ⅱ類：体部上部が内湾・内傾・直立・外傾し、内面上部の整形により段を有するもの

Ⅲ類：体部上部が直立・外傾し、内面下部の整形により段を有するもの

Ⅳ類：体部上部が内湾・直立・外傾し、内面に段を有しないもの

○内耳下端の取付位置により

a：内耳の下端取付位置が体部下部であるもの

b：内耳の下端取付位置が底部であるもの

○内耳形態により（凡例140ページ）

01平行／円　02平行／半円　03平行／楕円
04平行／半楕円　05平行／栗　06平行／片栗
07平行／扁平　08平行／台形　09平行／菱形
11下広／扁平　12下広／半扁平　13下広／楕円
14下広／偏楕円　15下広／半楕円　16下広／栗
17下広／片栗
21平行幅広／栗　22平行幅広／扁平
31鼓幅広／扁平
41鼓／半円

※08・09はクセによる個体差か

第２節　遺構ごとの型式的確認

以下、伴出遺物のある遺構ごとに、確認する。

A 群

○KB10区　４号溝　**１・２（10－319・323）**

１　Ⅰ－a－01類　体部上部は外反する。内耳は平行で平滑に整形され、断面円形である。段形態角斜で、段整形時の条線が残り道具使用と思われる。幅が４mm と広い。

２　Ⅱ－a－11類　体部上部及び下部が外傾する。内耳は下広で、正面下部を押圧し断面扁平。段斜め。

○KB10区　１号溝　**３（10－223）**

３　Ⅰ－a－01類　体部上部は外反する。内耳は平行で平滑に整形され、断面円形である。段形態角斜で、段整形時の条線が残り道具使用と思われる。幅は３mm と広い。内面下部の成形時の凹凸顕著。胎土砂粒多量。

○KB10区　１号溝ほうろく集中区　**４～15（10－204・207・209・211～213・217～222）**

４　Ⅱ－a－02類　体部上部は直立し、一部ゆがむ。内耳は平行で右から指を入れ成形し、断面半円形である。内面上部の弱いナデにより稜が形成される。

５　Ⅱ－a－03類　体部上部はやや外傾し、下部は直立する。内耳は平行で、正面右を押圧し断面楕円形。段は上位にあり斜め。口唇部内側が突出する。

６　Ⅱ－a－13類　体部上部は直立する。内耳は下広で、正面を押圧し中位両側をつまみ楕円形。内面上部は強く整形され、段が上位に斜めに形成される。口唇部内側が突出する

７　Ⅰ－a－01類　体部上部は外反する。内耳は平行で、平滑に整形し、断面は左右の押圧より変形するがほぼ円形である。段は斜め。角閃石・黒色粒子多量。

８　Ⅱ－a－11類　体部上部は内湾する。内耳は下広で、正面下部を押圧し断面扁平。段は上位にあり斜め。口唇部内側が突出する。

９　Ⅱ－a－11類　体部上部は内湾する。内耳は下広で、正面下部左を押圧し右端をつまみ断面扁平。内面上部の弱いナデにより稜が上位に形成される。

10　Ⅱ－a－11類　体部上部は直立する。内耳は下広で、正面下部を押圧し断面扁平。器厚は薄い。内面上部の弱いナデにより稜が形成される。砂粒多量。

11　Ⅱ－a－11類　体部上部は直立する。内耳は下広で、正面下部を押圧し断面扁平、肉厚である。内面上部は強く整形され、段が上位に斜めに形成される。口唇部内側は突出する。

12　Ⅱ－a－12類　体部上部は直立する。内耳は下広で、正面下部を押圧し断面半扁平である。段斜め。

13　Ⅱ－a－01類　体部上部は直立する。内耳は平行で、正面左下を押圧するが断面円である。内面上部のナデにより稜が形成される。

14　Ⅱ－a－12類　体部上部は外傾する。内耳は下広で、正面を押圧し断面半扁平である。内面上部は強く整形され段が上位に平らに形成される。道具使用か。

15　Ⅱ－a－12類　体部上部はやや外傾する。内耳は下広で、正面下部を押圧し断面半扁平である。内面上部の弱いナデにより稜が形成される。砂粒多量。

○騎西城跡３次　１号堀　**16・17（７－293・298）**

16　Ⅱ－a－03類　体部上部は外傾する。内耳は平行だがやや下部は広い。正面は凹凸無く整形し断面楕円形である。内面上部の弱いナデにより稜が形成される。

17　Ⅱ－a－13類　体部上部は外傾する。内耳は下広で、正面右側を押圧する。断面楕円形。段斜め。砂粒多量。

○騎武18次　４号土壙　**18（３－18次－37）**

18　Ⅱ－a－14類　体部上部は直立する。内耳は下広で、正面右寄りを押圧し断面偏楕円形。内面上部の強いナデにより上位に斜めの段が形成される。口唇部内側が突出する。赤褐色の砂粒が多量。

○騎武34次　５号井戸　**19（３－34次－28）**

19　Ⅱ－a－06類　体部上部は直立する。内耳は平行で、正面各所を整形する。左から指を入れ整形し断面片栗。内面上部のナデによる条線が残り、道具

使用と思われる。段斜め。

○ 騎 武５次　１号 溝　20・21・22（５－70・72・74）

20　Ⅱ－a－07類　体部上部は内湾する。内耳は平行だが左の上下端が広い。正面を凹凸無く整形し、平坦で断面扁平。上部内湾により段幅が広く見える。段は斜め。

21　Ⅱ－a－07類　体部上部は外傾する。内耳は平行だが上端をつまみ狭い。正面は平坦で断面扁平。段斜め。

22　Ⅱ－a－15類　体部上部は直立する。内耳は欠損するが下広で、平滑に整形され断面は半楕円。器厚は1.5cm と厚い。段は斜め。

○騎武11次　１号溝　23（５－182）

23　Ⅱ－a－07類　体部上部はやや内湾する。内耳は平行で、正面は平坦で断面扁平。内面上部の強いナデにより段は斜め。

○騎武47次　６号溝　24・25（５－279・280）

24　Ⅱ－a－16類　体部上部は直立する。内耳は下広で、正面下部にナデ痕が残り、断面栗。大型で肉厚。内面上部のナデにより稜が形成される。吊り下げ紐により左上に弱い損耗痕。

25　Ⅱ－a－03類　体部上部は直立する。内耳は平行で、正面はほぼ凹凸無く整形し、断面楕円。大型。内面上部のナデにより稜が形成される。

○ KB４区　48号土壙　26（６－173）

26　Ⅱ類　体部上部は直立する。段は斜めで上位にあり、幅は３mm と広い。

○騎武51次　３号土壙　　27（７－174）

27　Ⅱ－a－16類　体部上部は外傾する。内耳は下広で、正面下部を強く押圧し、断面栗。下部は扁平。内面上部のナデにより稜がやや下位に形成される。

　底部中央は１cm と厚い。砂粒痕・透明輝石多量。

○KB10区　27号溝　28（10－426）

28　Ⅱ－a－04類　体部上部は外傾する。内耳は平行で、正面は凹凸無く整形し、平坦で断面半楕円。内耳の長さ5.0cm と大きい。吊り下げ紐により左右上に弱い損耗痕。内面上部のナデにより稜が形成される。

○KB10区　１・２号井戸　29（10－428）

29　Ⅱ－a－05類　体部上部は直立する。内耳は平行で、正面は凹凸無く整形し、断面栗。内面上部のナデにより稜が形成される。

○KB10区　31号井戸　30（10－469）

30　Ⅱ－a－03類　体部上部は直立する。内耳は平行で、正面は凹凸無く整形し、断面は未図化を含めて２つは楕円形。いずれも吊り下げ紐により左右上に強い損耗痕。内面上部のナデにより稜が形成される。赤褐色粒子多量。

○騎武33次　21号土壙　31（３－33次－25）

31　Ⅱ－a－07類　体部上部は外傾する。内耳は平行で、正面下部を押圧し断面扁平。段は、内面中位を道具によりナデ、幅狭の窪みが上位に形成される。口唇部内側は突出する。小石多量。

○騎西城跡３次　１号堀　32・33（７－299・300）

32　Ⅱ－a－01類　体部上部は外傾する。内耳は平行で、正面を軽く押圧するが断面円形。内面上部の指ナデにより上位に稜が形成される。黒色粒子多量。

33　Ⅱ－a－13類　体部上部はやや内傾する。内耳は下広で断面は楕円形。下部を強く押圧する。内面上部の指頭ナデにより上位に稜が形成される。砂粒多量。

○KB３区　６号溝　34（４－117）

34　Ⅱ－a－08類　体部上部は直立する。内耳は平行で、正面は平坦で断面不整な台形。内面上部の幅広の指頭ナデにより稜が形成される。

○KB４区　65号土壙　35（６－196）

35　Ⅱ－a－05類　体部上部は直立する。内耳は平

行で、正面は凹凸無く整形し、断面は栗。内耳幅２cmと大きい。内面上部の指頭ナデは弱く段は稜となる。赤褐色粒子多量。

○KB３区　２号溝　36・37・38（４－86・90・88）
36　Ⅱ－a－09類　体部上部は直立する。内耳は平行で、正面右を強くナデ断面菱形。内部上面を２度ナデし段は窪む。口唇部外側は突出する。
37　Ⅱ－a－08類　体部上部は直立する。内耳は平行で、正面は平坦で、両側押圧による裏への巻き込みが残る。断面台形。内面上部の道具ナデにより段は窪む。口唇部外側は突出する。
38　Ⅱ－a－22類　体部上部は直立し、内耳は平行幅広で、正面中央を縦ナデし、両側押圧による裏への巻き込みが残る。断面扁平。吊り下げ紐により左右上に強い損耗痕。内面上部の指頭ナデにより稜を形成する。

○KB１区　８号溝　39・40（２－69・70）
39　Ⅳ－b－31類　体部直立する。内耳下端は底面に付く。内耳は鼓幅広で、正面は平坦で、両側押圧による裏への巻き込みが残る。断面扁平。吊り下げ紐により左上に強い損耗痕。段なし。
40　Ⅲ－b－31類　体部は直立する。内耳下端は底面に付く。内耳は鼓幅広で断面扁平。正面は平坦で、吊り下げ紐による左右上に強い損耗痕。内面下部の指頭ナデにより稜が形成される。

○KB２区　37・42号溝　41（２－578）
41　Ⅲ－b－31類　体部は外傾する。内耳下端は底面に付く。内耳は鼓幅広で断面扁平。正面は平坦で、両側押圧による裏への巻き込みが残る。吊り下げ紐による左上強い損耗痕。内面下部の指頭ナデにより稜が形成される。

○KB９区　21号溝　42・43（４－368・416）
42　Ⅳ－a－21類　体部は外傾する。内耳は平行幅広で、上下端を含め楕円形に見える特異なもの。断面栗。段なし。体部外面下部に木口状工具による整形痕。
43　Ⅳ－b－31類　体部は内湾する。内耳上端は口唇部上端より1.7cm下に、内耳下端は底面に付く。内耳は鼓幅広で、断面は扁平。左下を押圧し、上部は左右をつまみ中央が縦に窪む。段なし。口唇上端に沈線あり。

○多賀谷３次　瓦集中　44・45（７－451・452）
44　Ⅳ－b－41類　器高は３cmと低く、体部は内湾する。内耳下端は底面に付く。内耳は鼓で、断面半円。段なし。
45　Ⅳ－b－41類　器高は2.8cmと低く、体部は直立する。内耳下端は底面に付く。内耳は鼓で断面半円。段なし。

B群
○KB２区　34号溝　49（２－560）
49　Ⅳ－a－01　胎土に金雲母を多量に含む。体部は外傾する。内耳は平行で、正面は平滑に整形し、断面円形。段なし。

○KB８区　14号土壙　50（９－186）
50　Ⅳ－a－06　金雲母を多量に含む。体部は内湾する。内耳は平行で、正面は平滑に整形し、断面片栗。段なし。

○KB10区　11号溝　51（10－345）
51　Ⅳ－a－01　金雲母を多量に含む。体部は直立する。内耳は平行で、正面は平滑に整形し、断面円形。段なし。

※胎土に金雲母を多量に含むものは、他に騎武47次６溝で78（５－285）が出土。内耳欠損。51に似る。

第３節　出土状況及び帰属年代

前節で確認したものは、以下のとおりの出土状況であり、ほうろくの廃棄年代を推定する。ほうろくの使用が短いものと想定すると、製作・使用・廃棄は近いものとして良いと思われる。

年代は瀬戸美濃を主とした陶磁器の年代を援用する。※古瀬戸後期Ⅲ＝15c前／Ⅳ（旧）＝15c中／

Ⅳ（新）＝15c 後／大 窯１＝15c 末～16c 前／大 窯２＝16c 中／大窯３＝16c 後／大窯４＝16c 末～17c 初／登１＝17c 前／登２＝17c 前　／登３＝17c 中／登４＝17c 後／登５＝17c 末／登６＝18c 前

○KB10区　４号溝　**１・２（10－319・323）**
多時期の陶磁器が伴出するが、やや無理をする。

出土：ほうろくはいずれも遺存50％を超えるものであるが、東に**１**、西に**２**と、広く散布する破片が接合したものである。**２**は混入か。

伴出土器は、破片で、流れ込みである。平面分布では、瀬戸美濃古瀬戸後期Ⅲ～Ⅳ(299・300・302・303・306）が全面に広がる。大窯３（301）は**２**に近い。広く13c 後の常滑壺（59）が、東に16c 前半の常滑鉢（295・296）・14c 後半の鳶口壺（298)、西に15c 後半の常滑鉢（297）が分布する。レベル分布では大窯３（301）は１点のみで上層の下、別の掘り込みに伴う可能性がある。

年代：15世紀中葉から後半としておきたい。

○KB10区　１号溝　**３（10－223）**

出土：ほうろくは90％遺存で、ほうろく集中区の北側で散布する。

伴出土器は､ほうろく集中区の最新は大窯１(87・88）であるが、隣接出土は古瀬戸後期Ⅳ（63・78＝15％遺存）である。

年代：15世後半と思われる。

○KB10区　１号溝ほうろく集中区
４～15(10－204・207・209・211～213・217～222)

出土：集中区としてほうろくの出土状況を図化しているのは13点であるが、ここでは11点を取り上げた。90～100％遺存は６点、ほかは50％遺存である。溝中央覆土中位で８×１ｍの範囲に同一個体が分散することなく出土した。**７**は混入か。

伴出土器は破片で平面分布では古瀬戸中Ⅱ（91）後 期Ⅲ～Ⅳ（新）（62・63・71・72・73・78・82）が全面に分布する。最新の大窯１～２後半(85・87・88）は、点数は少なく９に近い。レベル分布では大窯１～２後半は覆土上層から中層。１号溝を切る46号土壙で古瀬戸後期Ⅳ（新）が出土する。

年代：15世紀末から16世紀前半だが、46号土壙出土遺物から、１号溝最新土器は土壙・ピットに伴うことも考えられ、15世紀末としておきたい。

○騎西城跡３次　１号堀　**16・17（７－293・298）**
95・50％遺存
堀内で伴出土器の時期差があるが無理をする。

出土：ほうろくは**16・17**は堀の西寄り径１ｍの範囲でまとまり上～下層に分布する。

伴出土器は西寄りでは上～下層に古瀬戸後期Ⅳ（新）～大窯１（214＝10％遺存)、大窯１（208＝略完形・209＝８％遺存）が出土する。

年代：15世紀末～16世紀前半と思われる。

○騎武18次　４号土壙　**18（３－18次－37）**
75％遺存

出土：ほうろく**18**は確認面上位で、16c の常滑甕（34＝口縁部破片）と共伴し、土壙中位で15c 末～16c 前の完形のかわらけが出土する。

年代：16世紀前半か。

○騎武34次　５号井戸　**19（３－34次－28）**
33％遺存

出土：**19**は中位で、かわらけ（27＝20％遺存＝16c 後半ヵ）と共伴する。

年代：16世紀後半と思われる。

○騎武５次　１号溝　**20～22（５－70・72・74）**
16・13・６％遺存

１号溝としたが城郭部とを分ける障子堀の上層で流れ込み遺物が多いと思われる。しかし内耳の形態に特徴があるため無理をして扱う。

出土：**20**に近いものは大窯３～４（57＝５％遺存・58＝10％遺存)、**21**にはかわらけ（65＝10％遺存＝16c 後半)、**22**には染付Ⅲ（51＝５％遺存＝16c 中～後）が周辺で出土している。

年代：16世紀後半と思われる。

○騎武11次　１号溝　**23（５－182）**　60％遺存

出土：23は２×１ｍの範囲に破片で分布し、伴出遺物は大窯４後（179＝25％遺存）・志戸呂（180＝10％遺存＝16c 後半）・かわらけ（181＝20％遺存＝16c）が、ほぼ確認面で出土した。

年代：16世紀後半と思われる。

○騎武47次　６号溝　**24・25（５－279・280）**

18・50％遺存

出土：６号溝は重複する遺構の中で最新時期で、重複部分のものも６号溝に伴うものと思われる。**24・25**は、ほぼ中央に分布する。周辺では大窯３後～４後(263＝20％遺存)、かわらけ(269・270＝13％遺存＝16c 後）が出土する。

年代：16世紀後半と思われる。

○ KB４区　48号土壙　**26（６－173）**　６％遺存

かなり小さく内耳がないが段形態が角斜と特徴的であるので、無理をする。

出土：ほうろく**26**は細片で混入の可能性があり古いか。大窯３（169＝50％遺存)、かわらけ（170～172＝50・100・100％遺存＝16c 後半）が共伴する。

年代：16世紀後半か。

○騎武51次　３号土壙　**27（７－174）**　80％遺存

出土：12％遺存のかわらけ170・185（15c 中～16c 前)、172（16c 中～末）が共伴する。

年代：16世紀後半と思われる。

○KB10区　27号溝　**28（10－426）**　75％遺存

出土：28はＦ－９Ｇの35～36号井戸周辺に分布し27号溝で取り上げられているが、切り合いを再確認すると33号溝に属するようである。周辺で大窯３（388＝10％遺存・390＝10％遺存）が出土する。

年代：16世紀後半と思われる。

○KB10区　１・２号井戸　**29（10－428）**50％遺存

出土：いずれも細片だが、１号井戸では大窯３（427＝10％遺存)、２号井戸ではかわらけ（429・430＝10％遺存＝16c）が出土する。

年代：16世紀後半と思われる。

○KB10区　31号井戸　**30（10－469）**　40％遺存

出土：かわらけ（467＝10％遺存＝16c 後）が出土する。

年代：16世紀後半と思われる。

○騎武33次　21号土壙　**31（３－33次－25）**

70％遺存

出土：**31**は中央上層に10数点に破損して分布する。大窯３（16＝３％遺存）が上層で、かわらけ（20・22＝70・80％遺存の16c）が共伴する。20は下層で出土する。

年代：16世紀代で、後半となるか。

○騎西城跡３次　１号堀　**32・33（７－299・300）**

25・60％遺存

16・17と同堀内であるが、隣接する遺物に時期差あるため、無理をする。

出土：ほうろくは、**32・33**は堀中央の下層で出土する。伴出土器は、中央やや北寄り中層で大窯３(212＝20％遺存）が出土する。

年代：16世紀後半となるか。

○KB３区　６号溝　**34（４－117）**　13％遺存

出土：**34**は溝のやや東寄りに分布する。12号溝の範囲に、かわらけ（116＝10％遺存・125～131＝10～90％遺存＝17c 前、132＝16c 中～末)、染付皿(115＝17c 初）・登２（124＝25％遺存）が分布する。６号溝で取り上げられているものもあるが、いずれも重複関係で新しい12号溝出土のものか。

年代：17世紀前半と思われるが、16c 後半までさかのぼる可能性もある。

○KB４区　65号土壙　**35（６－196）**　75％遺存

出土：**35**は破片が３×５ｍの土壙全体に広がる。土壙からは大窯２（194＝13％遺存)、登窯１（193＝25％遺存）・かわらけ（195＝30％遺存＝16c 後～17c 前）が出土する。

年代：17世紀前半ヵ

○ KB３区　２号溝　**36・37・38（４－86・90・88）**

25・５・10％遺存

かなり小さいが特徴的な大型の内耳なので無理をする。

出土：溝の広域に亘って出土しているのでそれぞれの周辺遺物を見る。**36**は周辺に古瀬戸後期Ⅳ～18c（16・28・43・48・52・66・68・69）が見られるが17c 前半が多い。**37**では、17c 前半～18c（33・65・71）が周辺で出土している。**38**の周辺は古瀬戸後期Ⅳ～17c 後半（40・46・54・56・60・64）が見られ17世紀後半に落ち着くか。

年代：17～18世紀に収まると思われる。

○KB１区　８号溝　**39・40（２－69・70）**

13％・13％遺存

出土：ほうろくの**39・40**は溝の北寄り（A－６G）で出土した。

同溝の A－５～８G から、肥前大皿（66＝25％遺存＝17c 後）・肥前磁器皿（67＝20％遺存＝17c 中）・かわらけ（68＝100％遺存）・瀬美碗（65＝50％遺存＝17c 後～18c 前）が出土している。66が A－６G で出土した（グリッドは５m 角）。

年代：17世紀後半と思われる。

○KB２区　37・42号溝　**41（２－578）**　13％遺存

出土：**41**は、37号溝の東寄り F－９G から出土した。

周辺では、登窯３～４（563＝100％遺存）・唐津鉢（566＝13％遺存＝17c 末～18c）・丹波擂鉢（567＝10％遺存＝17c 中～後）が出土している。

年代：17世紀後半の可能性があるが17世紀中～18世紀としておく。

○KB９区　21号溝　**42・43（４－368・416）**　６％・60％遺存　※42は９号溝で報告しているが主体は21号溝である。

出土：**42**は南寄り、**43**は北寄りで出土した。

同溝の北寄り**42**の近くで、392（50％遺存＝穴田＝17c か）が出土している。南寄りの**43**の近くで、肥前磁器碗（409＝25％遺存＝17c 後～18c 前）、登窯５～６（399＝10％遺存）が出土している。肥前鉢（402＝33％遺存＝17c 後～18c）は中程である。

年代：17世紀後半から18世紀前半とする。

○多賀谷３次　瓦集中　**44・45（７－451・452）**

75・13％遺存

44・45は騎西城跡出土ではないが良好な出土状況であるため援用する。

出土：１m 四方の範囲に瓦と磁器等が敷き詰められた状況で一括性が高い。

肥前青磁染付碗（428＝15％遺存＝18c～）、肥前染付皿（429＝80％遺存＝17c 後半～）、肥前染付鉢（430＝75％遺存＝1820～1860）、肥前磁器小坏（433＝25％遺存＝1780～1860）が共伴する。

年代：19世紀前から中と思われる。

ほかに、良好なかわらけを共伴するもの**46**（騎武18次３号土壙**３－18次－26**）や在地擂鉢と共伴するもの**47**（騎武18次１号井戸**３－18次－９**）、**48**（道智１次**８－150**）があるが、かわらけ・在地擂鉢の年代比定に至らず、ほうろくの年代は不明である。

第４節　各要素の傾向　（第23～27表）

本節では前掲のほうろくの法量について、口径及び器高、器厚、段の幅、段までの長さ（140ページ）に着目して、グラフ化し確認をする。

また、胎土の含有物の特徴や成形及び整形、使用痕について詳細に見ていく。

１法量

１）口径及び器高

口径と器高（口絵24上）については、特に年代的な変遷に伴うような大きな推移は確認できない。ただ、口径については、復元値のものは（**７・19・23**）はやや不正確だが、全体に35cm 前後が多数を占める。16世紀後半には37～39cm とやや大きなものが存在する。器高については、15世紀中後半の体部が外反するものや16世紀後半のものは６cm 前後のものが多く、15世紀末のものは5.5cm 前後とやや低い。16世紀後半で６cm を超えるものがある。また、19世紀前中頃に至り、器高がこれまで4.5～6.5cm で

あったものが３cm と劇的に低くなっている。

２）器厚（第90図）

体部の器厚についても、大きな推移は見られない。ただし、15世紀代で１cm 以下のものが多く、16世紀後半では1.2cm 以上の一群があり、17～18世紀代では１cm 以上のもの、19世紀代では1.2cm を超え、1.5cm のものもある。

底部の器厚についても、大きな推移は見られない。15世紀代は0.8cm 以下のものが多いが、16世紀後半では0.6～0.7cm のものが多い。17～19世紀では、0.6～0.9cm と幅がある。

計測位置を体部との接合位置近くとしたが、底部中央部では厚いものもあり、計測位置で傾向が変わるか。

３）段幅（第91図）

体部内面の整形に伴い形成される段については、いくつかの形態がある（凡例140ページ）。その幅は、０～４mm でやや推移が見られる。15世紀中後半では４mm ものがあり、15世紀末～16世紀後半では２mm のものが多い。１mm 以下のものが15世紀末から16世紀前半に見られるが整形の個体差と思われ、多く見られるようになるのは16世紀後半からである。26は３mm で古いものか。段が消失するものは17世紀前半に出現する可能性があるが、17世紀後半から18世紀前半にはほぼ消失する。37・38は２mm で17世紀では特異な段の整形である。

４）段までの長さ（第92図）

段は体部上位に指頭による整形によるものである。段までの長さについては、口唇内側上端部から段までの計測値で、段は体部の上位～中位に位置する。大きな推移は見られない。15世紀に３cm を超えるものは、外反する器形により体部上部が長い結果である。15世紀末では２～３cm の幅がある。16世紀後半では2.5cm 以上で３cm を超えるものがある、段は体部中位に位置する。器高が高いことから整形幅が広くなるためか。段は17世紀後半で消失する。

５）内耳長率（第93図）

内耳は、その下端を体部に取付けていたものが底部に取付けるようになる。そこで、体部の長さに対し、内耳の長さが占める割合が大きくなることを想定し推移を見た。推移を認めにくいが、15世紀中後半で70％前後だったものが、15世紀末から16世紀前半では80％前後に、16世紀後半では80～100％に、17世紀中頃から18世紀にかけて120％、19世紀前中頃では140％を超える。ただし、15世紀中後半は体部内面の長さが長く内耳率が低く、15世紀末では、体部の長さが短く内耳が短くても％は高くなるものがある。19世紀前中頃は体部が短く内耳率が高くなる。

内耳下端を底部に取付けるのは17世紀後半と思われる。

６）内耳の幅と長さ

内耳の幅と長さ、つまり大きさについては、ざっとした見た目では大きくなっていくようである。これを散布図（口絵24下）で確認すると、15世紀中後半は幅（1.0）1.3～1.5mm・長さ（3.8）4.4～4.6cm、15世紀末では、幅1.1～1.7cm・長さ3.5～4.4(5.2)cm、16世紀後半ではやや大きくなり、幅1.2～2.1cm・長さ3.6～5.7cm、17～18世紀では幅1.2～2.8・長さ4.1～6.3cm と大きいものが見られる。しかし19世紀前中頃では、幅1.5cm 以下・長さ４cm 以下と非常に小さい。

※（　）は混入の可能性のあるものの数値である。

２　胎土（第23～27表）

胎土については、非常に多く含むものは小石、砂粒、角閃石、黒色粒子、赤褐色粒子、金雲母、透明粒子、透明輝石があるが、特に傾向としては確認できない。砂粒を多く含むものが15世紀に見られる。赤褐色粒子が多いものは15～17世紀に見られる。金雲母は、Ｂ群としたものは時期は不明だが、器形・内耳形態・段などの特徴はＡ群とは違うもので、他地域（東関東か）の搬入品と解することができる。

３　成形及び整形

１）底部（第23～27表／図版26）

成形では、編物状材（ロクロ台剥離材か）の跡が底部から体部下端の外面に見られるものがある。

外面全体には、乾燥による？ちぢみが見られ、また粒状の圧痕、板状の圧痕（乾燥時の台の痕跡か）

が15～16世紀に見られる。

整形では、底部の外面のちぢみを消すナデ（置いたときのつぶれか）や、内面にロクロによる渦巻き状の回転ナデが見られるものがある。

２）体部

成形は、輪積により行われ、入念な圧着痕である指頭圧痕が下部外面に残る。

また、内耳の取付の際、内耳部成形のため体部が外に膨らむ。17世紀後半以降は内耳が内側に張り出すためか、膨らまないものが出現する。

整形では、内面の上位から中位付近に段を形成する。※４）段で詳述

内面及び上部外面はロクロによる十分な横ナデがあり、下部外面は横ナデが無いか不十分で、成形時の指頭圧痕が残る。工具痕が残るものもある。

３）内耳

内耳の成形は、粘土紐を上端と下端を丹念に接着し、上端と下端が中位より幅広である。上部は紐をかけるためか（細く厚くするべく）つまみ、幅狭となるものがある。その結果、裏面に巻き込みが見られるものもある。

上端は口唇部と一体となるもの、やや空けるもの（45）があり、下端は体部の下位から底部に貼り付ける。

形態は第１節の分類の通り（凡例140ページ）で、正面及び断面形態にバラエティがある。断面は押圧すると扁平、正面はつまむと平行が下広になる。

押圧整形が15世紀末に多く見られるが最後にナデていないため残ったものか。

消長（第28表）は、15世紀中後には平行／円が、15世紀末には平行／円・半円・半楕円、下広／扁平・半扁平・楕円が、16世紀前ヵには下広／偏楕円が、16世紀後半には、平行／楕円・半楕円・栗・片栗・扁平、下広／半楕円・栗が見られる。17世紀前ヵには平行／栗、17世紀後半には鼓幅広／扁平、19世紀前中には鼓／半円が見られる。

15世紀末と、16世紀後は多様であるが他時期の混在もあるか。17世紀後半の鼓幅広／扁平の出現は大きな画期である。

４）段

段は、体部内面を指頭あるいは工具により強い整形により形成されるものである。形態（凡例140ページ）は、「平」は平坦、「斜」は斜めで角が不明瞭であるもの、「角斜」は斜めで直線的で角が明瞭であるもの、「稜」は僅かに膨らみ稜線を有するもので、上を整形するものと下を整形するものの別がある。「凹」は指頭により押圧され窪むもの、「沈線」は工具により沈線を巡らせるもの、「なし」は段の無いものである。無いものは内耳下端を底部に貼り付けるもので、内耳の取付時に体部がゆがみ、その矯正の結果、段が形成されたことを想定させる。形態は使用時・廃棄後の損耗や職人のクセによる影響もあるが、「平」と「斜」と「稜」の判別が甘くなってしまった。また、「斜」の形態は多様である。

消長（第29表）は、15世紀中後には「角斜」が、15世紀末には「平」・「斜」・上部の整形による「稜」が見られ、16世紀後半には「斜」・上部の整形による「稜」が、17世紀中頃から18世紀あたりには下部の整形による「稜」が、17世紀後半から19世紀前中頃まで段の無いものが出現する。

４　使用痕

１）付着物

体部外面にススが、底部内面に炭化物・タール（20・37）が付着する。火に掛け、内容物が焦げ付いた痕跡である。

２）紐架け痕

内耳には擦れたような痕跡が見られ（24・28・30）、縄によるものか。また、強い損耗痕としたが削れた痕跡が見られ（38～41）、金属製の紐の使用によるものと思われる。痕跡がないものが多く、五徳の使用に起因するものか。弱い損耗は16世紀後半に、強い損耗は16世紀後半から17・18世紀あたりに出現する。

３）補修孔

体部及びの割れ口を挟み、２か所穿孔するものがある。割れを補修したものであろう。この補修では液体に対応できないので、ほうろくの機能はやはり焙じる・炒ることと思われる。

第５節　変遷（第94図）

はなはだ不完全な図であるが15世紀中後半から19世紀前中頃までの『騎西城』周辺の変遷である。左列は伴出遺物により大方年代比定が妥当と思われるものである。右列は伴出遺物に恵まれず年代幅のあるもの、型式的に妥当と思われるものを配置した。

変遷は、前述の通り内耳の形態、貼付位置、段の有無・形態・器高にわずかな傾向を見ることができる。

第６節　今後の課題

１　年代変更の可能性

地域差を時間差としたものや集団差・職人差を細分してしまったものがあるものと思われる。また、年代についても、無理を重ねたため今後訂正を要するものがあるものと思われる。特に15世紀中後半としたⅠ類は、異質なもので他地域からの搬入の可能性が、年代も15世紀末に下がる可能性がある。

２　器高の低下について

在地内での変化を追えるのか、他地域からの搬入なのか明らかにしたい。

３　騎西城の主体を成す時期である16世紀前・中・17世紀前の資料が不明である。今後の確認作業により抽出したい。

４　今後報告を予定している調査区のほうろくを追加して再検討する。特にKB15・19区、騎13次。

ほうろく凡例

内耳

＜正面形＞

＜断面形＞

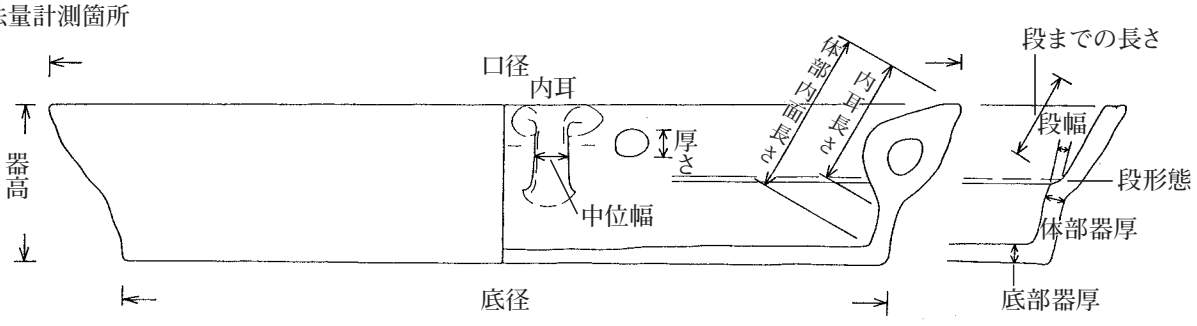
円	半円	楕円	半楕円	偏楕円	栗

片栗	扁平	半扁平	台形	菱

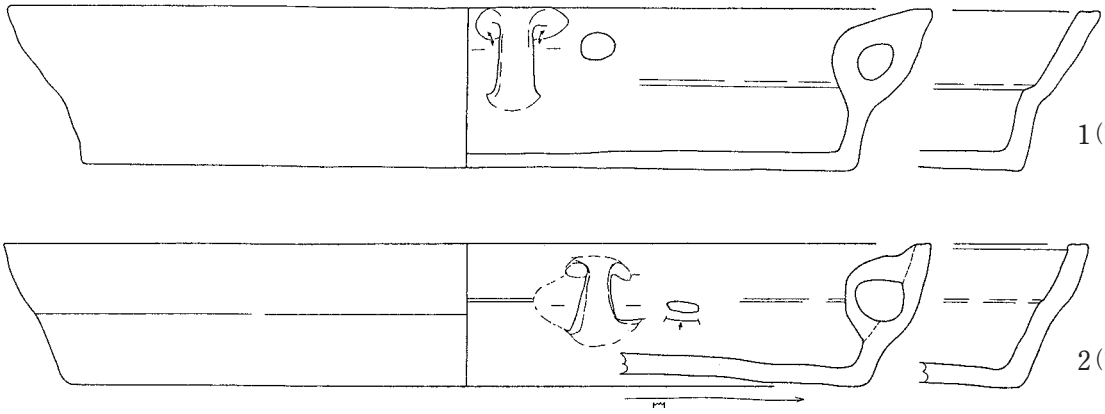
段　形態

平	角斜	斜	稜(上整形)	稜(下整形)	凹	沈線	なし

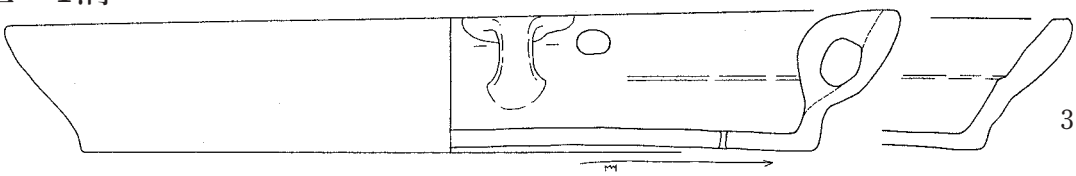
法量計測箇所



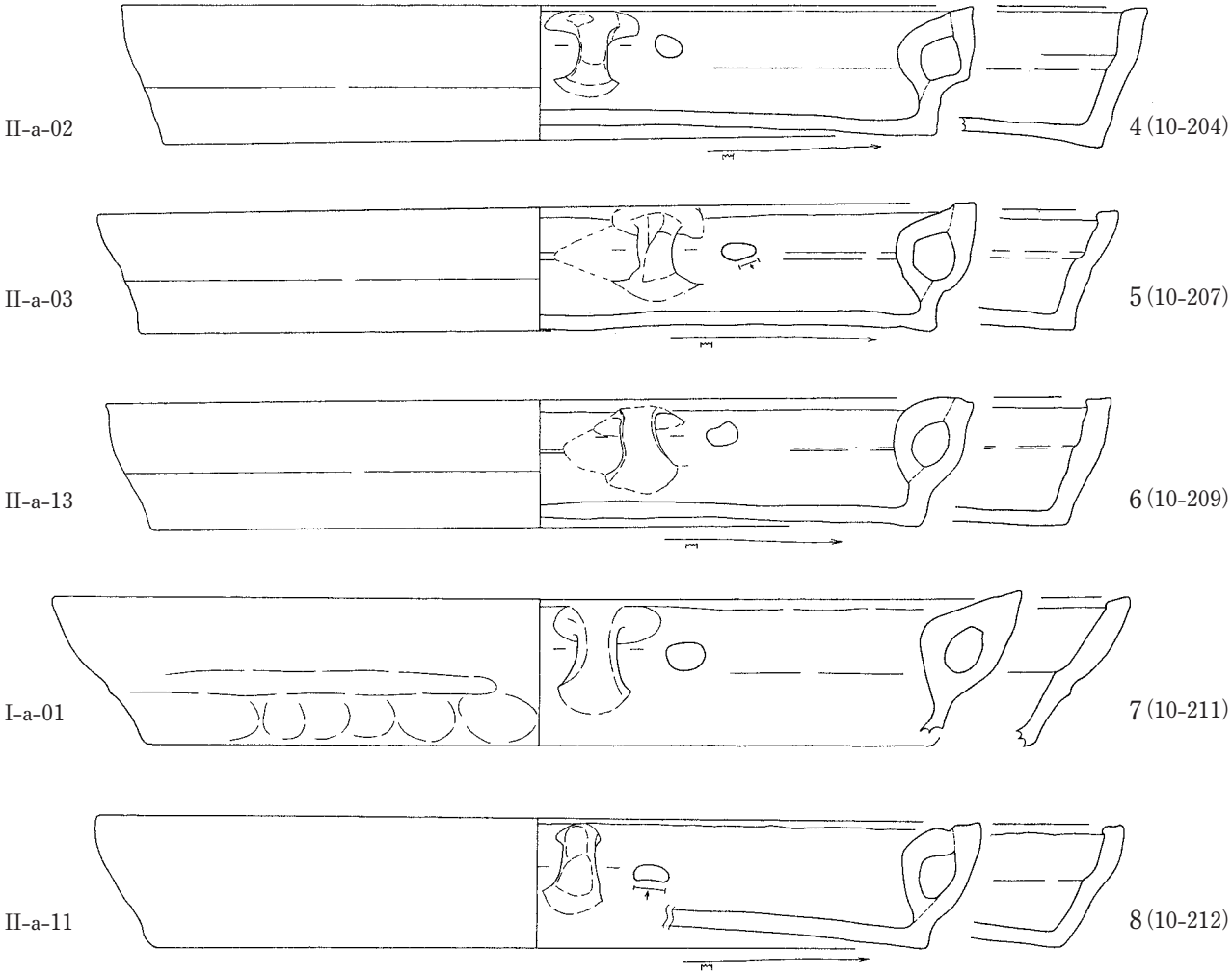
KB10区　4溝



KB10区　1溝

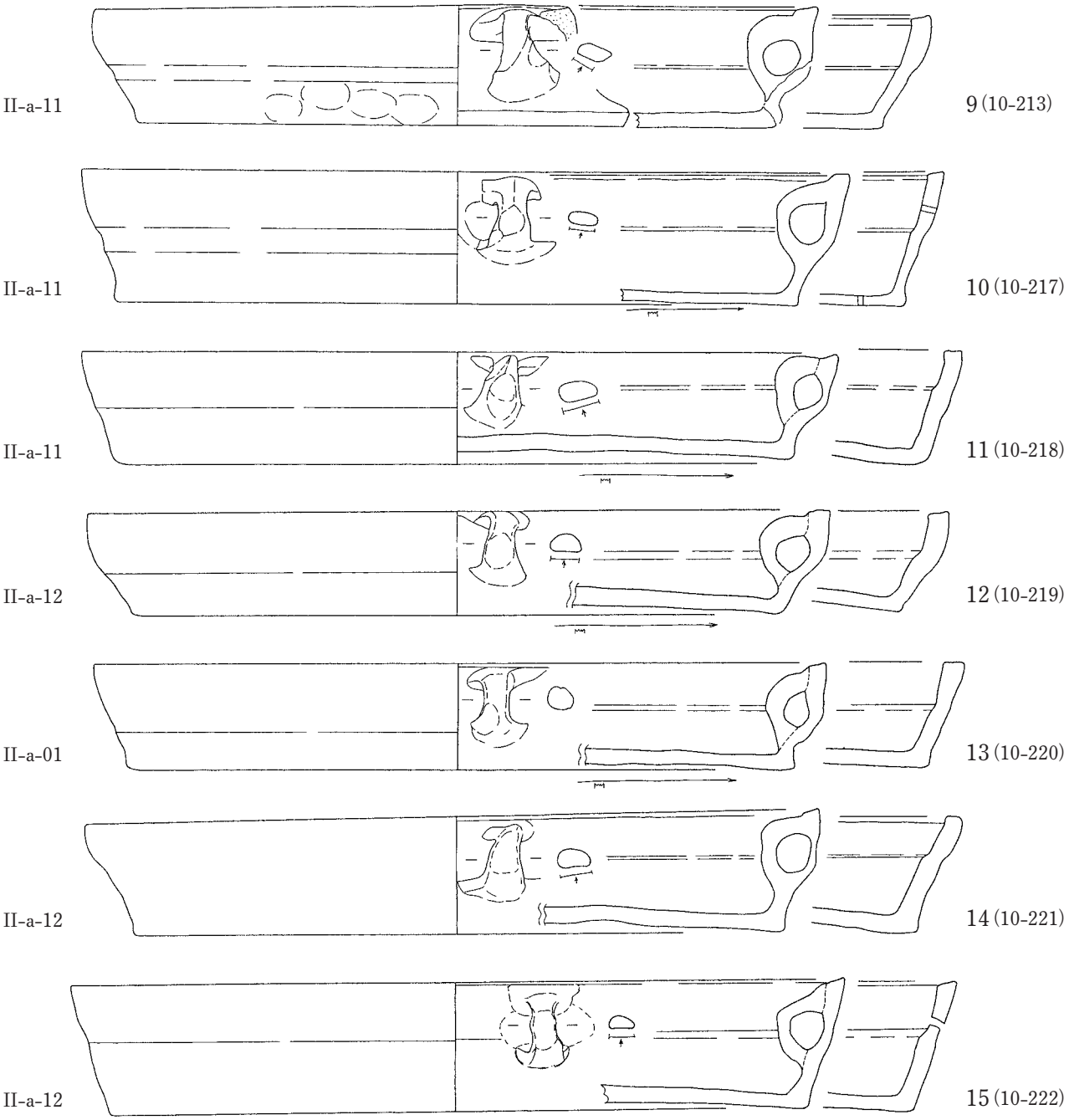


KB10区　1溝　ほうろく集中

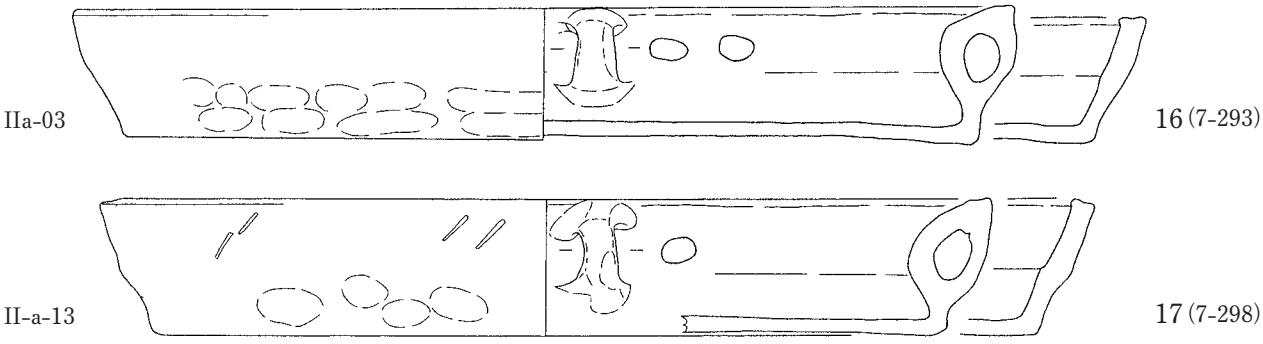


第80図　ほうろく１

KB10区　1溝　ほうろく集中



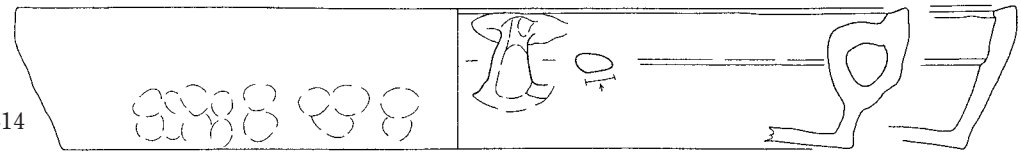
騎3次　1堀



第81図　ほうろく２

騎武18次　4壙

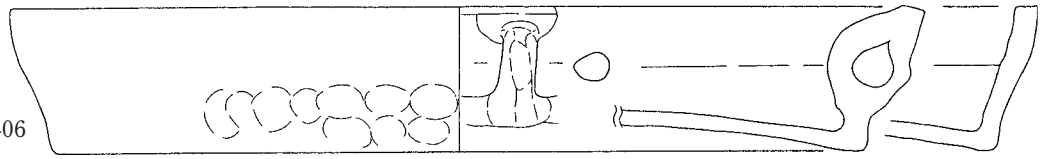
II-a-14



18 (3-18次-37)

騎武34次　5井

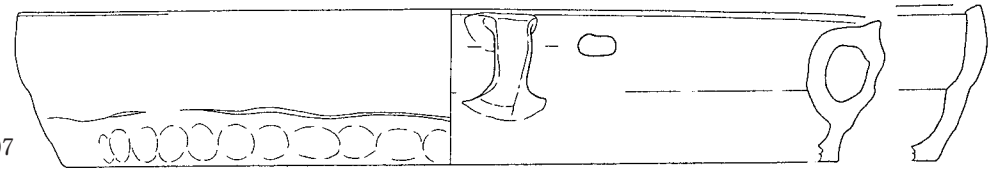
II-a-06



19 (3-34次-28)

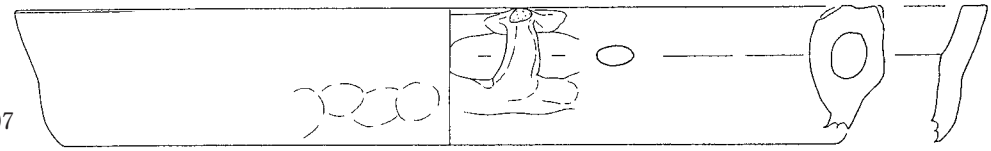
騎武5次　1溝

II-a-07



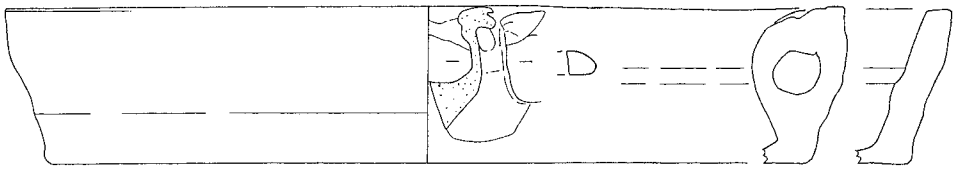
20 (5-70)

II-a-07



21 (5-72)

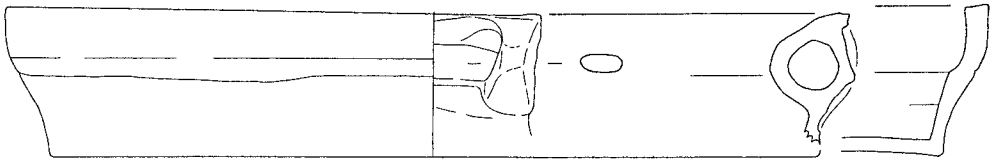
II-a-15



22 (5-74)

騎武11次　1溝

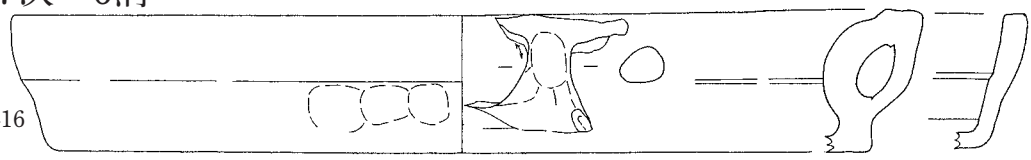
II-a-07



23 (5-182)

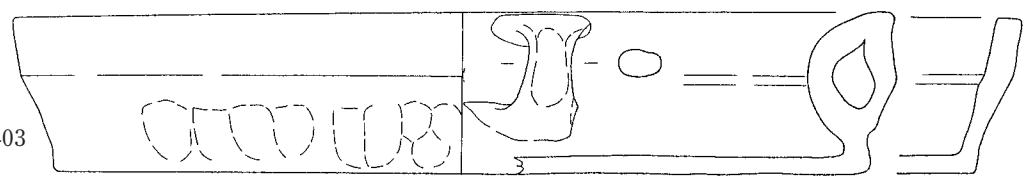
騎武47次　6溝

II-a-16



24 (5-279)

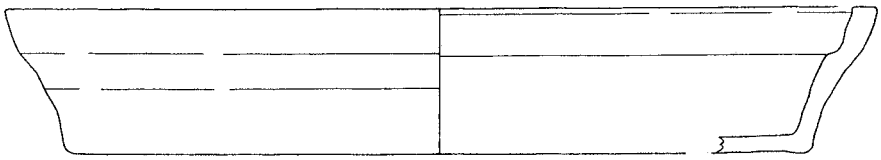
II-a-03



25 (5-280)

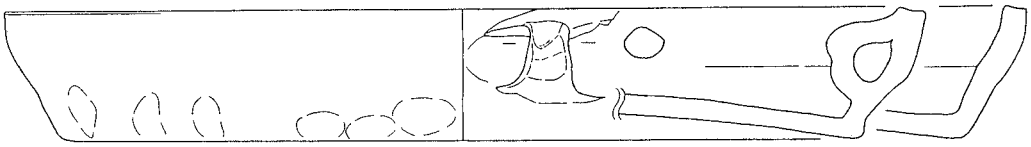
第82図　ほうろく３

KB4区　48壙



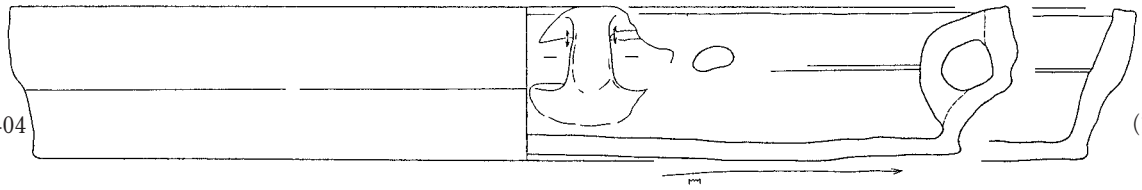
II　26 (6-173)

騎武51次　3壙



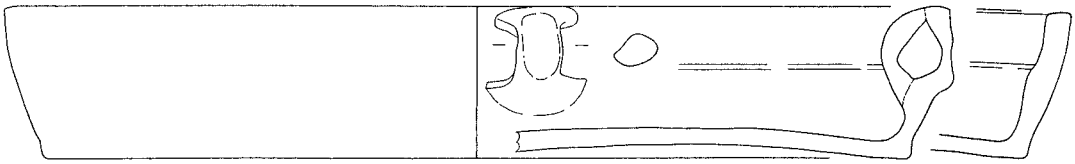
II-a-16　27 (7-174)

KB10区　27溝



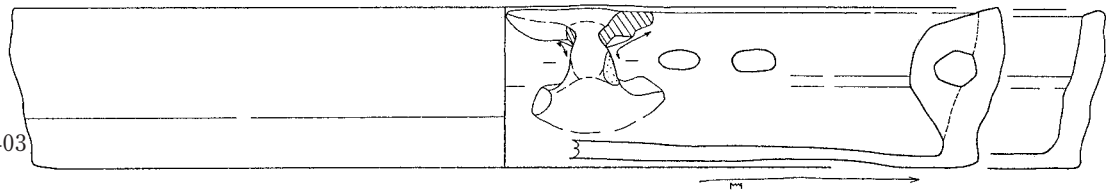
II-a-04　28 (10-426)

KB10区　1･2井



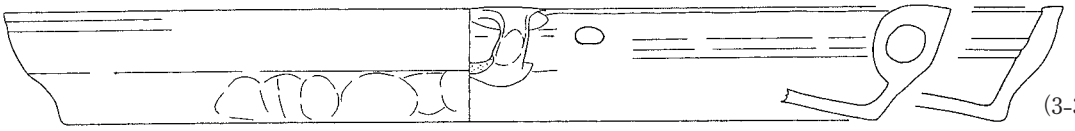
II-a-05　29 (10-428)

KB10区　31井



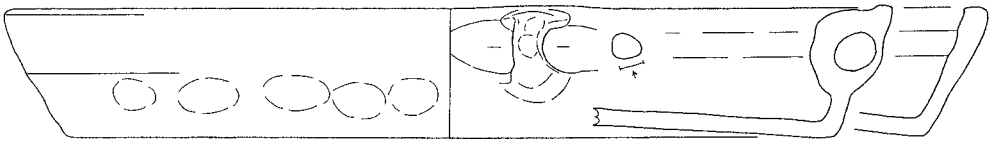
II-a-03　30 (10-469)

騎武33次　21壙



II-a-07　31 (3-33次-25)

騎3次　1堀

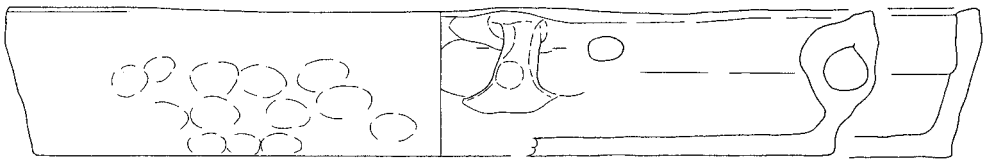


II-a-01　32 (7-299)

第83図　ほうろく 4

騎3次　1堀

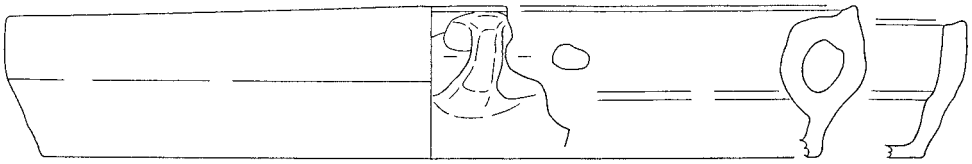
II-a-13



33 (7-300)

KB3区　6溝

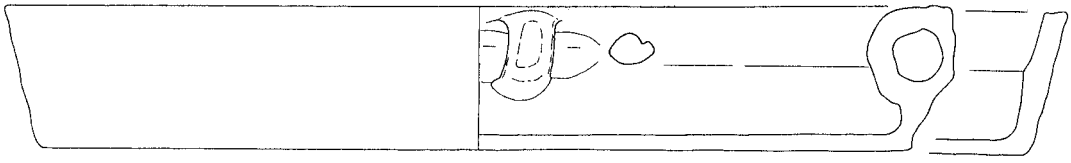
II-a-08



34 (4-117)

KB4区　65壙

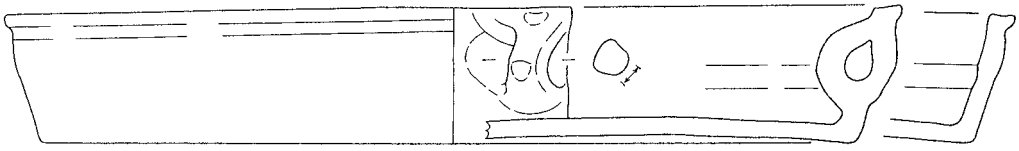
II-a-05



35 (6-196)

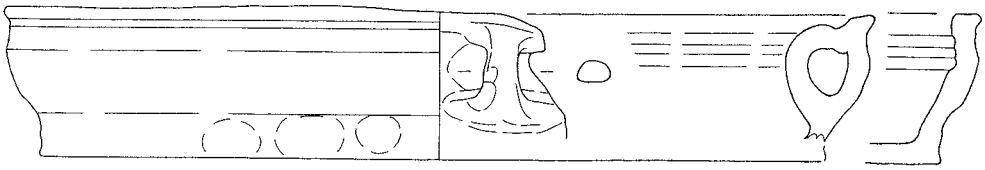
KB3区　2溝

II-a-09



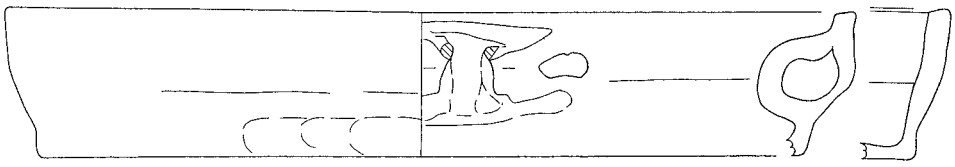
36 (4-86)

II-a-08



37 (4-90)

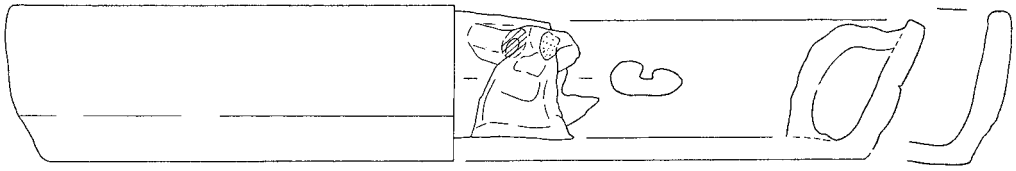
II-a-22



38 (4-88)

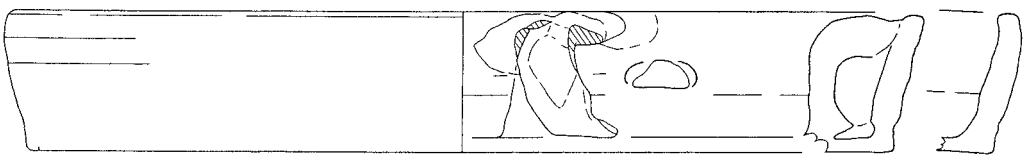
KB1区　8溝

Ⅳ-b-31



39 (2-69)

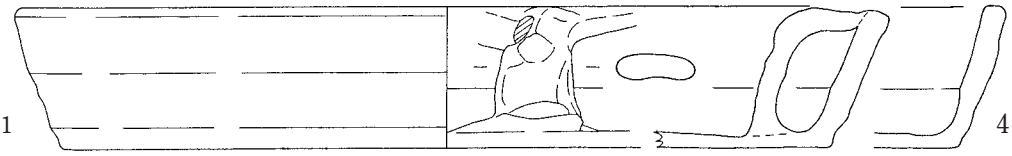
Ⅲ-b-31



40 (2-70)

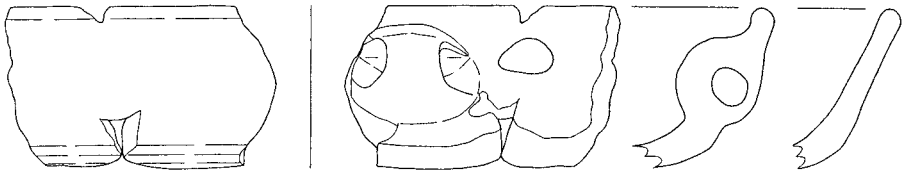
第84図　ほうろく５

KB2区　37･42溝

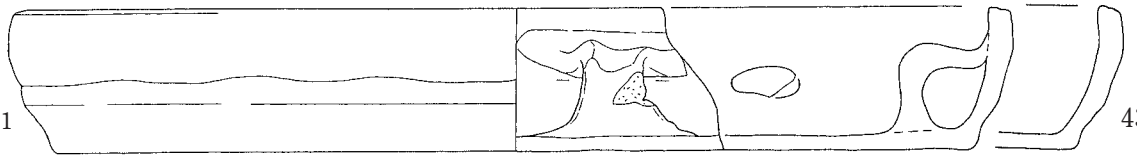


Ⅲ-b-31　41 (2-578)

KB9区　21溝

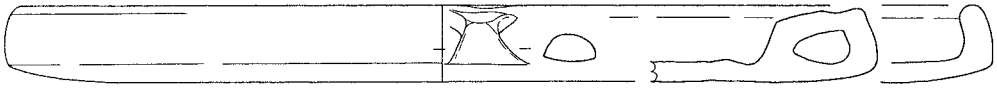


Ⅳ-a-05　42 (4-368)

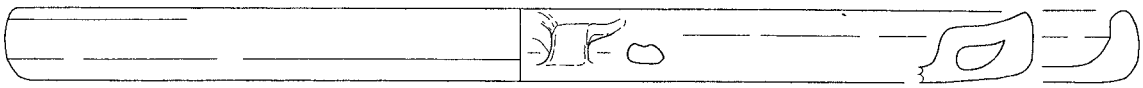


Ⅳ-b-31　43 (4-416)

多賀谷氏館跡3次　瓦集中



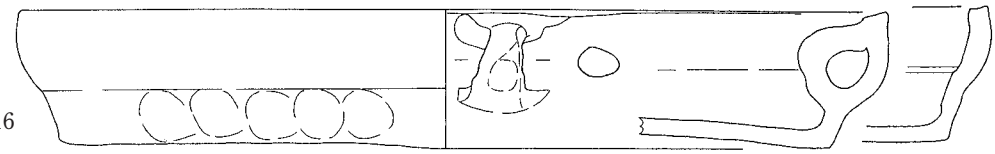
Ⅳ-b-41　44 (7-451)



Ⅳ-b-41　45 (7-452)

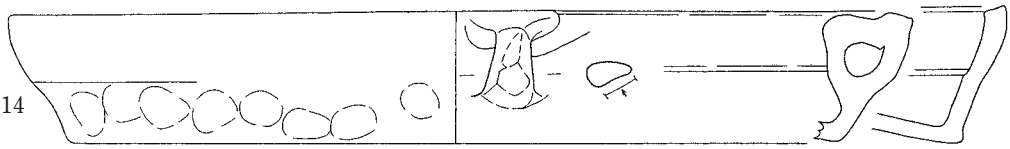
第85図　ほうろく６

騎武18次　3壙



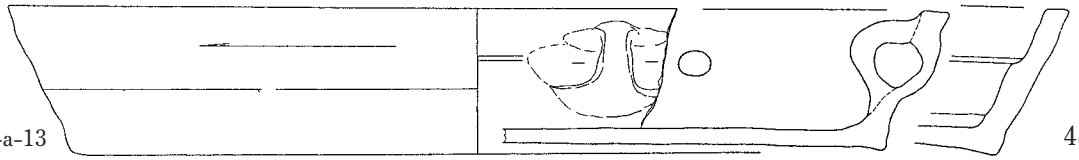
Ⅱ-a-16　46（3-18次-26）

騎武18次　1井



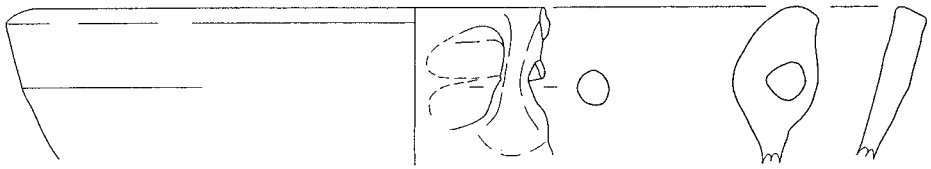
Ⅱ-a-14　47（3-18次-9）

道智氏館跡1次　No



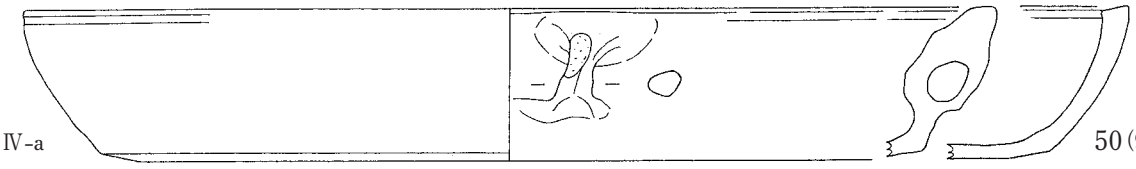
Ⅱ-a-13　48（8-150）

KB2区　34溝



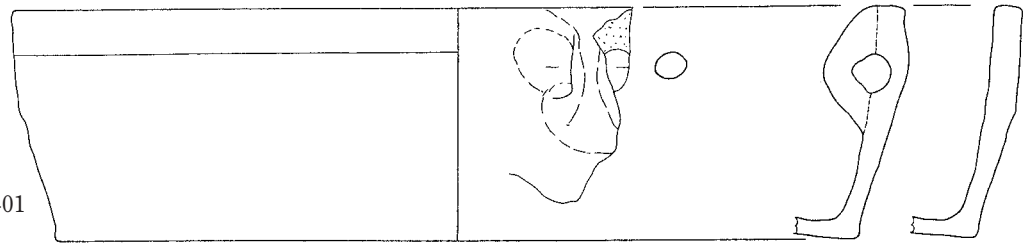
Ⅳ-a-01　49（2-560）

KB8区　14壙



Ⅳ-a　50（9-186）

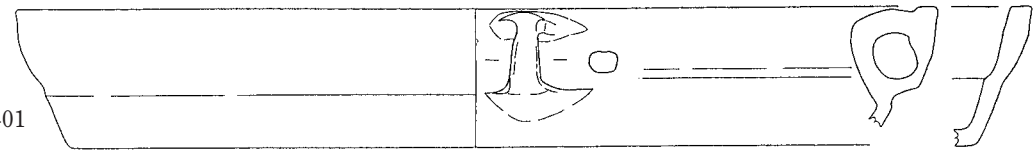
KB10区　11溝



Ⅳ-a-01　51（10-345）

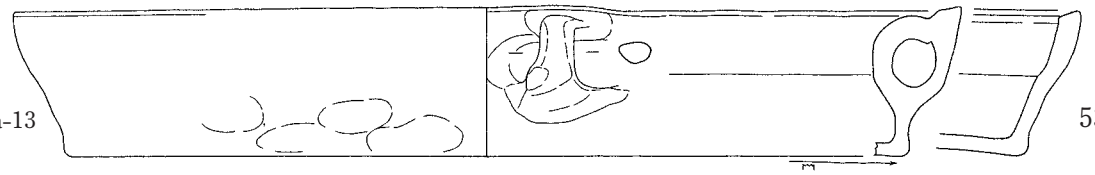
第86図　ほうろく７

KB12区　一括



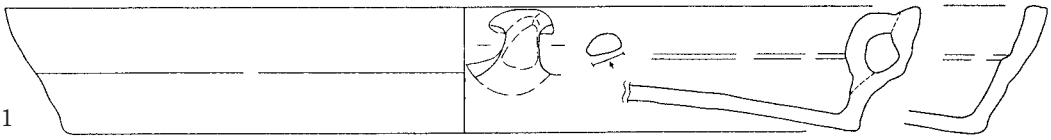
Ⅱ-a-01　52 (9-503)

KB10区　1溝



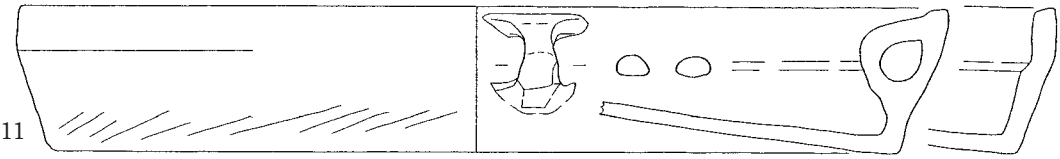
Ⅱ-a-13　53 (10-194)

騎3次　一括



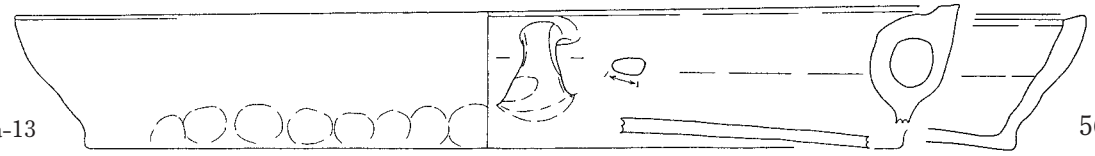
Ⅱ-a-11　54 (7-70)

KB12区　3溝



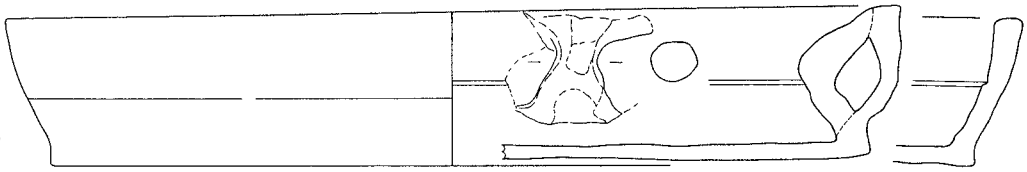
Ⅱ-a-11　55 (9-442)

KB10区　1溝



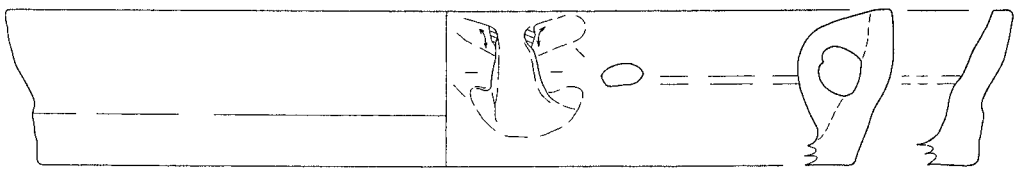
Ⅱ-a-13　56 (10-196)

KB1区　12溝



Ⅱ-a-13　57 (2-166)

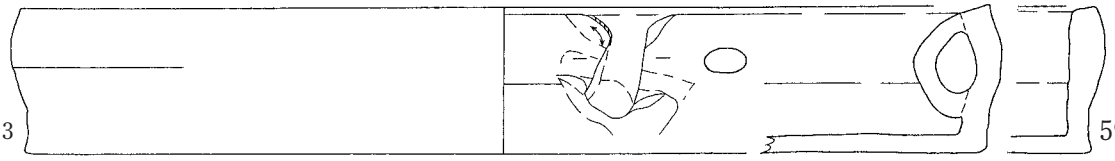
KB1区　B-4G No



Ⅱ-a-11　58 (2-439)

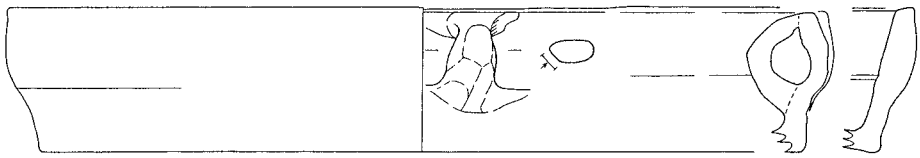
第87図　ほうろく８

KB1区　B-9G No



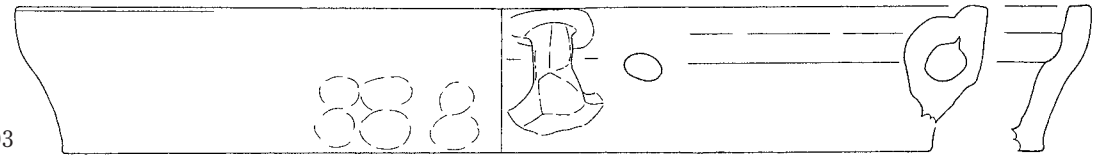
Ⅳ-a-13　59（2-446）

KB1区　A･B-8G No



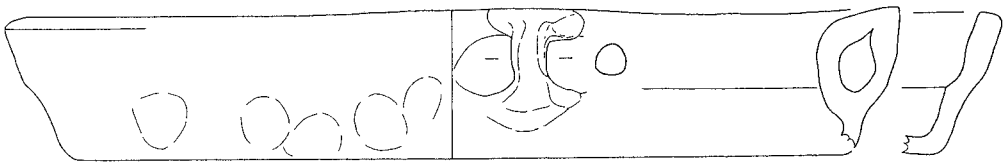
Ⅳ-a-13　60（2-458）

騎武5次　2溝



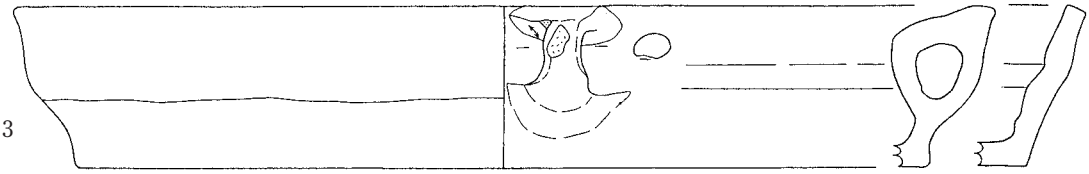
Ⅱ-a-03　61（5-97）

騎武8次　1溝



Ⅱ-a-05　62（7-75）

騎武15次　1壙

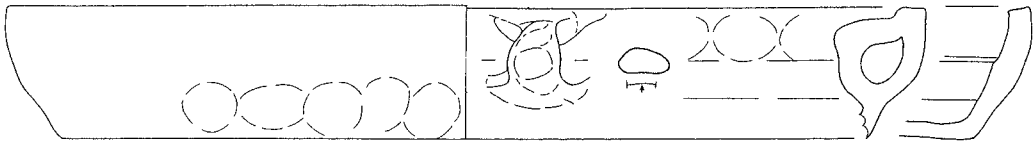


Ⅱ-a-13　63（6-517）

騎武8次　1壙

Ⅱ-a-01　64（7-81）

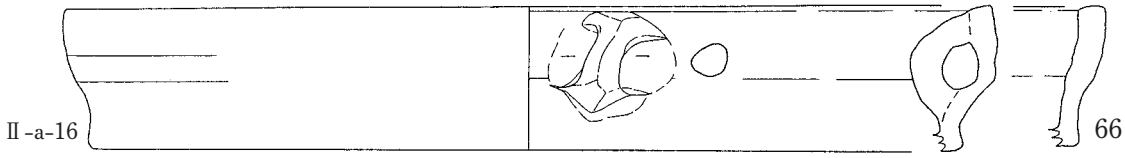
KB7区　6井



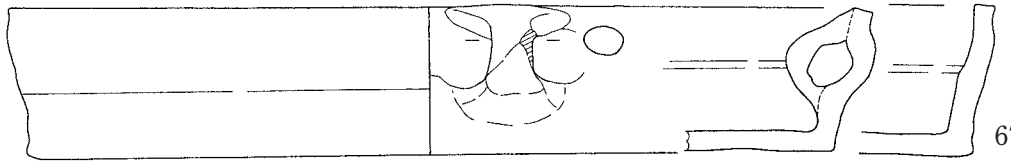
Ⅱ-a-16　65（9-37）

第88図　ほうろく 9

KB1区　12溝

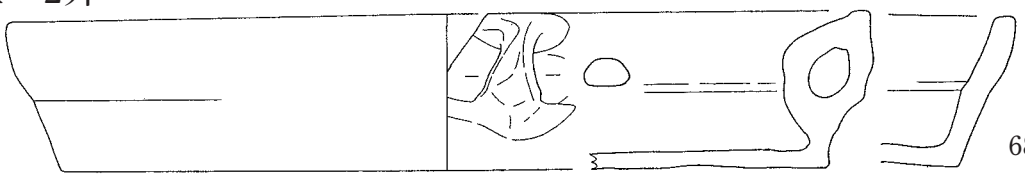


Ⅱ-a-16　66 (2-169)



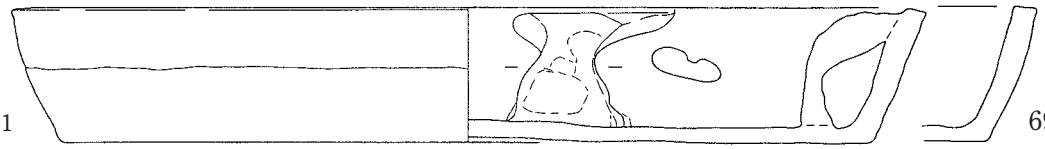
Ⅱ-a-13　67 (2-165)

KB4区　2井



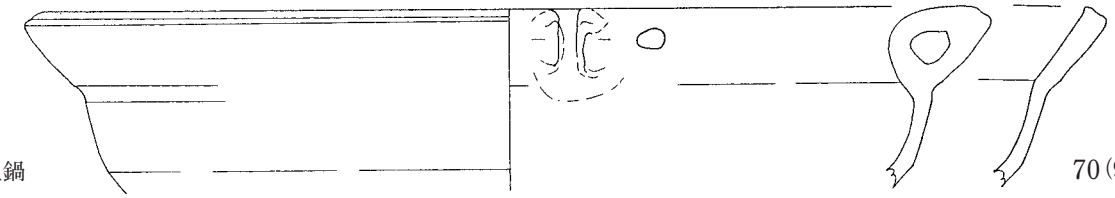
Ⅱ-a-16　68 (6-36)

KB1区　7溝



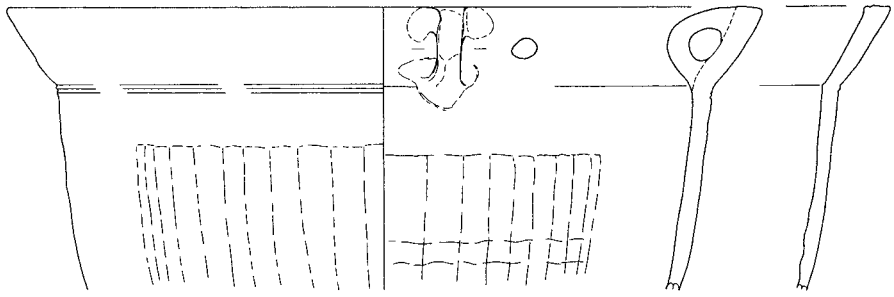
Ⅳ-b-31　69 (2-64)

KB8区　D-5G No



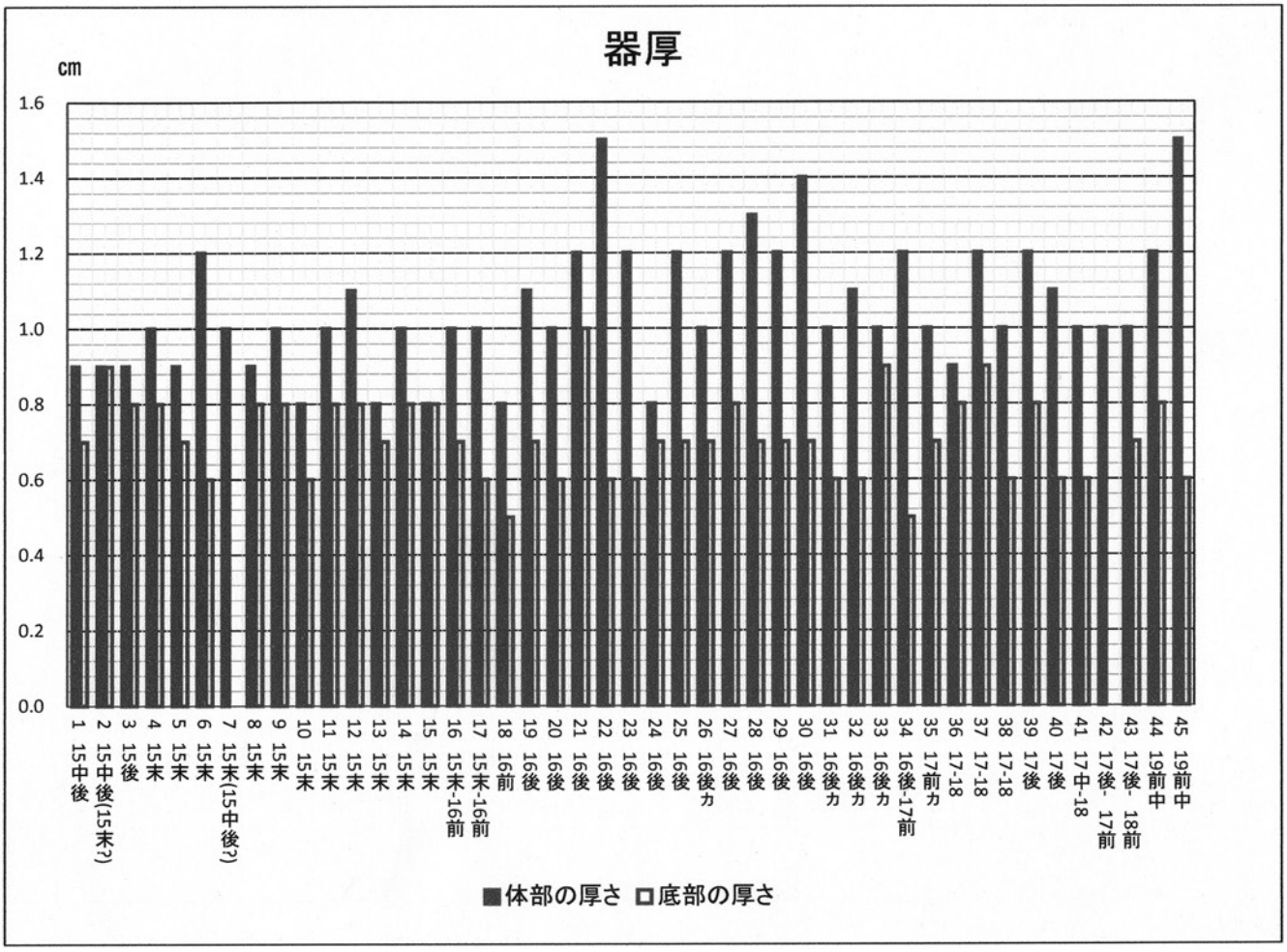
土鍋　70 (9-360)

KB10区　1溝

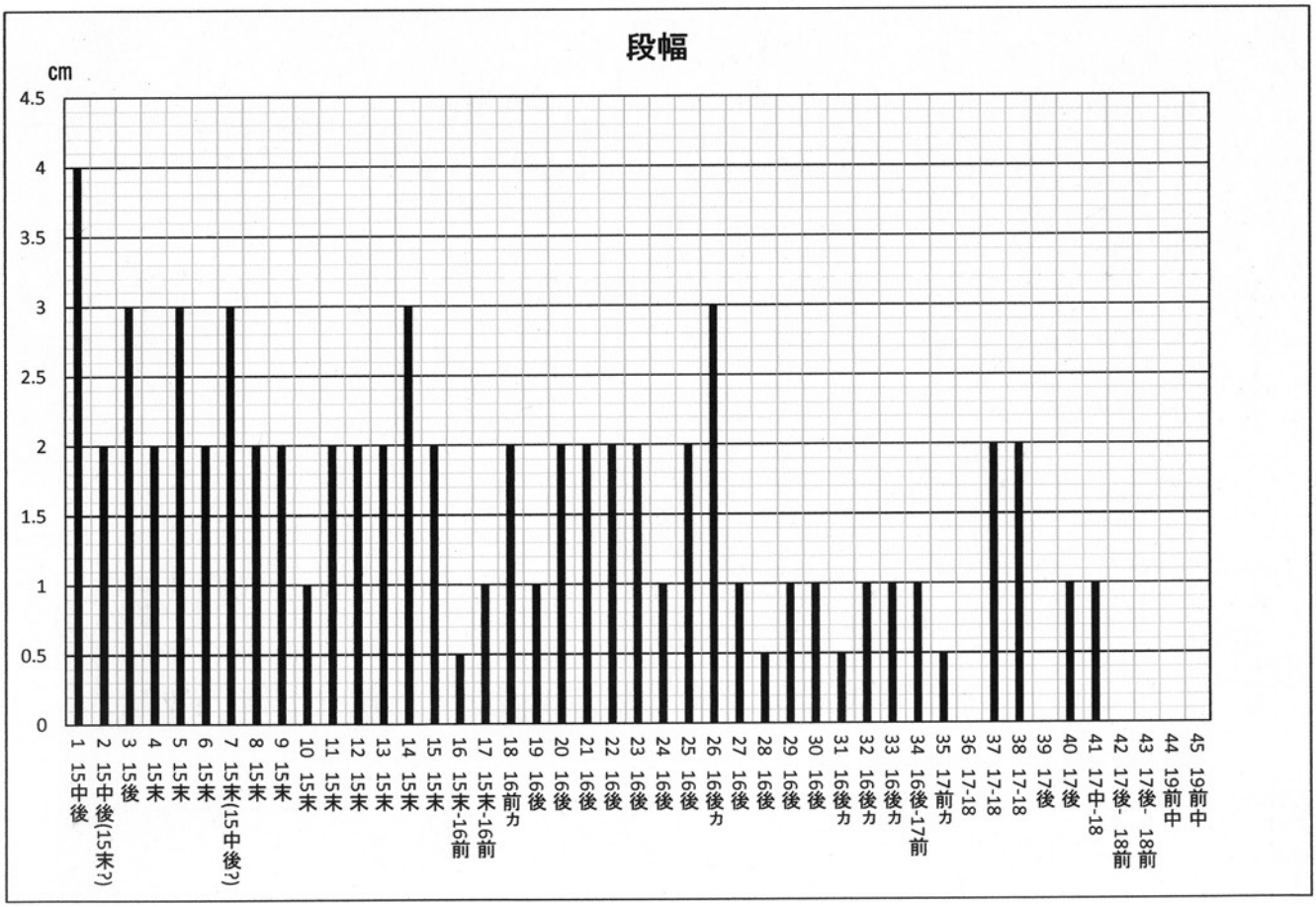


土鍋　71 (10-237)

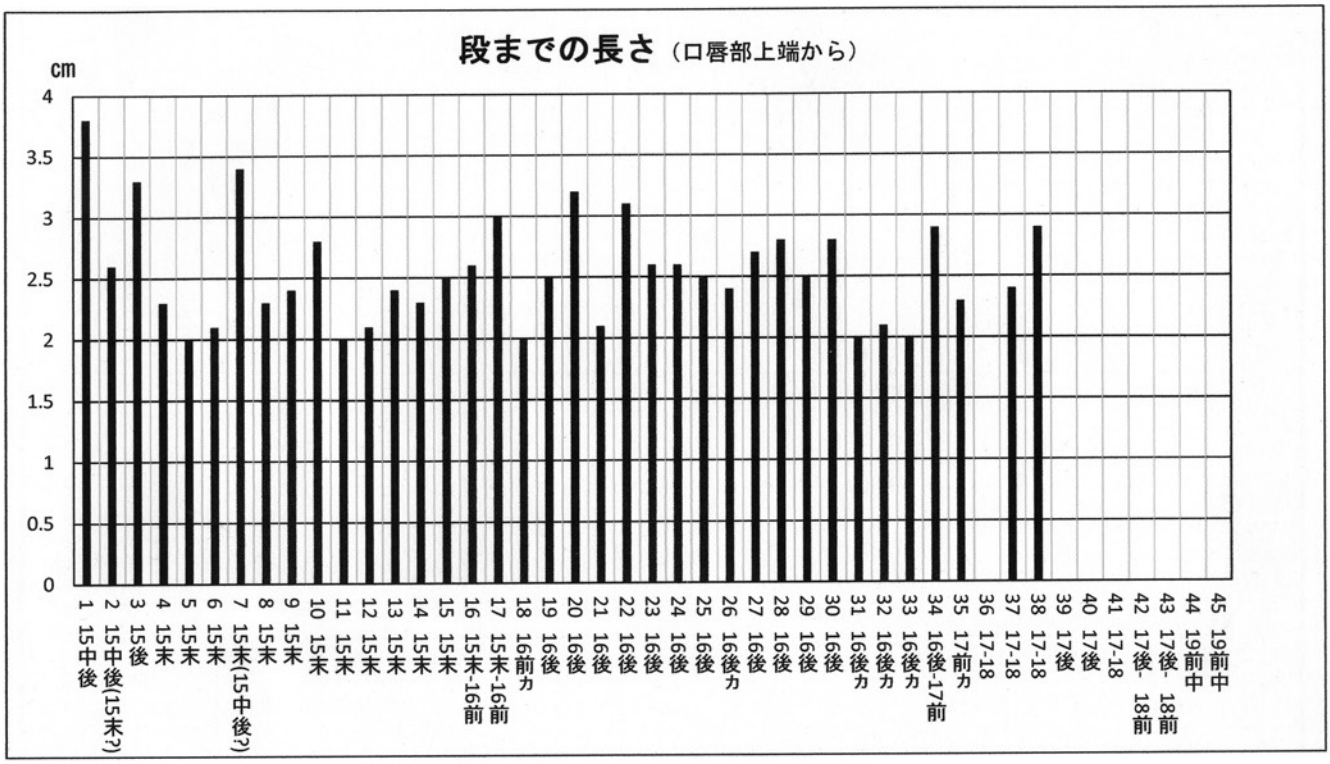
第89図　ほうろく10



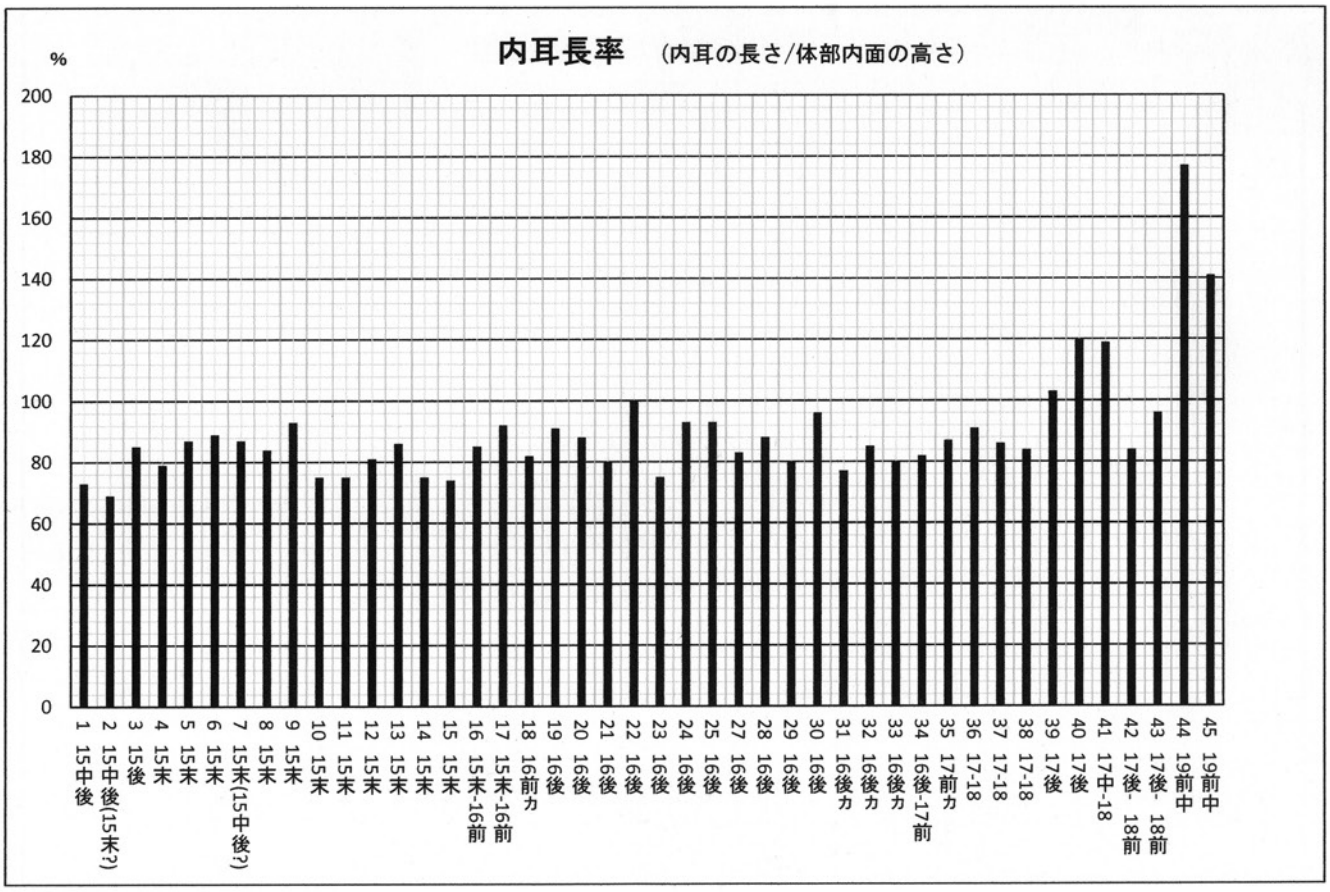
第90図　器厚の推移



第91図　段幅の推移



第92図　段までの長さの推移



第93図　内耳長率の推移

1～45:陶磁器伴出／46～48:在地土器伴出時期不明／49～51:B群／52～69:型式による時期比定／70・71:土鍋／72～91:型式的特徴を有するもの

通しNo.	分類	報告書○集	土器類No.	出土地点	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	体部							底部		内耳						胎土（含有物）														残存率%	年代/世紀(K=型式比定)	備考
								器厚(cm)	内面					外面下部整形	外面	器厚(cm)	下端貼付位置	長さ(cm)	内耳長／体部内面長	中位幅(cm)	厚さ(cm)	正面形	断面形態	小石	砂粒	角閃	黒輝	黒粒	白輝	赤褐粒	金雲母	雲母	透明粒	透明輝	白粒	石英			
									色調	長さ(cm)	段までの長さ(cm)	段幅(mm)	段形態																												
1	A-Ⅰ-a-01	10	319	KB10/04溝	36.2	30.4	6.3	0.9	明褐灰	6.0	3.8	4	角斜	―	ナデ	0.7	体部	4.4	73%	1.5	1.0	平行	円	△	○	○	△	○					△	▲	△		80	15中後	
2	A-Ⅱ-a-11	10	323	KB10/04溝	36.3	31.3	5.6	0.9	灰	5.5	2.6	2	斜	―	板状痕・帯状隆起	0.9	体部	3.8	69%	1.0	0.7	下広	扁平		○	△		○									50	15中後	内耳正面下押圧/混入ヵ15末？
3	A-Ⅰ-a-01	10	223	KB10/01溝	35.0	28.6	5.3	0.9	灰白	5.4	3.3	3	角斜	―	板・粒状痕	0.8	体部	4.6	85%	1.3	1.0	平行	円		◎							▲			△		90	15後	
4	A-Ⅱ-a-02	10	204	KB10/01溝	34.5	31.3	5.7	1.0	明褐灰	4.8	2.3	2	稜	―	板・簾状痕	0.8	体部	3.8	79%	1.2	1.0	平行	半円		○細	○	△	○	△			▲					100	15末	繊維痕/1・3・7と同じ/6と違う
5	A-Ⅱ-a-03	10	207	KB10/01溝	*35.6	32.4	5.2	0.9	褐灰	4.6	2.0	3	斜	ナデ	板・粒状痕	0.7	体部	4.0	87%	1.5	0.9	平行	楕円			△	△	○		○		▲					25	15末	内耳正面右押/口唇内凸/煤付着
6	A-Ⅱ-a-13	10	209	KB10/01溝	35.3	31.4	5.2	1.2	灰白	4.7	2.1	2	斜	―	―	0.6	体部	4.2	89%	1.2	0.9	下広	楕円			△		○		△							50	15末	内耳正面押圧
7	A-Ⅰ-a-01	10	211	KB10/01溝	*39.2	*32.0	6.0	1.0	灰	6.0	3.4	3	斜	―	―	―	体部	5.2	87%	1.5	1.5	平行	円			◎		◎							△		10	15末	1・3に似る＝混入ヵ15中後?
8	A-Ⅱ-a-11	10	212	KB10/01溝	36.0	31.6	5.3	0.9	灰白	4.5	2.3	2	斜	―	外側平滑/板状痕	0.8	体部	3.8	84%	1.2	0.8	下広	扁平			△	△	○		◎				△			100	15末	内耳正面下押圧/口唇内凸
9	A-Ⅱ-a-11	10	213	KB10/01溝	*34.0	*30.0	5.7	1.0	褐灰	4.7	2.4	2	稜	―	ナデ	0.8	体部	4.4	93%	1.3	1.3	下広	扁平	△	△	△	▲	○		○							20	15末	内耳正面下押圧/煤・黒色付着
10	A-Ⅱ-a-11	10	217	KB10/01溝	*36.0	*32.0	6.2	0.8	浅黄橙	5.9	2.8	1	稜	―	ナデ/板状痕	0.6	体部	4.4	75%	1.3	0.7	下広	扁平		◎	△	△	○				▲					15	15末	内耳正面下押圧
11	A-Ⅱ-a-11	10	218	KB10/01溝	35.4	32.0	5.4	1.0	灰白	4.8	2.0	2	斜	―	板状痕	0.8	体部	3.6	75%	1.7	1.0	下広	扁平	▲	○細	○		○	△	△							95	15末	内耳正面下押圧/口唇内凸
12	A-Ⅱ-a-12	10	219	KB10/01溝	34.8	30.4	4.9	1.1	灰白	4.4	2.1	2	斜	―	蛇ノ目状平滑/板状痕	0.8	体部	3.5	81%	1.2	1.0	下広	半扁平	▲	○細	△		○		△					△		90	15末	内耳正面下押圧
13	A-Ⅱ-a-01	10	220	KB10/01溝	34.5	31.4	5.0	0.8	灰白	4.4	2.4	2	稜	―	板状痕	0.7	体部	3.8	86%	1.2	1.0	平行	円		○細	△	△	○		△							100	15末	内耳正面下左押圧
14	A-Ⅱ-a-12	10	221	KB10/01溝	34.4	30.5	5.7	1.0	灰白	4.8	2.3	3	平	―	板状痕	0.8	体部	3.6	75%	1.5	0.8	下広	半扁平			○		○	△	△							95	15末	内耳正面押圧
15	A-Ⅱ-a-12	10	222	KB10/01溝	*36.3	*32.6	5.3	0.8	灰白	5.5	2.5	2	稜	―	―	0.8	体部	4.1	74%	1.2	1.0	下広	半扁平		◎	△		○									30	15末	内耳正面下部押圧／単独穴2
16	A-Ⅱ-a-03	07	293	騎03/01堀	37.0	33.5	5.2	1.0	浅黄橙	4.8	2.6	0.5	稜	―	―	0.7	体部	4.1	85%	1.4	1.0	平行	楕円	○	○	○	▲	○								○	95	15末-16前	4と同じ
17	A-Ⅱ-a-13	07	298	騎03/01堀	35.0	31.0	5.4	1.0	灰白	4.9	3.0	1	斜	―	―	0.6	体部	4.5	92%	1.1	0.9	下広	楕円		◎	△	▲	○									50	15末-16前	内耳正面右押圧
18	A-Ⅱ-a-14	03	037	騎武18/04壙	35.0	31.0	5.6	0.8	浅黄橙	4.9	2.0	2	斜	―	粒状痕/ケズリ	0.5	体部	4.0	82%	1.2	1.0	下広	偏楕円	△	◎	○		○		○							75	16前ヵ	内耳正面右寄押圧/口唇内凸/補修孔2、他1
19	A-Ⅱ-a-06	03	028	騎武34/05井	*36.3	*32.0	5.2	1.1	灰	5.5	2.5	1	斜	―	板状痕/工具痕	0.7	体部	5.0	91%	1.2	1.1	平行	片栗			△		○	△	○							33	16後	内耳左押圧

第23表　ほうろく一覧表１

通し No.	分類	報告書○集	土器類No.	出土地点	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	体部						底部		内耳							胎土（含有物）												残存率%	年代/世紀(K=型式比定)	備考
								器厚(cm)	内面				外面下部整形	外面	器厚(cm)	下端貼付位置	長さ(cm)	内耳長／体部内面長	中位幅(cm)	厚さ(cm)	正面形	断面形態	小石	砂粒	角閃	黒輝	黒粒	白輝	赤褐粒	金雲母	雲母	透明粒	透明輝	白粒	石英			
									色調	長さ(cm)	段までの長さ(cm)	段幅(mm)	段形態																									
20	A-Ⅱ-a-07	05	070	騎武05/01溝	*34.0	*30.0	5.8	1.0	黒	5.2	3.2	2	斜		―	0.6	体部	4.6	88%	1.4	0.9	平行	扁平					○		○			▲				16	16後	内耳左上下広/内面タール付着
21	A-Ⅱ-a-07	05	072	騎武05/01溝	*34.0	*30.2	5.4	1.2	黒	5.0	2.1	2	斜	―	―	1.0	体部	4.0	80%	1.4	0.8	平行	扁平			○	△	○		○			△		○		13	16後	内耳右湾曲/煤付着
22	A-Ⅱ-a-15	05	074	騎武05/01溝	*33.0	*30.0	6.1	1.5	暗赤灰	5.7	3.1	2	斜	―	―	0.6	体部	5.7	100%	－	0.9	下広	半楕円			△				○					○		6	16後	内耳下大きく厚い/煤付着
23	A-Ⅱ-a-07	05	182	騎武11/01溝	33.6	30.0	5.8	1.2	灰	4.8	2.6	2	斜	―	―	0.6	体部	3.6	75%	1.5	0.7	平行	扁平			○		○		○					△		60	16後	内耳平坦・内耳長4.2cmも有
24	A-Ⅱ-a-16	05	279	騎武47/06溝	*35.7	*32	5.5	0.8	暗灰	5.4	2.6	1	稜	―	―	0.7	体部	5.0	93%	1.8	1.5	下広	栗			△		○		○							18	16後	内耳正面下ナデ/左上弱い損耗痕
25	A-Ⅱ-a-03	05	280	騎武47/06溝・02井	*34.5	*32.0	6.2	1.2	灰	5.6	2.5	2	稜	―	板状痕/ヘラ整形	0.7	体部	5.2	93%	1.7	1.2	平行	楕円			△		○		△							50	16後	内耳大型
26	A-Ⅱ	06	173	KB04/48壙	*35.2	*30.0	5.8	1.0	淡橙	5.4	2.4	3	斜	―	―	0.7	―	―	0%	―	―	―	―		○	△				○							6	16後ヵ	内耳なし/底内面黒化
27	A-Ⅱ-a-16	07	174	騎武51/03壙	36.0	31.0	5.2	1.2	黒	4.8	2.7	1	稜	―	板状痕	0.8	体部	4.0	83%	1.5	1.3	下広	栗			○	△	○		△			△	◎	△		80	16後	内耳正面押圧/砂粒脱去痕
28	A-Ⅱ-a-04	10	426	KB10/27・34溝(33・34溝)	39.0	36.4	6.1	1.3	灰白	5.7	2.8	0.5	稜	―	粒・板状痕	0.7	体部	5.0	88%	1.6	0.9	平行	半楕円			△	▲	○					▲				75	16後	内耳左右上に弱い損耗痕
29	A-Ⅱ-a-05	10	428	KB10/01・02井	37.0	*34.0	6.0	1.2	黄灰	5.4	2.5	1	稜	―	―	0.7	体部	4.3	80%	1.7	1.0	平行	栗			△	△	○		△							50	16後	
30	A-Ⅱ-a-03	10	469	KB10/31井	*38.6	37.0	6.3	1.4	褐灰	5.3	2.8	1	稜	―	編物・粒・スサ状痕	0.7	体部	5.1	96%	1.8	1.1	平行	楕円		△	△	▲	○		◎							40	16後	内耳左右上に強い損耗痕/内面煤
31	A-Ⅱ-a-07	03	025	騎武33/21壙	*37.0	*32.0	4.4	1.0	浅黄橙	4.4	2.0	0.5	凹	―	板状痕	0.6	体部	3.4	77%	1.1	0.6	平行	扁平	◎		△				○					△		70	16後ヵ	20に似る/内耳正面下部押圧/口唇内凸
32	A-Ⅱ-a-01	07	299	騎03/01堀	*34.7	*30.0	5.0	1.1	灰白	4.7	2.1	1	稜	―	―	0.6	体部	4.0	85%	1.1	1.0	平行	円			○		◎						▲			25	16後ヵ	内耳正面押圧/15末ヵ
33	A-Ⅱ-a-13	07	300	騎03/01堀	34.0	32.0	5.8	1.0	灰黄褐	5.0	2.0	1	稜	―	板状痕	0.9	体部	4.0	80%	1.5	1.0	下広	楕円		◎	△	▲							△	○		60	16後ヵ	内耳正面下押圧/15末ヵ
34	A-Ⅱ-a-08	04	117	KB03/06・12溝	*33.0	*30.3	5.8	1.2	灰	5.1	2.9	1	稜	―	―	0.5	体部	4.2	82%	1.3	1.0	平行	台形			△		○		○							13	16後-17前	煤付着
35	A-Ⅱ-a-05	06	196	KB04/65壙	*37.0	*34	5.6	1.0	淡橙	4.7	2.3	0.5	稜	―	―	0.7	体部	4.1	87%	2.0	1.1	平行	栗		○	○		○		◎							75	17前ヵ	底内面黒化
36	A-Ⅱ-a-09	04	086	KB03/02溝	*35.0	*32.0	5.3	0.9	灰	4.3	―	0	凹	―	粒状痕	0.8	体部	3.9	91%	1.2	1.4	平行	菱					○		○							25	17-18	口唇外凸
37	A-Ⅱ-a-08	04	090	KB03/02溝	*34.0	*30.6	5.8	1.2	暗灰	4.6	2.4	2	凹	―	―	0.9	体部	4.0	86%	1.2	1.0	平行	台形					○		△					○		10	17-18	口唇外凸/内面焦げ付着
38	A-Ⅱ-a-22	04	088	KB03/02溝・05井	*33.2	*30.0	5.7	1.0	暗灰	5.0	2.9	2	稜	―	―	0.6	体部	4.2	84%	1.8	1.0	平行幅広	扁平					○		△					△		5	17-18	内耳左右上強い損耗痕
39	A-Ⅳ-b-31	02	069	KB01/08溝	*35.0	*31.0	6.0	1.2	灰白	5.8	―	0	―	編物状痕	―	0.8	底部	6.0	103%	2.8	1.2	鼓幅広	扁平			△		○	▲								13	17後	内耳左上強い損耗痕

第24表　ほうろく一覧表２

通し No.	分類	報告書○集	土器類 No.	出土地点	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	体部						底部		内耳						胎土（含有物）													残存率 %	年代/世紀 (K＝型式比定)	備考
								器厚 (cm)	内面 色調	内面 長さ (cm)	内面 段までの長さ (cm)	内面 段幅 (mm)	内面 段形態	外面下部整形	外面	器厚 (cm)	下端貼付位置	長さ (cm)	内耳長／体部内面長	中位幅 (cm)	厚さ (cm)	正面形	断面形態	小石	砂粒	角閃	黒輝	黒粒	白輝	赤褐粒	金雲母	雲母	透明粒	透明輝	白粒	石英			
40	A-Ⅲ-b-31	02	070	KB01/08溝	*35.6	*34.0	5.5	1.1	灰	5.0	—	1	稜（下整形）	編物状痕	編物状痕ヵ	0.6	底部	6.0	120%	2.3	1.5	鼓幅広	扁平			△	▲	○									13	17後	内耳左右上強い損耗痕
41	A-Ⅲ-b-31	02	578	KB02/37・42溝	*34.0	*30.0	5.5	1.0	暗灰	5.3	—	1	稜（下整形）	—	ヘラナデ整形	0.6	底部	6.3	119%	2.8	1.0	鼓幅広	扁平					○						○		12	17中-18	内耳左上強い損耗痕
42	A-Ⅳ-a-21	04	368	KB09/09・21溝	—	—	—	1.0	明赤褐	5.2	—	0	—	木口状工具	—	—	体部	4.4	84%	2.1	1.4	平行幅広	栗				△			○			△		○		6	17後-18前	
43	A-Ⅳ-b-31	04	416	KB09/21溝	39.0	36.0	5.7	1.0	暗灰	5.1	—	0	—	「一」字状圧痕/編物状痕	—	0.7	底部	4.9	96%	2.5	1.5	鼓幅広	扁平			△		○						▲		60	17後-18前	内耳上部空く／内耳左下押圧
44	A-Ⅳ-b-41	07	451	多賀谷氏館跡03/瓦集中	33.0	34.0	3.0	1.2	浅黄橙	2.2	—	0	—	—	—	0.8	底部	3.9	177%	1.5	1.0	鼓	半円			△		○		▲				▲		75	19前中	
45	A-Ⅳ-b-41	07	452	多賀谷氏館跡03/瓦集中	*40.0	*40.0	2.8	1.5	淡橙	2.7	—	0	—	—	—	0.6	底部	3.8	141%	1.4	1.0	鼓	半円			△		○		▲				▲		13	19前中	
46	A-Ⅱ-a-16	03	026	騎武18/03壙	*34.0	*30.0	5.4	1.0	淡橙	4.6	2.6	1	稜	—	板状痕/一部ナデ	0.7	体部	3.8	83%	1.6	1.3	下広	栗		△	○		○						△		60	16前ヵ	18に似る
47	A-Ⅱ-a-14	03	009	騎武18/01井	35.3	30	5.2	1.1	橙	4.8	2.4	2	稜	—	粒・スサ状痕/ナデ整形	0.7	体部	3.8	79%	1.7	1.3	下広	偏楕円		○	○	△	○		○						80	16前ヵ	18に似る
48	A-Ⅱ-a-13	08	150	道智氏館跡01/No.	36.8	*31.8	5.9	1.0	灰	5.0	2.7	3	斜	—	ケズリ整形	0.8	体部	3.8	76%	1.2	1.0	下広	楕円			○		◎		△						50	15末-16前	24に似る
49	B-Ⅳ-a-01	02	560	KB02/34溝	*31.8	—	—	1.0	黒褐	—	—	0	—	—	—	—	体部	5.6	0%	1.3	1.3	平行	円					○		△	◎					○	5		B群
50	B-Ⅳ-a-06	09	186	KB08/14壙	*38.0	*32.0	6.0	0.9	橙	5.4	—	0	—	—	簾状痕/条痕	0.6	体部	4.7	87%	1.0	1.1	平行	片栗		○					○	◎		◎		○		25		B群
51	B-Ⅳ-a-01	10	345	KB10/11溝・53井	*34.8	*31.2	9.1	1.3	橙	8.6	0	0	—	上部に工具痕	—	0.7	体部	5.7	66%	1.2	1.2	平行	円							○	◎		○		△		10		B群
52	A-Ⅱ-a-01	09	503	KB12/一括	*36.0	*31.6	5.5	0.9	黒	5.0	3.0	3	斜	—	—	0.7	体部	4.2	84%	1.0	1.0	平行	円		○			△		○				△		6	K15ヵ	内耳幅狭
53	A-Ⅱ-a-13	10	194	KB10/01溝	*37.0	*33.0	5.7	0.7	灰	5.4	2.3	2	稜	ナデ	板状痕/ナデ	0.7	体部	3.8	70%	1.3	0.9	下広	楕円			△		○								13	K15末-16前	56に似る
54	A-Ⅱ-a-11	07	070	騎03/一括	35.8	31.2	5.0	0.8	灰・橙	4.6	2.3	2	斜	—	粒・板状痕	0.6	体部	3.5	0%	1.3	1.0	下広	扁平		○	○		○	△	△				○		90	K15末-16前	
55	A-Ⅱ-a-11	09	442	KB12/03溝	37.0	34.0	5.8	1.3	橙	5.2	2.2	3	斜	工具整形	ナデ	0.8	体部	4.2	81%	1.2	1.0	下広	扁平				△	○		◎		▲				80	K15末-16前	10・16・17に似る/内耳断面形他2か所より/内耳左上弱い損耗痕
56	A-Ⅱ-a-13	10	196	KB10/01溝	37.0	*31.5	5.5	0.8	灰	5.3	2.7	1	稜	ナデ	板状痕/ナデ	0.5	体部	4.0	75%	1.3	0.8	下広	楕円			▲		○								20	K15末-16前	53に似る同一ヵ
57	A-Ⅱ-a-13	02	166	KB01/12溝	*35.1	*32.0	6.2	0.8	灰	4.9	2.5	1	沈線	—	ナデ	0.5	体部	4.7	96%	1.9	1.8	下広	楕円	▲				○					▲			30	K16後	
58	A-Ⅱ-a-11	02	439	KB01/B-4GNo.	*34.7	*32.0	6.1	1.6	暗灰	5.8	3.4	1	斜	—	粒状痕	1.0	体部	5.3	91%	1.7	0.9	下広	扁平			△		○			▲		▲			10	K16後	内耳左右上強い損耗痕

第25表　ほうろく一覧表３

通し No.	分類	報告書○集	土器類No.	出土地点	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	体部						底部		内耳							胎土（含有物）												残存率%	年代/世紀(K=型式比定)	備考
								器厚(cm)	内面				外面下部整形	外面	器厚(cm)	下端貼付位置	長さ(cm)	内耳長／体部内面長	中位幅(cm)	厚さ(cm)	正面形	断面形態	小石	砂粒	角閃	黒輝	黒粒	白輝	赤褐粒	金雲母	雲母	透明粒	透明輝	白粒	石英			
									色調	長さ(cm)	段までの長さ(cm)	段幅(mm)	段形態																									
59	A-Ⅳ-a-13	02	446	KB01/B-9GNo.	*38.0	*37.6	5.8	1.4	灰	4.8	2.7	0	沈線	―	粒状痕	0.7	体部	4.3	90%	1.7	1.2	下広	楕円			△		○			○						6	K16後	内耳左弱い損耗痕
60	A-Ⅳ-a-13	02	458	KB01/A・B-8GNo.	*32.0	*30.0	5.7	1.2	暗灰	4.6	2.7	0	沈線	―	―	0.8	体部	4.3	93%	1.8	1.0	下広	楕円			△	△	○		▲						5	K16後	18・59に似る/内耳右上強い損耗痕
61	A-Ⅱ-a-03	05	097	騎武05/2溝	38.0	*34.0	5.7	1.2	褐灰	5.0	2.5	4	凹	―	―	―	体部	4.2	84%	1.5	1.0	平行	楕円		○	△		○		○					○		30	K16後	21・22に似る/報告時4壙
62	A-Ⅱ-a-05	07	075	騎武08/01溝・01壙	*35.0	*30.0	5.6	1.0	灰	5.0	3.2	5	稜	―	板状痕	0.7	体部	4.6	92%	1.1	1.1	平行	栗			○	△	○		○			△			25	K16後	20・21に似る
63	A-Ⅱ-a-13	06	517	騎武15/01壙	*38.3	*33.2	6.3	1.2	にぶい橙	5.8	3.4	3	斜	―	板状痕	0.8	体部	5.0	86%	1.5	1.0	下広	楕円		○	○	△	○		◎			○				13	K16後カ	内耳左上弱い損耗痕
64	A-Ⅱ-a-01	07	081	騎武08/01壙	*34.0	*30.0	5.7	1.1	にぶい黄橙	5.2	3.4	3	斜	―	―	0.8	体部	4.3	83%	1.1	1.5	平行	円			○		○		△							10	K16後カ	
65	A-Ⅱ-a-16	09	037	KB07/06井	*36.0	*31.5	5.2	1.2	灰白	4.6	2.3	2	稜	―	―	0.7	体部	4.0	87%	1.8	1.1	下広	栗			○	▲	◎		○							10	K16後カ	
66	A-Ⅱ-a-17	02	169	KB01/12溝	*36.4	*34.0	5.7	1.2	暗灰	5.0	2.7	1	斜	―	―	0.7	体部	4.6	92%	1.4	1.4	下広	片栗				△	○									5	K17カ	
67	A-Ⅱ-a-13	02	165	KB01/12溝	34.0	31.7	6.0	1.0	褐灰	5.0	2.8	1	稜	―	―	0.8	体部	4.5	90%	1.6	1.2	下広	楕円			△	▲	○			△						―	K17カ	内耳右弱い損耗痕
68	A-Ⅱ-a-16	06	036	KB04/02井	*34.0	*30.0	6.1	1.4	にぶい黄橙	5.7	3.1	2	斜	―	編物・粒・板状痕	0.8	体部	5.2	91%	1.2	1.3	下広	栗		○	△		○		○					△		25	K17カ	工具痕
69	A-Ⅳ-b-31	02	064	KB01/07溝	*35.8	*31.8	5.3	1.1	灰白	5.3	―	0	―	編物状痕	ケズリ	0.6	底部	6.1	115%	3.0	1.2	鼓幅広	扁平			○	△										6	K17後カ	
70	土鍋	09	360	KB08/D-5GNo.	*38.0	―	―	0.7	浅黄橙	7.0	3.8	0	―	―	―	―	体部	4.3	0%	1.2	0.9	平行	楕円		○	△		○		△					△		―		土鍋／底辺部ヘラナデ/煤付着
71	土鍋	10	237	KB01/01溝	*29.6	―	―	0.6	灰	―	3.6	1	―	ナデ	―	―	口縁部	3.5	―	1.1	0.8	平行	楕円				○	○						○	○		―		土鍋
72	A-Ⅳ	02	177	KB01/12溝	*36.0	*32.0	5.5	1.0	灰	5.1	0	0	―	―	板状痕	0.8	―	―	0%	―	―	―	―				△	△		△							5		底辺部ヘラナデ/煤付着
73	A-Ⅱ	02	527	KB02/25溝	*34.0	*30.8	4.9	1.2	灰	4.3	2.5	3	平	―	―	0.7	―	―	0%	―	―	―	―				△		○	○					△		6		
74	A	04	178	KB03/07井	*33.8	*30.0	6.1	1.2	灰	―	―	―	―	―	―	―	体部	5.0	0%	1.6	1.3	平行	楕円					○		◎								K17カ	煤付着
75	A-Ⅳ	04	452	KB09/16壙	*38.0	*34.0	5.5	1.0	暗灰	5.1	―	0	―	編物状痕	編物状痕	0.7	―	―	0%	―	―	―	―				○		○								20		
76	A-Ⅳ	04	453	KB09/16壙	*36.0	*32.0	5.3	1.0	灰	5.0	―	0	―	編物状痕	―	0.6	―	―	0%	―	―	―	―				○	△	○						△		13		
77	A-Ⅱ-a-13	05	246	騎武46/1T	*36.0	*32.0	6.1	1.0	にぶい橙	4.8	2.3	5	斜	―	ケズリ	0.7	体部	3.7	77%	1.1	0.8	下広	楕円		○	△		○		○							40		
78	A-Ⅳ-	05	285	騎武47/06溝	*34.0	*27.5	9.4	1.2	橙	8.7	0	0	―	―	―	0.8	体部	―	0%	―	―	―	―	△	○						◎		△		△	○	13		
79	A-Ⅱ	05	443	騎武55/一括	*33.0	*30.0	6.0	1.3	灰	5.6	3.0	2	斜	―	―	0.7	―	―	0%	―	―	―	―				△		○						○		5		
80	A-Ⅱ-a-14	06	025	KB04/05溝・62壙	*36.0	*32.0	5.1	1.0	暗灰	4.6	3.6	1.0	稜	―	―	0.8	体部	3.6	0%	1.6	1.2	下広	偏楕円			○	△	◎		○			△						
81	A-Ⅱ	07	083	騎武08/07壙	*36.4	*34.0	5.8	1.1	灰	4.9	2.6	2	凹	―	ナデ	0.8	―	―	0%	―	―	―	―			○	△	○		△							6		
82	A-Ⅱ	07	294	騎03/01堀	*35.0	*31.0	4.8	1.0	灰	4.5	2.1	1	稜	―	木口状工具痕	0.9	―	―	0%	―	―	―	―				▲	△				△			△		40		
83	A-Ⅱ-a	08	055	種01/No.	*37.0	*33.0	5.8	0.7	浅黄橙	5.2	2.7	0.05	稜	―	板状痕/ケズリカ	0.6	体部	3.9	75%	1.3	0.8	平行	長方形		◎	△				△					○		6	K19前中	
84		08	057	種01/No.	*34.0	*29.8	6.0	0.8	褐灰	5.0	2.4	1.0	強稜	―	板状痕/ナデ	0.7	―	―	0%	―	―	―	―			○	△		○		○						―		

第26表　ほうろく一覧表４

通しNo.	分類	報告書○集	土器類No.	出土地点	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	体部							底部		内耳							胎土（含有物）																	残存率%	年代/世紀(K＝型式比定)	備考
								器厚(cm)	内面					外面下部整形	外面	器厚(cm)	下端貼付位置	長さ(cm)	内耳長部／体面長	中位幅(cm)	厚さ(cm)	正面形	断面形態	小石	砂粒	角閃	黒輝	黒粒	白輝	赤褐粒	金雲母	雲母	透明粒	透明輝	白粒	石英			
									色調	長さ(cm)	段までの長さ(cm)	段幅(mm)	段形態																															
85	A-Ⅱ	10	199	KB10/01溝	*35.5	*32.0	5.1	1.0	灰	4.5	2.2	1	稜	ー	編物・粒・板状痕	0.8	体部	4.2	93%	ー	ー	ー	ー			△		○		△					△		ー		
86	A-Ⅰ	10	200	KB10/01溝	*39.0	*30.4	6.2	1.0	暗赤褐	6.7	4.1	4	斜	ヘラナデ2段	板状痕	0.7	ー	ー	0%	ー	ー	ー	ー	○	○					△	▲		▲		○		ー		ほうろく初期ヵ
87	A-Ⅳ	10	208	KB10/01溝	*35.0	*32.0	5.0	1.0	灰	4.4	0	0	ー	ー	ー	0.6	ー	ー	0%	ー	ー	ー	ー		○			○									5		煤付着
88	A-Ⅱ	10	210	KB10/01溝	*34.0	*29.0	4.6	0.9	灰	4.4	ー	0	不明瞭	ー	ー	0.7	ー	ー	0%	ー	ー	ー	ー			△											13		
89	A-Ⅱ	10	215	KB10/01溝	*39.0	*34.0	5.7	0.8	灰	5.3	2.5	2	斜	ー	擦痕	0.8	ー	ー	0%	ー	ー	ー	ー			△	△	○		△		▲			△		14		
90	A-Ⅱ	10	216	KB10/01溝	*34.0	ー	ー	1.0	灰	4.2	2.2	1	角斜	ー	ー	ー	ー	ー	0%	ー	ー	ー	ー		○	▲											7		
91	A-Ⅱ	10	322	KB10/04溝	*32.0	*28.2	5.3	1.1	褐灰	4.3	1.8	1	斜	ー	ナデ	0.9	ー	ー	0%	ー	ー	ー	ー		○	△	▲	○		△							10		

第27表　ほうろく一覧表５

		●存在		○混入？											
		15中後	15後	15末	15末－16前	16前カ	16後	16後カ	16後－17前	17前カ	17中－18	17後	17後－18前	17－18	19前中
01	平行／円	●	●	●				●							
02	平行／半円			●											
03	平行／楕円			●	●		●								
04	平行／半楕円						●								
05	平行／栗						●			●				●	
06	平行／片栗						●								
07	平行／扁平						●	●							
08	平行／台形								●					●	
09	平行／菱形													●	
11	下広／扁平	○2		●											
12	下広／半扁平			●											
13	下広／楕円			●	●			●							
14	下広／偏楕円					●									
15	下広／半楕円						●								
16	下広／栗						●								
21	平行幅広／栗												●		
22	平行幅広／扁平													●	
31	鼓幅広／扁平										●	●	●		
41	鼓／半円														●

第28表　内耳の正面形と断面形の消長

	●存在		○混入？												
	15中後	15後	15末	15末－16前	16前カ	16後	16後カ	16後－17前	17前カ	17前－18	17後	17後－18前	17中－18	17－18	19前中
角斜	●	●				●									
平			●												
斜	○2		●	●	●	●									
稜（上整形）			●	●		●	●	●	●					●	
凹							●			●				●	
稜（下整形）											●		●		
段なし											●	●			●

第29表　段の形態の消長

参考文献

安芸毬子・大成可乃・大貫浩子・坂野貞子・成瀬晃司・堀内秀樹　1999　東京大学構内遺跡出土陶磁器・土器の分類（1）　『東京大学構内遺跡調査研究年報』２　別冊

永越信吾　2006　「葛飾区域の焙烙」『江戸在地系土器の研究』Ⅵ

大成可乃　2011　「東京大学構内遺跡出土陶磁器・土器の分類（2）」　東京大学埋蔵文化財調査室研究紀要７『東京大学構内遺跡調査研究年報』７

浅野晴樹　1991　「東国における中世在地系土器について－主に関東を中心に－」『国立歴史民俗博物館研究報告』第31集

1992　「関東における模倣品としての在地土器」『貿易陶磁12』

大橋康二　1984　「肥前陶磁の変遷と出土分布」『国内出土の肥前陶磁』佐賀県立九州陶磁文化館

小野正敏　1982　「15、16世紀の染付碗、皿の分類とその年代」『貿易陶磁研究』№２貿易陶磁研究会

笹間良彦　1981　『図録　日本の甲冑武具事典』柏書房

九州近世陶磁学会　2000　『九州陶磁の編年』　九州陶磁学会

田中　信　1996　「川越市内出土の中世土師器について－特に河越館跡および周辺出土を中心に－」『川越市埋蔵文化財調査報告書（XI）』川越市教育委員会

2005　「山内上杉氏の土器（かわらけ）とは」『戦国の城』高志書院

2005　「出土遺物からみた山内上杉（越後上杉氏）の城・陣所」『シンポジウム　埼玉の戦国時代検証　比企の城』資料集　史跡を活用した体験と学習の拠点形成事業実行委員会

2010　「葛西城と扇谷上杉氏のかわらけ」『葛西城と古河公方足利義氏』雄山閣

中野晴久　1994　「生産地における編年について」『全国シンポジウム中世常滑焼をおって』資料集

2005　「常滑・渥美窯」『陶磁器から見る静岡県の中世社会』菊川城館遺跡国指定記念シンポジウム資料集

成瀬晃司　1997　「江戸遺跡出土資料による磁器碗・皿の変遷－文様、銘款を中心に－」東京大学埋蔵文化財調査室研究紀要１『東京大学構内遺跡調査研究年報』１

服部実喜　2008　「かわらけから見た北条氏の権力構造」『中世東国の世界３　戦国大名北条氏』

藤澤良祐　1987　「本業焼の研究（1）」『研究紀要Ⅵ』瀬戸市歴史民俗資料館

1988　「本業焼の研究（2）」『研究紀要Ⅶ』瀬戸市歴史民俗資料館

1989　「本業焼の研究（3）」『研究紀要Ⅷ』瀬戸市歴史民俗資料館

2002　「瀬戸・美濃大窯の再検討」『財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要』第10輯

2008　『中世瀬戸窯の編年』

堀内秀樹　1997　「東京大学本郷構内の遺跡における年代的考察」東京大学埋蔵文化財調査室研究紀要１『東京大学構内遺跡調査研究年報』１

両角まり　1996　「内耳鍋から焙烙へ」『考古学研究』第42巻４号

横田賢次郎・森田　勉　1978　「大宰府出土の輸入中国陶磁器について」『九州歴史資料館研究論集』４

引用・参照文献

塩野博編　2001　『騎西町史』考古資料編１　騎西町教育委員会

塩野博編　1999　『騎西町史』考古資料編２　騎西町教育委員会

塩野博編　2005　『騎西町史』通史編　騎西町教育委員会

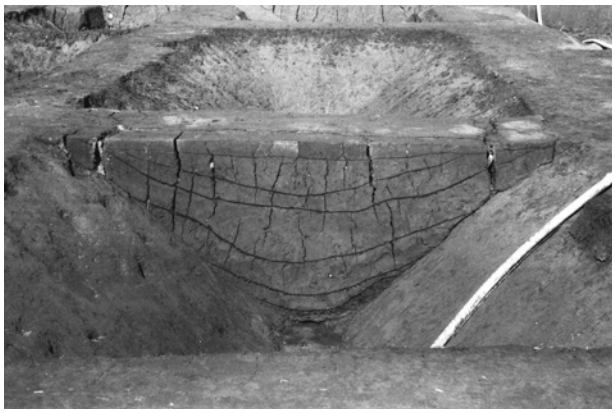
島村範久ほか　1997　『騎西武家屋敷跡城　妙光寺第１・２次発掘調査報告書』騎西町遺跡調査会報告書第２集
島村範久　2005　「騎西（私市）城跡」『シンポジウム　埼玉の戦国時代　検証　比企の城』資料集　史跡を活用した体験と学習の拠点形成事業実行委員会
2005　「騎西（私市）城跡」『戦国の城』
2009　『騎西城武家屋敷跡　第40次発掘調査報告書』騎西町遺跡調査会報告書第６集
嶋村英之　2011　『騎西城武家屋敷跡　第17・28・35・36・39・41・43次調査』加須市埋蔵文化財調査報告書第１集　加須市教育委員会
2012　『騎西城武家屋敷跡第13・18・25・32・33・34・38・49次調査　騎西城跡第９・10次調査』加須市埋蔵文化財調査報告書第３集　加須市教育委員会
2018　『騎西城武家屋敷跡　ＫＢ10区調査－中近世編－　遺物２　遺構』加須市埋蔵文化財調査報告書第11集　加須市教育委員会
嶋村英之・嶋村薫
2013　『騎西城武家屋敷跡第４～６・10～12・46・47・53～56次調査』加須市埋蔵文化財調査報告書第５集　加須市教育委員会
2013　『騎西城武家屋敷跡　ＫＢ４・５区　第15・26次調査－中近世編－』加須市埋蔵文化財調査報告書第６集　加須市教育委員会
2014　『騎西城武家屋敷跡第２・３・８・９・50・51次調査　騎西城跡第３・12・14・15次調査　多賀谷氏館跡第１～３次調査』加須市埋蔵文化財調査報告書第７集　加須市教育委員会
2015　『萩原遺跡第１・４・５次　中郷遺跡第１次　五番遺跡第３・４次　種垂城跡第１～５次　道智氏館跡第１次調査』加須市埋蔵文化財調査報告書第８集　加須市教育委員会
2016　『騎西城武家屋敷跡　ＫＢ７・８・11・12区　第16・23次調査－中近世編－』加須市埋蔵文化財調査報告書第９集　加須市教育委員会
2017　『騎西城武家屋敷跡　ＫＢ10区調査－中近世編－　遺物１』加須市埋蔵文化財調査報告書第10集　加須市教育委員会
2018　『騎西城武家屋敷跡　ＫＢ10区調査－中近世編－　遺物２　遺構』加須市埋蔵文化財調査報告書第11集　加須市教育委員会
嶋村英之・島村範久・嶋村薫
2011　『騎西城武家屋敷跡　ＫＢ大英寺・１・２区調査－中近世編－』加須市埋蔵文化財調査報告書第２集　加須市教育委員会
2012　『騎西城武家屋敷跡　ＫＢ３・６・９区　第19・20・21・29次調査－中近世編－』加須市埋蔵文化財調査報告書第４集　加須市教育委員会

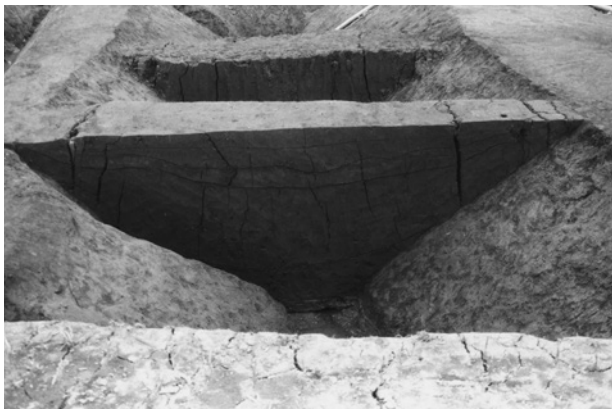
	年代蓋然性高い	年代幅あり／型式による比定(K○)
15C	Ⅰ-a-01 15中後 1(10-319) Ⅰ-a-01 15後 3(10-223) Ⅱ-a-02 15末 4(10-204) Ⅱ-a-13 15末 6(10-209) Ⅱ-a-11 15末 11(10-218) Ⅱ-a-01 15末 13(10-220) Ⅱ-a-12 15末 14(10-221)	Ⅱ-a-01 K15 52(9-503)
16C	Ⅱ-a-07 16後 23(5-182) Ⅱ-a-03 16後 25(5-280) Ⅱ-a-16 16後 27(7-174) Ⅱ-a-04 16後 28(10-426) Ⅱ-a-05 16後 29(10-428)	Ⅱ-a-14 16前ヵ 18(3-18次-37) Ⅱ-a-13 K16後 57(2-166) Ⅱ-a-11 K16後 58(2-439) Ⅳ-a-13 K16後 59(2-446)
17C	Ⅳ-b-31 17後 39(2-69) Ⅲ-b-31 17後 40(2-70)	Ⅱ-a-05 17前ヵ 35(6-196) Ⅱ-a-09 17-18 36(4-86) Ⅱ-a-08 17-18 37(4-90) Ⅱ-a-07 17-18 38(4-88) Ⅲ-b-31 17中-18前 41(2-578) Ⅳ-b-31 17後-18前 43(4-416)
18C		
19C	Ⅳ-b-41 19前中 44(7-451) Ⅳ-b-41 19前中 45(7-452)	

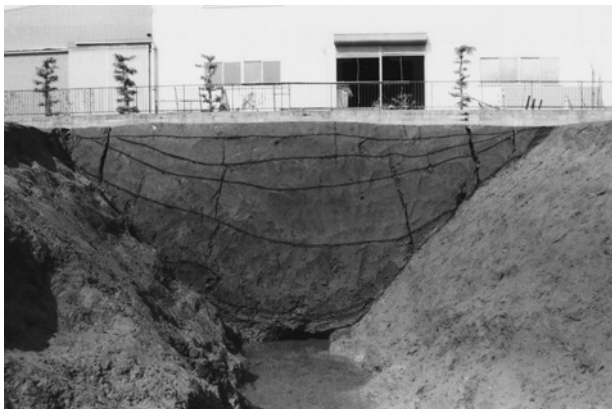
第94図　ほうろく変遷図

図　　版

4 号堀　土層堆積（D ライン）


7 号堀　土層堆積（C ライン）


8 号堀　土層堆積（B ライン　東から）


9 b 号堀　土層堆積（図不掲載）

9 b 号堀　畝状遺構　東

9 b 号堀　畝状遺構　中央

9 a・9 b 号堀　畝状遺構（北から）

9 a・9 b 号堀　畝状遺構（東から）

27号堀　完掘（東から）

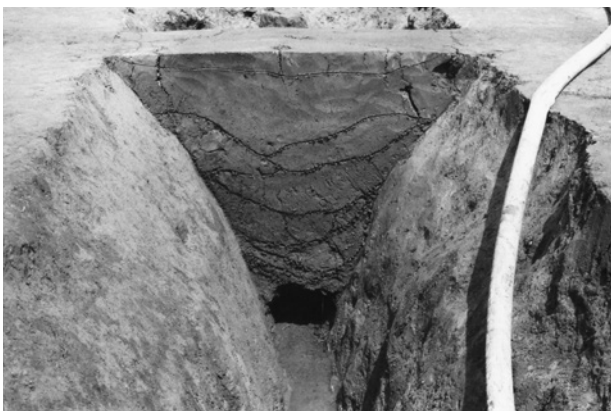
30・31号堀　完掘（東から）

32・33号堀　完掘（東から）

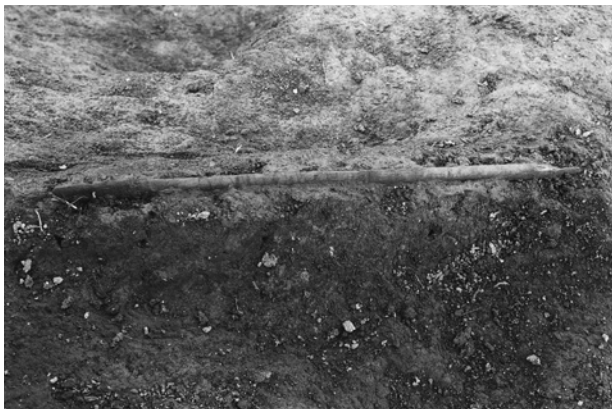
34号堀　土層堆積（B ライン）

39号堀　土層堆積（B ライン　西から）

40号堀　土層堆積（B ライン）


42b 号堀　土層堆積（C ライン）

1 ・ 2 号溝　47号堀　土層堆積（D ライン）



4 号堀　竹（未図化）

4 号堀　板材（未図化）

4 号堀　木片（未図化）

4 号堀　竹タガ（未図化）

9 号堀　香炉（土－36）

13号堀　天目茶碗（土－39）

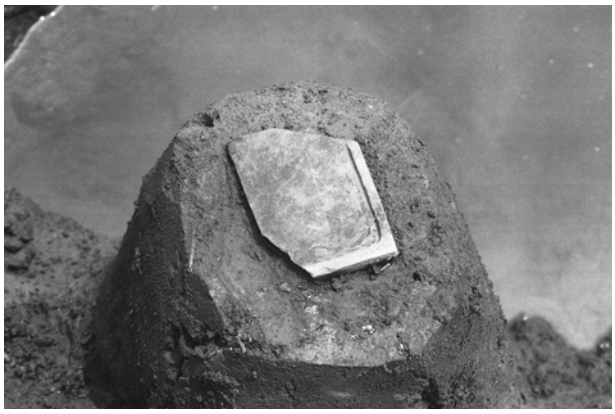
34号堀　かわらけ（土－60）

39号堀　鼠志野鉢（土－64）

39号堀　中国染付皿（土－65）

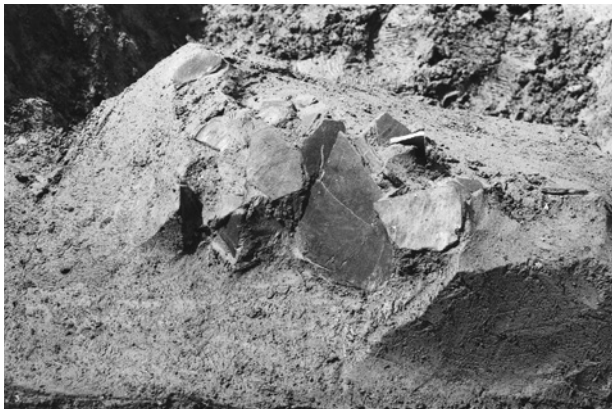
39号堀　かわらけ（土－66）

42b 号堀　板材（未図化）



42b 号堀　硯（石－28）

44号堀　在地擂鉢（土－72）



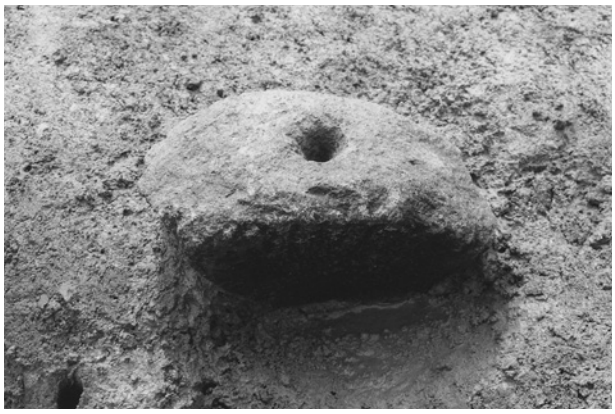
45号堀　ほうろく（土－74）

47号堀上位・1 号溝　遺物出土

48号堀　目貫（金－43）

48号堀　かわらけ（土－92）

48号堀　天目茶碗（土－88）下と接合


48号堀　粉挽臼（石－８）

48号堀　かわらけ（土－91）・天目茶碗（土－88）

52号堀　かわらけ（土－121）

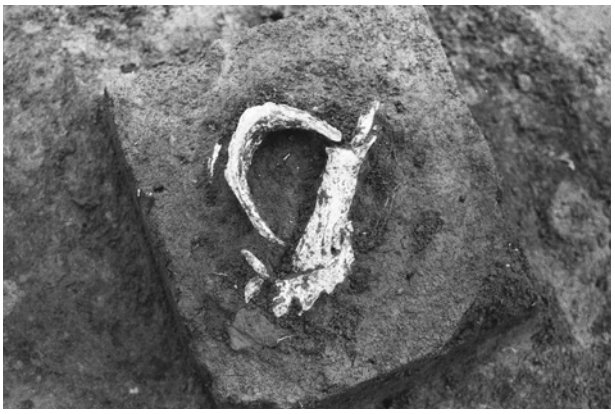
50号堀　志戸呂丸皿（土－115）下と接合

１号溝　かわらけ（土－134）

１号溝　志戸呂丸皿（土－115）

5 号溝　中国染付碗（土－140）

7 号溝　かわらけ（土－147）



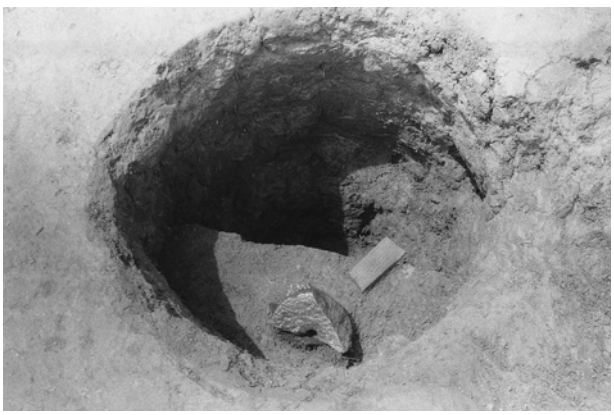
5 号溝　貝（未図化）

6 ・ 7 号溝　遺物出土

10号溝　貝（未図化）

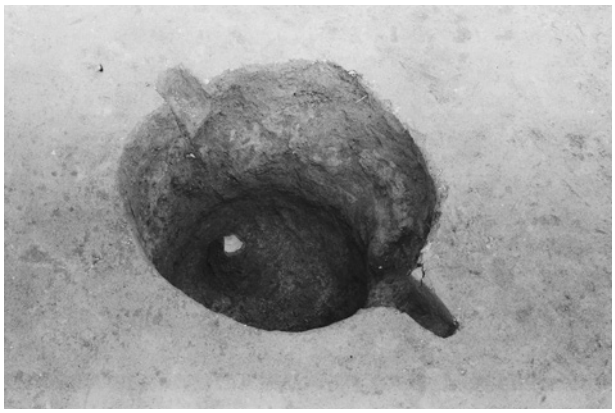
10号溝　貝（未図化）

1 号井戸　茶臼（石－21）右と接合



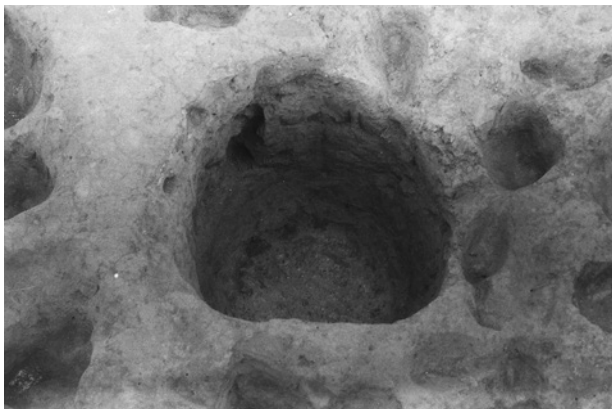
1 号井戸　茶臼（石－21）

2 号井戸　板碑（石－156）



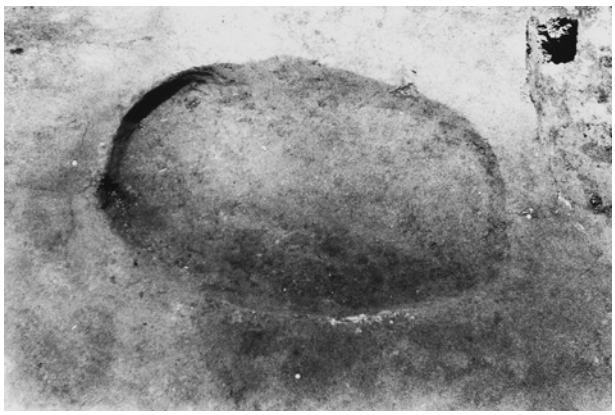
7 号井戸　遺物出土

8 号井戸　完掘

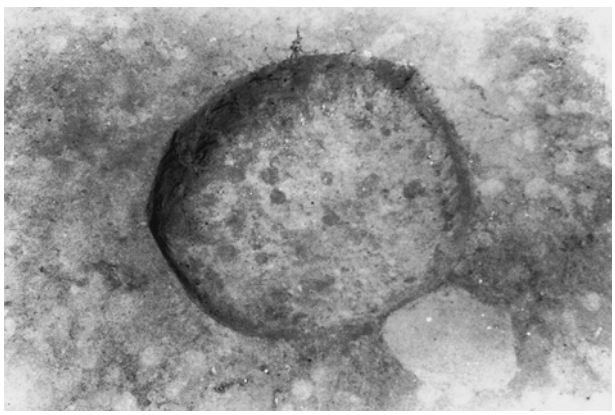


9 号井戸　完掘

1 号土壙　ほうろく（土－170）

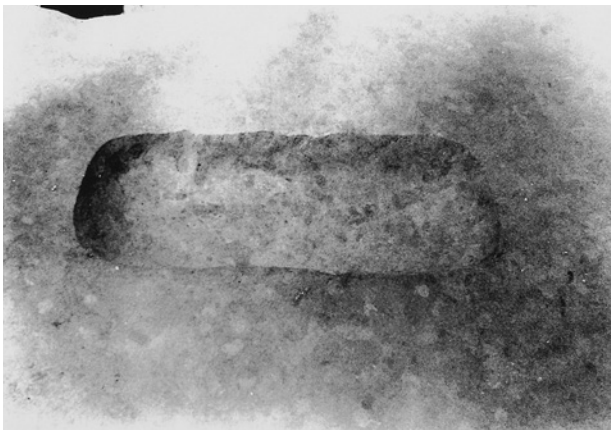


3 号土壙　完掘



4 号土壙　完掘

5 号土壙　完掘



6 号土壙　完掘

7 号土壙　完掘

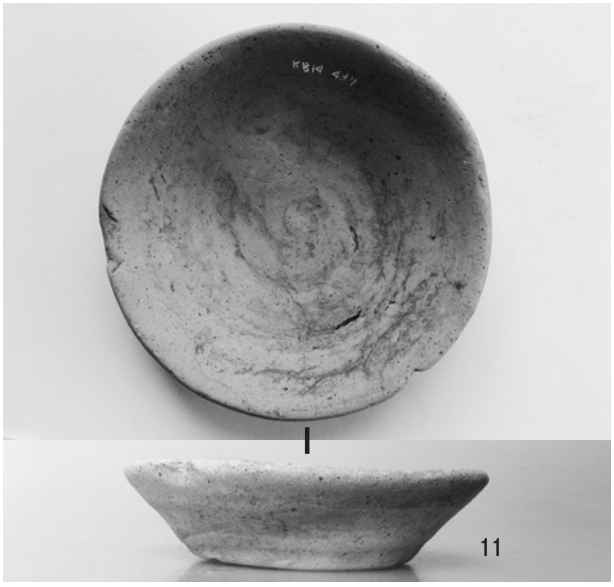
10号土壙　完掘

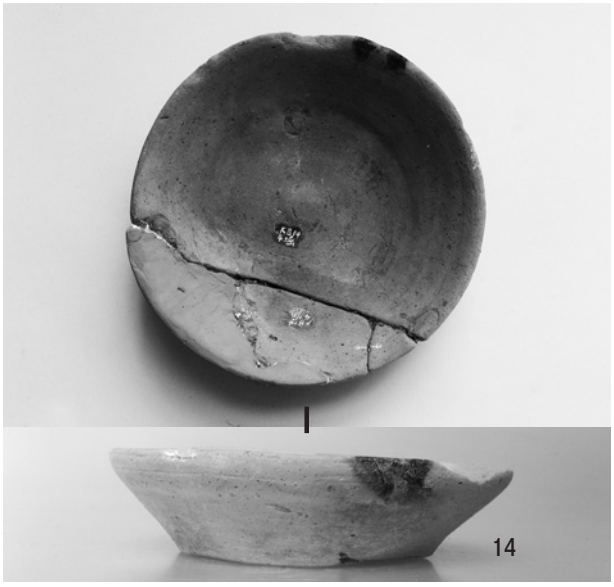
11号土壙　完掘

11・12・22号土壙　完掘

13号土壙　完掘

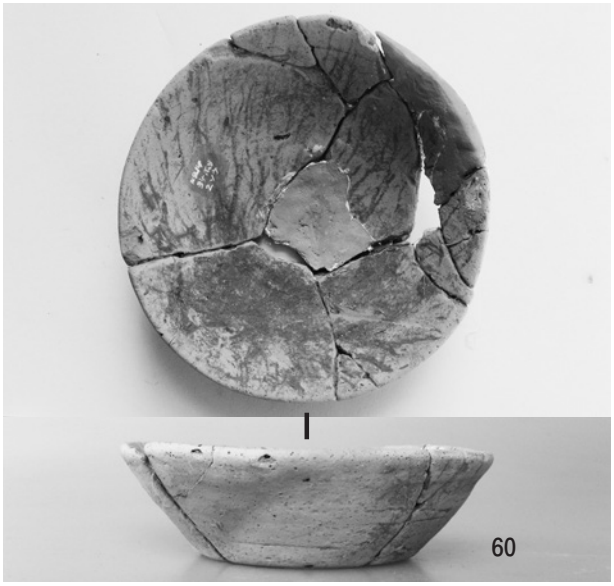
23号土壙　完掘

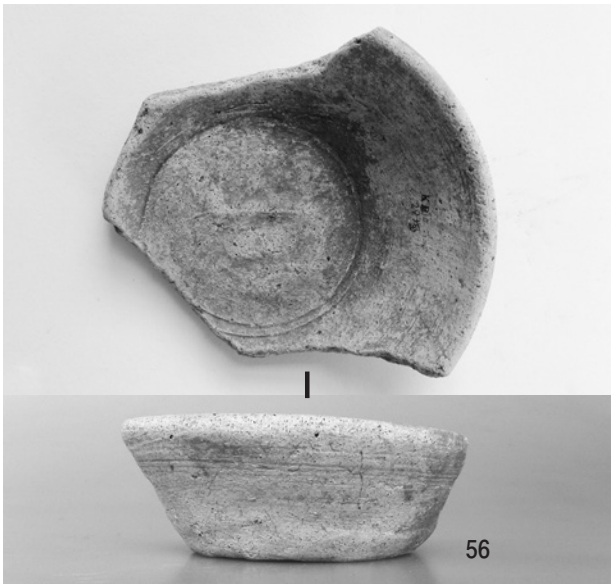


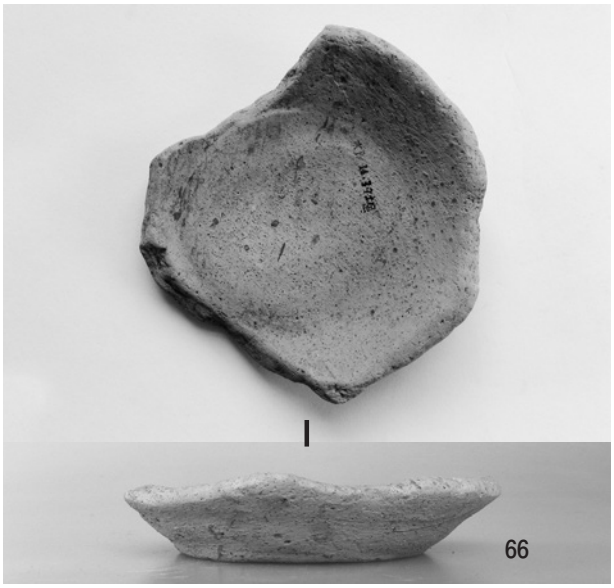


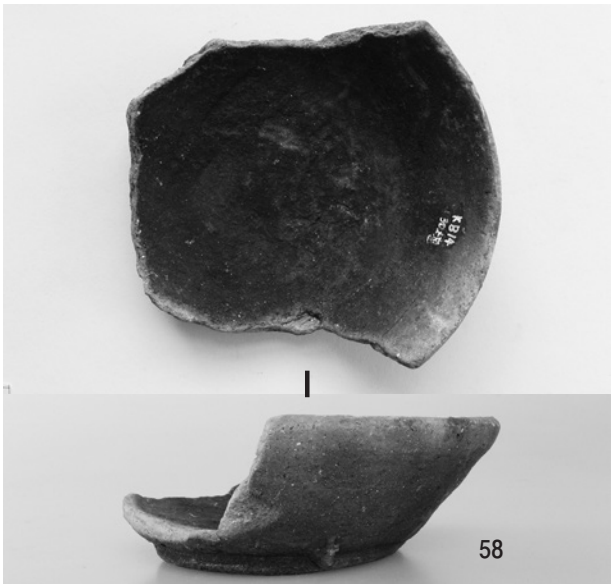
かわらけ

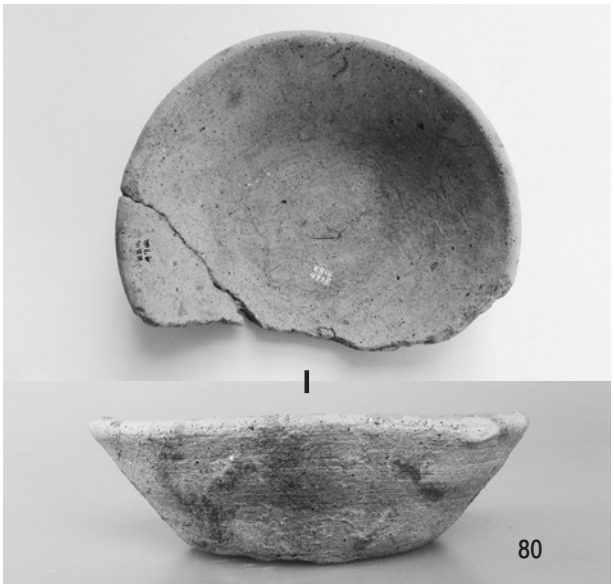
51


60

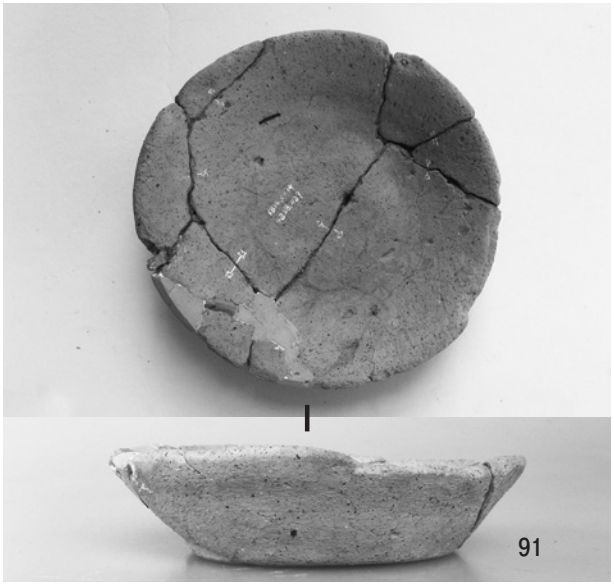

56

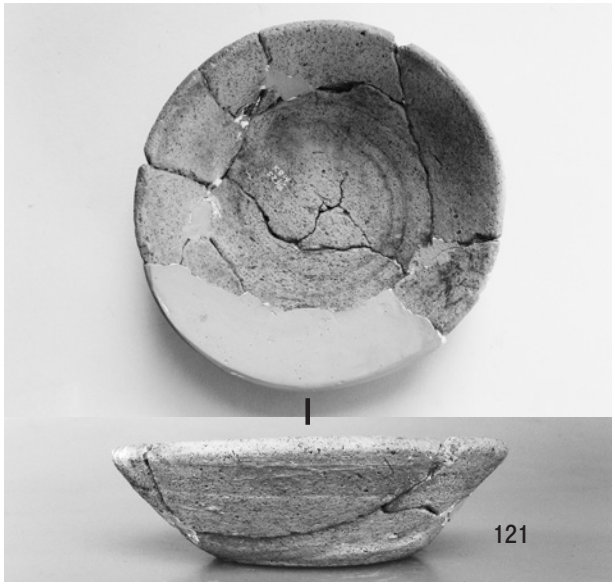

66

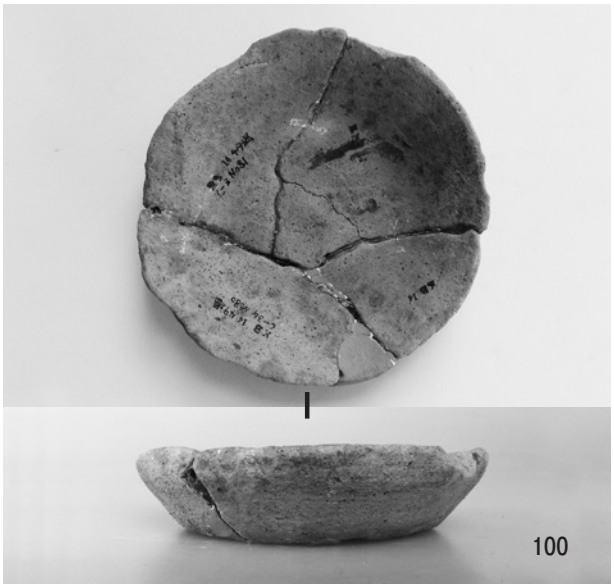

58

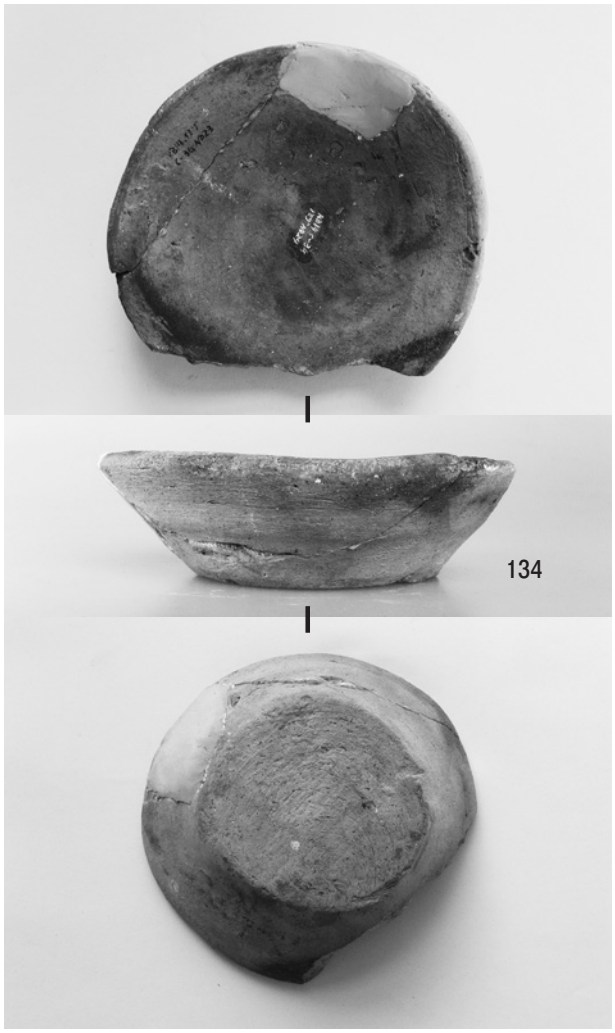

80

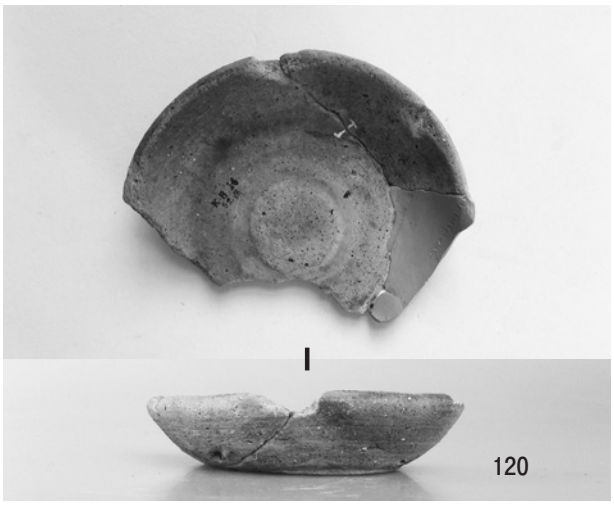
かわらけ

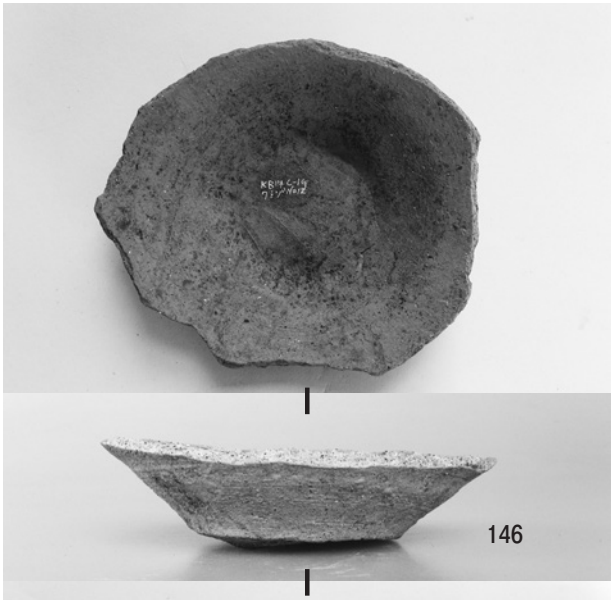

91


121

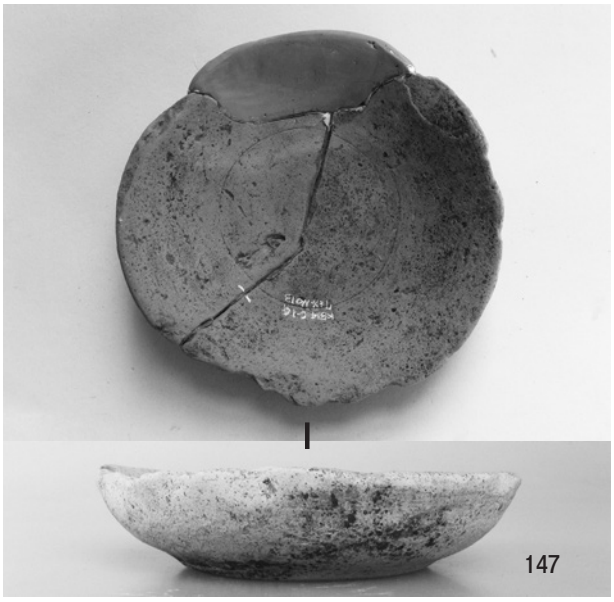

100


134

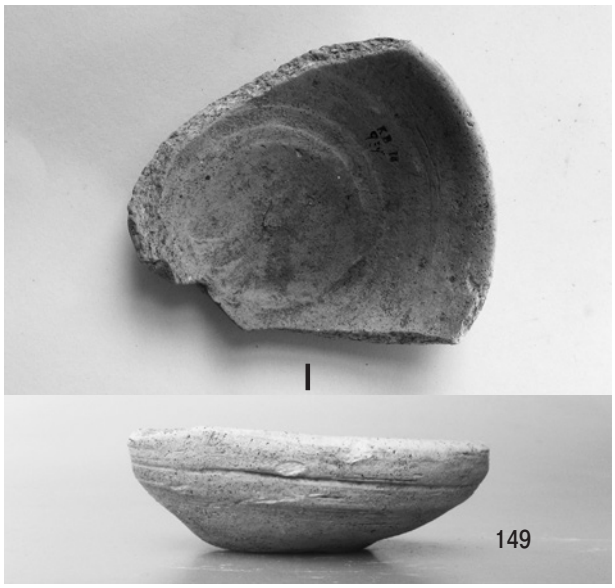

120



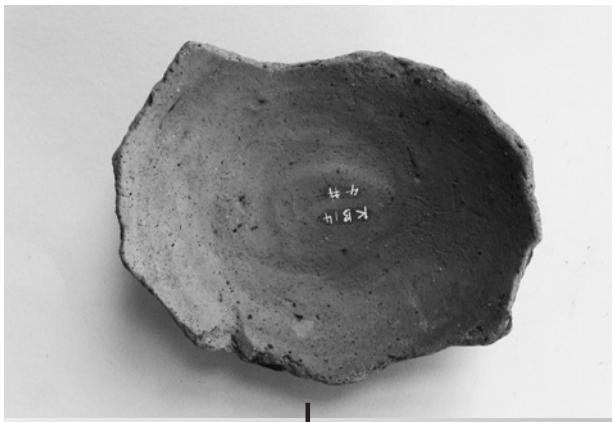
146



147



149



165

かわらけ

ほうろく

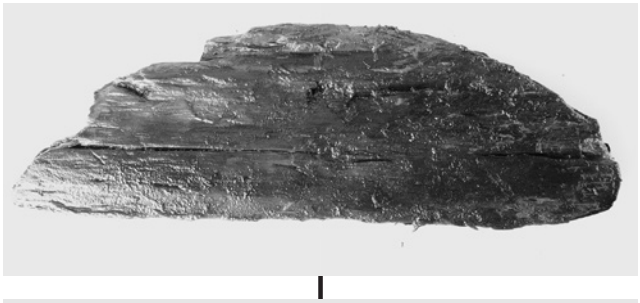
在地　香炉

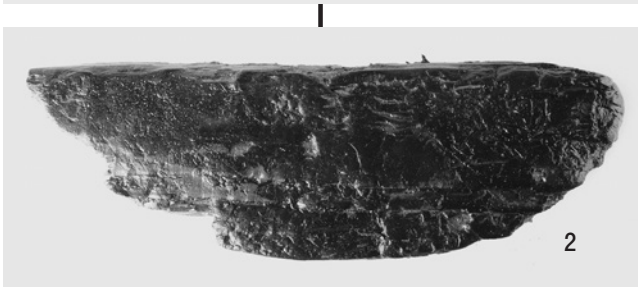
在地　擂鉢

瀬戸美濃　擂鉢

図版 14

出土遺物　木製品 1

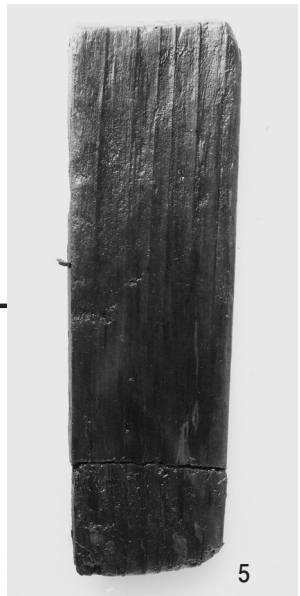




底板

側板

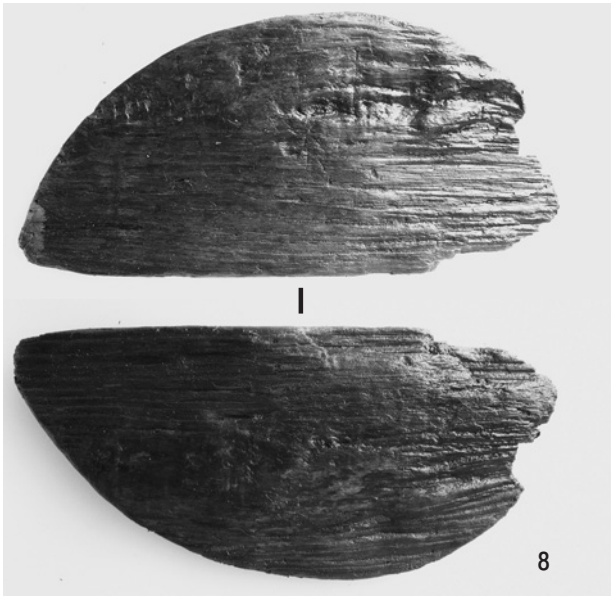
底板



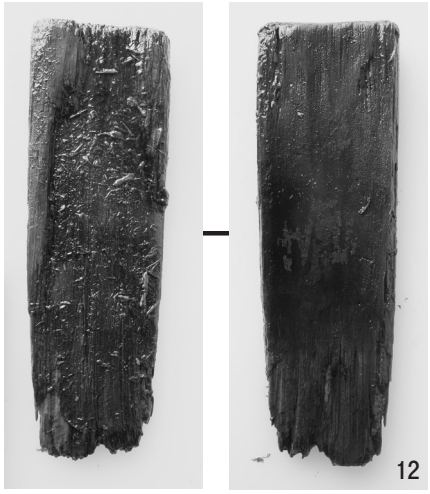
側板

桶

側板

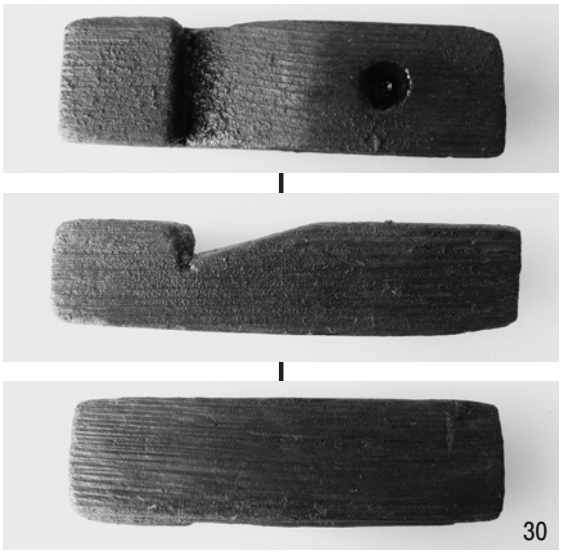


桶－底板

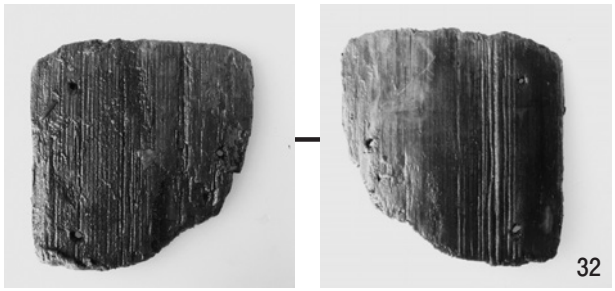


桶－側板

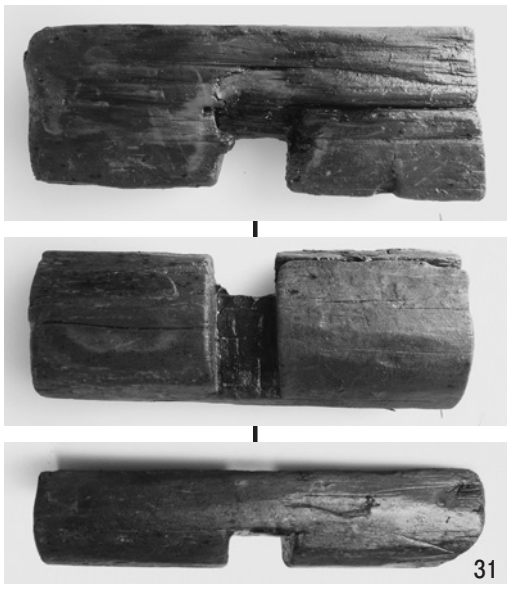
栓



部材



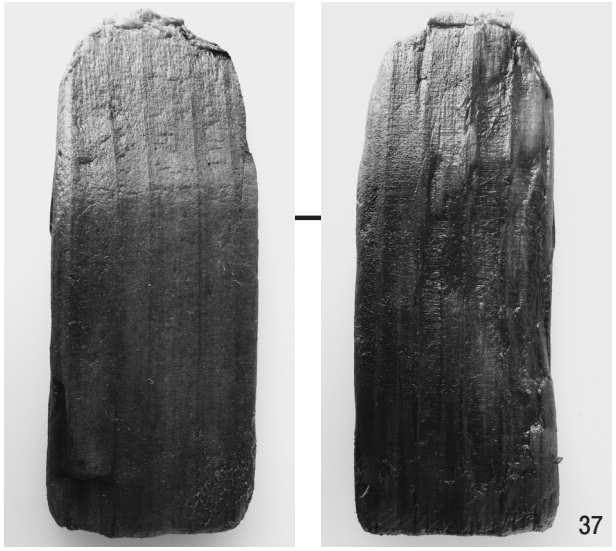
材／加工材



材／加工材

材／加工材

丸棒加工品



板材

竹加工品

板材

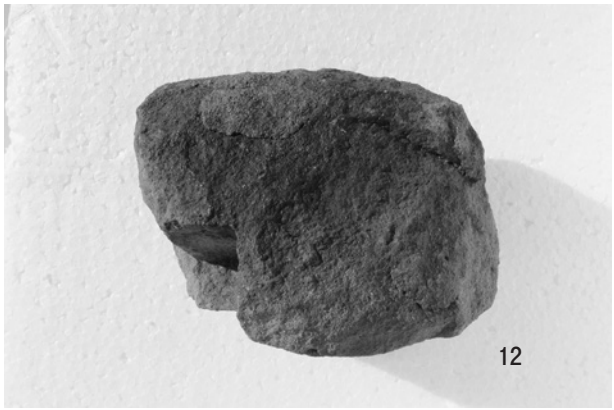
角材

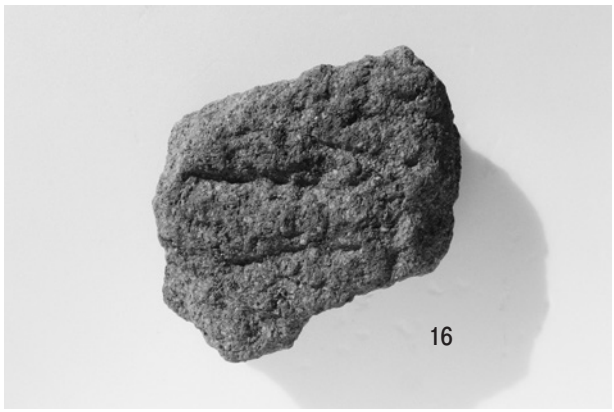
鉄製品

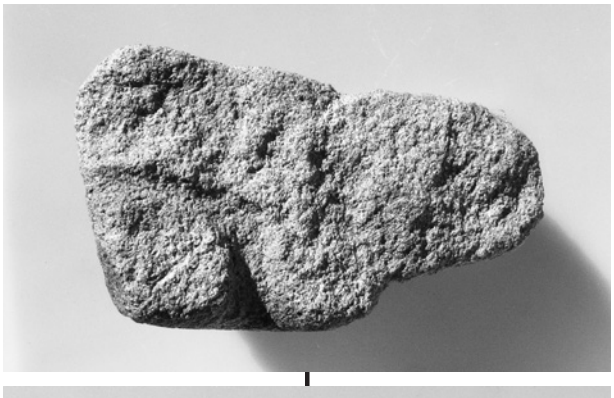
鉄鏃

桃の種（4 堀）

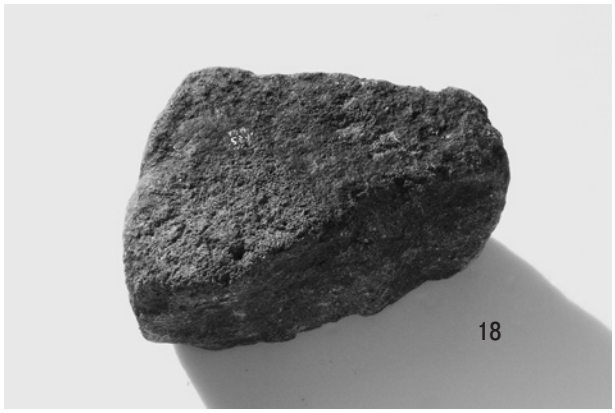
8


12

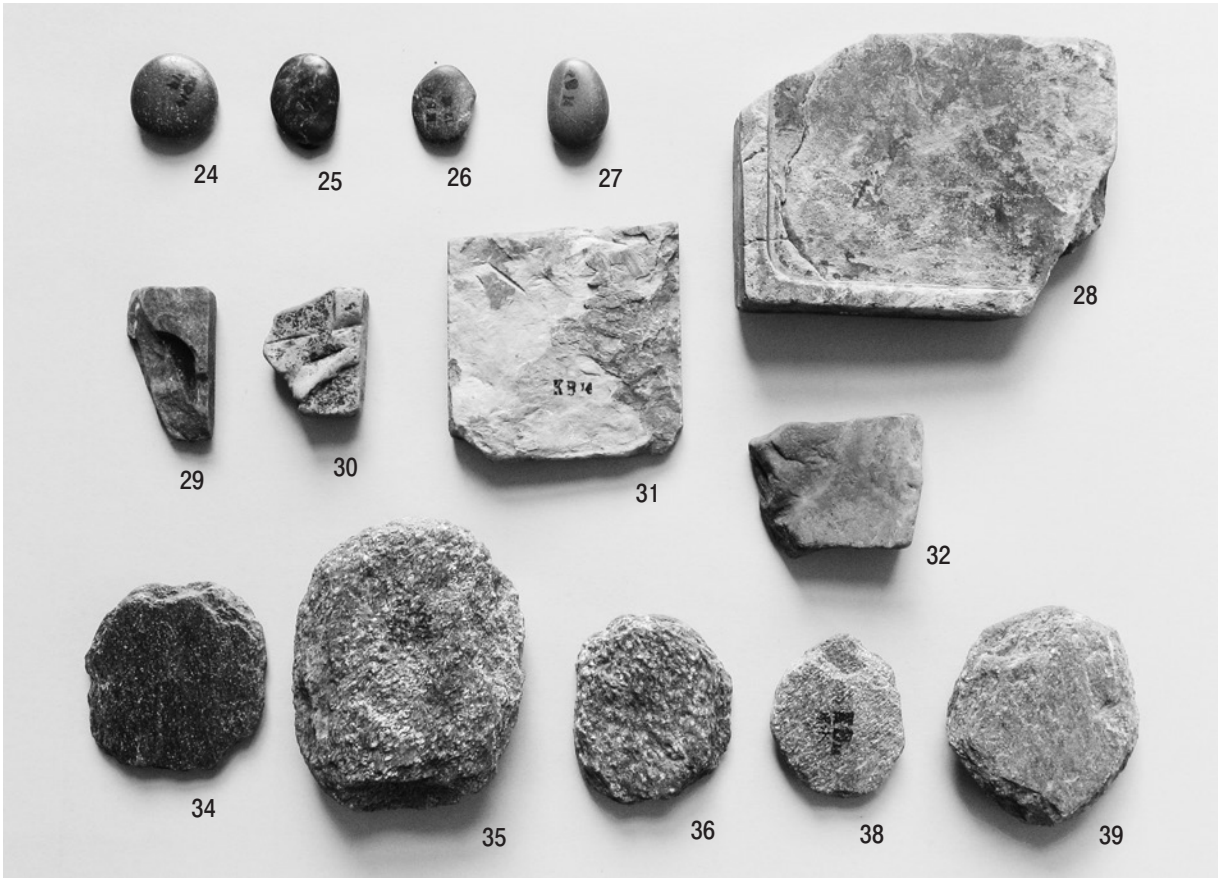

16



17

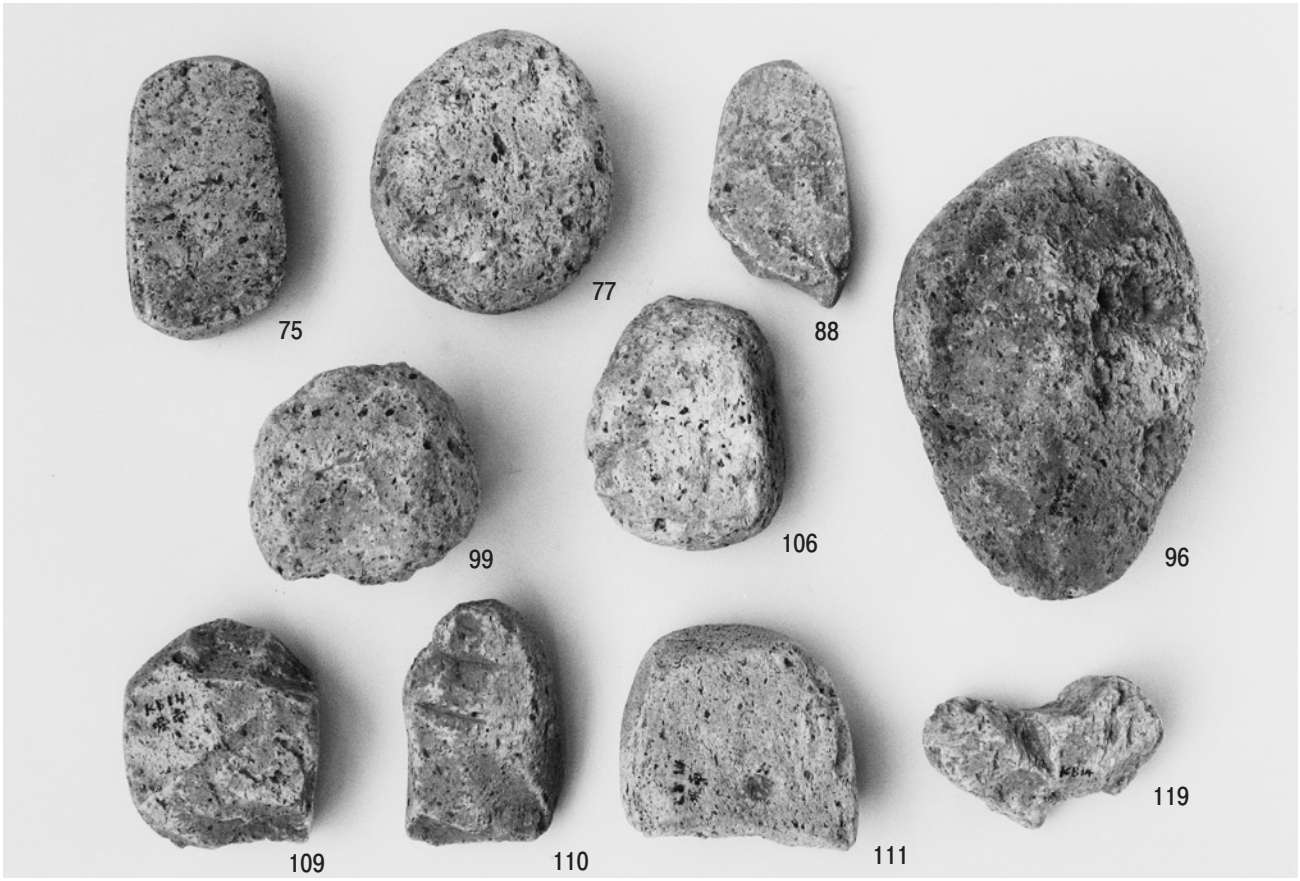

18

21



碁石・硯・石製円盤

砥石



磨石

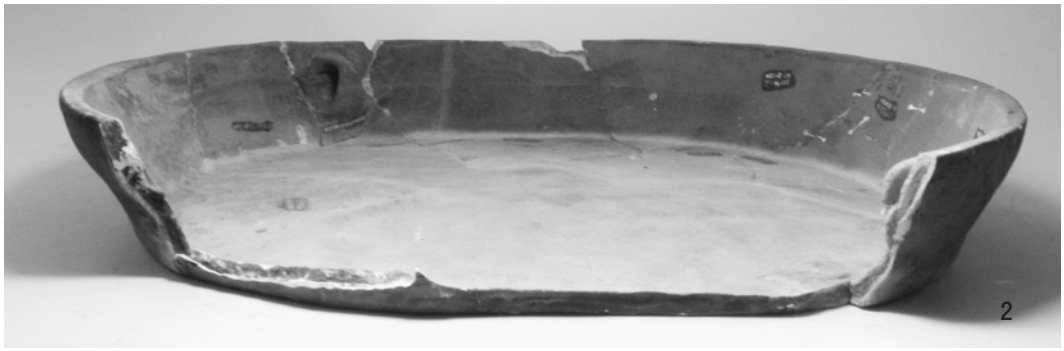
板碑

Ⅰ類

1

3

Ⅱ類


2

6

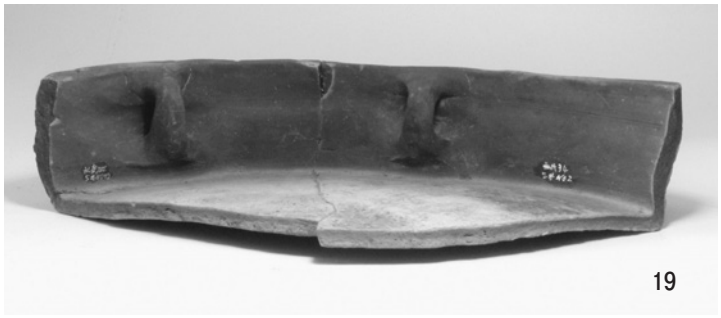
8

Ⅱ類

11

15

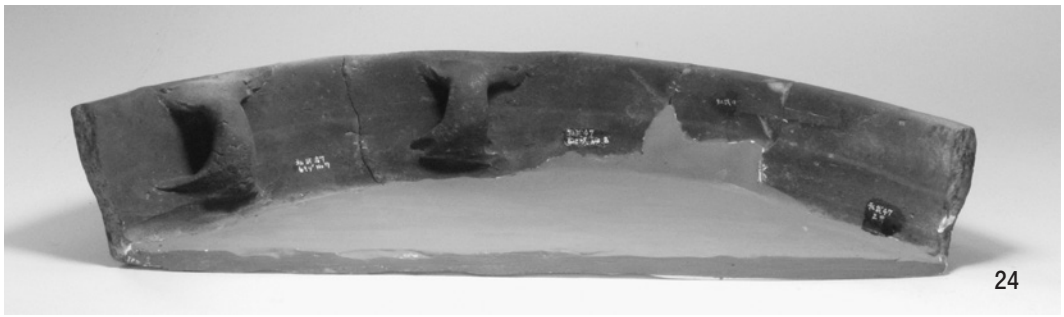
18

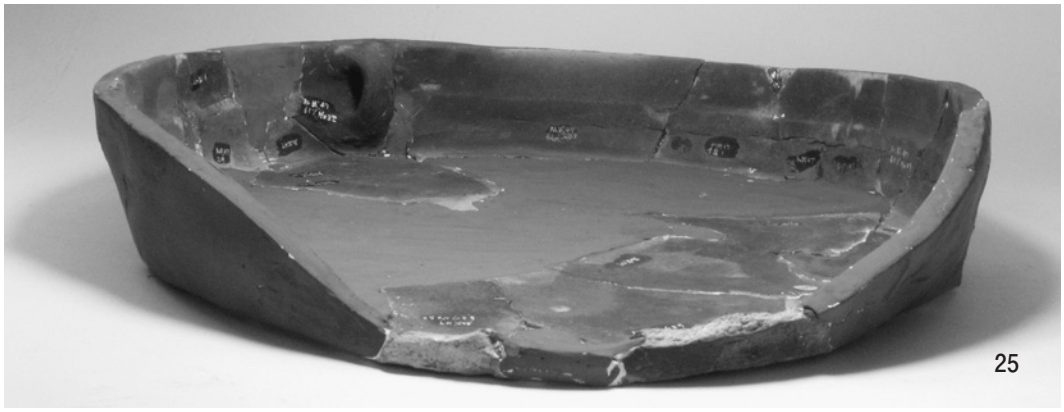

19

20

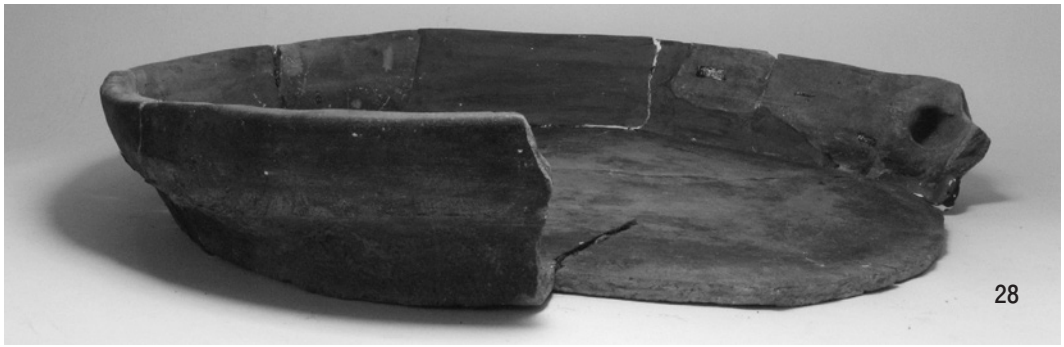
23

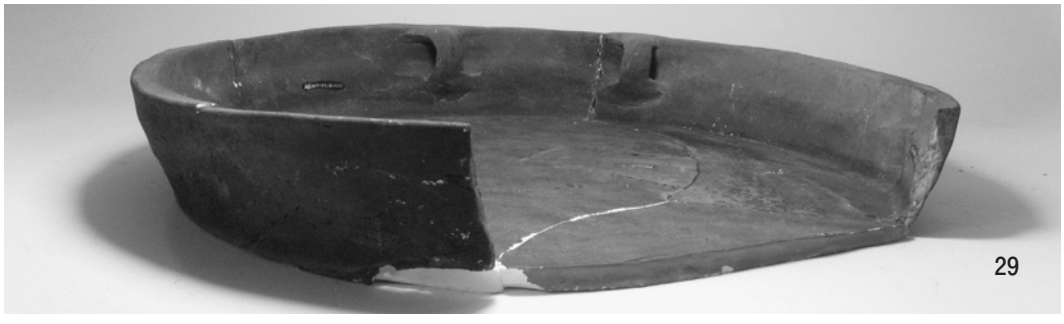
Ⅱ類


24

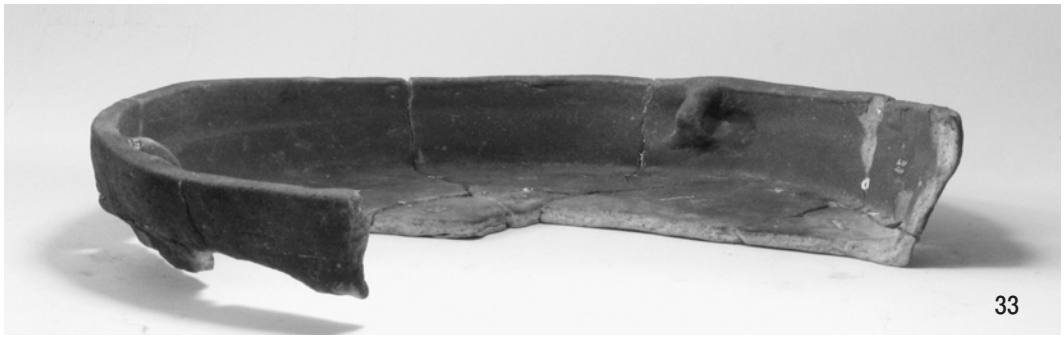

25

27

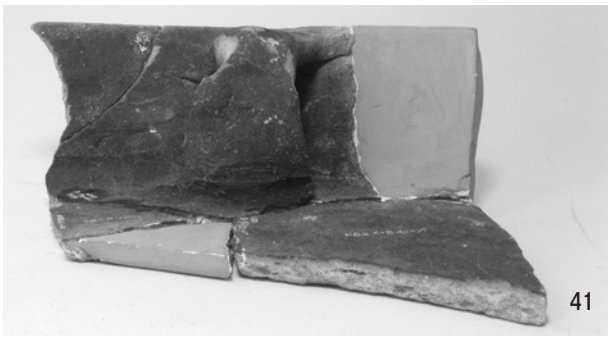

28


29

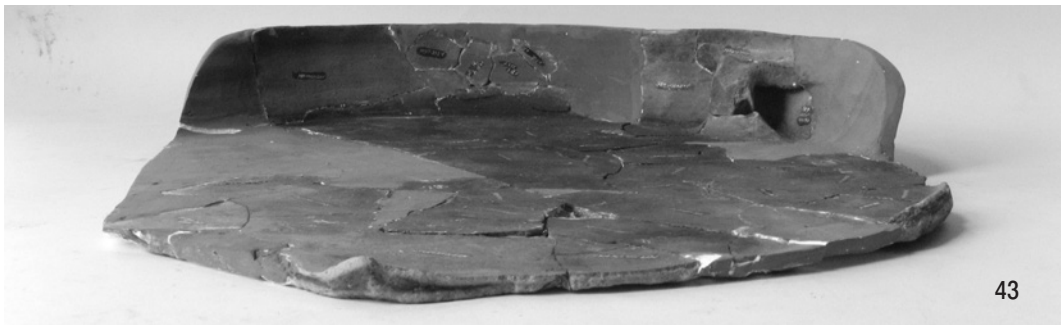
Ⅱ類

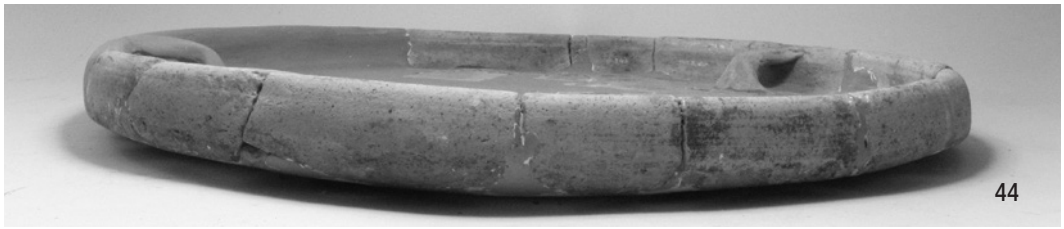


Ⅲ類

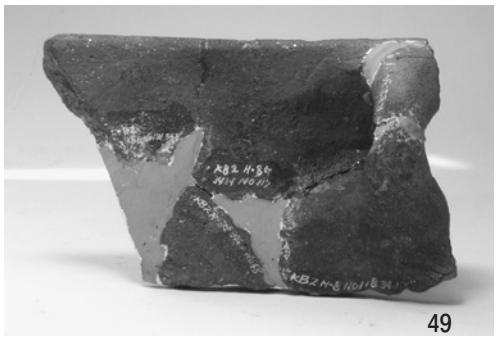


Ⅳ類

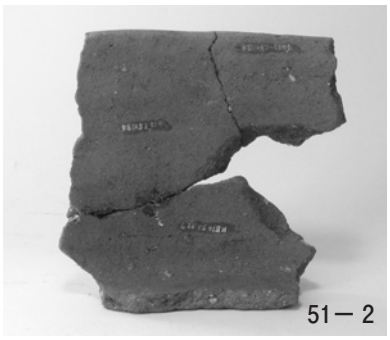

43


44

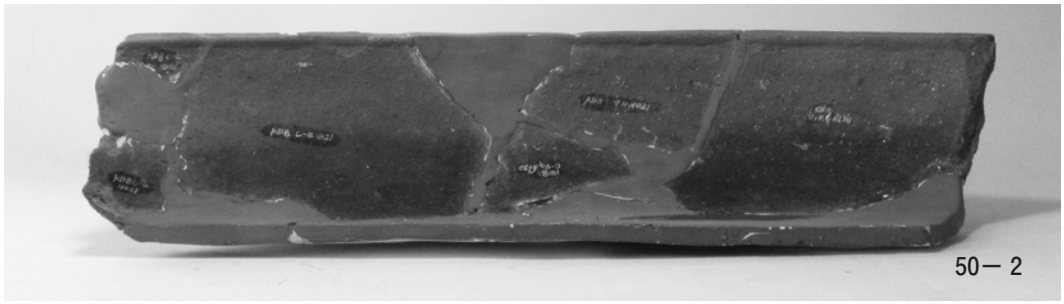
B 群

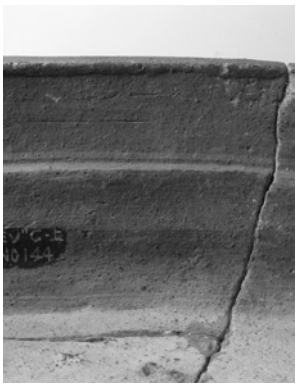

49

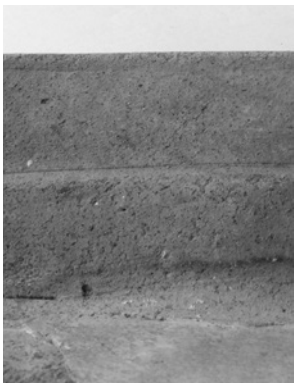
51－ 1


51－ 2

50－ 1


50－ 2

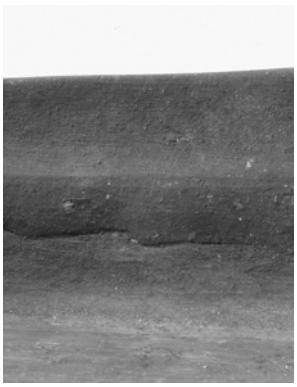

段「平」No.14

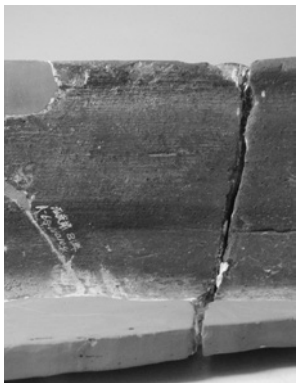

「角斜」No. 3

「斜」No. 5

「斜」No.23

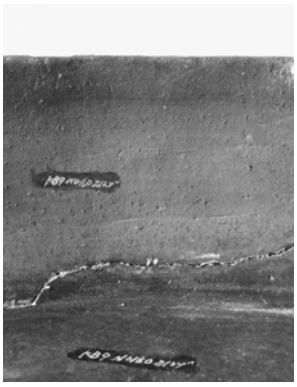
「稜（上整形）」No.13

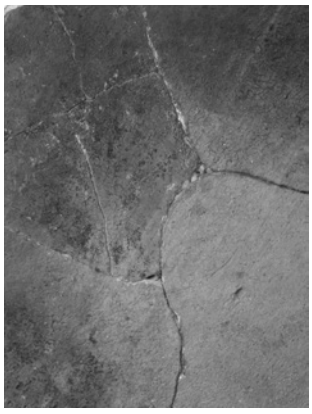

同左No.29


「稜（下整形）」No.40

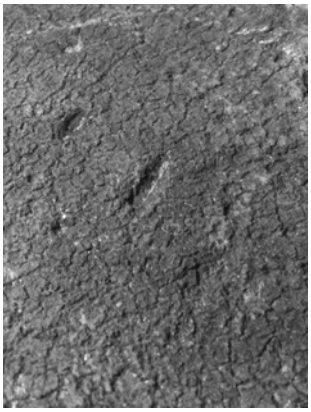
「凹」No.36

「沈線」No.57


段「なし」No.43


整形「板状痕」No. 4

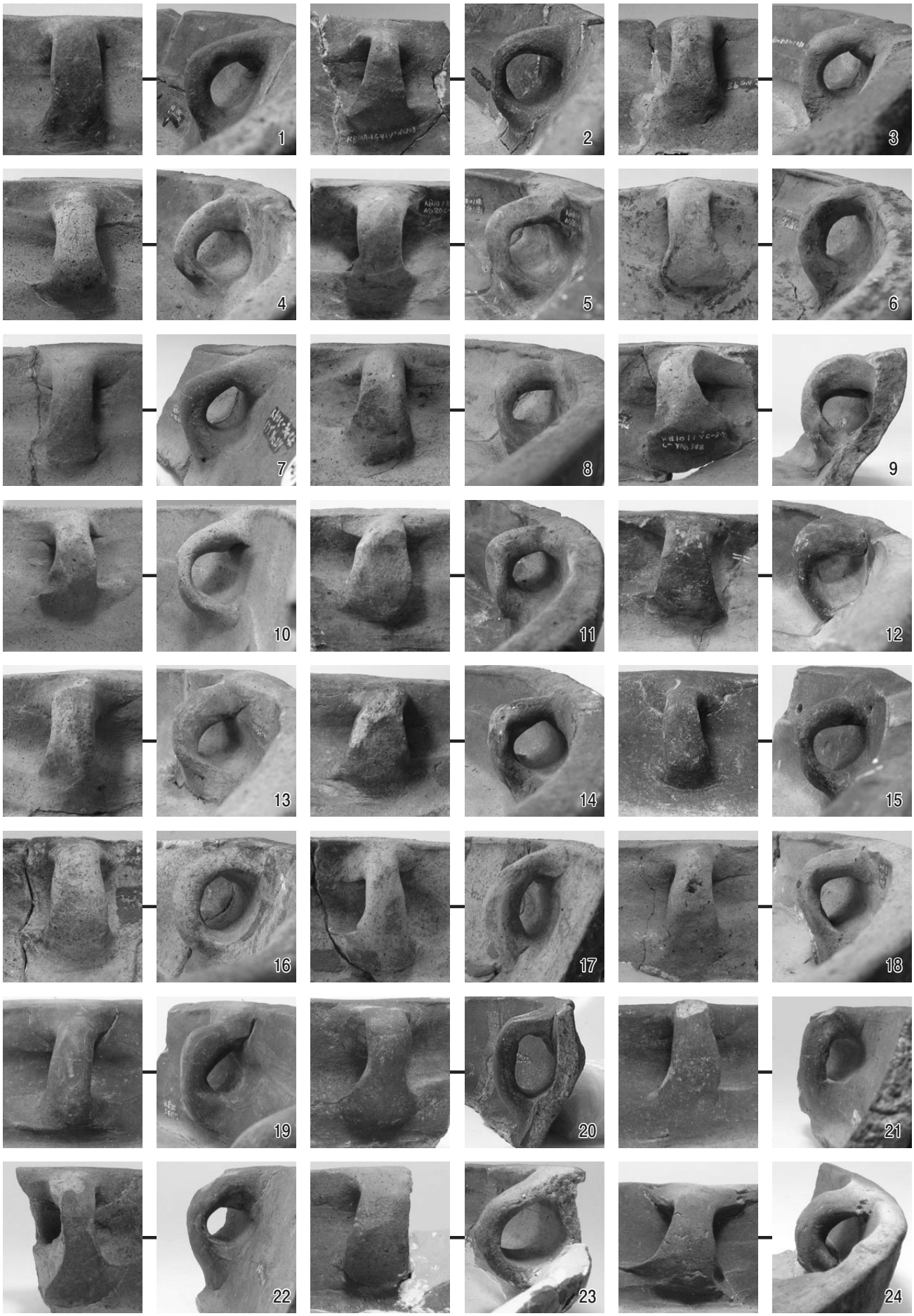
同左No.28


「スサ状痕」No.30

「編物状痕」No.40

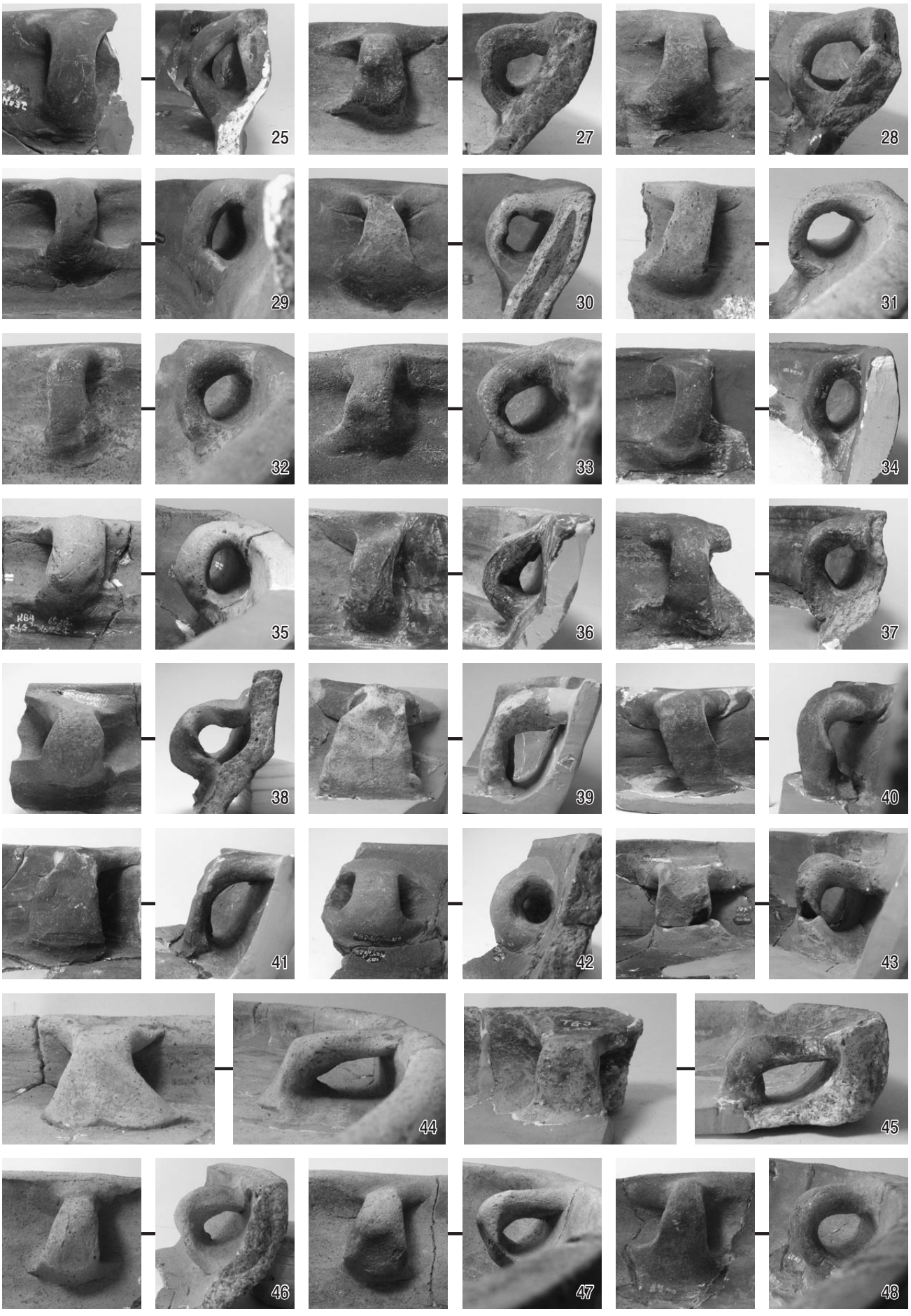
「ナデ」No. 4

「粒状痕」No. 5


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24

図版 28

遺物概観　内耳形態 2



報 告 書 抄 録

フ リ ガ ナ	キサイジョウアト・キサイジョウブケヤシキアト
書 名	騎西城跡・騎西城武家屋敷跡　ＫＢ14区調査－中近世編－　『騎西城跡』遺物概観（ほうろく）
副 書 名	
巻 次	
シ リ ー ズ 名	加須市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第14集
編 著 者 名	嶋村英之・嶋村薫・沓名貴彦
編 集 機 関	加須市教育委員会
所 在 地	〒347－8501　埼玉県加須市三俣二丁目１番地１
発 行 年 月 日	西暦2021年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
私市城跡（きさいじょうあと）・私市城（きさいじょう）武家屋敷跡（ぶけやしきあと）	埼玉県加須市（かぞし）根古屋（ねごや）204、316－２～４、321－１	11421	070	36°6′12.8″	139°35′6.9″	19890110～19891222	1,380	土地区画整理

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物
私市城跡・私市城武家屋敷跡	城館跡	中近世	障子堀『堀』52／溝11／井戸14／土壙33	陶磁器・かわらけ・ほうろく・金粒子付着土器・矧矢・漆小型壺・炭化縄・鉄鏃・簪・刀装具・石製円盤・巻貝・桃の種

要　約

第14区調査区は城郭の南に設けられた堀（南堀）と御蔵屋舗の位置に相当する。堀は幅43ｍの障子堀である。各『堀』の施設や『堀』の断面形態は『堀』の掘削作業の効率化を図ったものによるものと思われる。堀の多様な平面形や配置は防御機能の強化を目指したものであろう。また、断続して東西に走行する並行溝は、防御機能を考えておくべきものである。

金属製品生産関連遺物の出土は、隣接するＫＢ10区・騎武５・49次調査区と同様であるが、今回の科学的分析や巻貝などの出土から、より多様な素材を扱う作業を行ったエリアであることが明らかとなった。また、非鉄金属製品の製作年代が騎西城以降、現代まで下がるものも含まれると思われるが、今回の分析成果を今後につなげたい。

さらに、「遺物概観」としてほうろくについて既報告のものを中心として、分類・確認を行った。

加須市埋蔵文化財調査報告書　第14集

騎西城跡・騎西城武家屋敷跡

ＫＢ14区調査

－中近世編－

『騎西城跡』遺物概観（ほうろく）

令和３年３月31日発行

発　行　加須市教育委員会
〒347－8501　埼玉県加須市三俣二丁目１番地１
印　刷　関東図書株式会社